授 業 計 画

平成 27 年度

Syllabus 2015

生涯福祉学部　こども福祉学科

HYOGO University

生涯福祉学部

こども福祉学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の３つの方針（ポリシー）について

アドミッションポリシー（AP）

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3 つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1．自ら学ぼうとする意欲のある人
2．自己を見つめ、自己をふり返る努力ができる人
3．多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー（CP）

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3 つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

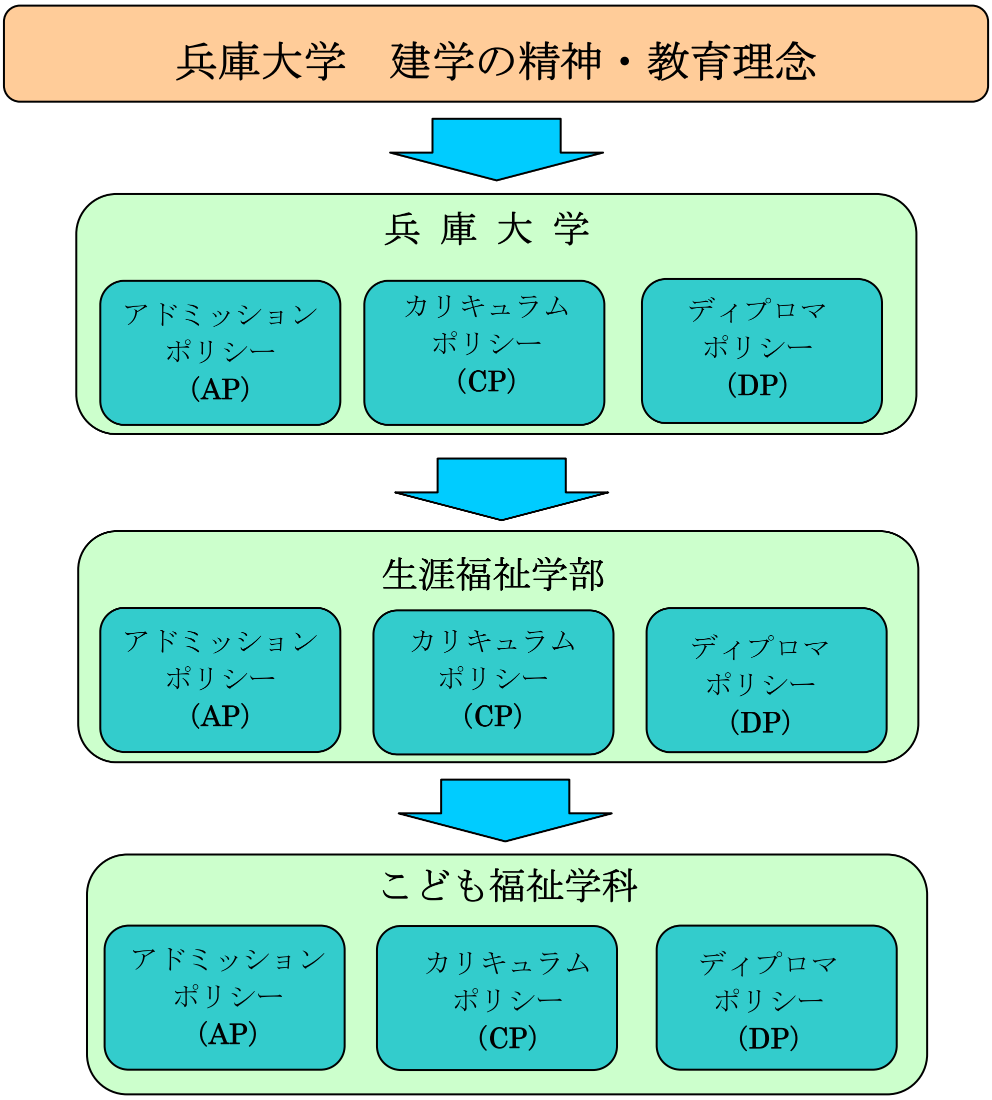
1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

ディプロマポリシー（DP）

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力



みなさんは、

AP に基づいて入学し、

CP に沿って学び

DP に定められた能力を身につけて卒業します。

生涯福祉学部ポリシー

アドミッションポリシー	カリキュラムポリシー	ディプロマポリシー
・生涯福祉学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲と学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力し、向上しようとする心を忘れず、柔軟な姿勢を有する学生を受け入れます。	・生涯福祉学部では、「和」の精神に基づく教養を広く基礎として、人と人の生涯発達について理解するとともに、主に小都市・町村での学びを通して、生涯発達に応じ人を支援する地域社会に貢献できる「幅広い職業人」の育成を目指してカリキュラムを編成します。	・生涯福祉学部では、人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の位を授与します。

--◇--

３つの方針（ポリシー）について

アドミッションポリシー
・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。

カリキュラムポリシー
・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。

ディプロマポリシー
・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

こども福祉学科ポリシー

こども福祉学科は,「和」の精神を尊び、こどもの権利保障とこどもの育ちを支援し、地域における福祉社会を担い、こどもの健全育成に貢献する確かな実力を有する人材の育成を目指します。

アドミッションポリシー

・生涯福祉学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 幼児教育・保育に関する専門職に関心を持ち、自ら学ぶ意欲のある人
2. 地域のこどもの生活に関心を持ち、子育て支援について専門的に学ぶ意欲のある人
3. 生涯にわたり地域や社会に貢献する意欲のある人

カリキュラムポリシー

・こども福祉学科のディプロマポリシーで示された３つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶための基本的学習技術を習得し、こどもの福祉に関する専門的知識と技術を身につけるために、調べ、考え、議論をするという学習態度を身につける
2. こどもの発達の諸相を社会や文化など様々な視点から捉える事が出来るようになるために、広範な学問分野の知識や技能を身につける
3. こどもの個性を的確に理解したうえで、こどもを発達へと導いていく力身につけるために、専門的知識や技術を身につける
4. 子育てに携わるすべての人の気持ちに寄り添いつつ、子育て支援を提供する力を身につけるために、専門的知識や技術を身につける
5. 福祉社会の一員たる市民として、またこども福祉の実践的専門家とし、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける

ディプロマポリシー

・こども福祉学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士（こども福祉）の学位を授与します。

1. こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力
2. こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力
3. 就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

こども福祉学科カリキュラムマップ【基礎・教養科目】(平成27、26、25年度入学者)

授業科目の区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎　重要=○						
		兵庫大学ディプロマポリシー 1)自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2)まわりに働きかけ、共に行動する力 3)学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力						
		A	B	C	D	E	F	G
		コミュニケーション力	情報リテラシー(情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力
基礎科目	日本語(読解と表現)	◎				○		○
	英語	◎		○		○		
	コンピュータ演習	○	◎					○
教養科目	宗教と人生			○	◎	○		
	生命倫理学			○			◎	
	哲学			◎	○			○
	文学			◎	○	○		
	仏教と現代社会			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○		
	色彩とデザイン		○	○		◎		○
	法と社会			○		◎		○
	日本国憲法			○		◎		○
	人権の歴史			○	◎	○		
	政治学			◎		○		○
	社会学			○		◎		○
	経済学			◎		○		○
	生物学			○			◎	
	食と健康	○				○	◎	
	実用英語(初級)	◎				○		
	実用英語(中級)	◎				○		
	中国語(初級)	◎				○		
	中国語(中級)	◎				○		
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)			○			◎	○
	健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)	○			○		◎	
	健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)	○			○		◎	
	私のためのキャリア設計	○		○	◎			○

こども福祉学科カリキュラムマップ（平成27、26年度入学者）

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】 人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分		授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため：特に重要=◎ 重要=○								
			こども福祉学科のディプロマポリシー								
			1			2			3		
			こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力			こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力			就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力		
			1−1	1−2	1−3	2−1	2−2	2−3	3−1	3−2	3−3
			こどもの発達過程について正しく理解する	こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する	こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる	集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む	質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する
専門教育科目	社会福祉基盤科目	生涯学習論	○		◎						
		生涯発達心理学Ⅰ	◎	○		○					
		社会福祉Ⅰ		◎		○			○		
		社会福祉Ⅱ		◎		○			○		
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ							○		◎
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ							○		◎
		ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ			◎				○		
		ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ			◎				○		
		児童家庭福祉		◎		○			○		
		低所得者に対する支援と生活保護制度		◎		○			○		
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ		○		◎			○	○	
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ		○		◎			○	○	
		介護概論		○		○				◎	
		加齢及び障害に関する理解		◎			○				
		障害者福祉論		◎			○				
		権利擁護と成年後見制度		◎					○		
		地域福祉の理論と方法Ⅰ							◎		○
		福祉行財政と福祉計画				◎			○		
		福祉サービスの組織と経営				○			◎		
		社会保障論Ⅰ		○					◎		
		社会保障論Ⅱ		○					◎		
		国際福祉論		○					◎		
		社会調査の基礎		○					◎		
		社会調査の応用		○							◎
		心理検査法	○		◎						
		精神保健福祉論	○					◎			
		精神医学Ⅰ	◎	○							
		精神保健学Ⅰ	◎	○							
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	○	◎					○		
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	○	◎					○		
	こども福祉基盤科目	初年次演習Ⅰ		◎						○	
		初年次演習Ⅱ		◎						○	
		こども福祉基礎演習Ⅰ		◎		○					
		こども福祉基礎演習Ⅱ		◎		○			○		
		人間福祉論		◎		○			○		
		保育原理Ⅰ	◎			○			○		
		保育原理Ⅱ		◎			○			○	
		教育原理		○			◎			○	
		こどもの心理学Ⅰ	◎		○			○			
		こどもの心理学Ⅱ	◎		○			○			
		乳児保育Ⅰ	○			◎			○		
		乳児保育Ⅱ		○				○			◎
		障害児保育Ⅰ	◎				○			○	
		障害児保育Ⅱ	◎					○			○
		相談援助			○			◎			○
		家庭支援論				○	◎	○			
		社会的養護	○			○			◎		
		社会的養護内容	○			○				◎	
	専門科目Ⅰ群	こどもの保健ⅠA	◎				○		○		
		こどもの保健ⅠB	◎				○			○	
		こどもの保健Ⅱ			○			○			◎
		こどもの食と栄養Ⅰ		○			◎		○		
		こどもの食と栄養Ⅱ			◎			○			
		こどもと健康			◎		○				○
		こどもと人間関係		○			○		○		◎
		こどもと環境	○		◎						
		こどもと言葉	○		○		○				◎
		こどもと音楽表現			○						◎
		こどもと身体表現		○	○						◎
		こどもと言語表現			○			○			◎
		こどもと音楽Ⅰ			○						◎
		こどもと音楽Ⅱ			○						◎
		こどもと音楽Ⅲ			○						◎
		こどもと音楽Ⅳ			○						◎
		こどもと造形Ⅰ			○						◎
		こどもと造形Ⅱ			○						◎
		こどもと造形Ⅲ			○						◎
		こどもと造形Ⅳ			○						◎
		こどもと運動Ⅰ			○						◎
		こどもと運動Ⅱ			○						◎
		こどもと数	◎		○						
		こどもと生活	○				◎		○		
		こども文化論Ⅰ		◎		○			○		
		こども文化論Ⅱ			○		○				◎
		こどもとメディア		○			◎			○	
		国際こども文化論	◎			○			○		

授業科目の区分		授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため：特に重要=◎　重要=○								
			こども福祉学科のディプロマポリシー								
			1			2			3		
			こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力			こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力			就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力		
			1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
			こどもの発達過程について正しく理解する	こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する	こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる	集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む	質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する
専門教育科目	専門科目Ⅱ群	こども福祉専門演習Ⅰ		◎	○						
		こども福祉専門演習Ⅱ		◎	○						
		こども福祉卒業演習Ⅰ		◎	○						
		こども福祉卒業演習Ⅱ		◎	○						
		教師・保育者論		○			○			◎	
		保育課程総論	◎			○			○		
		保育内容総論		○			○				◎
		保育・教職実践演習（幼稚園）			○			○			◎
		教育心理学	○		◎						
		児童心理学	◎					○			
		青年心理学	◎					○			
		臨床心理学		◎				○		○	
		教育制度論				○			◎		
		教育方法論			○			○			◎
		教育相談		◎				○			
		表現総合演習			○						◎
		造形総合演習			○						◎
		音楽教育			○						◎
		こども音楽療育概論					◎			○	
		こども音楽療育演習			○			○			◎
		こども音楽療育実習			○						◎
		保育相談支援Ⅰ					◎	○			
		保育相談支援Ⅱ					◎	○			
		集団施設保育の現状と課題							○	◎	○
		保育実習ⅠA		○							◎
		保育実習ⅠB		○							◎
		保育実習Ⅱ		○							◎
		保育実習Ⅲ		○							◎
		保育実習指導ⅠA			○			○	◎		
		保育実習指導ⅠB			○			○	◎		
		保育実習指導Ⅱ			○			○	◎		
		保育実習指導Ⅲ			○			○	◎		
		教育実習指導			○			○	◎		
		教育実習		○							◎
	発展科目	子育て支援地域活動Ⅰ			○			◎			○
		子育て支援地域活動Ⅱ			○			◎			○
		児童館の機能と運営			○		○		◎		
		発達障害児への支援			○			◎			○
		発達と疾病・障害Ⅰ	◎					○			
		発達と疾病・障害Ⅱ	◎					○			
		こころとからだのしくみⅠ	◎					○			
		こころとからだのしくみⅡ	◎					○			
		児童の貧困と虐待	○				○		◎		
		児童の健全育成と福祉		○			◎			○	
		少子高齢社会とこどもの生活	○				○		◎		
		施設保育士論			○			○	◎		
		男女共同参画社会の構築	○			○					◎
		福祉経営実践演習				○			○		◎
		消費者教育			○	○	◎				
		幼児のための福祉教育Ⅰ			◎	○					
		幼児のための福祉教育Ⅱ			◎	○					○
		こども福祉特論					○			◎	
		児童福祉実習指導			○			○	◎		
		児童福祉実習Ⅰ		○							◎
		児童福祉実習Ⅱ		○							◎

こども福祉学科カリキュラムマップ（平成25年度入学者）

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】 人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分		授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため：特に重要=◎　重要=○								
			こども福祉学科のディプロマポリシー								
			1			2			3		
			こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力			こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力			就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力		
			1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
			こどもの発達過程について正しく理解する	こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する	こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる	集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む	質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する
専門教育科目	社会福祉基盤科目	生涯学習論	○		◎						
		生涯発達心理学Ⅰ	◎	○		○					
		社会福祉Ⅰ		◎		○			○		
		社会福祉Ⅱ		◎		○			○		
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ							○		◎
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ							○		◎
		ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ			◎				○		
		ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ			◎				○		
		児童家庭福祉		◎		○			○		
		低所得者に対する支援と生活保護制度		◎		○			○		
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ		○		◎			○	○	
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ		○		◎			○	○	
		介護概論		○		○				◎	
		加齢及び障害に関する理解		◎			○				
		障害者福祉論		◎			○				
		権利擁護と成年後見制度		◎					○		
		地域福祉の理論と方法Ⅰ							◎		○
		福祉行財政と福祉計画				◎			○		
		福祉サービスの組織と経営				○			◎		
		社会保障論Ⅰ		○					◎		
		社会保障論Ⅱ		○					◎		
		国際福祉論		○					◎		
		社会調査の基礎		○					◎		
		社会調査の応用		○							◎
		心理検査法	○		◎						
		精神保健福祉論	○					◎			
		精神医学Ⅰ	◎	○							
		精神保健学Ⅰ	◎	○							
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	○	◎					○		
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	○	◎					○		
	こども福祉基盤科目	初年次演習Ⅰ		◎						○	
		初年次演習Ⅱ		◎						○	
		こども福祉基礎演習Ⅰ		◎		○					
		こども福祉基礎演習Ⅱ		◎		○			○		
		人間福祉論		◎		○			○		
		保育原理Ⅰ	◎			○			○		
		保育原理Ⅱ		◎			○			○	
		教育原理		○			◎			○	
		こどもの心理学Ⅰ	◎		○			○			
		こどもの心理学Ⅱ	◎		○			○			
		乳児保育Ⅰ	○			◎			○		
		乳児保育Ⅱ		○				○			◎
		障害児保育Ⅰ	◎				○			○	
		障害児保育Ⅱ	◎					○			○
		相談援助			○			◎			○
		家庭支援論				○	◎	○			
		社会的養護	○			○			◎		
		社会的養護内容	○			○				◎	

授業科目の区分		授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため：特に重要=◎　重要=○								
			こども福祉学科のディプロマポリシー								
			1			2			3		
			こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力			こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力			就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力		
			1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
			こどもの発達過程について正しく理解する	こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する	こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる	集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む	質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する
専門教育科目	専門科目Ⅰ群	こどもの保健ⅠA	◎				○		○		
		こどもの保健ⅠB	◎				○			○	
		こどもの保健Ⅱ			○			○			◎
		こどもの食と栄養Ⅰ		○			◎		○		
		こどもの食と栄養Ⅱ			◎			○			
		こどもと健康			◎		○				○
		こどもと人間関係		○			○		○		◎
		こどもと環境	○		◎						
		こどもと言葉	○		○		○				◎
		こどもと音楽表現			○						◎
		こどもと身体表現		○	○						◎
		こどもと言語表現			○			○			◎
		こどもと音楽Ⅰ			○						◎
		こどもと音楽Ⅱ			○						◎
		こどもと音楽Ⅲ			○						◎
		こどもと音楽Ⅳ			○						◎
		こどもと造形Ⅰ			○						◎
		こどもと造形Ⅱ			○						◎
		こどもと造形Ⅲ			○						◎
		こどもと造形Ⅳ			○						◎
		こどもと運動Ⅰ			○						◎
		こどもと運動Ⅱ			○						◎
		こどもと数	◎		○						
		こどもと生活	○				◎		○		
		こども文化論Ⅰ		◎		○			○		
		こども文化論Ⅱ			○		○				◎
		こどもとメディア		○			◎			○	
		国際こども文化論	◎			○			○		
	専門科目Ⅱ群	こども福祉専門演習Ⅰ		◎	○						
		こども福祉専門演習Ⅱ		◎	○						
		こども福祉卒業演習Ⅰ		◎	○						
		こども福祉卒業演習Ⅱ		◎	○						
		教師・保育者論		○			○			◎	
		保育課程総論	◎			○			○		
		保育内容総論		○			○				◎
		保育・教職実践演習（幼稚園）			○			○			◎
		教育心理学	○		◎						
		幼児理解	◎					○			
		青年心理学	◎					○			
		臨床心理学		◎				○		○	
		教育制度論				○			◎		
		教育方法論			○			○			◎
		教育相談		◎				○			
		表現総合演習			○						◎
		造形総合演習			○						◎
		音楽教育			○						◎
		こども音楽療育概論					◎			○	
		こども音楽療育演習			○			○			◎
		こども音楽療育実習			○						◎
		保育相談支援Ⅰ					◎	○			
		保育相談支援Ⅱ					◎	○			
		集団施設保育の現状と課題							○	◎	○
		保育実習ⅠA		○							◎
		保育実習ⅠB		○							◎
		保育実習Ⅱ		○							◎
		保育実習Ⅲ		○							◎
		保育実習指導ⅠA			○			○	◎		
		保育実習指導ⅠB			○			○	◎		
		保育実習指導Ⅱ			○			○	◎		
		保育実習指導Ⅲ			○			○	◎		
		教育実習指導			○			○	◎		
		教育実習		○							◎
	発展科目	子育て支援地域活動Ⅰ			○			◎			○
		子育て支援地域活動Ⅱ			○			◎			○
		児童館の機能と運営			○		○		◎		
		発達障害児への支援			○			◎			○
		児童の貧困と虐待	○				○		◎		
		児童の健全育成と福祉		○			◎			○	
		少子高齢社会とこどもの生活	○				○		◎		
		施設保育士論			○			○	◎		
		男女共同参画社会の構築	○			○					◎
		福祉経営実践演習				○			○		◎
		消費者教育			○	○	◎				
		幼児のための福祉教育Ⅰ			◎	○					
		幼児のための福祉教育Ⅱ			◎	○					○
		こども福祉特論					○			◎	

年次	ディプロマポリシー１ こどもが幸福に発達する権利を尊重し、 こどもの健やかな発達を促進する力	ディプロマポリシー２ こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に 裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力	ディプロマポリシー３ 就学前のこどもの健全育成に資する、 質の高い集団施設保育を実践する力
四年次	国際こども文化論 こども福祉卒業演習Ⅱ		保育・教職実践演習（幼稚園） こども音楽療育実習 国際福祉論
	臨床心理学 こども福祉卒業演習Ⅰ	消費者教育 こどもとメディア	教育実習 造形総合演習 児童福祉実習Ⅱ 児童福祉実習Ⅰ 児童福祉実習指導 こども音楽療育演習 男女共同参画社会の構築 幼児のための福祉教育Ⅱ 福祉経営実践演習 こども福祉特論
三年次	青年心理学 精神保健福祉援助技術各論Ⅱ こどもの食と栄養Ⅱ 加齢及び障害に関する理解 発達と疾病・障害Ⅱ 教育相談 こども福祉専門演習Ⅱ	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ 福祉行財政と福祉計画 児童の健全育成と福祉 こども音楽療育概論	教育実習指導 教育制度論 教育方法論 教師・保育者論 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 表現総合演習 こどもと造形Ⅳ こどもと音楽Ⅳ 幼児のための福祉教育Ⅰ 児童の貧困と虐待 少子高齢社会とこどもの生活 施設保育士論 福祉サービスの組織と経営
	心理検査法 ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ 障害者福祉論 権利擁護と成年後見制度 こどもと数 精神保健学Ⅰ こころとからだのしくみⅡ 保育相談支援Ⅱ 発達と疾病・障害Ⅰ 精神保健福祉援助技術各論Ⅰ こども福祉専門演習Ⅰ	子育て支援地域活動Ⅱ 発達障害児への支援 こどもの食と栄養Ⅰ 家庭支援論 高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	こどもと音楽Ⅲ 保育実習ⅠB 集団施設保育の現状と課題 児童館の機能と運営 こどもと造形Ⅲ 保育実習指導ⅠB 地域福祉の理論と方法Ⅰ 社会保障論Ⅱ
二年次	こころとからだのしくみⅠ 保育相談支援Ⅰ こどもの保健ⅠB ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ 幼児理解 障害児保育Ⅱ 低所得者に対する支援と生活保護制度 こども福祉基礎演習Ⅱ	子育て支援地域活動Ⅰ こどもと生活 精神保健福祉論	こどもの保健Ⅱ 社会的養護内容 乳児保育Ⅱ 保育実習ⅠA 保育実習指導ⅠA 社会調査の応用 介護概論 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会保障論Ⅰ
	教育心理学 こどもの心理学Ⅱ 精神医学Ⅰ こどもと健康 障害児保育Ⅰ こども福祉基礎演習Ⅰ 保育課程総論 こどもの保健ⅠA	乳児保育Ⅰ 相談援助	こどもと人間関係 社会的養護 社会調査の基礎 音楽教育 こどもと音楽表現 こども文化論Ⅱ 保育内容総論 こどもと言語表現 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ
一年次	こどもと環境 保育原理Ⅱ 生涯学習論 社会福祉Ⅱ 生涯発達心理学Ⅰ こどもの心理学Ⅰ こども文化論Ⅰ 人間福祉論 初年次演習Ⅱ		こどもと造形Ⅱ こどもと身体表現 こどもと言葉 こどもと音楽Ⅱ こどもと運動Ⅱ
	社会福祉Ⅰ 保育原理Ⅰ 児童家庭福祉 初年次演習Ⅰ	教育原理	こどもと造形Ⅰ こどもと音楽Ⅰ こどもと運動Ⅰ

幼免必修

幼免選択

保育士必修

保育士選択

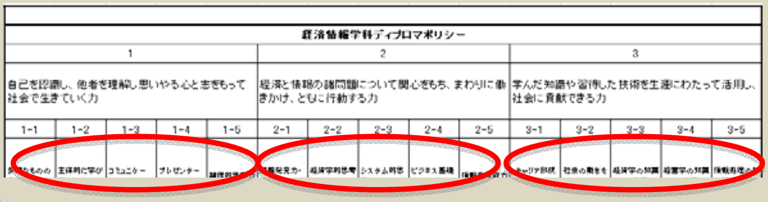
卒業必修

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

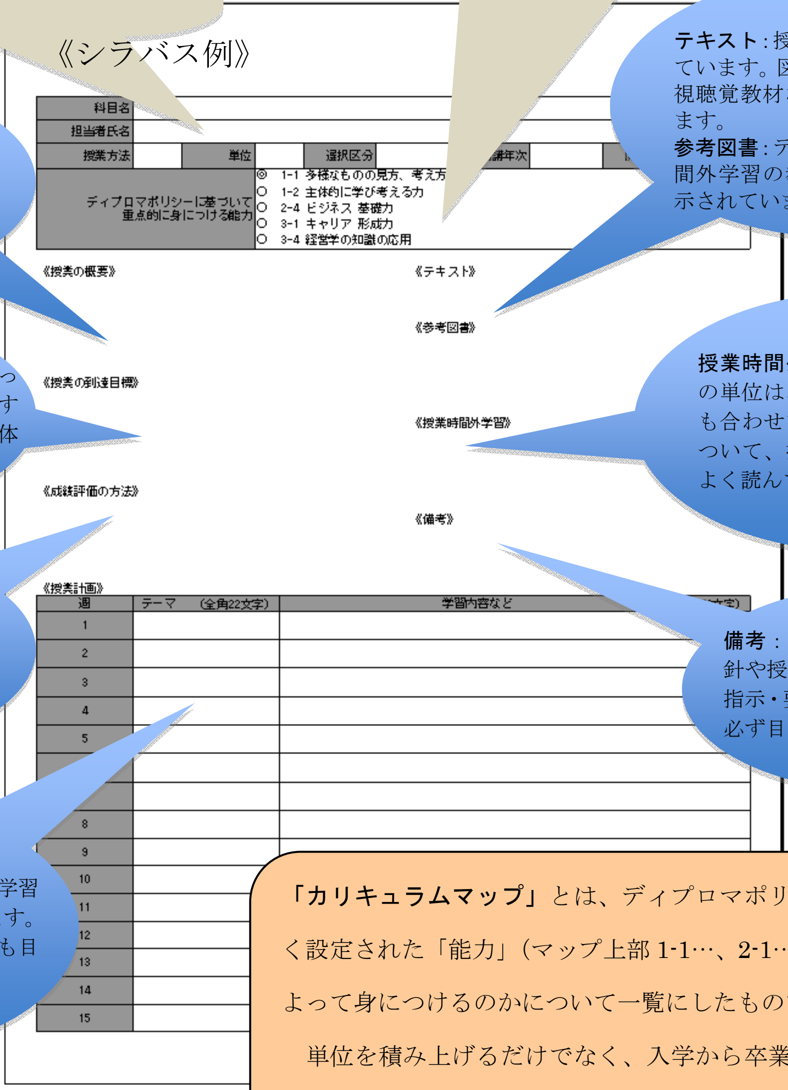
「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには５つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは５つ以上記載されている科目もあります。



科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》



授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15 回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。

参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

授業科目のナンバリングについて

＜ナンバリングとは？＞

科目ごとに数字とアルファベットを用いて「ナンバー」を割り振ることを指します。これにより、科目の学修内容の順番や科目間のつながりなどがわかりやすくなります。また、学生が自分に合った科目のレベル（難易度）や専門内容を考えて履修計画を立てることができます。

＜ナンバリングの見方＞

各授業科目には、９桁のナンバーが付与されています。
そのナンバーは次の基準等により設定しています。

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ナンバー	学科	科目の位置づけ			履修区分	学年（レベル）	通し番号（001～）

詳細①：学科

Y	こども福祉学科

詳細②③④：科目の位置づけ

②	③	
F	＿	社会福祉基盤科目
K	＿	こども福祉基盤科目
S	＿	専門科目Ⅰ群・Ⅱ群
H	＿	発展科目
B	A	基礎科目
H	U	教養科目（人文）
S	O	教養科目（社会）
N	A	教養科目（自然）
L	A	教養科目（語学）
P	H	教養科目（体育）
C	A	教養科目（キャリア）

④	
L	講義
S	演習
F	実習
P	実技

詳細⑤：履修区分

1	必修
2	選択
3	選択必修

詳細⑥：学年（レベル）

1	１年
2	２年
3	３年
4	４年

詳細⑦：通し番号

００１～

例えば、「生涯学習論」という科目には、＜ＹＦ＿＿Ｌ21007＞というナンバーが付与されています。このナンバーは、次の組み合わせにより付与されたものです。

詳細①：学科　→　こども福祉学科「Ｙ」
詳細②：科目の位置づけ　→　社会福祉基盤科目「Ｆ」
詳細③：科目の位置づけ　→　＿＿
詳細④：科目の位置づけ　→　講義科目「Ｌ」
詳細⑤：履修区分　→　選択科目「２」
詳細⑥：学年レベル　→　１年生相当「１」
詳細⑦：通し番号　→　通し番号「００７」

↓

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	こども福祉学科	社会福祉基盤科目	＿＿	講義科目	選択科目	１年生相当	通し番号
ナンバー	Y	F	＿＿	L	2	1	００７

生涯福祉学部こども福祉学科

【卒業要件単位数】

■平成27～25(2015～2013)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		10単位	8単位	4科目
専門教育科目	社会福祉基盤科目	14単位	12単位	6科目
	こども福祉基盤科目	20単位	16単位	8科目
	専門科目Ⅰ群	30単位	6単位	3科目
	専門科目Ⅱ群	30単位	12単位	6科目
	発展科目	—	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		26単位	—	—
合計		130単位	56単位	21科目

【幼稚園教諭一種免許取得について】

「教育職員免許法」及び「同法施行規則」では、「教科に関する科目」を 6 単位、「教職に関する科目」を 35 単位、「教科又は教職に関する科目」を 10 単位、合計 51 単位の修得が定められています（修得単位数を超えて修得した「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」に充当されます)。

こども福祉学科幼児教育コースにおいて、幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、次の科目の単位を修得しなければなりません。

幼稚園教諭一種免許	66 条の 6 に定める科目	9 単位以上
	教科に関する科目	22 単位以上
	教科又教職に関する科目	10 単位以上
	教職に関する科目	39 単位

(66 条の 6 に定める科目)

区分	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	こども福祉学科幼児教育コースで開設している授業科目名	開設単位数		本学が定める修得単位数
				必修	選択	
66条の6に定める科目	日本国憲法	2	日本国憲法		2	2 単位必修
	体育	2	健康･スポーツ科学Ⅰ(講義)		2	2 単位必修
			健康･スポーツ科学Ⅱ(実技)		1	いずれか1 単位必修
			健康･スポーツ科学Ⅲ(実技)		1	
	外国語コミュニケーション	2	英語	2		2 単位必修
	情報機器の操作	2	コンピュータ演習	2		2 単位必修

※ 必修科目 4 単位のほか、「日本国憲法」〔2 単位〕、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義)」〔2 単位〕、「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技)」〔1 単位〕又は「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技)」〔1 単位〕、合計 9 単位以上修得しなければならない。

(教科に関する科目)

区分	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	こども福祉学科幼児教育コースで開設している授業科目名	開設単位数		本学が定める修得単位数
				必修	選択	
教科に関する科目	国語	6	日本語（読解と表現）	2		必修科目22 単位
	算数		こどもと数	2		
	生活		こどもと生活	2		
	音楽		こどもと音楽Ⅰ	2		
			こどもと音楽Ⅱ	2		
			こどもと音楽Ⅲ	2		
			こどもと音楽Ⅳ		●2	
	図画工作		こどもと造形Ⅰ	2		
			こどもと造形Ⅱ	2		
			こどもと造形Ⅲ	2		
			こどもと造形Ⅳ		●2	
	体育		こどもと運動Ⅰ	2		
			こどもと運動Ⅱ	2		

（教科又は教職に関する科目）

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	こども福祉学科 幼児教育コースで 開設している授業科目名	開設単位数		本学が定める修得単位数
			必修	選択	
教科又は教職に関する科目	10	こどもの心理学Ⅰ	2		必修科目 8 単位 （※1）
		こどもの心理学Ⅱ		●1	
		こども文化論Ⅰ		●2	
		こども文化論Ⅱ		●1	
		青年心理学		●2	
		表現総合演習		●1	
		造形総合演習		●1	
		音楽教育	2		
		発達障害児への支援		●2	
		幼児のための福祉教育Ⅰ	2		
		幼児のための福祉教育Ⅱ	2		

（※1）「教科又は教職に関する科目」の選択科目又は「教科に関する科目」の選択科目から、4 単位以上修得しなければならない。（「教科又は教職に関する科目」又は「教科に関する科目」の●印の単位から 4 単位以上修得しなければならない。）

（教職に関する科目）

区分	免許法施行規則に定める科目区分等		最低修得単位数		こども福祉学科 幼児教育コースで 開設している授業科目名	開設単位数 必修	開設単位数 選択	本学が定める修得単位数
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	35	教師・保育者論	2		39単位必修
	教職の基本理念に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6		教育原理	2		
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）			教育心理学	2		
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			教育制度論	2		
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	18		保育課程総論	2		
		・保育内容の指導法			保育内容総論	2		
					こどもと健康	2		
					こどもと人間関係	2		
					こどもと環境	2		
					こどもと言葉	2		
					こどもと音楽表現	2		
					こどもと身体表現	2		
					こどもと言語表現	2		
		・教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			教育方法論	2		
	生徒指導教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	2		幼児理解	2		
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談	2		
	教育実習		5		教育実習指導	1		
					教育実習	4		
	教職実践演習		2		保育・教職実践演習（幼稚園）	2		

【保育士資格取得について】

こども福祉学科において、保育士資格を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、「児童福祉法施行規則」に定められている次の科目の単位を修得しなければなりません。

保育士資格	教養科目	8 単位以上
	必修科目	63 単位
	選択必修科目	9 単位以上

（教養科目）

系列	児童福祉法施行規則告示による教科目		指定単位数	こども福祉で開設している授業科目名		開設単位数		本学が定める修得単位数
	教科目	授業形態	選択必修	授業科目	授業形態	必修	選択	
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6単位以上開設	日本語（読解と表現）	演習	2		8単位以上必修
				コンピュータ演習	演習	2		
				宗教と人生	講義	2		
				生命倫理学	講義		2	
				哲学	講義		2	
				文学	講義		2	
				仏教と現代社会	講義		2	
				国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義		2	
				国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義		2	
				色彩とデザイン	講義		2	
				法と社会	講義		2	
				日本国憲法	講義		2	
				人権の歴史	講義		2	
				政治学	講義		2	
				社会学	講義		2	
				経済学	講義		2	
				生物学	講義		2	
				食と健康	講義		2	
				私のためのキャリア設計	講義		2	
	外国語	演習	2 単位以上	英語	演習	2		
				実用英語（初級）	演習		2	
				実用英語（中級）	演習		2	
				中国語（初級）	演習		2	
				中国語（中級）	演習		2	
	体育	講義	1	健康･スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		△2	2 単位必修
		実技	1	健康･スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		△1	いずれか1 単位必修
				健康･スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		△1	
合　計（開設単位数）			10 単位以上	合　計		52 単位		11 単位以上

※　必修科目 8 単位のほか、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」〔2 単位〕、「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）」〔1 単位〕又は「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）」〔1 単位〕から、合計 11 単位以上修得しなければならない。

（必修科目）

系列	児童福祉法施行規則告示別表第１による教科目		指定単位数	こども福祉学科で開設している授業科目名		開設単位数		本学が定める修得単位数
	教科目	授業形態	必修	授業科目	授業形態	必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理Ⅰ	講義	2		63単位必修
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義	2		
	社会福祉	講義	2	社会福祉Ⅰ	講義	2		
	相談援助	演習	1	相談援助	演習		△1	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義		△2	
	保育者論	講義	2	教師・保育者論	講義	2		
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	こどもの心理学Ⅰ	講義	2		
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	こどもの心理学Ⅱ	演習		△1	
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	こどもの保健ⅠA	講義		△2	
				こどもの保健ⅠB	講義		△2	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	こどもの保健Ⅱ	演習		△1	
	子どもの食と栄養	演習	2	こどもの食と栄養Ⅰ	演習		△1	
				こどもの食と栄養Ⅱ	演習		△1	
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義		△2	
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2		
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習		△2	
	保育内容演習	演習	5	こどもと健康	演習		△2	
				こどもと人間関係	演習		△2	
				こどもと環境	演習		△2	
				こどもと言葉	演習		△2	
	乳児保育	演習	2	乳児保育Ⅰ	演習		△1	
				乳児保育Ⅱ	演習		△1	
	障害児保育	演習	2	障害児保育Ⅰ	演習		△1	
				障害児保育Ⅱ	演習		△1	
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習		△1	
	保育相談支援	演習	1	保育相談支援Ⅰ	演習		△1	
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	こどもと音楽表現	演習		△2	
				こどもと身体表現	演習		△2	
				こどもと言語表現	演習		△2	
				こどもと音楽Ⅰ	演習	2		
				こどもと造形Ⅰ	演習	2		
				こどもと運動Ⅰ	演習	2		
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習ⅠA	実習		△2	
				保育実習ⅠB	実習		△2	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA	演習		△1	
				保育実習指導ⅠB	演習		△1	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		△2	
合　計			51	合　計		63		

※　必修科目20単位、選択科目43単位（△がある科目すべて）、合計63単位修得しなければならない。

（選択必修科目）

系列	児童福祉法施行規則告示別表第２による教科目		指定単位数	こども福祉学科で開設している授業科目名		開設単位数		備考
	教科目	授業形態	選択必修	授業科目	授業形態	必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目			15単位以上開設	保育原理Ⅱ	講義		2	6単位以上必修
保育の対象の理解に関する科目				教育心理学	講義		2	
				幼児理解	講義		2	
				青年心理学	講義		2	
				臨床心理学	講義		2	
				教育相談	講義		2	
保育の内容・方法に関する科目								
保育の表現技術	保育の表現技術	演習		こどもと音楽Ⅱ	演習		2	
				こどもと造形Ⅱ	演習		2	
				こどもと造形Ⅲ	演習		2	
				こどもと運動Ⅱ	演習		2	
				音楽教育	演習		2	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習		▲2	いずれか2単位必修
				保育実習Ⅲ	実習		▲2	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習		▲1	いずれか1単位必修
				保育実習指導Ⅲ	演習		▲1	
合　計（開設単位数）			18単位以上	合　計		22単位		9単位以上

※　「保育実習Ⅱ」〔2 単位〕と「保育実習指導Ⅱ」〔1 単位〕又は、「保育実習Ⅲ」〔2 単位〕と「保育実習指導Ⅲ」〔1 単位〕の 3 単位を修得するとともに、それ以外の選択必修科目から 6 単位以上、合計 9 単位以上修得しなければならない。

【こども音楽療育士について】

こども福祉学科において、こども音楽療育士の資格を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、次に示す必修科目及び選択科目を合わせて20単位以上の単位を修得しなければなりません。

<table>
<tr><td rowspan="2">こども音楽療育士</td><td>必修科目</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td>選択科目</td><td>16単位以上</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">区分</td><td colspan="2">履修すべき科目</td><td rowspan="2">単位数</td><td colspan="2">こども福祉学科で開設している授業科目名</td><td colspan="2">開設単位数</td><td rowspan="2">本学が定める修得単位数</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td>授業形態</td><td>授業科目</td><td>授業形態</td><td>必修</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td>こども音楽療育概論</td><td>講義</td><td>2</td><td>こども音楽療育概論</td><td>講義</td><td></td><td>☆2</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td>こども音楽療育演習</td><td>演習</td><td>1</td><td>こども音楽療育演習</td><td>演習</td><td></td><td>☆1</td><td>1単位</td></tr>
<tr><td>こども音楽療育演習</td><td>実習</td><td>1</td><td>こども音楽療育演習</td><td>実習</td><td></td><td>☆1</td><td>1単位</td></tr>
<tr><td rowspan="18">選択科目</td><td rowspan="11" colspan="2">Ⅰ群
「障害児及び心理」関連分野</td><td rowspan="11">4単位以上</td><td>障害者福祉論</td><td>講義</td><td></td><td>★2</td><td rowspan="18">Ⅰ群から4単位以上、Ⅱ群から2単位以上、Ⅲ群から4単位以上、計16単位以上</td></tr>
<tr><td>心理検査法</td><td>講義</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td>こどもの心理学Ⅰ</td><td>講義</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>こどもの心理学Ⅱ</td><td>演習</td><td></td><td>★1</td></tr>
<tr><td>障害児保育Ⅰ</td><td>演習</td><td></td><td>★1</td></tr>
<tr><td>障害児保育Ⅱ</td><td>演習</td><td></td><td>★1</td></tr>
<tr><td>発達障害児への支援</td><td>演習</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td>教育心理学</td><td>講義</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td>幼児理解</td><td>講義</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td>青年心理学</td><td>講義</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td>臨床心理学</td><td>講義</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td rowspan="3" colspan="2">Ⅱ群
「保健」関連分野</td><td rowspan="3">2単位以上</td><td>こどもの保健ⅠA</td><td>講義</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td>こどもの保健ⅠB</td><td>講義</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td>こどもの保健Ⅱ</td><td>演習</td><td></td><td>★1</td></tr>
<tr><td rowspan="4" colspan="2">Ⅲ群
「音楽」関連分野</td><td rowspan="4">2単位以上</td><td>こどもと音楽表現</td><td>演習</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td>こどもと音楽Ⅰ</td><td>演習</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>こどもと音楽Ⅱ</td><td>演習</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td>音楽教育</td><td>演習</td><td></td><td>★2</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td colspan="2">合　計</td><td colspan="2">36単位</td><td>20単位以上</td></tr>
</table>

※　必修科目4単位、選択科目4単位（☆がある科目すべて）を修得し、かつ、Ⅰ群から4単位以上、Ⅱ群から2単位以上、Ⅲ群から4単位以上、計16単位修得しなければならない。

【児童厚生一級指導員について】

こども福祉学科において、児童厚生一級指導員の資格を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、次に示す必修科目及び選択科目を合わせて 20 単位以上の単位を修得しなければなりません。さらに、保育士資格取得見込であることが必要となります。

児童厚生一級指導員	資格指定科目	41単位以上
	ただし、児童館実習（20日間）を修得の場合	34単位以上

資格指定科目	単位数	こども福祉学科で開設している授業科目名	開設単位数 必修	開設単位数 選択	本学が定める修得単位数
児童の健全育成と福祉	2	児童の健全育成と福祉		□2	2 単位
児童館の機能と運営（児童クラブを含む）	2	児童館の機能と運営		□2	2 単位
児童館の活動内容と指導法（児童クラブを含む） 文化・表現活動、 運動・野外活動、 子育て支援、等	4	保育内容総論		□2	5 単位以上必修
		こどもと健康		■2	
		こどもと人間関係		■2	
		こどもと環境		■2	
		こどもと言葉		■2	
		こどもと音楽表現		■2	4 単位以上必修
		こどもと身体表現		■2	
		こどもと言語表現		■2	
		こどもと音楽Ⅰ	2		
		こどもと造形Ⅰ	2		
		こどもと運動Ⅰ	2		
		社会的養護		□2	7 単位
		障害児保育Ⅰ		□1	
		障害児保育Ⅱ		□1	
		保育相談支援Ⅰ		□1	
		保育・教職実践演習（幼稚園）		□2	
児童福祉援助技術	2	相談援助		□1	3 単位
		家庭支援論		□2	
地域福祉 Ⅰ 地域福祉論 Ⅱ コミュニティワーク演習	4 (2) (2)	地域福祉の理論と方法Ⅰ		□2	4 単位
		子育て支援地域活動Ⅱ		□2	
児童館実習（児童クラブを含み 20 日間）	4	保育実習ⅠA		□2	11 単位 又は 児童館実習（20 日間） 4 単位（＊）
		保育実習ⅠB		□2	
		保育実習指導ⅠA		□1	
		保育実習指導ⅠB		□1	
		保育実習Ⅲ		□2	
		保育実習指導Ⅲ		□1	
		児童館実習（10 日間）（＊）		□2	
合　計	18	合　計	51 単位		41 単位以上 （34 単位以上）

※（＊）の「児童館実習（10日間）」及び「児童館実習（20日間）」については、資格関連科目のため、単位を修得しても卒業要件単位には含まれない。

平成 27～25（2015～2013）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成27年度（2015年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数		幼児教育コース 単位数		幼一種	保育士	こども療育士	こども音楽療育士	児童福祉コース 単位数		保育士	こども療育士	こども音楽療育士	学年配当（数字は週当り授業時間）1年		2年		3年		4年		平成27年度の担当者	ページ
				必修	選択	必修	選択				児童厚生一級	必修	選択			児童厚生一級	I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	YBAS11001	演習	2		2		◇	●			2		●			2								安井 重雄	29
	英語	YBAS11002	演習	2		2		◇	○			2		○			2								（平本 幸治）	30
	英語	YBAS11002	演習	2		2		◇	○			2		○			2								［小泉　毅］	31
	コンピュータ演習	YBAS11003	演習	2		2		◇	●			2		●			2								（西田 悦雄）	32
教養科目	宗教と人生	YHUL11001	講義	2		2			●			2		●				2							（本多 彩）	33
	生命倫理学	YHUL11002	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			［古荘 匡義］	34
	哲学	YHUL11003	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			［三浦 摩美］	35
	文学	YHUL11004	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		安井 重雄	36
	仏教と現代社会	YHUL21005	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			（本多 彩）	37
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	YHUL21006	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［根川 幸男］	38
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	YHUL21007	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			［重親 知左子］	39
	色彩とデザイン	YHUL21008	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［浜島］・（稲冨）	40
	法と社会	YSOL21009	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			［豊福 一］	41
	日本国憲法	YSOL21010	講義		2		2	◇	●				2	●			②		②		②		②		［笹田 哲男］	42
	人権の歴史	YSOL21011	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［岩本 智依］	43
	政治学	YSOL21012	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		斎藤 正寿	44
	社会学	YSOL21013	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		（吉原 惠子）	45
	経済学	YSOL21014	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		（石原 敬子）	46
	生物学	YNAL21015	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			（佐藤 隆）	47
	食と健康	YNAL21016	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			（嶋津 裕子）	48
	実用英語（初級）	YLAS21017	演習		2		2		●				2	●				②		②		②			［松盛 美紀子］	49
	実用英語（中級）	YLAS22018	演習		2		2		●				2	●					②		②		②			
	中国語（初級）	YLAS21019	演習		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［佟 曉寧］	51
	中国語（中級）	YLAS21020	演習		2		2		●				2	●				②		②		②			［佟 曉寧］	52
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	YPHL21021	講義		2		2	◇	○				2	○				②		②		②			（矢野 琢也）	53
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	YPHP21022	実技		1		1	◆	○				1	○			②		②		②		②		（矢野 琢也）	54
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	YPHP21023	実技		1		1						1					②		②		②			（矢野 琢也）	55
	私のためのキャリア設計	YCAL21024	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［三上 嘉代子］	56

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、配当学年の指定はなく、1～4年のいずれの学年でも登録、履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成26年度（2014年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科		幼児教育コース						児童福祉コース					学年配当（数字は週当り授業時間）								平成27年度の担当者	ページ
				単位数		単位数		幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	単位数		保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	1年		2年		3年		4年			
				必修	選択	必修	選択					必修	選択				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
基礎科目	日本語（読解と表現）	YBAS11001	演習	2		2		◇	●			2		●			2									
	英語	YBAS11002	演習	2		2		◇	○			2		○			2									
	コンピュータ演習	YBAS11003	演習	2		2		◇	●			2		●			2									
教養科目	宗教と人生	YHUL11001	講義	2		2			●			2		●				2								
	生命倫理学	YHUL11002	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			［古荘 匡義］	34
	哲学	YHUL11003	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			［三浦 摩美］	35
	文学	YHUL11004	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		安井 重雄	36
	仏教と現代社会	YHUL21005	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			（本多 彩）	37
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	YHUL21006	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［根川 幸男］	38
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	YHUL21007	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			［重親 知左子］	39
	色彩とデザイン	YHUL21008	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［浜島］・（稲冨）	40
	法と社会	YSOL21009	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			［豊福 一］	41
	日本国憲法	YSOL21010	講義		2		2	◇	●				2	●			②		②		②		②		［笹田 哲男］	42
	人権の歴史	YSOL21011	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［岩本 智依］	43
	政治学	YSOL21012	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		斎藤 正寿	44
	社会学	YSOL21013	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		（吉原 惠子）	45
	経済学	YSOL21014	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		（石原 敬子）	46
	生物学	YNAL21015	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			（佐藤 隆）	47
	食と健康	YNAL21016	講義		2		2		●				2	●				②		②		②			（嶋津 裕子）	48
	実用英語（初級）	YLAS21017	演習		2		2		●				2	●				②		②		②			［松盛 美紀子］	49
	実用英語（中級）	YLAS22018	演習		2		2		●				2	●					②		②		②		［松盛 美紀子］	50
	中国語（初級）	YLAS21019	演習		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［佟 曉寧］	51
	中国語（中級）	YLAS21020	演習		2		2		●				2	●				②		②		②			［佟 曉寧］	52
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	YPHL21021	講義		2		2	◇	○				2	○				②		②		②			（矢野 琢也）	53
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	YPHP21022	実技		1		1	◆	○				1	○			②		②		②		②		（矢野 琢也）	54
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	YPHP21023	実技		1		1						1					②		②		②			（矢野 琢也）	55
	私のためのキャリア設計	YCAL21024	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［三上 嘉代子］	56

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、配当学年の指定はなく、1～4年のいずれの学年でも登録、履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成25年度（2013年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	学科 単位数		幼児教育コース 単位数		幼一種	保育士	こども療育士・こども音楽	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数		保育士	こども療育士・こども音楽	児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年		2年		3年		4年		平成27年度の担当者	平成27年度の担当者
			必修	選択	必修	選択					必修	選択				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2		2		◇	●			2		●			2									
	英語	演習	2		2		◇	○			2		○			2									
	コンピュータ演習	演習	2		2		◇	●			2		●			2									
教養科目	宗教と人生	講義	2		2			●			2		●				2								
	生命倫理学	講義		2		2		●				2	●				②		②		②		②	［古荘 匡義］	34
	哲学	講義		2		2		●				2	●				②		②		②		②	［三浦 摩美］	35
	文学	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		安井 重雄	36
	仏教と現代社会	講義		2		2		●				2	●				②		②		②		②	（本多 彩）	37
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［根川 幸男］	38
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義		2		2		●				2	●				②		②		②		②	［重親 知左子］	39
	色彩とデザイン	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［浜島］・（稲冨）	40
	法と社会	講義		2		2		●				2	●				②		②		②		②	［豊福 一］	41
	日本国憲法	講義		2		2	◇	●				2	●			②		②		②		②		［笹田 哲男］	42
	人権の歴史	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［岩本 智依］	43
	政治学	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		斎藤 正寿	44
	社会学	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		（吉原 惠子）	45
	経済学	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		（石原 敬子）	46
	生物学	講義		2		2		●				2	●				②		②		②		②	（佐藤 隆）	47
	食と健康	講義		2		2		●				2	●				②		②		②		②	（嶋津 裕子）	48
	実用英語（初級）	演習		2		2		●				2	●				②		②		②		②	［松盛 美紀子］	49
	実用英語（中級）	演習		2		2		●				2	●					②		②		②		［松盛 美紀子］	50
	中国語（初級）	演習		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［佟 曉寧］	51
	中国語（中級）	演習		2		2		●				2	●				②		②		②		②	［佟 曉寧］	52
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2		2	◇	○				2	○				②		②		②		②	（矢野 琢也）	53
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1		1	◆	○				1	○			②		②		②		②		（矢野 琢也）	54
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1		1						1					②		②		②		②	（矢野 琢也）	55
	私のためのキャリア設計	講義		2		2		●				2	●			②		②		②		②		［三上 嘉代子］	56

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、配当学年の指定はなく、1～4年のいずれの学年でも登録、履修できる科目である。

科目名	日本語(読解と表現)			科目ナンバリング	YBAS11001
担当者氏名	安井　重雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　基教-A コミュニケーション力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力 ○　基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》
大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《授業の到達目標》
漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって、日本語の教養とコミュニケーション能力を高める。

《成績評価の方法》
10回以上出席しないと単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出（50%）と定期試験（50%）によって評価する。

《テキスト》
授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》
授業時に、指示する。

《授業時間外学習》
当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《備考》
毎回、設問を解くなどの課題を行うので、国語辞典（電子辞書も可）を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明・漢字の書き取り	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	漢字の書き取り・四字熟語	漢字の音読み・訓読みを理解し、同音異義語・同訓異義語を書き分ける。
3	漢字の書き取り・四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある（ない）などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語Ⅰ・Ⅱ、丁寧語、美化語という敬語の５分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《基礎科目》

科目名	英語			科目ナンバリング	YBAS11002
担当者氏名	平本　幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　基教-A コミュニケーション力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力 ○　基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》
学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテクストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テクストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《授業の到達目標》
日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》
期末レポート（50%）、授業中に実施する小テスト（50%）

《テキスト》
『TOEIC Test Fundamentals』クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考図書》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テクストを精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1　Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2　Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3　Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4　At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5　In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6　In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7　Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8　Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9　Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10　Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11　At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12　Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13　Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14　At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15　At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎科目》

科目名	英語			科目ナンバリング	YBAS11002
担当者氏名	小泉　毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　基教-A コミュニケーション力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力 ○　基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》
リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《授業の到達目標》
英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて→話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《成績評価の方法》
英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）

《テキスト》
プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy　English〕（長崎出版）

《参考図書》
NHKラジオの「新基礎英語Ⅰ」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業時間外学習》
毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までする。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《備考》
1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会う ありがとう	小テスト、会話（挨拶）、Phonics（Alphabet）英検５級リスニングテスト
3	場所を聞く いつ練習するの？	小テスト、会話、Phonics（Alphabet）英検５級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、Phonics（子音）①英検４級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics（子音）②英検４級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）①英検３級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）②英検３級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習①　英検５級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習②　英検５級（全体）
10	～しましょうか？ ～しませんか？	小テスト、会話、Phonics（silent　E）①　英検４級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics（silent　E）②　英検３級（全体）
12	～はいかがですか？と物をすすめる	小テスト、会話、Phonics（polite　vowels）①　英検準２級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ねる道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics（polite　vowels）②　英検５、４級の総復習
14	いい考えねと自分の考えをいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習①　英検３級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習②　英検準２級総復習

科目名	コンピュータ演習			科目ナンバリング	YBAS11003
担当者氏名	西田　悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-A コミュニケーション力 ◎　基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○　基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》
本学計算機実習室の計算機を使うための基礎的な知識や技術の習得を目指します.
また，情報化社会の通信基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際しての利便性や危険性など情報化社会で必要とされる「情報モラル」などの知識の獲得も目指します.

《授業の到達目標》
1.情報収集のためのWebブラウザを使った検索等の操作ができる.
2.レポート作成に用いるワードプロセッサソフト・表計算ソフトや発表のためのプレゼンテーションソフトの操作が行え，活用できる.
3.情報の共有やコミュニケーションのための電子メールが活用できる.

《成績評価の方法》
提出課題の提出状況(20%)と課題内容(70%)，平常点(10%)を総合的に評価します.
欠席回数が全授業実施回数の1/3以上あるときには単位認定できないことがあります.

《テキスト》
教科書は使用しません．必要に応じて適宜配布します.

《参考図書》
小柳・小野・平井・宮本編著(教師を目指す人のための)「教育方法・技術論」学芸図書，2012.　　など.
必要に応じて適宜授業内で紹介します.

《授業時間外学習》
授業内で配付する資料は学期終了まで自由に閲覧できますから，配付資料を熟読し理解を深めて下さい.
課題作成は授業時間内を基本としていますが，不足分は時間外学習で対応して下さい.

《備考》
「便利な文房具や道具」としてのコンピュータの積極的な利用を希望します．また，より深い理解を促すために授業計画の順序等を変更・修正するときがあります.

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 利用のための手続き	計算機実習室利用のための手続きと初期設定
2	Windowsの基礎と電子メール	Windowsのパスワード変更，電子メールの概要と活用
3	Webブラウザ	Webブラウザの操作方法，検索サイト，情報化の光と影
4	文書作成(1)	ワードプロセッサソフトの基本知識・操作
5	文書作成(2)	Webブラウザとの連携(検索エンジンを利用した情報検索/収集)
6	文書作成(3)	Webブラウザとの連携，情報の引用，参照のつけ方，文書作成
7	表計算ソフト(1)	表計算ソフトの基本知識，セル，罫線，表組の活用，基本的な関数の活用
8	表計算ソフト(2)	グラフ描画方法，有効なグラフの形状
9	プレゼンテーションソフト(1)	プレゼンテーションソフトの基礎知識，発表テーマの設定と作成
10	プレゼンテーションソフト(2)	アニメーションとデザインの活用
11	プレゼンテーション資料の発表/総合的な演習(1)	資料を用いての発表，レポート，課題作成のための実践…テーマ設定
12	総合的な演習(2)	レポート，課題作成のための実践…表計算ソフトとワープロソフトの連携
13	総合的な演習(3)	レポート，課題作成のための実践…表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携
14	総合的な演習(4)	レポート，課題作成のための実践…見栄えする資料作成のコツ
15	総合的な演習(5)	まとめ…総合的な演習とその他補足

《教養科目》

科目名	宗教と人生			科目ナンバリング	YHUL11001
担当者氏名	本多　彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎　基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》
この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。
兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》
われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》
受講態度　約30%
小テスト・レポート　約20%
定期テスト　約50%
この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》
特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》
講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》
学内で行われる宗教行事への積極的な参加
定例礼拝　毎週水曜日　12時15分～
宗教セミナー
宗教ツアー
花まつり法要　など

《備考》
身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
仏教の本を読んでみよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の類型	分布や性格によって分けられる宗教の類型を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	建学の精神①	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
5	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学ぶ
8	イスラームを知る①	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
9	イスラームを知る②	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
10	仏教を知る①	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る②	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る③	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の仏教を知る①	身近にある日本仏教の特性を理解することを目指す 建学の精神と関連の深い仏教の教えについて理解を目指す
14	日本の仏教を知る②	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	建学の精神③	建学の精神と仏教について理解を深め自ら考える

科目名	生命倫理学			科目ナンバリング	YHUL11002
担当者氏名	古荘　匡義				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎　基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》
　近年格段に進歩した生命科学や医療技術は、一方で私たちの生命の質を大幅に向上させましたが、他方で生や死、人間、家族などに関するこれまでの考え方を根底から揺るがしています。今後、科学技術の一層の進歩が見込まれる中で、私たち自身の生命についてどのように考えていけばよいかを、生命倫理学の立場から検討していきます。

《授業の到達目標》
(1)生命倫理学の主要概念を説明できる。
(2)倫理学の考え方を用いて、生命倫理の具体的な問題を分析することができる。

《成績評価の方法》
(1)授業中に作成するミニ・レポート（50%）
(2)学期末の試験（持ち込み不可、50%）
　ただし、授業の出席回数が授業実施回数の2/3を満たしていない場合は、定期試験の受験資格はありません。

《テキスト》
　毎回配布するレジュメや資料を用いて授業を行います。

《参考図書》
　田上孝一『本当にわかる倫理学』日本実業出版社、2010年；三井美奈『安楽死のできる国』新潮新書、2003年；E・キューブラー・ロス『死ぬ瞬間』中公文庫、2001年；村上喜良『基礎から学ぶ生命倫理学』勁草書房、2008年；F・ブルジェール『ケアの倫理』白水社、2014年；赤林朗『入門・医療倫理Ⅰ・Ⅱ』勁草書房、2005・2007年。

《授業時間外学習》
　授業に関連する小説や映画などの紹介も行いますので、気になった作品を鑑賞し、授業内容を参考にしつつ、その作品に関する自分の考えをまとめておいてください。学期中に、参考図書を少なくとも1冊読み通してください。

《備考》
　受講者の関心に合わせて、講義で取り扱う学習内容や順序を適宜変更することがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業の進め方を説明する。倫理学がどういう学問なのかを理解する。
2	生命倫理学とは何か	医療資源の配分の問題を取り上げながら、生命倫理学がどのような考え方に基づいて、何を考察しているのかを理解する。
3	医療倫理の４原則	臓器移植などを例に、医療現場における倫理問題を考えるときの指針となる「医療倫理の４原則」を理解する。
4	自己決定権	現代の生命倫理学において重視されている「自律の尊重」と、それに対立する「パターナリズム」について理解する。
5	インフォームドコンセント	過去の事例を分析しながら、インフォームドコンセントの重要性と課題を理解する。
6	安楽死・尊厳死(1)	さまざまな事例をもとに、安楽死と尊厳死を２つの視点から分類して理解する。
7	安楽死・尊厳死(2)	海外と日本の安楽死の実情を把握し、各国が安楽死をめぐって抱えている問題を理解する。
8	人工妊娠中絶と出生前診断(1)	日本における人工妊娠中絶をめぐる状況や歴史的経緯を把握し、生命の尊厳や女性の自己決定権について理解する。
9	人工妊娠中絶と出生前診断(2)	出生前診断の発達によって生じてきた選択的人工妊娠中絶の問題を把握し、パーソン論の議論を理解する。
10	人工生殖技術(1)	人工生殖技術や生殖ビジネスの発展がもたらした現実を把握する。
11	人工生殖技術(2)	人工生殖技術が人間の生や家族について再考を迫っていることを理解し、これからの人間や家族のあり方を考える。
12	脳死と臓器移植	脳死や臓器移植に関するこれまでの議論を把握し、死を定義することの困難さを理解する。
13	ターミナルケア(1)	終末期におけるターミナルケアの方法や現状を把握し、終末期ケアの課題を理解する。
14	ターミナルケア(2)	終末期医療を例として、ケアの倫理の立場から生命倫理の考え方を再考する。
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

《教養科目》

科目名	哲学			科目ナンバリング	YHUL11003
担当者氏名	三浦　摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○　基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○　基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。講義では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの間に提出された哲学上のいくつかの問題について概観しつつ、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行為と言語の関係について、現代哲学のテーマをもとに考察したい。

《授業の到達目標》

・「哲学」とはどのような知的営みであるかについて理解できるようにする。
・人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにするとともに、心身問題や思考と言語の関係といった哲学的問題について理解できるようにする。
・粘り強く考察できるようにする。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《テキスト》

板書を中心とした講義を行う。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業時間外学習》

・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることでさらに理解を深めるように努める。
・レポートをまとめる。

《備考》

・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か①	ガイダンス 「哲学」の創始および定義
2	哲学とは何か②	古代自然哲学から近代の知識論へ
3	「知識」に関する自然主義と反自然主義	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度
4	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのか
5	「知識」の二つのあり方について	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識
6	ア・プリオリな知識の問題	知識論におけるプラトニズムおよび心理主義の問題
7	ア・プリオリな知識の問題	知識論における規約主義の問題
8	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における素朴実在論の問題
9	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における表象主義的実在論の問題
10	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における観念論と科学的実在論の問題
11	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における基礎付け主義の問題
12	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論と整合説の問題
13	心身問題における自然主義と反自然主義	心の現象と志向性の問題
14	心身問題における異なる立場	心身問題における随伴現象説、同一説および機能主義の問題
15	まとめ	これまでの議論の特徴について

《教養科目》

科目名	文学			科目ナンバリング	YHUL11004
担当者氏名	安井　重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○　基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》
古典文学について講義し、「古典」とは何かを考える。日本の古典文学作品は数百年、あるいは千年以上もの間読み継がれてきている。なぜその作品が現代まで残り、「古典」となるのか。「古典」とはただ古い作品ということではない。授業では、いくつかの作品を取り上げて少しずつ読みながら、テーマや構想、文章、また作者と制作された時代について説明し、如上の問題を考える。

《授業の到達目標》
文学作品の言葉を読み解き、作品のテーマについて考え、また作者と時代について考えること。および、そのことによって文学および「古典」について深く理解することを目指す。

《成績評価の方法》
10回以上出席しないと単位を与えない。その上で、授業時に提出する課題やレポートによる平常点（40%）、及び、定期試験（60%）によって評価する。

《テキスト》
毎回、プリントを配布する。

《参考図書》
授業中に指示する。

《授業時間外学習》
配布したプリントを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『万葉集』を読む	最古の歌集である『万葉集』は８世紀半ばに成立した。内容は、宮廷を中心としたもの、防人や東歌など労働に関するものなどさまざまである。その歌を考える。
3	『古今和歌集』を読む	905年に成立し、和歌を春夏秋冬に分類して日本の四季の認識を確立するなど以降の文学や人間生活に大きな影響を及ぼした作品である。その歌を考える。
4	『伊勢物語』を読む	主人公在原業平が東国に下ったり、高貴な女性を盗んだりなど、当時としては驚かされる行動をとる。すべての章段に和歌がある物語であり、歌をめぐる面白さを読む。
5	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第一部・第二部の、主人公光源氏の女性たちとの恋愛、またさまざまの困難を乗り越えて栄華に至り、さらに死を迎えるまでの物語を読む。
6	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第三部の、光源氏死後、その子薫と孫匂宮が宇治を舞台として浮舟など女性たちをめぐって争い、恋のはかなさを認識するに至る物語を読む。
7	『新古今和歌集』を読む	最高権力者後鳥羽院が自ら撰集した勅撰和歌集である。藤原定家らの歌は、古典和歌との関係によって制作され、古典とは何かを考えさせる。
8	『方丈記』を読む	鴨長明作『方丈記』は無常をテーマとして災害の記述で有名である。災害は住居の破壊に繋がる。住居とはどうあるべきかを語る長明の思考について考える。
9	『愚管抄』を読む	著者慈円は摂関家の出身である。時代は鎌倉幕府を無視できない歴史の転換期にきている。そのとき貴族は歴史をどのように捉えるのか、考える。
10	『宇治拾遺物語』を読む	文学の担い手は貴族層から、武士や庶民に広がっていく。優雅さだけが価値ではなく、時代は俗を取り込み変化する。貴族文学とは異なる美意識や価値観について考える。
11	『奥の細道』を読む	江戸時代に入り、平和が訪れ、安全な旅が可能になる。松尾芭蕉の旅を追いながら、誹諧と紀行について考える。
12	『五輪書』『葉隠』を読む	『五輪書』は宮本武蔵が兵法の極意について語ったもの、『葉隠』は鍋島藩士山本常朝が、理想的武士像について説いたものである。江戸時代の武士について考える。
13	『雨月物語』を読む	江戸時代に書かれた上田秋成作の怪異小説を二回に分けて読む。恐怖の中にも人間を見つめたテーマ設定がなされている。この回は「白峯」「菊花の契り」を読む。
14	『雨月物語』を読む	女性や異類を主人公とした怪異譚である、「吉備津の釜」「蛇性の婬」を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた古典文学についてふりかえり、「古典」とは何かについて考える。

科目名	仏教と現代社会			科目ナンバリング	YHUL21005
担当者氏名	本多　彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○　基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》
宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義では幅広く仏教文化を解説する。そして仏教と人間、グローバル社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。現代社会や文化を通して仏教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》
※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
※現代仏教についての理解をめざす
※仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》
受講態度　約30%
小テスト・レポート　約25%
期末プロジェクト　約45%
この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》
特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》
講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》
学内で行われる宗教行事への積極的な参加
定例礼拝　毎週水曜日　12時15分～
宗教セミナー
宗教ツアー
花まつり法要　など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化と社会の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	基本となる教えについての理解をめざし社会や文化への影響について学ぶ
3	仏教・仏教文化の概説①	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	仏教・仏教文化の概説②	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
5	現代日本の仏教文化	現代の日本文化を取りあげて仏教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における仏教①	社会を読み解くカギとして仏教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における仏教②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
8	仏教と社会	現代日本社会における仏教や仏教施設と人々との関わりについて学ぶ
9	浄土仏教の展開と日本浄土仏教	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
10	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
11	宗教多元世界と仏教①	海外でみられる仏教の広がりについて学ぶ
12	宗教多元世界と仏教②	海外で展開される仏教と日本仏教について理解する
13	宗教多元世界と仏教③	グローバル社会における日本仏教と教えについて学ぶ
14	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）			科目ナンバリング	YHUL21006
担当者氏名	根川　幸男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 〇　基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 〇　基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》
本講義では、キリスト教の教義、歴史、現在、キリスト者などについて学ぶとともに、それを通じて国際理解を深める。キリスト教をめぐるさまざまな事柄を手がかりに、教師と学生がコミュニケーションを深めながら、自分たちの人生や将来、それをとりまく世界や社会、文化、人間関係などについて考える。

《授業の到達目標》
＊キリスト教について学ぶことによって、世界の歴史や国際関係、人間関係について理解できるようになる。
＊キリスト教について学ぶことによって、自分たちと異なる地域や集団の人々の文化や生き方が理解できるようになる。
＊復習シートやレポート作成を通じて、自覚的にテーマを選び、資料を探し、考え、発信する能力を獲得する。

《成績評価の方法》
＊毎回の講義後に提出する復習シート（40％）と期末レポート（40％）、授業参加態度（20％）を合算して評価する。
＊授業の性格上、講義を聞き、教師とコミュニケーションすることが大切です。

《テキスト》
講義の際に適宜資料を配布する。

《参考図書》
『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、『ふしぎなキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011、『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編（岩波書店）2002

《授業時間外学習》
＊その日の復習シートと質問（400字程度）をまとめ、次回の授業に提出する。用紙は授業ごとに配布する。
＊キリスト教の正典である聖書にふれておく。
＊配布資料が散在しないように整理しておく。
＊新聞・雑誌等でキリスト教に関する記事があれば目を通し、できればコメント付きのコピーを提出

《備考》
＊授業進行は概ね授業計画に拠るが、学生の理解度やニーズに応じて変更していく。
＊携帯電話・メール使用、食事の禁止

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	何のためにキリスト教について学ぶのか？講義の目的とシラバスの説明。履修学生のキリスト教との関わり、イメージについて問う。
2	国際問題と宗教1	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
3	国際問題と宗教2	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
4	聖書の世界観・人間観1	旧約聖書の物語を追いながら、ユダヤ・キリスト教の世界観・人間観を読み解いていく。
5	聖書の世界観・人間観2	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
6	聖書の世界観・人間観3	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
7	キリスト教の歴史1	イエスと彼の弟子たちによるキリスト教の成立からローマ帝国での国教化、東西教会の分裂とイスラム教との接触を概観する。
8	キリスト教の歴史2	宗教改革による旧教と新教の分裂、キリスト教会の変容・再編成、日本への伝道を世界史的視野で概観する。
9	キリスト教の歴史3	近現代におけるキリスト教の歴史と変遷、位置づけについて学び、その影響について考える。レポートのテーマ中間発表。
10	キリスト教と文化・芸術	キリスト教と西洋の文化・芸術について概観し、それが非西洋、特に日本の文化・芸術とどのように交渉をもったのかについて学ぶ。レポートのテーマ中間発表。
11	キリスト教と国際人口移動1	大航海時代以降の歴史を、宗教改革とキリスト教伝道の観点から読み解き、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのテーマ中間発表。
12	キリスト教と国際人口移動2	19～20世紀の人口移動をキリスト教の観点から読み解き、日本人の海外移民も含めて、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのアウトライン発表。
13	キリスト教と日本	日本に伝わったキリスト教がどのような影響を与えたのかを時系列的に概観し、自分たちの生活とどう関係しているのかを考える。レポートのアウトライン発表。
14	キリスト教の現在	生命、ジェンダー、中絶、同性愛、戦争、環境問題など、現代社会が抱えている問題を取り上げ、キリスト教との関係で読み解き、考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことをふりかえり、キリスト教がどのような宗教であり、自分たちとどう関わっているか、また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）			科目ナンバリング	YHUL21007
担当者氏名	重親　知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○　基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》
世界におけるムスリム（イスラーム教徒）の数は約16億人、総人口の1/5以上を占める。ムスリム訪日人数や国内のモスク（イスラームの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。日本とイスラームの関係史にも触れる。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事等も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》
・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
・日本におけるイスラームをめぐる歴史と現状を把握できる。
・イスラームに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》
・全授業終了後に課すレポート(60%）と、VTR視聴ごとに課すレポート(40%）で評価する。
・レポートの提出遅れについては減点する。

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》
臼杵陽『世界史の中のパレスチナ問題 』講談社、2013/小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行』山川出版社、2010/　杉田英明『日本人の中東発見　逆遠近法のなかの比較文化史』東京大学出版会、1995/辻上奈美江『イスラーム世界のジェンダー秩序』明石書店、2014/樋口直人他『国境を越える　滞日ムスリム移民の社会学』青弓社、2007

《授業時間外学習》
・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
・可能な範囲でイスラームと接点を持つ（例：モスク見学）。

《備考》
・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	結婚、葬礼におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
14	日本とイスラーム(1)	奈良時代から江戸時代における日本とイスラーム圏の関係を、歴史的に検証する。
15	日本とイスラーム(2)	明治時代から現在に至る日本とイスラーム圏の関係を、歴史的に検証する。

科目名	色彩とデザイン			科目ナンバリング	YHUL21008
担当者氏名	浜島　成嘉、稲冨　恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎　基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》
「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの様々な分野について理解する。

《授業の到達目標》
・一般教養としてのデザインに関する知識を身につける。
・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
・社会とデザインの関わりについて理解する。
・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》
毎回の授業で示されるレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。授業ノートの提出が必要である。

《テキスト》
テキストは使用しないが、「新配色カード１２９a」日本色研事業(株)(<参考>\500程度)の購入が必要である。

《参考図書》
・『生活と色彩』(朝倉書店)
・『カラーコディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》
・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
・復習の方法:授業中に指示された課題を行う。授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》
出欠規準については「栄養マネジメント学科」の申し合わせを用いる。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、デザインの基礎(1):色①色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
2	デザインの基礎(2):色②色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。(担当 :浜島)
3	デザインの基礎(3):色③配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それに従って配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
4	デザインの基礎(4):かたち	「かたち」について、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。(担当:稲冨)
5	デザインの基礎(5):素材	「素材」について椅子を分析対象として、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。(担当:稲冨)
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	19世紀以降のデザインの歴史(アーツ・アンド・クラフツ～モダニズム)について概観し、近代国家の成立と工業化の影響について考察する。(担当:稲冨)
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。(担当:浜島)
8	デザインの各分野(2):映像デザイン	映画・ドラマを対象に、映像作品の内容・形式・撮影技法について分析的に理解する。(担当:稲冨)
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「実用的価値」、「美的価値」、「社会的価値」の表現について考察する。(担当:稲冨)
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、デザインと色彩の関わりを中心に解説する。(担当:浜島)
11	デザインの各分野(5):ファッション	20世紀のファッション(ポール・ポワレ～コムデギャルソン)を取り上げ、社会の大衆化に伴うデザインの変遷について考察する。(担当 :稲冨)
12	デザインの各分野(6):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について解説する。サスティナブルな都市のあり方について考察する。(担当:稲冨)
13	デザインと社会(1):社会体制とデザイン	アメリカ、南欧、北欧のプロダクトデザインを例に、国家の社会体制とデザインの関係について考察する。(担当 :稲冨)
14	デザインと社会(2):和風のデザイン	建築、茶、生け花、書画等における真行草の概念について考察し、和風デザインの歴史的な系譜について理解する。(担当 :稲冨)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲冨)

《教養科目》

科目名	法と社会			科目ナンバリング	YSOL21009
担当者氏名	豊福　一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎　基教-E 社会・文化について理解する力 ○　基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

現在の日本社会において生活するうえで、法との関わりは避けて通ることのできないものである。そこで、日常生活と密接に関係すると思われる法制度について、その概略を紹介し、基礎的な法律知識への理解を深める。

《授業の到達目標》

日常生活において目にしたり、耳にしたりする法律用語、あるいは遭遇した法律問題やトラブルにおいて、その最低限の意味を理解できるようになること。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出（１００％）

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

予習は不要であるが、授業内容の性質上、講義を聞くことによって初めて知識を得ることができるので、積極的に出席するように。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり	日本の法制度の概略について理解し、今後の授業の流れも理解する。
2	土地・建物の賃貸借契約	賃貸借契約の内容、土地や建物を賃貸借する際に決めておくべきことやその注意点について理解する。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードやキャッシュカードを利用した金銭のやり取りに関する法律関係について理解する。
4	住宅・自動車ローン①	住宅や自動車を購入する際に締結される売買契約とそれに関係する法律関係、さらには不動産や自動車の登記・登録制度等について理解する。
5	住宅・自動車ローン②	住宅や自動車を購入する際に金融機関からお金を借りる場合の法律関係とその注意点等について理解する。
6	債務の整理・清算	負担した債務（ローン）の返済が困難になった場合のその清算方法について、私的整理・公的整理に分けてその制度について理解する。
7	刑事事件①	犯罪が発生し、その被疑者（容疑者）が逮捕された場合の刑事手続きの流れについて理解する。
8	刑事事件②	逮捕された被疑者（容疑者）が起訴された場合の刑事裁判手続きについて理解する。
9	婚姻・離婚	結婚・離婚する場合の法律関係、注意点、さらに養子縁組や離縁についても理解する。
10	相続	相続人の範囲や順位、相続割合、遺言の書き方等相続に関する一般的知識を理解する。
11	成年後見制度	自らの財産を自らの意思で管理することが困難になった場合の主として高齢者保護のための成年後見の制度の概略を理解する。
12	交通事故	交通事故に遭遇した場合、どのような損害が発生し、それをどの程度賠償する必要が生じるのか、交通事故に関する一般的知識を理解する。
13	各種保険制度	日常生活に馴染みの深い自動車保険・生命保険・傷害保険・火災保険等の一般的知識を理解する。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟とは別に日常生活で市民が利用できる民事訴訟制度についてその概略を理解する。
15	知的財産権	著作権・特許権・意匠権・商標権等知的財産権の種類とその内容について、概略を理解する。

《教養科目》

科目名	日本国憲法			科目ナンバリング	YSOL21010
担当者氏名	笹田　哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎　基教-E 社会・文化について理解する力 ○　基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》
日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《授業の到達目標》
１．「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
２．日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
３．日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《成績評価の方法》
定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《テキスト》
『改訂 現代の法学ー法学・憲法ー』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》
『憲法学教室 全訂第２版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第４版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業時間外学習》
授業中、その都度、指示する。

《備考》
法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(１)	①前文の「平和主義」関係部分、第９条の内容について説明することができる。②第９条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(２)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(１)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(２)	日本国憲法下で、近代私法の３原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(１)	①「法の下の平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(２)	精神的自由権(「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」)の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(３)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(４)	①社会権(「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」)の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(５)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(１)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(２)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(３)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目》

科目名	人権の歴史			科目ナンバリング	YSOL21011
担当者氏名	岩本　智依				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎　基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》
人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。
「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《授業の到達目標》
多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。
現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《成績評価の方法》
定期試験80%　課題提出20%

《テキスト》
レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》
毎日新聞「境界を生きる」取材班　『境界を生きる 性と生のはざまで』毎日新聞社
長野ひろ子・姫岡とし子『歴史教育とジェンダー―教科書からサブカルチャーまで』青弓社
岩本孝樹『「いのち」の保育―― 一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》
レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《備考》
今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	部落差別と現代社会①	「部落差別とは何か」を学ぶ。
4	部落差別と現代社会②	部落差別と部落解放運動の歴史を学ぶ。
5	部落差別と現代社会③	「身元調査」を通じて部落差別の現代的な課題を学ぶ。
6	教育と差別	いじめや体罰等、教育現場における差別の現実と反差別の教育としての「同和教育」を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障がい者差別について学ぶ。
9	いのちと人権③	戦争やヘイト・クライムなど差別によっていのちを奪われた歴史を学び、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別①	主に仏教と差別について学ぶ。
11	宗教と差別②	主に仏教と差別について学ぶ。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

《教養科目》

科目名	政治学			科目ナンバリング	YSOL21012
担当者氏名	斎藤　正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力 ○　基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》
この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》
○政治学のボキャブラリーを使用して、現実に起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
○現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》
学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》
テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》
『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》
（1）予習の方法：毎日の政治に関するニュースを関心をもって接すること。
（2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》
・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A．素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の３側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の３局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B．玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞄、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C．政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《教養科目》

科目名	社会学			科目ナンバリング	YSOL21013
担当者氏名	吉原　恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎　基教-E 社会・文化について理解する力 ○　基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》
本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》
(1)　社会学的ものの見方ができるようになる
(2) 社会を理解するために、社会学的道具を使うことができるようになる
(3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》
○授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
(配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
○定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。
(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》
『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2013，有斐閣アルマ）

《参考図書》
『社会学がわかる事典』森下伸也（2000，日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》
(1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください。
(2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
(3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》
この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学的ものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類（社会的カテゴリー）
6	行為の分析 (5)予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	学習の総まとめ（1）	「行為の分析」についてふりかえる
9	学習の総まとめ（2）	「秩序の解読」「社会の構想」についてふりかえる
10	秩序の解読 (1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
11	秩序の解読 (2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
12	秩序の解読 (3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
13	秩序の解読 (4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
14	社会の構想 (1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
15	社会の構想 (2)国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズム

《教養科目》

科目名	経済学			科目ナンバリング	YSOL21014
担当者氏名	石原　敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力 ○　基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》
「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれません。たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。
この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》
・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》
平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》
特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》
授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》
・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益・協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」をとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう（1）	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう（2）	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割（1）	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割（2）	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう（1）	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。 その１つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう（2）	地球温暖化にかかわる問題、その解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう（3）	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目》

科目名	生物学			科目ナンバリング	YNAL21015
担当者氏名	佐藤　隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎　基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》
生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《授業の到達目標》
生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《成績評価の方法》
定期試験（100％）により評価する。

《テキスト》
やさしい基礎生物学　第2版（南雲保編、羊土社）

《参考図書》
カラー図解　アメリカ版　大学生物学の教科書　第1巻～第5巻（デイビィッド・サダヴァ　他：著、石崎泰樹 他：監訳）

《授業時間外学習》
授業内容の予習と復習

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミン
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系
6	光合成	光合成の機構
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システム
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病
12	生態系①	生物と環境
13	生態系②	環境問題、動物の行動
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療

科目名	食と健康			科目ナンバリング	YNAL21016
担当者氏名	嶋津　裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-A コミュニケーション力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力 ◎　基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》
本授業では、食と健康をキーワードに　食を中心に消費生活全般における消費者力の向上を目指す。

《授業の到達目標》
●基礎的な暮らしの知識、食品の機能性や食文化、食の安全・安心に関する知識、ライフサイクルに応じた消費生活のあり方について理解し、説明できる。
●現在の日本の消費者問題を理解し、健全な消費生活のあり方について情報発信することができる。
●自らの消費生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》
課題レポート・提出物（50%）、定期試験（50%）

《テキスト》
進行にあわせて適宜プリントを配布する。

《参考図書》
「くらしの豆知識2015年版」　国民生活センター
「ハンドブック消費者2015」　消費者庁

《授業時間外学習》
●ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《備考》
●授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。
●課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業内容や成績評価について説明する。食に関する法律や資格について理解する。
2	消費者問題と歴史	消費者被害と事例、消費者の権利を理解する。
3	消費者政策と行政	消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務等を理解する。
4	消費者教育とコンプライアンス経営①	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成できる。
5	食品表示①	食品の表示（法律による表示、保健機能食品、マークによる表示等）を理解し、選食力を修得する。
6	食品表示②	食品の表示（法律による表示、保健機能食品、マークによる表示等）を理解し、選食力を修得する。
7	食の安全・安心①	脅かされる食の安全（ＢＳＥ、鳥インフルエンザ、農薬、食品添加物、寄生虫、食物アレルギー）について理解する。
8	食の安全・安心②	脅かされる食の安全（ＢＳＥ、鳥インフルエンザ、農薬、食品添加物、寄生虫、食物アレルギー）について理解する。
9	食の安全・安心③	食中毒の予防（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、寄生虫）について理解する。
10	食の安全・安心④	食中毒の予防（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、寄生虫）について理解する。
11	食の安全・安心⑤	食品の流通・製造での安全安心（コールドチェーン、ＨＡＣＣＰ、トレーサビリティーシステム）について理解する。景品表示法について理解する。
12	日本と世界の食料事情①	食料自給率や食品ロス（食品廃棄）を通して、日本および世界の食料事情を理解する。
13	日本と世界の食料事情②	フードマイレージ、食とエコ等食と環境について理解する。
14	消費者教育とコンプライアンス経営②	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を修正し、情報発信ができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を修正し、情報発信ができる。情報交換ができる。

《教養科目》

科目名	実用英語（初級）			科目ナンバリング	YLAS21017
担当者氏名	松盛 美紀子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　基教-A コミュニケーション力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》
テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につけ、文法事項を再確認する。

《授業の到達目標》
TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。

《成績評価の方法》
小テスト　30%、発表・課題　30%、定期試験　40%

《テキスト》
水本篤、Mark D. Stafford『Successful Keys to the TOEIC TEST Intro―レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』（桐原書店、2015年）

《参考図書》
必要に応じて授業で紹介する。

《授業時間外学習》
授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1　Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法事項：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2　Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法事項：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3　People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法事項：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4　Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法事項：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5　Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法事項：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6　Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法事項：時制について理解を深める。
8	Unit 7　Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法事項：類語を整理する。
9	Unit 8　Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9　Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞（to do）や動名詞（～ing）について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法事項：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法事項：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

科目名	実用英語（中級）			科目ナンバリング	YLAS22018
担当者氏名	松盛 美紀子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》
TOEICに必要な語いを強化し、文法事項を再確認する。リスニングでは、応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。各テーマに沿った練習問題を繰り返し学習することで、必要な情報を的確に捉える力をつける。

《授業の到達目標》
TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《成績評価の方法》
小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《テキスト》
水本篤、Mark D. Stafford『Successful Keys to the TOEIC TEST 1(3rd Edition)―レベル別TOEICテスト総合トレーニング1（第3版）』（桐原書店、2015年）

《参考図書》
必要に応じて授業で紹介する。

《授業時間外学習》
授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test
2	Unit 1 Daily Life	品詞の違い 広告を読む
3	Unit 2 Places	カードを読む
4	Unit 3 People	代名詞 図表と手紙を読む（１）
5	Unit 4 Travel	案内を読む
6	Unit 5 Business	動詞の形 通知・メモを読む
7	Unit 6 Office	手紙を読む
8	Unit 7 Technology	語い関連 図表と手紙を読む（２）
9	Unit 8 Personnel	記事を読む（１）
10	Unit 9 Management	接続詞 通知を読む
11	Unit 10 Purchasing	手紙とレシートを読む
12	Unit 11 Finances	時制 レシピを読む
13	Unit 12 Media	記事を読む（２）
14	Unit 13 Entertainment	前置詞 Ｅメールを読む
15	Review	Review Test

《教養科目》

科目名	中国語（初級）			科目ナンバリング	YLAS21019
担当者氏名	佟　曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　基教-A コミュニケーション力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》
この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を軸に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》
○発音　中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
○挨拶　文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
○文法　基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
○会話　簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》
・授業態度30%
・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む)
・期末試験50%（テキストなどの｢持ち込み不可｣にて実施)

《テキスト》
『しゃべってもいいとも　中国語　』
陳　淑梅　・　劉　光赤、　朝日出版社，　2010

《参考図書》
特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》
・予習の方法
　①CDを聞くこと
　②新出単語をチェックすること
・復習の方法
　①CDを聞くこと
　②会話文を暗誦すること

《備考》
・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは　発音1	挨拶の言葉1　中国語の音節　声調　ドリル　（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日　　発音2	挨拶の言葉2　単母音　複母音　ドリル　（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう　発音3	挨拶の言葉3　子音1　ドリル　（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり　発音4	挨拶の言葉4　子音2　鼻音　ドリル　（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習　会話文　ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
7	第6課 動詞　，　助詞	ポイントの練習　会話文　ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
10	第8課 助動詞,動詞,指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第７・８課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞,方位詞	動詞「在」・方位詞　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
13	第9課 前置詞,場所代名詞	前置詞・場所代名詞　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語（中級）			科目ナンバリング	YLAS21020
担当者氏名	佟　曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　基教-A コミュニケーション力 ○　基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》
この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《授業の到達目標》
○発音　中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
○挨拶　文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
○文法　基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
○会話　簡単な日常会話ができる。
○中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》
・授業態度30％
・課題などの提出物20％（発音、ヒヤリングの実施を含む）
・期末試験50％（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》
『しゃべってもいいとも　中国語　』
陳　淑梅　・　劉　光赤、　朝日出版社，　2010

《参考図書》
特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》
・予習の方法
　①CDを聞くこと
　②新出単語をチェックすること
・復習の方法
　①CDを聞くこと
　②会話文を暗誦すること

《備考》
・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課　文法	①数の言い方　・　お金の言い方　②形容詞の文
2	第10課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課　文法	①年月日、曜日の言い方　②年齢の言い方
4	第11課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課　文法	①量詞（ものの数え方）　②動詞の重ね方
6	第12課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課　文法	①時刻の言い方　②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課　文法	①時間量の言い方　②完了の「了」の使い方
10	第14課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課　文法	①前置詞「給」　②助動詞「可以」「能」
12	第15課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課　文法	①現在進行形の言い方　②助動詞「会」
14	第16課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)			科目ナンバリング	YPHL21021
担当者氏名	矢野　琢也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎　基教-F 自然・健康について理解する力 ○　基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、１.運動（トレーニング）、2.栄養、3.休養　の３つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、１.運動（トレーニング）、2.栄養、3.休養　の３つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出60%、期末の課題レポート20%、小テスト20%で評価します。出席回数が授業回数の2/3未満は評価対象外とします。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズの科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について３	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する（減量など）。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について１	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について２	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について３	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養（リカバリー）の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）			科目ナンバリング	YPHP21022
担当者氏名	矢野　琢也				
授業方法	実技	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　基教-A コミュニケーション力 ○　基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎　基教-F 自然・健康について理解する力			

《授業の概要》
授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》
自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をﾉｰﾄにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『発達運動論』臼井永男、岡田修一（放送大学教育振興会）
『０～６歳子どもの発達と保育の本』河原紀子（Gakken）

《授業時間外学習》
<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>　実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力測定（事前）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（基礎技能）
4	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ペタンク（基礎技能）
5	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・サッカー（基礎技能）
6	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（応用技能）
7	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ペタンク（応用技能）
8	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・サッカー（応用技能）
9	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（試合形式）
10	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ペタンク（試合形式）
11	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・サッカー（試合形式）
12	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（ゲーム）
13	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ペタンク（ゲーム）
14	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・サッカー（ゲーム）
15	体力測定（事後）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）			科目ナンバリング	YPHP21023
担当者氏名	矢野　琢也				
授業方法	実技	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　基教-A コミュニケーション力 ○　基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎　基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》
屋内、屋外のスポーツを施設の状況や天候に応じて実施します。毎授業の前半は、保育士、幼稚園教諭に必要な体力強化のトレーニングを実施します。スポーツや運動の効果を理解し、楽しく実践できる方法を学びます。

《授業の到達目標》
適切な運動、スポーツの実施方法を体験を踏まえて理解する。将来の保育士、幼稚園教諭として活動する為の基礎体力の養成方法を学ぶ。

《成績評価の方法》
出席状況（時間、回数、服装、態度）を各１点として全授業で60%とする。レポートや課題等を40%とする。
授業実施回数1/3以上の欠席数は、評価対象外とする。
レポート等の課題の提出は期日厳守とし、遅れは特別な事情以外は受け取らない。

《テキスト》
指定しません。必要に応じて資料等を配布します。

《参考図書》
「0～6歳子どもの発達と保育の本」河原紀子（Gakken）、「発達運動論」臼井永男（放送大学）、「体力を高める運動75選」神家一成（東洋館出版）

《授業時間外学習》
事前に必要な準備が何かを理解し、その用意を適切に行うこと。

《備考》
時間厳守。運動やスポーツを行うのに適切な服装、シューズを用意する。天候等で開催場所の変更もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法や評価等の説明
2	球技１	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
3	球技2	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
4	球技3	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
5	球技4	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
6	球技5	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
7	球技6	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
8	球技7	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
9	球技8	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
10	球技9	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
11	球技１０	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
12	球技１１	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
13	球技１２	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
14	球技１３	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する
15	球技１４&まとめ	球技を１種目選択、決定しゲームを中心に実施する． 全体のまとめ、振り返りを行う

《教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計			科目ナンバリング	YCAL21024
担当者氏名	三上　嘉代子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　基教-A コミュニケーション力 ○　基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎　基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》
この講義では、みなさん自身が学生生活の目的や目標を明確にし、それを実現するための考え方を学びます。さらに社会で求められる、マナーやコミュニケーション能力、課題解決能力等の養成にも取り組みます。

《授業の到達目標》
キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《成績評価の方法》
平常点(授業への取組姿勢）50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》
平木典子『自分の気持ちをきちんと＜伝える＞技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム＋キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業時間外学習》
シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。
毎回の授業の課題等を整理し､まとめて復習することが必要です。

《備考》
コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

平成 27（2015）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成27年度（2015年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数		幼児教育コース 単位数		幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数		保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年		2年		3年		4年		平成27年度の担当者	ページ
					必修	選択	必修	選択					必修	選択				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
専門教育科目	社会福祉基盤科目	生涯学習論	YF_L21007	講義		2		2						2					2							（吉原 惠子）	63
		生涯発達心理学Ⅰ	YF_L21008	講義		2		2						2					2							松田 信樹	64
		社会福祉Ⅰ	YF_L11001	講義	2		2			○			2		○			2								田中 博一	65
		社会福祉Ⅱ	YF_L21009	講義		2		2						2					2							田中 博一	66
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	YF_L12002	講義	2		2						2							2							
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	YF_L22010	講義		2		2						2							2						
		ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	YF_L22011	講義		4		4						4							4						
		ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	YF_L23012	講義		4		4						4								4					
		児童家庭福祉	YF_L11003	講義	2		2			○			2		○			2								杣山 貴要江	67
		低所得者に対する支援と生活保護制度	YF_L22013	講義		2		2						2							2						
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	YF_L13004	講義	2		2						2									2					
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	YF_L23014	講義		2		2						2									2				
		介護概論	YF_L22015	講義		2		2						2						2							
		加齢及び障害に関する理解	YF_L23016	講義		2		2						2									2				
		障害者福祉論	YF_L23017	講義		2		2			★1			2		★1						2					
		権利擁護と成年後見制度	YF_L23018	講義		2		2						2								2					
		地域福祉の理論と方法Ⅰ	YF_L23019	講義		2		2				□		2			□					2					
		福祉行財政と福祉計画	YF_L23020	講義		2		2						2									2				
		福祉サービスの組織と経営	YF_L23021	講義		2		2						2									2				
		社会保障論Ⅰ	YF_L12005	講義	2		2						2									2					
		社会保障論Ⅱ	YF_L23022	講義		2		2						2									2				
		国際福祉論	YF_L24023	講義		2		2						2											2		
		社会調査の基礎	YF_L22024	講義		2		2						2							2						
		社会調査の応用	YF_L22025	講義		2		2						2								2					
		心理検査法	YF_L23026	講義		2		2			★1			2		★1						2					
		精神保健福祉論	YF_L12006	講義	2		2						2								2						
		精神医学Ⅰ	YF_L22027	講義		2		2						2						2							
		精神保健学Ⅰ	YF_L23028	講義		2		2						2								2					
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	YF_L23029	講義		2		2						2								2					
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	YF_L23030	講義		2		2						2									2				

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成27年度（2015年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数		幼児教育コース 単位数		幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数		保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年		2年		3年		4年		平成27年度の担当者	ページ	
					必修	選択	必修	選択					必修	選択				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ			
専門教育科目	こども福祉基盤科目	初年次演習Ⅰ	YK_S11001	演習	2		2						2					2								※1（欄外参照）	68	
		初年次演習Ⅱ	YK_S11002	演習	2		2						2						2							※1（欄外参照）	69	
		こども福祉基礎演習Ⅰ	YK_S12003	演習	2		2						2							2								
		こども福祉基礎演習Ⅱ	YK_S12004	演習	2		2						2								2							
		人間福祉論	YK_L11005	講義	2		2						2						2							田中 博一	70	
		保育原理Ⅰ	YK_L11006	講義	2		2			○			2		○			2								澤田 真弓	71	
		保育原理Ⅱ	YK_L21009	講義		2		2		●				2	●				2							澤田 真弓	72	
		教育原理	YK_L11007	講義	2		2		◇	○				2	○			2								（古田 薫）	73	
		こどもの心理学Ⅰ	YK_L11008	講義	2		2		◇	○	★1		2		○	★1			2							松田 信樹	74	
		こどもの心理学Ⅱ	YK_S22010	演習		1		1	◆	○	★1			1	○	★1				2								※
		乳児保育Ⅰ	YK_S22011	演習		1		1		○			1		○					2								※
		乳児保育Ⅱ	YK_S22012	演習		1		1		○			1		○						2							※
		障害児保育Ⅰ	YK_S22013	演習		1		1		○	★1	□	1		○	★1	□			2								※
		障害児保育Ⅱ	YK_S22014	演習		1		1		○	★1	□	1		○	★1	□				2							※
		相談援助	YK_S22015	演習		1		1		○		□	1		○		□			2								※
		家庭支援論	YK_L23016	講義		2		2		○		□	2		○		□					2						
		社会的養護	YK_L22017	講義		2		2		○		□	2		○		□			2								
		社会的養護内容	YK_S22018	演習		1		1		○			1		○						2							※

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※1　杣山、田中正、安井、田中慱、斎藤、藤井、中島、松田、満田、澤田

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成27年度（2015年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成27年度の担当者	ページ	
専門教育科目	専門科目Ⅰ群	こどもの保健ⅠA	YS_L22004	講義		2		2		○	★2		2		○	★2				2								
		こどもの保健ⅠB	YS_L22005	講義		2		2		○	★2		2		○	★2					2							
		こどもの保健Ⅱ	YS_S22006	演習		1		1		○	★2		1		○	★2					2							※
		こどもの食と栄養Ⅰ	YS_S23007	演習		1		1		○			1		○							2						※
		こどもの食と栄養Ⅱ	YS_S23008	演習		1		1		○			1		○								2					※
		こどもと健康	YS_S22009	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1			2								
		こどもと人間関係	YS_S22010	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1			2								
		こどもと環境	YS_S21011	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1		2							［三宅 茂夫］	75	
		こどもと言葉	YS_S21012	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1		2							［徳永 満理］	76	
		こどもと音楽表現	YS_S22013	演習		2	2		◇	○	★3	■2		2	○	★3	■2			2								
		こどもと身体表現	YS_S21014	演習		2	2		◇	○		■2		2	○		■2		2							［井上 眞美子］	77	
		こどもと言語表現	YS_S22015	演習		2	2		◇	○		■2		2	○		■2			2								
		こどもと音楽Ⅰ	YS_S11001	演習	2		2		◇	○	★3	■2	2		○	★3	■2	2								中島 龍一・［他6名］	78	
		こどもと音楽Ⅱ	YS_S21016	演習		2	2		◇	●	★3			2	●	★3			2							中島 龍一・［他6名］	79	
		こどもと音楽Ⅲ	YS_S23017	演習		2	2		◇					2								2						
		こどもと音楽Ⅳ	YS_S23018	演習		2		2	◆					2									2					
		こどもと造形Ⅰ	YS_S11002	演習	2		2		◇	○		■2	2		○		■2	2								満田 知美	80	
		こどもと造形Ⅱ	YS_S21019	演習		2	2		◇	●				2	●				2							満田 知美	81	
		こどもと造形Ⅲ	YS_S23020	演習		2	2		◇	●				2	●							2						
		こどもと造形Ⅳ	YS_S23021	演習		2		2	◆					2									2					
		こどもと運動Ⅰ	YS_S11003	演習	2		2		◇	○		■2	2		○		■2	2								（三宅 一郎）	82	
		こどもと運動Ⅱ	YS_S21022	演習		2	2		◇	●				2	●				2							（三宅 一郎）	83	
		こどもと数	YS_L23023	講義		2	2		◇					2								2						
		こどもと生活	YS_L22024	講義		2	2		◇					2							2							
		こども文化論Ⅰ	YS_L21025	講義		2		2	◆					2					2							［高橋 司］	84	
		こども文化論Ⅱ	YS_S22026	演習		1		1	◆					1							2							※
		こどもとメディア	YS_L24027	講義		2		2						2										2				
		国際こども文化論	YS_L24028	講義		2		2						2											2			

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成27年度（2015年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼児教育コース 幼一種	幼児教育コース 保育士	幼児教育コース こども療育士音楽	幼児教育コース 児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	児童福祉コース 保育士	児童福祉コース こども療育士音楽	児童福祉コース 児童厚生一級	学年配当 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成27年度の担当者	ページ	
専門教育科目	専門科目Ⅱ群	こども福祉専門演習Ｉ	YS_S13001	演習	2		2						2									2						
		こども福祉専門演習Ⅱ	YS_S13002	演習	2		2						2										2					
		こども福祉卒業演習Ｉ	YS_S14003	演習	2		2						2											2				
		こども福祉卒業演習Ⅱ	YS_S14004	演習	2		2						2												2			
		教師・保育者論	YS_L13005	講義	2		2		◇	○			2		○								2					
		保育課程総論	YS_L12006	講義	2		2		◇	○			2		○					2								
		保育内容総論	YS_S22007	演習		2	2		◇	○		□		2	○		□			2								
		保育・教職実践演習（幼稚園）	YS_S24008	演習		2	2		◇	○		□		2	○		□								2			
		教育心理学	YS_L22009	講義		2	2		◇	●	★1			2	●	★1				2								
		幼児理解	YS_L22010	講義		2	2		◇	●	★1			2	●	★1					2							
		青年心理学	YS_L23011	講義		2		2	◆	●	★1			2	●	★1							2					
		臨床心理学	YS_L24012	講義		2		2		●	★1			2	●	★1								2				
		教育制度論	YS_L23013	講義		2	2		◇					2									2					
		教育方法論	YS_L23014	講義		2	2		◇					2									2					
		教育相談	YS_L23015	講義		2	2		◇	●				2	●								2					
		表現総合演習	YS_S23016	演習		1		1	◆					1									2					※
		造形総合演習	YS_S24017	演習		1		1	◆					1										2				※
		音楽教育	YS_S22018	演習		2	2		◇	●	★3			2	●	★3				2								
		こども音楽療育概論	YS_L23019	講義		2		2			☆			2		☆							2					
		こども音楽療育演習	YS_S24020	演習		1		1			☆			1		☆								2				※
		こども音楽療育実習	YS_F24021	実習		1		1			☆			1		☆									2			
		保育相談支援Ｉ	YS_S22022	演習		1		1		○		□	1		○		□				2							※
		保育相談支援Ⅱ	YS_S23023	演習		1		1						1								2						※
		集団施設保育の現状と課題	YS_L23024	講義		2		2						2								2						
		保育実習ＩＡ	YS_F22025	実習		2		2		○		□1		2	○		□1				4							※※
		保育実習ＩＢ	YS_F23026	実習		2		2		○		□1		2	○		□1					4						※※
		保育実習Ⅱ	YS_F23027	実習		2		2		●				2	●								4					※※
		保育実習Ⅲ	YS_F23028	実習		2		2		●		□1		2	●		□1						4					※※
		保育実習指導ＩＡ	YS_S22029	演習		1		1		○		□1		1	○		□1				2							※
		保育実習指導ＩＢ	YS_S23030	演習		1		1		○		□1		1	○		□1					2						※
		保育実習指導Ⅱ	YS_S23031	演習		1		1		●				1	●								2					※
		保育実習指導Ⅲ	YS_S23032	演習		1		1		●		□1		1	●		□1						2					※
		教育実習指導	YS_S23033	演習		1	1		◇					1									2					※
		教育実習	YS_F24034	実習		4	4		◇					4										⑧	⑧			※※

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ｉ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

学年配当欄において○囲みで表示している科目については、どちらでも登録、履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成27年度（2015年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成27年度の担当者	ページ
専門教育科目	発展科目	子育て支援地域活動Ⅰ	YH_L22001	講義		2		2						2							2						
		子育て支援地域活動Ⅱ	YH_S23002	演習		2		2				□		2			□					2					
		児童館の機能と運営	YH_L23003	講義		2		2				□		2			□					2					
		発達障害児への支援	YH_S23004	演習		2		2	◆		★1			2		★1							2				
		発達と疾病・障害Ⅰ	YH_L22005	講義		2		2						2								2					
		発達と疾病・障害Ⅱ	YH_L23006	講義		2		2						2									2				
		こころとからだのしくみⅠ	YH_L22007	講義		2		2						2								2					
		こころとからだのしくみⅡ	YH_L23008	講義		2		2						2									2				
		児童の貧困と虐待	YH_L23009	講義		2		2						2									2				
		児童の健全育成と福祉	YH_L23010	講義		2		2				□		2			□						2				
		少子高齢社会とこどもの生活	YH_L23011	講義		2		2						2									2				
		施設保育士論	YH_L23012	講義		2		2						2									2				
		男女共同参画社会の構築	YH_L24013	講義		2		2						2										2			
		福祉経営実践演習	YH_S24014	演習		2		2						2										2			
		消費者教育	YH_L24015	講義		2		2						2										2			
		幼児のための福祉教育Ⅰ	YH_L23016	講義		2	2		◇					2								2					
		幼児のための福祉教育Ⅱ	YH_S24017	演習		2	2		◇					2									2				
		こども福祉特論	YH_L24018	講義		2		2						2										2			
		児童福祉実習指導	YH_S24019	演習		1		1						1										②	②		
		児童福祉実習Ⅰ	YH_F24020	実習		2		2						2										④	④		
		児童福祉実習Ⅱ	YH_F24021	実習		2		2						2										④	④		

〔課程外科目〕

授業科目の区分	授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成27年度の担当者	ページ
資格関連科目	児童館実習（10日間）		実習		2		2				□1		2			□1							4			
	児童館実習（20日間）		実習		4		4				□2		4			□2							8			

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

学年配当欄において○囲みで表示している科目については、どちらでも登録、履修できる科目である。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	生涯学習論			科目ナンバリング	YF_L21007
担当者氏名	吉原　恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

本講義では、生涯学習や生涯学習社会について理解することをめざします。とくに学校教育との関係から、生涯学習の特徴を学びます。生涯学習は誰によって、いつ、どこで行われるかは多様です。生涯学習が、人の一生と関わること、人が暮らして行く社会や文化、時代の影響を受けることを理解したうえで、福祉社会における生涯学習とは何か考えます。

《授業の到達目標》

(1)「生涯学習」という考え方について理解する
　●「生涯学習」とは何か・なぜ必要なのか説明できる
(2)「生涯学習」と「生涯発達」の関係について理解する
　●人はどのように「生涯」を通して発達するか説明できる
(3)「生涯学習」と社会福祉の関係について考えをまとめる
　●「生涯学習」とライフサイクルの変化について説明できる
　●「生涯学習」と地域社会づくりについて説明できる

《成績評価の方法》

○ 授業内レポート1-2回および調査発表などを数回実施する。
　（文章作成能力および知識の定着度：45点）
○ 学習の総まとめとして第15回に学習達成度を評価する。
　（知識体系を理解する力、批判的思考力、関心・意欲など：　55点）

《テキスト》

『新しい時代の生涯学習』関口礼子他著(2002, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

適宜、提示します。

《授業時間外学習》

(1)テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
(2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
(3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしてください。

《備考》

日頃より、ニュースに関心をもち、社会状況とくに福祉社会や生涯学習社会に関する情報・知識を入手するよう努めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生涯学習とは何か	○「生涯学習」導入の背景　○教育と学習　○生涯学習と社会教育
2	生涯学習と生涯発達	○発達段階と発達課題　○第1の発達と第2の発達　○高齢期の発達課題
3	社会の変化と生涯学習(1)	○人口動態の変化　○人口の高齢化　○高齢者にとっての学習
4	社会の変化と生涯学習(2)	○情報化社会と学習　○学習支援技術　○遠隔教育
5	社会の変化と生涯学習(3)	○グローバル化と学習　○グローバル化と教育制度　○グローバル化時代の学習課題
6	社会の変化と生涯学習(4)	○ライフコースの変化　○少子化と家族の変化　○男女平等教育と家庭教育(学習)
7	生涯学習の方法(1)(演習を含む)	○方法論の重要性　○アンドラゴジーとペダゴジー　○生涯学習の方法
8	生涯学習の場(1)	○社会資源の利用　○地域社会における学び　○図書館と公民館/地域センター
9	生涯学習プログラムの開発(演習を含む)	○地域のニーズ　○プログラムの対象　○企画・広報
10	生涯学習の方法(2)(演習を含む)	○学校の開放　○学社融合　○大学の開放
11	生涯学習の方法(3)(演習を含む)	○実践例に学ぶ　○ボランティア　○NPO活動
12	生涯学習の場(2)	○職業的社会化と発達　○職業指導　○企業内教育
13	生涯学習の場(3)	○教育によらない学習　○宗教と儀式(祭り)　○芸術と音楽
14	生涯学習と生涯福祉	○生涯発達と生涯学習　○地域福祉と生涯学習　○社会変化と生涯学習
15	学習の総まとめ	・学習目標およびディプロマポリシーの再確認 ・学習成果の確認

科目名	生涯発達心理学Ⅰ			科目ナンバリング	YF_L21008
担当者氏名	松田　信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》
人間の生涯にわたる発達のプロセスを理解することを目的として授業を展開する。受胎の瞬間から始まり、死をもって終結する人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。発達の障がいに関する基礎知識について理解することも目的とする。

《授業の到達目標》
○生涯発達心理学の基礎的事項について十分に理解すること。
○人間の生涯にわたる発達のプロセスを正しく理解すること。

《成績評価の方法》
定期試験の評価100％

《テキスト》
使用しない。授業時にプリントを配布し、プリントの内容に即して講義を進める。

《参考図書》
『発達心理学で読み解く保育エピソード』
　　若尾良徳・岡部康成（編著）　北樹出版　2010
『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』
　　川島一夫・渡辺弥生（編著）　福村出版　2010

《授業時間外学習》
担当教員が作成・配布したプリントを用いて講義を進めるが、各自で要点をノートにまとめるなどして、知識の定着と理解の深化に努めてもらいたい。また、参考図書としてあげた図書を参照しつつ、講義で取り上げた事柄について各自で理解を深めることも期待する。

《備考》
受講学生には大学生として常識ある受講態度を求める。授業に出席するだけでは単位の取得は困難であると心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生涯発達心理学への導入	生涯発達心理学では何をどのような目的のもとに学ぶのかを解説する。授業の進め方と評価の仕方についてシラバスをもとに確認する。
2	人間発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間発達の規定因は何かという問いについて、遺伝と環境という２つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について、特に母体内環境の重要性に焦点を当てつつ学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後１年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その１	乳幼児期における発達の特徴について、母子関係を切り口として学ぶ。愛着をキーワードとした学びになる。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その２	乳幼児期における発達の特徴について、言語発達と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	幼児期の発達	幼児期における発達の特徴について、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期から児童期の発達	幼児期から児童期にかけての知的発達について、ピアジェの理論をもとに学ぶ。
10	児童期の発達～その１	児童期の発達について、人間関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その２	児童期の発達について、学習に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達について、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達～その１	成人期の発達に関して、親としての成長ならびに中年期危機に焦点を当てて学ぶ。
14	成人期の発達～その２	高齢者の心理的発達について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習成果を客観的に測定するための試験を行う。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	社会福祉Ⅰ			科目ナンバリング	YF_L11001
担当者氏名	田中　博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》
社会福祉の発達と国民に普遍的な課題となった介護や子育て支援等を、具体的な事例を通して、社会福祉サービス体系の役割・機能を解説する。社会福祉の諸制度と支援の方法を、事例を通して解説する。講義は視聴覚教材も併用して、テキスト等の示すデーターの意味や福祉小六法の使い方を演習する。

《授業の到達目標》
現代の社会福祉サービス体系を理解し、児童福祉、障害者福祉、老人福祉と生活保護における支援の役割・機能を理解する。また、社会福祉における支援方法の概要を理解する。
さらに、保育福祉小六法の使い方を修得する。

《成績評価の方法》
期末に筆記試験を実施して評価する。（100%）

《テキスト》
『国民の福祉と介護の動向2013/2014』1厚生労働統計協会編
『保育福祉小六法』2014年版　保育福祉小六法編集委員会編
みらい

《参考図書》
『社会福祉の原理と思想』岩田 正美　永岡 正己　武川 正吾
平岡 公一編　有斐閣
『日本社会福祉の歴史』菊池、清水、田中，永岡、室田編
ミネルヴァ書房
『ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開』山辺朗子
ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》
なし

《備考》
１事前学習　次回講義予定内容に関連するテキストを読む
２復習　　　ノートの整理

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の理念	現代の社会福祉の概要と憲法25条、13条の意味を解説する。
2	社会福祉の歴史	イギリスと日本の社会福祉の発達史を解説する
3	社会福祉の行財政	国、都道府県、市町村の社会福祉関連機関を役割・機能を解説し、国家予算および地方自治体の社会福祉費用の現状とその構造を示す。
4	障害者福祉Ⅰ	日本の障害者福祉の歴史と障害者福祉の現状について解説し、障害者権利条約　障害者基本法についてその基本的な考え方について解説する。
5	障害者福祉Ⅱ	ＩＣＦと障害の理解を解説し、障害者総合支援法による介護、医療、就労支援サービスがどのように機能しているか、サービス利用の立場から解説する。
6	老人福祉Ⅰ	「高齢社会とは何か」を考え、その社会的影響（消費税など）を解説する。
7	老人福祉Ⅱ	年金、高齢者医療の概要を説明し、介護保険を詳しく解説して、介護保険の諸問題を考察する。
8	児童福祉Ⅰ	児童福祉の歴史を解説し、現代の児童問題を提示して、その論点を示す。
9	児童福祉Ⅱ	児童養護・児童自立支援の制度とその支援過程を解説する。
10	児童福祉Ⅲ	児童虐待防止法を中心に児童虐待の予防と支援について解説し、ついては現代家族の在り様を考察する。
11	生活保護制度	現代の貧困を分析し、生活保護制度の仕組みを解説し、その課題を示す。
12	相談援助Ⅰ	相談援助と専門職について解説する。
13	相談援助Ⅱ	相談援助の理論と方法について解説する。方法の解説には事例を検討する。
14	地域福祉	市町村の社会福祉計画の概要を説明し、地域の福祉課題を示し、それぞれの住む地域での福祉を考察する。
15	福祉の在り方	ノーマライゼーション、自立思想、利用者本位の視点から現代社会福祉サービスを論ずる。

科目名	社会福祉Ⅱ			科目ナンバリング	YF_L21009
担当者氏名	田中　博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
社会福祉政策の観点から、戦後の社会福祉政策の潮流を解説する。政策転換期の実態と意義を説明し、サービス供給の現状と課題、国民負担（消費税等）、国と地方の関係、社会福祉専門職の確保と育成、国際比較を通じて我が国の社会福祉政策の現状と課題について述べる。

《授業の到達目標》
１我が国の戦後社会福祉政策の軌跡を理解する。
２社会福祉サービス供給体制について理解する。
３社会福祉サービスの利用者本位と利用者負担について理解する。
４社会福祉専門職の職業能力とキャリア形成について理解する。
５社会福祉の国際比較の学習方法を修得する。

《成績評価の方法》
期末に課題についてレポート（約10000字程度）を提出し、それを評価する。(100%)

《テキスト》
『国民福祉の動向2013/2014版』（財）厚生統計協会(編),厚生統計協会,2013

《参考図書》
『福祉国家という戦略』宮本太郎著　法律文化社、1999
『福祉資本主義の三つの世界』G.エスピン・アンデルセン著　岡沢・宮本監訳　ミネルヴァ書房、2001

《授業時間外学習》
１事前学習　示された次回講義予定のテーマに関連するテキスト、参考文献を読む。
２復習　講義ノート整理をし、理解できている部分と理解不十分な箇所を明らかにし、その不明な点の解消に努める。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉政策の領域	社会福祉制度の体系を解説する。
2	現代福祉政策分析の枠組み	福祉サービス対象者、給付の本質および給付額とサービスの種類、福祉の財政と行政を解説する。
3	戦後日本の社会福祉政策の歩み（１）	生活保護法の制定から児童手当・老人医療費無料化までの期間を福祉制度の確立期から充実期として解説する。
4	戦後日本の社会福祉政策の歩み（２）	経済低成長期下の福祉の調整期からゴールドプランの転換期を解説する
5	再構築期の社会福祉政策	社会保障制度審議会「社会保障体制の再構築」（1995）から現在までの社会福祉の構造改革の意味を解説する。
6	社会福祉サービスの供給のあり方	社会福祉サービスが「措置制度」から「契約」に転換し、利用者の選択権について解説する。
7	市場化と経営主体の多様化	非営利法人の社会福祉法人以外のＮＰＯ法人や営利法人が福祉の領域に参入した現状とその意味について解説する。
8	施設サービスと在宅サービス及び地域福祉	施設サービスから地域で生活するための福祉サービスへの政策転換を解説し、その意義と課題を示す。
9	社会福祉の専門職	社会福祉士・介護福祉士・保育士の養成課程を示し、その求められる専門職としての職業能力について解説する。
10	社会福祉におけるキャリア形成	福祉サービスに従事する専門職のキャリア形成を、他産業と比較においてその必要性を解説し、各自のキャリア形成を考える。
11	社会福祉サービスの財源	国、地方自治体、利用者負担の構造を明らかにし、これからの費用負担について展望を示す。
12	社会福祉政策の在り方	地域福祉または地域福祉政策から福祉国家の在り方を考察する
13	現代福祉国家と福祉サービス	普遍化する社会福祉サービスの現状をとおして福祉国家戦略を考察する。
14	北欧型モデルとアメリカ型モデルの比較	高福祉高負担を前提に充実した福祉サービスをもつスウェーデンなどのモデルと自己責任型を重視する「小さな政府を」基本とするアメリカのモデルを比較する。
15	これからの日本における福祉政策の課題	少子高齢社会の進展と日本経済の先行き不透明の課題を分析して、これからの福祉政策を考察する。

科目名	児童家庭福祉			科目ナンバリング	YF_L11003
担当者氏名	杣山　貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》
現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷，児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権，児童家庭福祉の制度や実施体系等，児童家庭福祉の現状と課題，児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

《授業の到達目標》
○現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について理解し，主体的に考えることができる。
○児童家庭福祉の歴史的変遷，制度や実施体系等について学び，保育実習に活かすことができる。
○児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解し，保育実習において検証することができる。

《成績評価の方法》
筆記試験（100%）

《テキスト》
『児童家庭福祉』，白地社，2014

《参考図書》
『保育福祉小六法』2014年版，六法編集委員会編，みらい，2015

《授業時間外学習》
子どもの生活にかかわる情報を入手し，授業に反映させられるようにしましょう。
授業前にテキストを読んでおきましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会と子ども - 1	児童家庭福祉を学ぶ意義，授業内容，授業の進め方，評価について説明する。 人口の減少と少子高齢社会について理解する。
2	現代社会と子ども - 2	家族形態の多様化について，家族構成の変化，婚姻と離婚，ワークライフバランスをキーワードにして理解する。
3	現代社会と子ども - 3	子どもの貧困について，生存権と幸福追求権，貧困の世代間連鎖をキーワードにして理解する。
4	児童家庭福祉の歴史 - 1	イギリス，アメリカの児童家庭福祉の歴史について理解する。
5	児童家庭福祉の歴史 - 2	わが国の児童家庭福祉の歴史について理解する。
6	児童家庭福祉の歴史 - 3	戦後の国際社会の動き，戦後の国内の動きについて理解する。
7	児童家庭福祉に関する法制度と実施体系 - 1	児童家庭福祉の法体系について理解する。
8	児童家庭福祉に関する法制度と実施体系 - 2	児童家庭福祉の行財政と実施機関について理解する。
9	児童家庭福祉の現状と課題 - 1	ひとり親世帯の現状，母子世帯のワーキングプア，虐待への行政の対応，ＤＶ，母子生活支援施設について理解する。
10	児童家庭福祉の現状と課題 - 2	障害のある子どもの現状，障害のとらえ方，障害のある子の就学，障害の概念，障害児への支援，障害のある子どもを持つ親への支援について理解する
11	児童家庭福祉の現状と課題 - 3	母子保健，健全育成について理解する。
12	児童家庭福祉の現状と課題 - 4	社会的養護について，児童福祉施設，里親制度，特別養子縁組をキーワードにして理解する。
13	児童家庭福祉の現状と課題 - 5	多様な保育ニーズについて，保育所の機能を中心にして理解する。
14	児童家庭福祉の動向と展望 - 1	諸外国の子育て支援の動向について，スウェーデンの保育所と就学前児童の保育内容について理解する。
15	児童家庭福祉の動向と展望 - 2	前回の授業を踏まえ，わが国の就学前児童の保育と比較し，かつ，これまでの授業全体を振り返り，わが国の今後について考察する。

科目名	初年次演習Ⅰ			科目ナンバリング	YK_S11001
担当者氏名	杣山 貴要江、田中 正彦、安井 重雄、田中 博一、斎藤 正寿、藤井 惠美子、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》
こども福祉学科での４年間の学びへの円滑な導入を目指して授業を展開する。志を同じくする学友そして教員との良好な人間関係を構築するとともに、大学での学び方そしてこども福祉学科での学びの特徴を理解し専門教育への導入とする。

《授業の到達目標》
①こども福祉学科に入学した学友と、刺激を与え合うことのできる良好な人間関係を構築すること。
②大学での学び方を体得すること。
③こども福祉学科での学びの特徴を理解する。

《成績評価の方法》
・授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲　50%
・提出された課題に対する評価　50%

《テキスト》
使用しない。

《参考図書》
必要に応じて、授業時間内に適宜紹介する。

《授業時間外学習》
授業時に出された課題等に積極的に取り組み、指示された通りに提出するよう努めること。

《備考》
無断欠席を厳しく禁じる。止むを得ない理由で欠席する場合は、担当教員に事前連絡を入れなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	自己紹介を通じて自分のことを仲間に知ってもらい、ネームカードを作成する。
2	人間関係の構築	インタビューを通してゼミの仲間と教員のことを知る。
3	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成（１）
4	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成（２）
5	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成（３）
6	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての造形活動（１）
7	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての造形活動（２）
8	こども福祉学科での学びに向けて	校外実習に出かけて、子どもの目線と保育者の目線との双方から初夏の自然を体感し、季節に応じた保育を展開することの必要性に気づく。
9	大学での学び方	資料を読んで理解した内容をまとめる（１）
10	大学での学び方	資料を読んで理解した内容をまとめる（２）
11	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての身体表現を学ぶ。
12	こども福祉学科での学びに向けて	幼稚園の現場に足を運んで調べ、理解した内容をまとめる。
13	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての手遊びで遊んでみる。
14	大学での学び方	ブラインド・ウォークを体験することによって、全身の感覚を研ぎ澄まして自然を感じてみる。
15	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての音楽について学ぶ。

科目名	初年次演習Ⅱ			科目ナンバリング	YK_S11002
担当者氏名	杣山 貴要江、田中 正彦、安井 重雄、田中 博一、斎藤 正寿、藤井 惠美子、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》
初年次演習Ⅰに引き続き、こども福祉学科での４年間の学びへの円滑な導入を目指して授業を展開する。志を同じくする学友そして教員との人間関係をさらに深めながら、大学での学び方そしてこども福祉学科での学びの特徴を理解し専門教育への導入とする。

《授業の到達目標》
①こども福祉学科に入学した学友との関わりを深め、切磋琢磨しあえる人間関係を構築すること。
②大学での学び方を体得すること。
③こども福祉学科での学びの特徴を理解すること。
④卒業後の進路を見据え、学びに対する意欲を高めること。

《成績評価の方法》
・授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 50%
・提出された課題に対する評価 50%

《テキスト》
使用しない。

《参考図書》
必要に応じて、授業時間内に適宜紹介する。

《授業時間外学習》
授業時に出された課題等に積極的に取り組み、指示された通りに提出するよう努めること。

《備考》
無断欠席を厳しく禁じる。止むを得ない理由で欠席する場合は、担当教員に事前連絡を入れなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	Ⅱ期の演習内容の解説を行う。
2	保育者となる自分自身を理解する	自分自身の他者との関わり方の特徴を知る～心理検査を通して自己理解を試みる。
3	大学での学び方	レポートの作成方法を学ぶ（１）
4	大学での学び方	レポートの作成方法を学ぶ（２）
5	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションの準備をする（１） テーマを選定し調べ学習をスタートする。
6	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションの準備をする（２） 調べ学習を進めつつスライド等も作成する。
7	こども福祉学科での学びに向けて	校外実習に出かけて、こどもの目線と保育者の目線との双方から秋の自然を体感し、幼児教育・保育と季節との関わりについて考える機会とする。
8	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する（１）
9	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する（２）
10	こども福祉学科での学びに向けて	レクリエーション活動を通して、幼児教育の基礎的スキルを身につける。
11	こども福祉学科での学びに向けて	幼稚園の現場に足を運び、理解した内容をまとめる。
12	キャリアについて考える	キャリアについて考えを深める（取得した免許・資格を使って社会にどのように参加するかについて認識を深める）。
13	キャリアについて考える	コミュニケーション作法：手紙の書き方について学ぶ。
14	キャリアについて考える	コミュニケーション作法：話し方について学ぶ。
15	Ⅱ期の学びのふりかえり	理想とする保育者イメージを鮮明にし、これから何を学ぶべきかを再認識する。

科目名	人間福祉論			科目ナンバリング	YK_L11005
担当者氏名	田中 博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
我が国の福祉に大きな影響を与えた人物に焦点を当て、社会福祉（慈善事業・社会事業を含む）の思想と実践を検証し、その人々の主観、人間観について解説する。そして、現代福祉の根底にある基本的人権（歴史と体系）とノーマライゼーションンの思想を解説し、福祉における「自立・自立」および「主体的に生きる」というテーマについて考察する。

《授業の到達目標》
１基本的人権の歴史と体系について理解する
２ノーマライゼーションについて説明できる
３「主体的に生きる」意味を理解できる
４福祉における自立支援が説明できる

《成績評価の方法》
期末に試験を実施して、それを評価する（100％）

《テキスト》
『人間福祉の思想と実践』住谷・田中・山辺編 ミネルヴァ書房

《参考図書》
『ＩＣＦの理解と活用』上田 敏著 きょうされん
『障害者福祉の世界』佐藤・小澤著 有斐閣
『ノーマライゼーションの原理』ニイリエ著 現代書館
『エミール』ルソー 岩波書店
『この子らを世の光に』糸賀一雄著 ＮＨＫ出版

《授業時間外学習》
参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人間福祉の思想Ⅰ	基本的人権の歴史と体系を解説
2	人間福祉の思想Ⅱ	ノーマライゼイションの思想を解説
3	人間福祉の源流Ⅰ	石井十次の思想と実践を解説
4	人間福祉の源流Ⅱ	留岡幸助の思想と実践を解説
5	人間福祉の源流Ⅲ	糸賀一雄・池田太郎・田村一二の思想と実践
6	人間福祉の体系	基本的人権の確立、ノーマライゼーションの施策の実行、自立生活（自己決定）実現ののための福祉の基本理念を示す
7	高齢者福祉と人間福祉Ⅰ	ADL(Activities of Daily Living)からQOL(Quality of Life)へ、高齢者の自立と支援を解説。
8	高齢者福祉と人間福祉Ⅱ	正岡子規『病牀六尺』有吉佐和子『恍惚の人』等文学にみる介護をする側、される側の考え方を解説。
9	児童福祉と人間福祉Ⅰ	ペスタロッチの幼児教育思想を理解して、その思想の意味するものから児童福祉の在り方を示す。
10	児童福祉と人間福祉	ルソー『エミール』の要点を解説し、ルソーの教育論から見た、養護が必要な子どもに「生きる力」を育むための児童福祉の在り方を示す。
11	障害者福祉と人間福祉Ⅰ	障害者が地域生活し、「主体的に生きる」意味を考察する
12	障害者福祉と人間福祉Ⅱ	障害者の自立・自律思想とその実践を解説し、エンパワーメント、セルフ・アドボカシーの理論を解説する。
13	障害者福祉と人間福祉Ⅲ	ICFの理論を解説し、障害者の社会参加を広げる意義と方法を示し、共生社会の形成を考察する。
14	人間福祉の展開にみる支援と援助	ソーシャルワークの理論を解説し、ソーシャルワークが「人間」をどのように扱ってきたかを示し、「生活の主体」としての人間を考察する。
15	社会福祉の新潮流と人間福祉	社会福祉の構造改革から再構築へと、転換期にある社会福祉の方向性を解説し、人間本位の福祉の在り方を提示する。

科目名	保育原理Ⅰ			科目ナンバリング	YK_L11006
担当者氏名	澤田　真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》
保育という営みを制度や歴史的変遷、内容と方法、子どもの発達過程などの主要な観点から考察し、保育者としての基礎的知識の獲得を目指す

《テキスト》
『よくわかる保育原理第3版』森上史朗浩編、ミネルヴァ書房
『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館　『保育所保育指針解説書』厚生労働省編、フレーベル館

《参考図書》
必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》
○保育の意義と特質について理解できる
○子どもの発達と保育者の役割について理解できる
○保育を取り巻く現状と課題について主体的に考えることができる

《授業時間外学習》
予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》
授業への参加態度および提出物30％　　試験70％

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育の意義と目標
2	保育の基盤としての子ども観	様々な子どもの捉え方　　保育者として備えておきたい子ども観
3	保育の歴史的変遷①	西洋の保育
4	保育の歴史的変遷②	日本の保育
5	幼稚園・保育所・認定こども園の意義と役割①	幼稚園・認定こども園の意義と役割
6	幼稚園・保育所・認定こども園の意義と役割②	保育所・認定こども園の意義と役割
7	保育の内容と方法①	養護的側面と教育的側面を併せ持つ保育の特質
8	保育の内容と方法②	子どもの生活と5領域の関係
9	子どもの発達と保育①	環境を通して行う教育とは
10	子どもの発達と保育②	遊びを中心とした総合的な指導とは
11	保育の計画と評価①	保育・教育課程と指導計画
12	保育の計画と評価②	評価の観点と方法
13	多様な保育ニーズと子育て支援	多様化する保育ニーズと子育て支援の現状を理解する
14	保育の現代的課題	現行の保育を取り巻く様々な課題について考察する
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目　こども福祉基盤科目》

科目名	保育原理Ⅱ			科目ナンバリング	YK_L21009
担当者氏名	澤田　真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2　こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-2　こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　3-2　こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》
保育原理Ⅰの学習内容をさらに発展させ、個別の事例研究などを取り入れながら保育者として必要な知識を深める。また、家庭や他機関との連携協力にも着目し、保育者としての幅広い視野の獲得を目指す。

《授業の到達目標》
○保育の内容や方法に関する基礎知識をさらに深める
○保育者としての幅広い視野を獲得する
○保育施設の現状を理解し、それぞれが抱える課題に対して主体的な意見を述べることができる

《成績評価の方法》
授業への参加態度および提出物30％　　試験70％

《テキスト》
『よくわかる保育原理第3版』森上史朗編、ミネルヴァ書房
『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館　『保育所保育指　針解説書』厚生労働省編、フレーベル館

《参考図書》
必要に応じて随時紹介する。

《授業時間外学習》
予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育とは（保育原理Ⅰの学習内容を踏まえて）
2	子ども理解と保育の方法①	日本における保育の始まりと恩物教育
3	子ども理解と保育の方法②	新教育運動と児童中心主義①
4	子ども理解と保育の方法③	新教育運動と児童中心主義②
5	保育における遊び①	遊びの意義
6	保育における遊び②	子どもの発達と遊び（事例研究）
7	保育の計画と評価①	課程編成の原理と方法
8	保育の計画と評価②	指導計画作成の原理と方法
9	保育の計画と評価③	評価と省察の原理と方法
10	家庭および他機関との連携	子どもを取り巻く多様な人々との連携協力
11	連続性を踏まえた保育①	保育における連続性とは
12	連続性を踏まえた保育②	事例研究
13	保育の現状と課題①	保育現場が抱える今後の課題について検討する
14	保育の現状と課題②	保育現場が抱える今後の課題について検討する
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	教育原理			科目ナンバリング	YK_L11007
担当者氏名	古田　薫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》
教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《授業の到達目標》
○教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
○主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
○児童の権利と福祉について理解している。
○生涯学習の理念について理解している。

《成績評価の方法》
①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30％
②課題の提出と完成度　30％
③授業中のミニテスト　40％

《テキスト》
プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》
中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。
広岡義之(編著)『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業時間外学習》
参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《備考》
授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育
2	教育の概念と本質	・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界
3	子どもの発達と教育	・発達とは何か ・発達における教育の役割
4	教育の目的、形態と機能	・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割
5	主な西洋教育思想とその系譜①	・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容
6	主な西洋教育思想とその系譜②	・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響
7	公教育制度の成立と発展①	・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生
8	公教育制度の成立と発展②	・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展
9	教育の内容と方法	・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法
10	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで）
11	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後）
12	教育における「ケア」	・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」
13	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応
14	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン
15	まとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り

科目名	こどもの心理学Ⅰ			科目ナンバリング	YK_L11008
担当者氏名	松田　信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる			

《授業の概要》
人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のつまずきについて理解することも目標とする。

《授業の到達目標》
○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して　成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。

《成績評価の方法》
定期試験の評価100％。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》
『シードブック　保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』 本郷一夫（編）
　建帛社　2011
『発達心理学で読み解く保育エピソード』
　若尾良徳・岡部康成（編著）　北樹出版　2010
『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』
　川島一夫・渡辺弥生（編著）　福村出版　2010

《授業時間外学習》
参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》
授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人の成長を見つめる心理学への導入	心理学とはどのような学問か、そして「こどもの心理学Ⅰ」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間の発達を規定する要因は何かという問いについて、遺伝と環境という２つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後１年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その１	乳幼児期の母子関係について学ぶ。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その２	乳幼児期の発達に関して、言語と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	乳児期から幼児期にかけての発達～その３	乳幼児期の発達に関して、注目獲得行動に焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期から児童期の発達	幼児期から児童期にかけての知的発達について学ぶ。
10	児童期の発達～その１	児童期の発達に関して、仲間関係、児童-教師との関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その２	児童期の発達に関して、学習に対するやる気に焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達	成人期の発達に関して、特に親としての成長をテーマに学ぶ。
14	発達のつまずき～その１	発達障がいについて、障がいの捉え方について学ぶ。
15	発達のつまずき～その２	広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害等について詳しく学ぶ。

科目名	こどもと環境			科目ナンバリング	YS_S21011
担当者氏名	三宅　茂夫				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活や遊びに取り入れようとする力を養うことが目標である。そのなかで多様な感覚や概念等も形成される。本授業では、幼児教育の基本的視点「環境を通して行う教育」から、領域「環境」のねらいを捉え、子どもにとって必要な環境のあり方、保育構成や展開に必要な知識や技能について学ぶ。前半は講義形式で、後半は模擬保育等を実施する。

《授業の到達目標》
幼稚園教育の基本とする事項や領域概念を理解し、領域「環境」の目標やねらい、内容を把握し、それらを生活や遊びの中で培い、育んでいくための保育実践に必要となる基礎的な知識や基本的な技能の修得を目指す。

《成績評価の方法》
試験（50%）、指導案作成（20%）、レポート（5%）、平常点（25%）などを総合して行う。

《テキスト》
・三宅茂夫・大森雅人・爾寛明編著／MINERVA保育実践学講座9「保育内容『環境』論」／ミネルヴァ書房／2010
・文部科学省／「幼稚園教育要領解説」／フレーベル館／2008

《参考図書》
必要に応じて、文献の紹介や資料の配布を行う。

《授業時間外学習》
次回の授業の予習や模擬保育等の準備を入念にしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の目的や目標、内容、計画等についての理解。
2	幼稚園教育の基本と領域	幼稚園教育の基本や重視する事項、領域概念などについて理解する。
3	領域「環境」の基盤となる事項について１	領域「環境」の基盤となる事項である好奇心・探究心について調べ学習を通して学ぶ。
4	領域「環境」の基盤となる事項について２	調べ学習の成果を発表し、学びを共有する。
5	領域「環境」の基盤となる事項について３	調べ学習の成果を発表し、学びを共有する。
6	領域「環境」の目標とねらい	領域「環境」に示される目標とねらいに関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
7	領域「環境」における内容１	領域「環境」に示される内容に関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
8	領域「環境」における内容２	領域「環境」に示される内容に関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
9	領域「環境」における指導上の留意点	領域「環境」に示されるねらいと内容をふまえ、それらを指導する上での留意点を理解し、保育を実施する見通しをもつ。
10	指導案作成の理論と実際１	指導案作成のための理論や留意点について理解し、保育を構想する力を身につける。（基本的事項・「子どもの姿」・「ねらい・内容」を中心に）
11	指導案作成の理論と実際２	指導案作成のための理論や留意点について理解し、保育を構想する力を身につける。（「環境構成」「子どもの活動」「保育者の援助・留意点」を中心に）
12	指導案作成の理論と実際３	指導案作成の理論をもとに各自で指導案を作成する。
13	指導案作成の理論と実際４	各自が作成した指導案についてグループで発表、検討し、改善する。
14	指導案作成の理論と実際５	グループで選択した指導案を全体で発表し、学びを共有する。
15	まとめ	学習のまとめ

科目名	こどもと言葉			科目ナンバリング	YS_S21012
担当者氏名	徳永　満理				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
言葉の機能と乳幼児のことば獲得のプロセスを学ぶ。乳幼児は日常の生活の中で、人との関わりを通して言葉を獲得していく。又、言葉を使ってものを認識し想像力や創造力が育つ。その理論と指導方法について具体的に学ぶ。

《授業の到達目標》
言葉の機能を理解し、乳幼児のことば獲得のプロセスと指導方法を習得する。言葉が人間性を最もよく現すことを理解し、保育者としてふさわしい言葉感覚を持つことを理解する。言葉を育てる文化財を理解し、その実践力を培う。創作絵本製作を通してことばの大切さを知る。

《成績評価の方法》
筆記試験（教科書・資料、持ち込み可とする）　６０％
創作絵本　　２０％
レポート提出・授業内発表　　１５％
授業中の態度　　５％

《テキスト》
『ことばと保育』近藤幹生他著　（ひとなる書房）
『保育所保育指針解説書』
『幼稚園教育要領解説書』

《参考図書》
『絵本で育つ子どものことば』徳永満理著　（アリス館）
適宜、講義時に紹介する

《授業時間外学習》
・創作絵本の作成
・絵本の選書と事前練習
・演劇や映画などを観賞する機会を多く持ち、感性を磨く
・子どものところに出かけていき、読み聞かせなどをさせてもらい、技術を磨く

《備考》
・正当な理由のない欠席、遅刻は厳禁
・授業中の飲食・携帯電話・私語厳禁
・提出物の期限は厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 言葉のねらいと内容	・講義の概要・履修上の注意・授業の進め方 ・絵本の読み聞かせの意義－選書・読み方
2	言葉の機能を考える	人間にとっての「ことばとは」
3	保育内容としての「ことば」の歴史	保育内容「ことば」の移り変わり 幼稚園教育要領・保育所保育指針を通して
4	「ことば」の育つみちすじ①	ことばを話す前に～０歳児のことば～
5	「ことば」の育つみちすじ②	ことばを話せようになってから～１・２歳児のことば～
6	「ことば」の育つみちすじ③	３歳児のことば
7	「ことば」の育つみちすじ④	４歳児のことば
8	「ことば」の育つみちすじ⑤	５歳児のことば
9	「ことば」を育むための保育者の関わり・役割	・話し合い場面出の保育者の役割　・けんか・トラブル場面での保育者の役割 ・保育園・幼稚園におけることばをめぐる問題
10	「ことば」を育てるあそび①	児童文化財とは
11	「ことば」を育てるあそび②	児童文化財との関わり①　絵本
12	「ことば」を育てるあそび③	児童文化財との関わり②　紙芝居
13	指導計画と「ことば」	・乳児保育の指導計画　・幼児の指導計画
14	家庭との連携と「ことば」	・保育を伝える手段としての「クラスだより」 ・園と家庭をつなぐための連絡帳
15	「ことば」を聞く意味、記録する意味	・幼児のことばを記録する取り組み・ことばへの自分なりの視点をもつこと・ことばを記録するには・子どものことばの世界を広くとらえること

科目名	こどもと身体表現			科目ナンバリング	YS_S21014
担当者氏名	井上　眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《授業の到達目標》
・自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。
・音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《成績評価の方法》
毎回の授業毎の評価（30%）、実技テスト（70%）の割合で評価する。

《テキスト》
『表現』幼児音楽①②　小林美実監修（保育出版社）

《参考図書》
『手あそび指あそび』吉本澄子著（玉川大学出版部）『ドラマによる表現教育』ブライアン　ウェイ著（玉川出版部）

《授業時間外学習》
・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》
感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要の説明	表現内容についての説明、授業の心構え
2	心身の認識を深める	身体部位を認識する動き
3	基本的な運動の理解	基本ステップを中心に動く
4	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
5	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
6	まとめ	基本ステップの体得を確認する
7	伝承遊び、集団遊び	身近な遊びから身体表現へ
8	手遊びから表現遊び	手遊びから全身の身体表現へ
9	フォークダンス	各国のフォークダンスの動きについて理解を深める
10	フォークダンス	各国のフォークダンスの動きについて理解を深める
11	大好きな歌から表現遊びへ	歌からの表現遊びを考えて動く
12	身辺材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
13	身辺材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
14	基本ステップでの作品作り	基本をまとめて作品として構成する
15	発表	全身運動・表現・リズミカルに動くことを確認する

科目名	こどもと音楽Ⅰ			科目ナンバリング	YS_S12001
担当者氏名	中島　龍一、中條　裕子、西本　由香、前北　恵美、小杉　裕一、津田　安紀子、未定				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》
こども教育者として望ましい姿勢を保ちつつ、現場における応用力を身につけるための基礎技能を学ぶ。ピアノ初学者から経験者に至るまで個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンとを適宜おりまぜながら進めていき、様々な形態での伴奏能力を身に付ける。また、連弾を通してアンサンブルの大切さも学ぶ。

《授業の到達目標》
○楽譜に書かれてあることを理解し、こども教育に必要なピアノ演奏技術を身に付けることができる。
○コードネームによる奏法や、メロディーと伴奏による演奏ができる。
○現場で使用されている曲や、テキスト以外の様々な楽曲を弾くことができる。

《成績評価の方法》
実技点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》
①やさしく弾ける子どもの歌[仮称]
②ピアノ連弾ドラゴン／ショパン
③ぴあのってすばらしい（以上、共同音楽出版社）

《参考図書》
その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《授業時間外学習》
ピアノ学習で一番大切なことであり、上達の秘訣は日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分にして、レパートリーを広げる。

《備考》
①講義室使用上の注意事項を厳守すること。
②室内での飲食厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	Ⅰ期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮たレッスン。（コードネームと音階の理解）
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（C, F, Gコード）
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（セブンスコード）
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（シャープ系のコード）
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（フラット系のコード）
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（マイナーコード）
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ディミニッシュコード）
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（オーギュメントコード）
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ナインスコード）
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（コードの変換）
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（アルペッジョ）
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（終止形）
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅰ」の総まとめ、Ⅱ期「こどもと音楽Ⅱ」に向けての説明と指導。

科目名	こどもと音楽Ⅱ			科目ナンバリング	YS_S21016
担当者氏名	中島　龍一、中條　裕子、西本　由香、前北　恵美、小杉　裕一、津田　安紀子、未定				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》
こども教育者として望ましい姿勢を保ちつつ、Ⅰ期の内容を更に発展させる形で、受講生個人の進度状況に応じて、現場で必要とされるピアノ演奏技能を身につける。こどもの歌の弾きうたいは勿論、連弾やピアノ楽曲、マーチ・ワルツ・かけっこ・スキップ・ギャロップといった身体表現と関わりの深い曲等も修得する。

《授業の到達目標》
○楽譜に書かれてあることを理解し、こども教育に必要なピアノ演奏技術を身に付けることができる。
○コードネームによる奏法や、メロディーと伴奏による演奏ができる。
○こども教育現場で使用されている曲や、テキスト以外の様々な楽曲を弾くことができる。

《成績評価の方法》
実技点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》
①やさしく弾ける子どもの歌[仮称]
②ピアノ連弾ドラゴン／ショパン
③ぴあのってすばらしい（以上、共同音楽出版社）

《参考図書》
その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《授業時間外学習》
ピアノ学習で一番大切なことであり、上達の秘訣は日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分にして、レパートリーを広げる。

《備考》
①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
②室内での飲食厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	Ⅱ期授業内容の説明及びレッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（伴奏形についての理解）
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（メロディーの運指法について）
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（伴奏形の運指法について）
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（４拍子の伴奏形）
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（３拍子の伴奏形）
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（４拍子と２拍子の違いについて）
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（連符について）
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（メロディーへの和音付け）
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（メロディーと伴奏のバランス）
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（装飾音符の扱い方と演奏法）
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（調性について）
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（移調奏法）
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅱ」の総まとめ。

科目名	こどもと造形Ⅰ			科目ナンバリング	YS_S11002
担当者氏名	満田　知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》
保育現場での造形遊びで生かせる基礎（描写、色彩）や道具の扱い方を学ぶ。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現する。材料や道具に十分に馴れることで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ絵や工作に表したくなる。言葉でいいあらわせない気持ちを存分に出すことができる。まずは、小さな思いをコンセプトに作品を制作する。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案する。

《授業の到達目標》
鉛筆を使いこなし自由に表現できるようになる。
色と形を楽しみ、大胆さや繊細など幅広く表現できるようになる。素材や道具の特徴や特性を学び使いこなす。

《成績評価の方法》
提出作品（１００％）により成績評価を行う。

《テキスト》
毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》
「お絵描きあそび」アトリエ・リュミエール/鈴木あきこ

《授業時間外学習》
予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、疑問点がある場合随時答える。

《備考》
授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション／鉛筆基礎①	材料、道具の説明。鉛筆の持ち方。
2	鉛筆基礎②	線の練習、消しゴム。
3	鉛筆基礎③	立体感、マチエール、線画。
4	鉛筆基礎④	グラデーション、遠近の仕組み、輪郭線。
5	鉛筆デッサン	果物や野菜を精密に鉛筆デッサンする。
6	色と形を楽しもう①	エリックカール技法、エンバリーおじさん技法。
7	色と形を楽しもう②	３原色でリアルな野菜を描こう。
8	色と形を楽しもう③	子供の物語性を引き出す想像の世界。
9	スタンプ遊び①	指紋スタンプで描いてみよう。
10	スタンプ遊び②	紙版画技法を学ぼう。
11	きってやぶいてよーくみて①	いちごがいっぱい！何にみえるかな！絵本作り。
12	きってやぶいてよーくみて②	巨大クッキング～焼そば。
13	重ねてコラージュ①	水きりえ～水でぬらした小筆で色刷り新聞紙を切って貼る。
14	重ねてコラージュ②	紙ビーズのアクセサリー。
15	まとめ	オリジナルの授業計画を作成する。

科目名	こどもと造形Ⅱ			科目ナンバリング	YS_S21019
担当者氏名	満田　知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》
造形あそびをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれている。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供はこれらの事を遊びを通して行う。この様な活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができる。園で開催される行事や展示立体作品を中心にイベント企画を提案する。

《授業の到達目標》
オリジナルの紙を作る（集める、並べる）
粘土で記念品を作る（組み合わせる、重ねる）
ダンボール、布、缶、プラスチックで壁面や展示作品を作る（組み換える、生かす）

《成績評価の方法》
提出作品（１００％）により成績評価を行う。

《テキスト》
時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《参考図書》
イタリア:レッジョ·エミリア市の幼児教育実践録『子どもたちの１００の言葉』（学研）

《授業時間外学習》
予習方法。毎回使用する素材や材料について研究、収集をする。復習の方法。授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《備考》
授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料、道具の説明。
2	造形遊び①	紙の引出しペーパーの制作。
3	造形遊び②	模写作品。
4	造形遊び③	粘土でミニチュアクッキング。food制作。
5	造形遊び④	粘土でミニチュアクッキング。記念品制作。
6	造形遊び⑤	ガチャポンの風鈴制作。
7	造形遊び⑥	立体ワンコ。型紙切断、組み立て。
8	造形遊び⑦	立体ワンコ。組み立て、張子作業。
9	造形遊び⑧	立体ワンコ。張子作業、ジェッソ塗り、下図犬制作。
10	造形遊び⑨	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作、本塗り。
11	造形遊び⑩	立体ワンコ。本塗り、仕上げ。
12	造形遊び⑪	カンカン宝箱制作。
13	造形遊び⑫	リメイク大作戦、お昼ねテント&ふりふりフラッグ制作。
14	造形遊び⑬	全作品チェック後、学内にてピクニックを開催。
15	まとめ	オリジナルの授業計画を制作。

科目名	こどもと運動Ⅰ			科目ナンバリング	YS_S11003
担当者氏名	三宅　一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
演習科目である為、理論と実践を交えながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。この授業を通して得た知識を、Ⅱ期開講の子どもと運動Ⅱに有効に活用されることを期待する。

《授業の到達目標》
保育者として乳幼児期の運動遊びを適切に援助できる能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し乳幼児期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動遊びの考え方や実践方法を理解する事によって、乳幼児期に適した運動実践の在り方や援助方法を学ぶ。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%)。

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》
「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）「幼児の運動発達学」小林寛道(ミネルヴァ書房)「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著(杏林書院)“Motor Development and Movement Experiences for Young Children”DAVID L.GALLAHUE,John Wiley&Sons,ink

《授業時間外学習》
＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》
乳幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ方等を説明する。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動遊びの必要性、援助における問題点の対策について
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動遊びと留意点の理解
4	精神面の発達特徴	各年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション方法
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた運動発達の特徴と運動遊び
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動遊び
8	移動系運動の発達	移動系運動の発達特徴と運動遊びの実際
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	操作系・非移動系＜平衡系＞運動の発達と運動遊びの実際
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法と測定結果の活用方法
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動遊びプログラムの実際と援助方法
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと運動遊びプログラム
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方と運動遊びプログラム
14	非移動系（平衡系)運動の指導プログラム	非移動系（平衡系)運動の考え方と運動遊びプログラム
15	まとめ	各年代における運動発達特徴の確認。場面に応じた運動実践方法。

科目名	こどもと運動Ⅱ			科目ナンバリング	YS_S21022
担当者氏名	三宅　一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》
　演習科目である為理論と実践を結びつけながら進める。幼児の理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり幼児と接する機会を持つ。今までの学校体育で経験した内容やスポーツ実践での考え方の枠を外してより柔軟的に運動を捕らえ、保育における幅広い運動遊びの実践に役立つ内容を実施する。

《授業の到達目標》
　保育における幼児期の各年代に応じた運動遊びの援助が的確に出来る能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期における運動遊びの正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期の各年代に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》
「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）「幼児の運動発達学」小林寛道(ミネルヴァ書房)「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著(杏林書院)“Motor Development and Movement Experiences for YoungChildren” DAVID L.GALLAHUE,John Wiley&Sons,ink

《授業時間外学習》
予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、　学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》
幼児期の運動遊び指導者および小学校体育指導者として必要な知識を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	移動系運動（１）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
3	移動系運動（２）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
4	操作系運動（１）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
5	操作系運動（２）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際1①
6	操作系運動（３）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際②
7	非移動運動（１）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
8	非移動運動（２）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
9	対人ゲーム	対人におけるルール遊びの方法と実践
10	集団ゲーム（１）	集団におけるルール遊びの方法と実践①
11	集団ゲーム（２）	集団におけるルール遊びの方法と実践②
12	年代に応じた運動遊び（１）	３歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
13	年代に応じた運動遊び（２）	４歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
14	年代に応じた運動遊び（３）	５歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
15	まとめ	全体のまとめをする

科目名	こども文化論Ⅰ			科目ナンバリング	YS_L21025
担当者氏名	高橋　司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
　こども文化の精神と技術の習得のために様々な文化財を提示する。
　こども文化とは何かを理解し、様々なこども文化財の創作を通してこども文化の心に触れ、幼児教育者としての感性と創造性を養う。

《授業の到達目標》
　こども文化がこどもの個性を伸ばし新しい時代に的確に対応した自己確立を促すものであることを理解することができる。
　こども文化の心を練磨し，こどもの価値志向を伸ばす素材について考えることができる。
　こどもが文化を享受し，創造して遊ぶことの実際を，各実習において検証することができる。

《成績評価の方法》
定期試験（６０％）、小レポート（２０％）、受講態度等（２０％）

《テキスト》
『児童文化と保育　こころ豊かな文化を育むために』高橋司編著　宮帯出版社

《参考図書》
未定

《授業時間外学習》
　日頃から，絵本，紙芝居，人形劇など，こどもの情操を育む素材に触れるようにしましょう

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方，評価方法等の説明，本授業と幼稚園教諭・保育士資格との関連，幼稚園等における本授業内容の展開
2	こども文化とは何か	こども文化の定義，領域，本質
3	こども文化における「こども」	法律におけるこども，心理学におけるこども
4	こども文化とこども観①	古代から近世まで
5	こども文化とこども観②	近代から現代まで
6	こども文化とこども観③	こども観の変遷についてのまとめ
7	こどもの発達とこども文化	おもちゃの歴史，発達に応じたおもちゃ，年齢に見合った玩具
8	こども文化の本質	おもちゃの機能と効用
9	こどもの情操を育む文化財①	童話
10	こどもの情操を育む文化財②	紙芝居
11	こどもの情操を育む文化財③	ペープサート
12	こどもの情操を育む文化財④	絵本・人形劇
13	こどもの情操を育む文化財⑤	パネルシアター
14	こどもの情操を育む文化財⑥	エプロンシアター
15	こどもの情操を育む文化財⑦	音楽

平成 26（2014）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成26年度（2014年度）入学生対象
（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数		幼児教育コース 単位数		幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数		保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年		2年		3年		4年		平成27年度の担当者	ページ
					必修	選択	必修	選択					必修	選択				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
専門教育科目	社会福祉基盤科目	生涯学習論	YF_L21007	講義		2		2						2					2								
		生涯発達心理学Ⅰ	YF_L21008	講義		2		2						2					2								
		社会福祉Ⅰ	YF_L11001	講義	2		2			○			2		○			2									
		社会福祉Ⅱ	YF_L21009	講義		2		2						2					2								
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	YF_L12002	講義	2		2						2							2						（竹内 一夫）	91
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	YF_L22010	講義		2		2						2							2					（竹内 一夫）	92
		ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	YF_L22011	講義		4		4						4							4					（竹内 一夫）	93
		ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	YF_L23012	講義		4		4						4								4					
		児童家庭福祉	YF_L11003	講義	2		2			○			2		○			2									
		低所得者に対する支援と生活保護制度	YF_L22013	講義		2		2						2							2					河野 真	94
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	YF_L13004	講義	2		2						2									2					
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	YF_L23014	講義		2		2						2									2				
		介護概論	YF_L22015	講義		2		2						2						2						（小倉 毅）	95
		加齢及び障害に関する理解	YF_L23016	講義		2		2						2									2				
		障害者福祉論	YF_L23017	講義		2		2			★1			2		★1						2					
		権利擁護と成年後見制度	YF_L23018	講義		2		2						2								2					
		地域福祉の理論と方法Ⅰ	YF_L23019	講義		2		2				□		2			□					2					
		福祉行財政と福祉計画	YF_L23020	講義		2		2						2									2				
		福祉サービスの組織と経営	YF_L23021	講義		2		2						2									2				
		社会保障論Ⅰ	YF_L12005	講義	2		2						2									2					
		社会保障論Ⅱ	YF_L23022	講義		2		2						2									2				
		国際福祉論	YF_L24023	講義		2		2						2											2		
		社会調査の基礎	YF_L22024	講義		2		2						2							2					（田端 和彦）	96
		社会調査の応用	YF_L22025	講義		2		2						2								2					
		心理検査法	YF_L23026	講義		2		2			★1			2		★1						2					
		精神保健福祉論	YF_L12006	講義	2		2						2								2					［河野 康政］	97
		精神医学Ⅰ	YF_L22027	講義		2		2						2						2						（光田 豊茂）	98
		精神保健学Ⅰ	YF_L23028	講義		2		2						2								2					
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	YF_L23029	講義		2		2						2								2					
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	YF_L23030	講義		2		2						2									2				

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目
○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目
☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目
　選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに
　★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。
□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目
　教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。
　上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。
　なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。
　また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。
欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。
欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成26年度（2014年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼児教育コース 幼一種	幼児教育コース 保育士	幼児教育コース こども音楽療育士	幼児教育コース 児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	児童福祉コース 保育士	児童福祉コース こども音楽療育士	児童福祉コース 児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成27年度の担当者	ページ	
専門教育科目	こども福祉基盤科目	初年次演習Ⅰ	YK_S11001	演習	2		2						2					2										
		初年次演習Ⅱ	YK_S11002	演習	2		2						2						2									
		こども福祉基礎演習Ⅰ	YK_S12003	演習	2		2						2							2						※1（欄外参照）	99	
		こども福祉基礎演習Ⅱ	YK_S12004	演習	2		2						2								2					※1（欄外参照）	100	
		人間福祉論	YK_L11005	講義	2		2						2						2									
		保育原理Ⅰ	YK_L11006	講義	2		2			○			2		○			2										
		保育原理Ⅱ	YK_L21009	講義		2		2		●				2	●				2									
		教育原理	YK_L11007	講義	2		2		◇	○				2	○			2										
		こどもの心理学Ⅰ	YK_L11008	講義	2		2		◇	○	★1		2		○	★1			2									
		こどもの心理学Ⅱ	YK_S22010	演習		1		1	◆	○	★1			1	○	★1				2						松田 信樹	101	※
		乳児保育Ⅰ	YK_S22011	演習		1		1		○			1		○					2						［徳永 満理］	102	※
		乳児保育Ⅱ	YK_S22012	演習		1		1		○			1		○						2					［徳永 満理］	103	※
		障害児保育Ⅰ	YK_S22013	演習		1		1		○	★1	□	1		○	★1	□			2						［小林 洋司］	104	※
		障害児保育Ⅱ	YK_S22014	演習		1		1		○	★1	□	1		○	★1	□				2					［小林 洋司］	105	※
		相談援助	YK_S22015	演習		1		1		○		□	1		○		□			2						［大西 雅裕］	106	※
		家庭支援論	YK_L23016	講義		2		2		○		□	2		○		□					2						
		社会的養護	YK_L22017	講義		2		2		○		□	2		○		□			2						［藤本 政則］	107	
		社会的養護内容	YK_S22018	演習		1		1		○			1		○						2					［藤本 政則］	108	※

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※1　杣山、田中正、安井、田中傳、斎藤、藤井、中島、松田、満田、澤田

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成26年度（2014年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成27年度の担当者	ページ	
専門教育科目	専門科目I群	こどもの保健ＩＡ	YS_L22004	講義		2		2		○	★2		2		○	★2				2						（久井 志保）	109	
		こどもの保健ＩＢ	YS_L22005	講義		2		2		○	★2		2		○	★2					2					（久井 志保）	110	
		こどもの保健Ⅱ	YS_S22006	演習		1		1		○	★2		1		○	★2					2					（久井 志保）	111	※
		こどもの食と栄養Ⅰ	YS_S23007	演習		1		1		○			1		○							2						※
		こどもの食と栄養Ⅱ	YS_S23008	演習		1		1		○			1		○								2					※
		こどもと健康	YS_S22009	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1			2						［近藤 正子］	112	
		こどもと人間関係	YS_S22010	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1			2						［鎮 朋子］	113	
		こどもと環境	YS_S21011	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1		2									
		こどもと言葉	YS_S21012	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1		2									
		こどもと音楽表現	YS_S22013	演習		2	2		◇	○	★3	■2		2	○	★3	■2			2						中島 龍一	114	
		こどもと身体表現	YS_S21014	演習		2	2		◇	○		■2		2	○		■2		2									
		こどもと言語表現	YS_S22015	演習		2	2		◇	○		■2		2	○		■2			2						［前田 美智代］	115	
		こどもと音楽Ⅰ	YS_S11001	演習	2		2		◇	○	★3	■2	2		○	★3	■2	2										
		こどもと音楽Ⅱ	YS_S21016	演習		2	2		◇	●	★3			2	●	★3			2									
		こどもと音楽Ⅲ	YS_S23017	演習		2	2		◇					2								2						
		こどもと音楽Ⅳ	YS_S23018	演習		2		2	◆					2									2					
		こどもと造形Ⅰ	YS_S11002	演習	2		2		◇	○		■2	2		○		■2	2										
		こどもと造形Ⅱ	YS_S21019	演習		2	2		◇	●				2	●				2									
		こどもと造形Ⅲ	YS_S23020	演習		2	2		◇	●				2	●							2						
		こどもと造形Ⅳ	YS_S23021	演習		2		2	◆					2									2					
		こどもと運動Ⅰ	YS_S11003	演習	2		2		◇	○		■2	2		○		■2	2										
		こどもと運動Ⅱ	YS_S21022	演習		2	2		◇	●				2	●				2									
		こどもと数	YS_L23023	講義		2	2		◇					2								2						
		こどもと生活	YS_L22024	講義		2	2		◇					2							2					［安藤 和彦］	116	
		こども文化論Ⅰ	YS_L21025	講義		2		2	◆					2					2									
		こども文化論Ⅱ	YS_S22026	演習		1		1	◆					1							2					［高橋 司］	117	※
		こどもとメディア	YS_L24027	講義		2		2						2										2				
		国際こども文化論	YS_L24028	講義		2		2						2											2			

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ｉ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成26年度（2014年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼児教育コース 幼一種	幼児教育コース 保育士	幼児教育コース こども音楽療育士	幼児教育コース 児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	児童福祉コース 保育士	児童福祉コース こども音楽療育士	児童福祉コース 児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成27年度の担当者	ページ	
専門教育科目	専門科目Ⅱ群	こども福祉専門演習Ⅰ	YS_S13001	演習	2		2						2									2						
		こども福祉専門演習Ⅱ	YS_S13002	演習	2		2						2										2					
		こども福祉卒業演習Ⅰ	YS_S14003	演習	2		2						2											2				
		こども福祉卒業演習Ⅱ	YS_S14004	演習	2		2						2												2			
		教師・保育者論	YS_L13005	講義	2		2		◇	○			2		○								2					
		保育課程総論	YS_L12006	講義	2		2		◇	○			2		○					2						藤井 惠美子	118	
		保育内容総論	YS_S22007	演習		2	2		◇	○		□		2	○		□			2						澤田 真弓	119	
		保育・教職実践演習（幼稚園）	YS_S24008	演習		2	2		◇	○		□		2	○		□								2			
		教育心理学	YS_L22009	講義		2	2		◇	●	★1			2	●	★1				2						松田 信樹	120	
		幼児理解	YS_L22010	講義		2	2		◇	●	★1			2	●	★1					2					松田 信樹	121	
		青年心理学	YS_L23011	講義		2		2	◆	●	★1			2	●	★1							2					
		臨床心理学	YS_L24012	講義		2		2		●	★1			2	●	★1								2				
		教育制度論	YS_L23013	講義		2	2		◇					2									2					
		教育方法論	YS_L23014	講義		2	2		◇					2									2					
		教育相談	YS_L23015	講義		2	2		◇	●				2	●								2					
		表現総合演習	YS_S23016	演習		1		1	◆					1									2					※
		造形総合演習	YS_S24017	演習		1		1	◆					1										2				※
		音楽教育	YS_S22018	演習		2	2		◇	●	★3			2	●	★3				2						中島 龍一	122	
		こども音楽療育概論	YS_L23019	講義		2		2			☆			2		☆							2					
		こども音楽療育演習	YS_S24020	演習		1		1			☆			1		☆								2				※
		こども音楽療育実習	YS_F24021	実習		1		1			☆			1		☆									2			
		保育相談支援Ⅰ	YS_S22022	演習		1		1		○		□	1		○		□				2					［渡邉 慶一］	123	※
		保育相談支援Ⅱ	YS_S23023	演習		1		1						1								2						※
		集団施設保育の現状と課題	YS_L23024	講義		2		2						2								2						
		保育実習ⅠＡ	YS_F22025	実習		2		2		○		□1		2	○		□1				4					澤田 真弓	124	※※
		保育実習ⅠＢ	YS_F23026	実習		2		2		○		□1		2	○		□1					4						※※
		保育実習Ⅱ	YS_F23027	実習		2		2		●				2	●								4					※※
		保育実習Ⅲ	YS_F23028	実習		2		2		●		□1		2	●		□1						4					※※
		保育実習指導ⅠＡ	YS_S22029	演習		1		1		○		□1		1	○		□1				2					澤田 真弓	125	※
		保育実習指導ⅠＢ	YS_S23030	演習		1		1		○		□1		1	○		□1					2						※
		保育実習指導Ⅱ	YS_S23031	演習		1		1		●				1	●								2					※
		保育実習指導Ⅲ	YS_S23032	演習		1		1		●		□1		1	●		□1						2					※
		教育実習指導	YS_S23033	演習		1	1		◇					1									2					※
		教育実習	YS_F24034	実習		4	4		◇					4										⑧	⑧			※※

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

学年配当欄において○囲みで表示している科目については、どちらでも登録、履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成26年度（2014年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成27年度の担当者	ページ
専門教育科目	発展科目	子育て支援地域活動Ⅰ	YH_L22001	講義		2		2						2							2					藤井 恵美子	126
		子育て支援地域活動Ⅱ	YH_S23002	演習		2		2				□		2			□					2					
		児童館の機能と運営	YH_L23003	講義		2		2				□		2			□					2					
		発達障害児への支援	YH_S23004	演習		2		2	◆		★1			2		★1							2				
		発達と疾病・障害Ⅰ	YH_L22005	講義		2		2						2								2					
		発達と疾病・障害Ⅱ	YH_L23006	講義		2		2						2									2				
		こころとからだのしくみⅠ	YH_L22007	講義		2		2						2								2					
		こころとからだのしくみⅡ	YH_L23008	講義		2		2						2									2				
		児童の貧困と虐待	YH_L23009	講義		2		2						2									2				
		児童の健全育成と福祉	YH_L23010	講義		2		2				□		2			□						2				
		少子高齢社会とこどもの生活	YH_L23011	講義		2		2						2									2				
		施設保育士論	YH_L23012	講義		2		2						2									2				
		男女共同参画社会の構築	YH_L24013	講義		2		2						2										2			
		福祉経営実践演習	YH_S24014	演習		2		2						2										2			
		消費者教育	YH_L24015	講義		2		2						2										2			
		幼児のための福祉教育Ⅰ	YH_L23016	講義		2	2		◇					2								2					
		幼児のための福祉教育Ⅱ	YH_S24017	演習		2	2		◇					2									2				
		こども福祉特論	YH_L24018	講義		2		2						2										2			
		児童福祉実習指導	YH_S24019	演習		1		1						1										②	②		
		児童福祉実習Ⅰ	YH_F24020	実習		2		2						2										④	④		
		児童福祉実習Ⅱ	YH_F24021	実習		2		2						2										④	④		

〔課程外科目〕

授業科目の区分	授業科目の名称	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成27年度の担当者	ページ
資格関連科目	児童館実習（10日間）		実習		2		2				□1		2			□1							4			
	児童館実習（20日間）		実習		4		4				□2		4			□2							8			

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

学年配当欄において○囲みで表示している科目については、どちらでも登録、履修できる科目である。

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ			科目ナンバリング	YF_L12002
担当者氏名	竹内　一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。Ⅰ期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学びを進める。

《授業の到達目標》
①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論が理解できるようになる。
③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《成績評価の方法》
成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。

《テキスト》
社会福祉士養成講座編集委員会編　新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2009

《参考図書》
社会福祉士養成講座編集委員会編　新社会福祉士養成講座７「相談援助の理論と方法Ⅰ」　新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《授業時間外学習》
常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《備考》
専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉に関わる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討するが、同時に現代社会における期待と養成における問題点について検討する。
2	現代社会で生きるということ	現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の教育力、介護力、保育力の現状を検討し、福祉社会への移行のための課題を検討する。
3	ソーシャルワークとはなに？	現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する。
4	ソーシャルワークを構成する要素とは	ソーシャルワーク援助を構成する、クライエント、ワーカー、ターゲット、アクションの各システムと、援助者の価値、態度について検討する。
5	ソーシャルワークの歴史 ①　前史	社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。
6	ソーシャルワークの歴史 ②　基礎の確立	専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。
7	ソーシャルワークの歴史 ③　援助技術の確立	診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、心理社会モデル、生態学モデル、生活モデルなど、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する。
8	ソーシャルワークの歴史 ④　統合モデルの検討	利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。
9	ソーシャルワークの歴史 ⑤　グループの援助	グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。
10	ソーシャルワークの援助 ⑥　地域援助	コミュニティデベロプメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。
11	ソーシャルワーク実践と価値	ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、社会福祉に携わるソーシャルワーカーの価値はどのようの変化したのかを検討する。
12	ソーシャルワーク実践と権利擁護	権利擁護とは、なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する
13	ノーマライゼーションとは①ミクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その援助方法とはについて検討する。まず個人のレベルを扱う。
14	ノーマライゼーションとは②メゾレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う
15	ノーマライゼーションとは③マクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ			科目ナンバリング	YF_L22010
担当者氏名	竹内　一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》
ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱでは、相談援助の具体的な方法、それに当たる専門職の力量、相談援助を有効化していくために解決していかなければならない問題点について、講義をベースに学びを進めていく。各自が問題意識を持てるように、課題を与え、研究を進めていくことも、プログラムの中に入れていき、実践現場で生きる学びになるように学びを進めていく。

《授業の到達目標》
①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論とが理解できるようになる。
③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《成績評価の方法》
成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。

《テキスト》
社会福祉士養成講座編集委員会編　新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2009

《参考図書》
社会福祉士養成講座編集委員会編　新社会福祉士養成講座７「相談援助の理論と方法Ⅰ」　新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《授業時間外学習》
常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《備考》
専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の理念：自己決定	自己決定は相談援助の中心概念であるが、危機状況では、一時、自己決定権を預かることも支援となる。ここでは状況に合わせた自己決定権の行使について考える。
2	相談援助の理念：自立支援	ソーシャルワーク援助の最終目標は自立支援にあるが、障害状況によっては、依存的.立も考慮に入れた支援が必要である。自立の在り方についても検討する。
3	相談援助の理念：エンパワメントとストレングス	利用者の能力、保持力をうまく引き出し、課題解決に取り組めるように支援することで、利用者はパワレス状況から抜け出し、エンパワメントされることを確認する。
4	ノーマライゼーション：地域生活という視座	ソーシャルワーク援助の目的と過程はノーマライゼーションの実現への取り組み過程ともいえる。地域でのありきたりの生活の実現とはについて検討する。
5	ノーマライゼーション：社会的包括	人がいかなる状況にあろうとも、社会参加が確保され、社会の一員としての権利と義務を果たせる状況づくりが社会福祉の目的であることを学ぶ。
6	専門職の倫理	専門職はその技術、知識、そしてそれらを人々の福利のためだけに使うことが求められるが、それを維持、向上させるための仕組みが倫理であることを学ぶ。
7	専門職の社会的責任と倫理綱領	社会的責任として、専門職の倫理を尊守するために、専門職能団体がどのように対応するかを社会に向けて公表したものが、倫理綱領であることを学ぶ。
8	専門職制をめぐる倫理的ジレンマ	我々は、複数の役割を持って社会生活を送っていくが、時に目指すところが矛盾し倫理的な葛藤を専門職の内部に生み出す。これへの対応を検討する。
9	総合的、包括的な相談援助	福祉は今、重複し、重層した問題を抱える利用者への支援で、ニーズを総合的、包括的にとらえることが求められる。そこでの留意点について検討する。
10	地域を基盤としたソーシャルワーク	施設から在宅へと福祉は大きくシフトした。地域を基盤にノーマライゼーションの実践がどのように進められるべきか検討する。
11	総合的な相談援助を支える理論	従来の援助技術では、重複し重層した利用者のニーズに対応できない。ここではシステム理論を用いた生活モデルを基盤にした、支援の在り方を検討する。
12	相談援助に関わる専門職とは	総合相談を担当できる専門職は、どのような専門基盤を必要とするのであろうか。ここでは求められる専門性とその資格について検討する。
13	総合相談援助における専門的機能	現在の相談援助専門職は、多くの求めらるスキルを身に付け、多専門職との連携で仕事ができることを求められる。ここでのスキルとは、技術とはを検討する。
14	社会の変化とニーズの変化	少子超高齢化に歯止めがかからない社会。このような状況の中で利用者のニーズも大きく変化してきている。その変化と看られる問題点について学習する。
15	他職種との連携	今地域で他職種と連携をし、支援をしていくためには、どのような知識、技術、技能が求められるのか、またその留意点についても検討する。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ			科目ナンバリング	YF_L22011
担当者氏名	竹内　一夫				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》
対人援助の在り方について、面接の進め方、専門職としての価値、態度の再確認と、それを実践に移していける援助技術の展開の仕方について、講義と事例から学びを進める。

《授業の到達目標》
実習に赴いたときに、利用者の問題や、課題を利用者や家族との話しの中から、また記録の中からまとめだすことができ、具体的な支援計画の作成の手順とが理解できる。また、利用者との話をどのように展開していくかの流れを形成していくことができるようになる。

《成績評価の方法》
評価は、授業態度30%　課題達成20%　終了時テスト50%として行う。この基準で出した評価点（100点満点）を、各自の評価とする。

《テキスト》
社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の理論と方法Ⅰ 第2版」　中央法規

《参考図書》
・H.M.バートレット著 小松源助訳「社会福祉実践の共通基盤」ミネルヴァ書房 2009
・Germain,C著 小島蓉子訳「エコロジカル・ソーシャルワーク」学苑社 1992年
・社会福祉小６法　中央法規 2013

《授業時間外学習》
新聞をはじめとするメディアの報道に目を通すことと、人についての発達段階と、その各段階で遭遇する解決課題について、各自の知識として整理しておくこと。授業はシラバスに添って進められます。教科書の該当箇所を、各自でしっかりと事前学習をしてくること。

《備考》
遅刻は一切認めない。定時に始まり、定時に終わる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助とは	相談援助とは、その援助技術であるソーシャルワークとは、どのように考えるべきものであるのか、また相談援助にあたる専門職の役割とはについて検討する。
2	ソーシャルワークの構成要素とその機能を考える	人と環境との関連性を検討するとともに、個人、家族、小集団、地域等がそれぞれに、総合的な観点から、評価し、優れたところも保持した存在であることを、検討する。
3	人と環境との交互作用とは	システム理論をもとに、人と環境の関わり、人と人の関わりを検討するともに、システム理論をソーシャルワークが取り入れる意味について検討する。
4	援助関係の形成と援助関係のもたらすもの	援助関係とはどのような状況をいうのか、また、援助関係を形成していくにはどのような事柄に留意していくべきなのかを検討する。
5	援助者の機能と役割、また援助者に求めれるもの	援助関係で援助者が果たすべき役割はどのようなものであり、援助関係の質を高めるためには、援助者としてどのような取り組みが求められるのかを検討する。
6	対象による援助関係の特徴	援助の対象、利用者の状態、おかれている環境によって、形成されるべき援助関係についての配慮が求められるが、それぞれでどのような配慮を必要とするのかを検討する。
7	相談援助での一般的な留意点	ソーシャルワーク援助のすべてのプロセスを通して、援助者はどのようなことに留意し、支援を進め、形作っていくのかについて述べる。
8	インテーク面接の役割と留意点	ソーシャルワーク援助でのインテーク面接の位置づけと、インテークワーカーの役割、クライエントのモティベーションと面接の進め方について検討する。
9	問題とは、ニーズとは、事実とは	利用者の抱える困りごとを聴きとるためには、どのような配慮と、援助者の視点が求められるのか、真実に迫る面接を構成する要件とはについて検討する。
10	アセスメントの精度を高める情報収集と分析	アセスメントの精度が支援の効果を左右する。利用者の全方位的なアセスメントが総てを決することを意識したうえで、アセスメントの在り方を検討する。
11	解決課題設定と支援計画の作成	解決課題（ニーズ）の確定と、効率的な解決手順の設定を目指した利用者との共同作業の内容が、支援計画の質の高さに大きく影響することを確認する。
12	支援計画の実施とモニタリング	周到な準備の上で実施される支援計画に基づいたサービス提供が、予定通りの効果を上げているのかの確認と、それによる利用者の変化についての確認の仕方を学ぶ。
13	モニタリングと支援計画の変更	モニタリング結果を参考に、予定通りの効果が発揮できていない原因の把握と、効果的なサービス提供がなされるためのサービスの変更や支援計画の修正について学ぶ。
14	支援の終了とアフターケア	支援の終了は環境の変化を生み出し、利用者の新しいストレスとなりうる。新しい適応課題の出現の有無を確認するとともに、精神面のサポートを行うことの重要性を学ぶ。
15	効果的な面接の進め方	14回の授業を総括し、効果的な面接の進め方を確認し、より学びを実践に近づけるものとする。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度		科目ナンバリング	YF_L22013
担当者氏名	河野　真			

授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する

《授業の概要》
公的扶助の概念・対象・歴史とともに，日本の生活保護制度や関連する諸制度上の仕組みを学ぶ。さらに，低所得者対策等に関して学ぶとともに，相談援助活動や自立支援プログラムに関する知識を習得する。

《授業の到達目標》
現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。生活保護制度の仕組みと今日的動向を理解する。低所得者対策に関連する組織，専門職の役割について理解する。

《成績評価の方法》
定期試験80%，授業への参加とその成果20%

《テキスト》
社会福祉士養成講座編集委員会/「新・社会福祉士養成講座」１６　低所得者に対する支援と生活保護制度/中央法規出版

《参考図書》

《授業時間外学習》
講義受講に際立ち教科書は必ず熟読しておくこと。限られた講義時間で，幅広い知識を身につけなければならないため，予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公的扶助の概念	公的扶助の概念と範囲，意義と役割
2	貧困・低所得者問題と社会的排除（1)	貧困・低所得問題の意味
3	貧困・低所得者問題と社会的排除（2)	社会的排除等の意味
4	公的扶助制度の歴史（1)	イギリスの公的扶助発達史（貧困の把握，対応策の変化）
5	公的扶助制度の歴史（2)	日本の公的扶助発達史
6	生活保護制度の仕組み（1)	生活保護法の目的と基本原理
7	生活保護制度の仕組み（2)	生活保護法の原則
8	生活保護制度の仕組み（3)	生活保護の種類，内容，方法
9	生活保護制度の仕組み（4)	保護施設、被保護者の権利・義務、不服申立て
10	生活保護制度の仕組み（5)	生活保護の財源・予算
11	生活保護基準と最低生活保障水準	生活保護基準と最低生活保障水準
12	生活保護の動向・低所得者対策	生活保護の動向および低所得者対策
13	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体	生活保護の運営実施体制と関係機関
14	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動	生自立支援プログラムの位置づけおよびその策定
15	自立支援プログラムの意義と実際	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動

科目名	介護概論			科目ナンバリング	YF_L22015
担当者氏名	小倉　毅				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎　3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》
介護の理念や対象およびその理念、基本施設について学ぶ。さらに障がい等の状況等に応じた介護過程における生活支援技法や介護予防の基本的な考え方を学ぶ。
　対象者が自己決定や自己選択し、主体的に暮らすこと、生活の質を高めるための介護の本質を理解し、よりよい支援につなげる知識と生活支援技術の習得に向け段階的に学習する。

《授業の到達目標》
社会福祉専門職として必要な介護の歴史、機能、原則、援助の方法などについて理解する。また、介護の理念および介護福祉実践のあり方を理解するとともに、ソーシャルワーク実践に必要な専門知識と支援の方法を習得する。

《成績評価の方法》
（１）授業への積極的参加度（15点）
（２）レポート課題（15点）
（３）小テスト（20点）
（４）定期試験（50点）

《テキスト》
社会福祉学双書 15　介護概論 社会福祉学習双書編集委員会編 全国社会福祉協議会

《参考図書》
①ケアの本質-生きることの意味-　ﾐﾙﾄﾝ･ﾒｲﾔﾛﾌ　ゆみる出版
②人間科学的生活支援論　黒澤貞夫　ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》
家族や近隣者の高齢者とのかかわり、ボランティアに積極的に参加し、対象者への理解を深めていきましょう。
　またレポートでは、近年の介護における社会的問題や事件等から介護に求められる政策・社会的課題などについても考える機会にしてほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 人間と生活	人々の生活とは何かを理解し、家庭機能変化、高齢者や障がい者の実態と権利、ライフサイクルにおける人間関係の変化や自律・自立について考える。
2	法律の変遷から介護を考える	社会福祉士及び介護福祉士法、専門職による介護の展開及び介護職に求められる医療行為について学ぶ。
3	介護の目的	介護の原則と介護職員の倫理、自立に向けた介護、尊厳を支える介護、介護提供の場、介護の対象について学ぶ。
4	援助関係	介護における援助関係の基本①援助関係の理解②利用者の理解について学ぶ。
5	介護関係維持のための技法	①察観②コミュニケーション③記録と情報の共有④他職種との連携について学ぶ。
6	介護過程（１）	介護過程の意義①在宅生活を支援する方法②家族への援助について学ぶ。
7	介護過程（２）	介護過程の実際①介護過程とチームアプローチについて学ぶ。
8	生活支援技術の基本（１）	①利用者の自立支援と介護、②住生活環境の整備と介護、③食事の介護、④排泄の介護、⑤入浴の介護について学ぶ。
9	生活支援技術の基本（２）	①衣服の着脱の介護、②清潔の介護、③体位変換・移動の介護、④社会生活を維持するための支援、⑤健康な生活習慣づくりへの支援について学ぶ。
10	生活支援技術の基本(３)	①緊急・事故時の対応、②介護家族への支援、③福祉用具の活用、④終末期の支援について学ぶ。
11	障害別生活支援（１）	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害（盲ろう）の理解と生活支援について学ぶ。
12	障害別生活支援（２）	運動機能障害、重症心身障害の理解と生活支援について学ぶ。
13	障害別生活支援（３）	内部障害の理解と生活支援について学ぶ。
14	障害別生活支援（４）	知的障害、高次機能障害、精神障害の理解と生活支援について学ぶ。
15	障害別生活支援（５） まとめ	認知症（若年性認知症を含む）の理解と生活支援について学ぶ。

科目名	社会調査の基礎			科目ナンバリング	YF_L22024
担当者氏名	田端　和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》
社会調査の意義と歴史を学びます。量的な調査方法ではアンケート調査の一連の手続き、そしてデータを整理しそこから社会的事象を見出すための統計的な知識を身につけます。質的な調査方法では、観察、インタビューの方法を学びます。社会調査を行う上での注意事項についても理解します。

《授業の到達目標》
アンケート、取材、観察などソーシャルワークに必要な社会調査の手法を身に付けることができます。統計表を読み取り、また集めたデータを整理して示し、社会事象を読み取るために統計に関する基礎的な知識を身につけます。これらを通し、地域社会での社会的弱者のおかれた総合的な状況を理解することができます。

《成績評価の方法》
定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。

《テキスト》
社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規

《参考図書》
授業内で指示します。

《授業時間外学習》
事前にテキストの指示する部分を読んでおいてください。3回に1回程度宿題を課しますので、それを行ってください。授業の実施に必要です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	福祉分野で社会調査が必要な背景などを説明します。
2	社会調査の歴史1	ブースの貧困調査など社会調査の歴史を振り返り社会福祉での位置づけを行います。
3	社会調査の歴史2	社会調査と関係の深い統計の歴史を踏まえ民主的な公的統計のあり方を学びます。
4	日本の統計制度	日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。
5	量的統計と質的統計	公的統計など量的調査と観察など質的統計の違いを学びます。
6	アンケート調査1	アンケート調査に必要な集団の考え方を理解し、母集団から標本集団を抽出する方法を学びます。
7	アンケート調査2	調査の設計と調査目的の明確化、また調査票の配布回収方法を学びます。
8	アンケート調査3	調査の設計と調査目的の明確化、また調査票の配布回収方法を学びます。
9	調査結果の分析1	尺度水準などデータ分析の基本とデータの整理と記述統計、集計など基本的な分析の手法を学びます。
10	調査結果の分析2	引き続き、記述統計、集計など基本的な分析の手法を学びます。
11	調査結果の分析3	回帰分析、相関分析など2変数以上の変数についての分析方法を学びます。
12	調査結果の分析4	仮説検定の基本的なことを学び、その概念を理解します。
13	インタビューの手法	構造化インタビュー、非構造化インタビューについて理解します。インタビューの記述方法について学びます。
14	観察の方法	参与観察、非参与観察の特徴と違いを理解します。
15	個人情報保護と社会調査の結果の利用	個人情報保護の重要性を理解します。調査の実施や公表に関する倫理について理解します。

科目名	精神保健福祉論			科目ナンバリング	YF_L12006
担当者氏名	河野　康政				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
精神保健福祉に関する制度とサービスに関する知識について、社会的背景や実践現場における現状を踏まえて理解する。メンタルヘルスに対しより知識や高い意識を持ちつつ、保育実践を行っていくことができる支援者になるための資質を養う。

《授業の到達目標》
①保育者を目指す学生が「なぜ精神保健福祉を学ぶのか」「学んだ内容が保育者として支援場面でどのように役立てるのか」を明瞭に説明できる。
②我が国の精神保健福祉の現状について理解し、説明することができる。

《成績評価の方法》
レポート（提出物）・授業姿勢（出欠を含む）・期末テスト（80%）※出席時間数が授業時間数の2/3に満たない者は原則として期末試験を受けることはできない。

《テキスト》
新・精神保健福祉士養成講座〈4〉　精神保健福祉の理論と相談援助の展開I 日本精神保健福祉士養成校協会（編集）　中央法規　ISBN-10：4805839465　ISBN-13：978-4805839461

《参考図書》
これならわかる!精神医学（史上最強図解)上島国利　ナツメ社
ISBN-10：4816350845　ISBN-13：978-4816350849
その他参考図書については適宜紹介していく。

《授業時間外学習》
月に1回、精神保健福祉に関する新聞記事（インターネットのニュース等も可能）を切り取り、感想を記述し提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画について
2	精神障がいの概念①	障がいの概念、精神障がいの概念について／法律における精神障がいについて
3	精神障がいの概念②	精神保健福祉法における精神障がい／精神障がい者の特性
4	精神障がいを取り巻く歴史	精神障がい・精神障がい者の歴史を学ぶ。精神障がい者の人権について学ぶ。
5	精神障がい者の生活の実際①	精神障がい者の生活の実際／精神障がい者と家族の現状について学ぶ
6	精神障がい者の生活の実際②	精神障がい者が地域社会で生活をすること、そして国内・海外における地域生活支援モデルの動向について学ぶ
7	精神障がいに関する福祉制度について①	精神障がい者が地域社会で生活をする上で利用が考えられる福祉制度について学ぶ。（自立支援医療、精神保健福祉手帳等）
8	精神障がいに関する福祉制度について②	精神障がい者が地域社会で生活をする上で利用が考えられる福祉制度について学ぶ。（障害年金制度、特別障害者手当、生活保護等）
9	精神障がい者の地域生活支援①	精神障がい者が地域社会で生活をする上で、支援者がどのように生活を支援していくのかを学ぶ（相談援助～福祉制度の活用）
10	精神障がい者の地域生活支援②	精神障がい者が地域社会で生活をする上で、支援者がどのように生活を支援していくのかを学ぶ（生活支援）
11	精神障がい者の地域生活支援③	精神障がい者が地域社会で生活をする上で、支援者がどのように生活を支援していくのかを学ぶ（就労支援）
12	精神障がい者の地域生活支援④	精神障がい者が地域社会で生活をする上で、支援者がどのように生活を支援していくのかを学ぶ（余暇活動支援等）
13	精神保健福祉領域における現状と課題①	精神保健福祉領域における現状の把握、またその課題について学ぶ。（自殺対策、発達関連の障がいについて、性的マイノリティーの課題等）
14	精神保健福祉領域における現状と課題②	精神保健福祉領域における現状の把握、またその課題について学ぶ。（自殺対策、発達関連の障がいについて、性的マイノリティーの課題等）
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	精神医学Ⅰ			科目ナンバリング	YF_L22027
担当者氏名	光田　豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる			

《授業の概要》
代表的な精神科疾患についてその症状やその状態像について具体的に講義する。それと共に、精神科医療機関でどのような治療がなされているのか、また精神障害者に対してどのような支援が必要であるかについて講義する。

《授業の到達目標》
精神科疾患の症状やその状態像について理解して、精神科医療機関等でどのような治療や取り組みがなされているのか説明できる。

《成績評価の方法》
授業への取り組み（50%）
レポート課題に対する取り組み（50%）

《テキスト》
新・精神保健福祉士養成講座１『精神疾患とその治療』、日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2012

《参考図書》

《授業時間外学習》
毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《備考》
授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害の理解	精神疾患の成因と分類について理解する。
2	精神疾患の症状と診断	精神疾患の様々な症状とその状態像を理解すると共に、その診断の手順と方法、検査法について学び、診断の基本的な知識を理解する。
3	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の症状等の差異について理解する。
4	症状性精神障害とてんかん	症状性精神障害とてんかんの症状とその治療について理解する。
5	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	アルコールや薬物、有機溶剤など精神作用物質使用による精神疾患の症状等について理解する。
6	依存症の理解と治療	依存症の理解とその治療法と自助グループの役割について理解する。
7	自助グループ参加者の体験談	自助グループに参加し回復した当事者の体験談を聞いて、自助グループの役割やその働きについて考える。（ゲスト講師予定：ＡＡメンバー）
8	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	統合失調症の症状、病型、及び治療法について理解する。
9	統合失調症者への支援について	統合失調症者に対する支援やかかわり方について考える。
10	統合失調症当事者の体験談	統合失調症者の体験談を聞き、統合失調症への理解を深める。（ゲスト講師予定:当事者）
11	気分障害の症状	気分障害の特徴や症状及びその性格傾向や環境因子等について理解する。
12	気分障害の治療	気分障害の治療とかかわり方の留意点について理解する。
13	精神科医師による精神科治療について	精神療法、薬物療法の実際について理解する。（ゲスト講師予定：精神科医師）
14	神経症性障害、ストレス関連障害、心身症	心理的原因によって起こる様々な神経症やストレス関連障害、心身症の症状や治療について理解する。
15	精神科リハビリテーション	社会復帰の促進に向けた様々な精神科リハビリテーションの技術、方法について理解する。

科目名	こども福祉基礎演習Ⅰ			科目ナンバリング	YK_S12003
担当者氏名	杣山 貴要江、田中 正彦、安井 重雄、田中 博一、斎藤 正寿、藤井 惠美子、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する				

《授業の概要》
幼児教育、保育、こども福祉の基本を個別学習、個別指導形式により学ぶ。学習内容の理解を深めると同時に、自ら調べ、まとめ、そして発表するという個別研究の方法を修得することも目指す。

《授業の到達目標》
①幼児教育、保育、こども福祉等についての理解・認識を深めること。
②音楽や造形等の幼児教育・保育に関わる実践力を磨くこと。
③自主的に学び、そして学んだ事柄をわかりやすくまとめて発表するスキルを獲得すること。

《成績評価の方法》
・授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 20%
・提出された課題に対する評価 80%
・提出期限を過ぎて提出された課題は減点対象となる。

《テキスト》
使用しない。

《参考図書》
授業時間内に必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》
教員から課された課題をこなすだけではなく、自分自身で疑問を見出し、そして調べることによってその疑問を解決するという自主的な学びを期待する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	こども福祉基礎演習Ⅰにおける学びの全体像を提示する。
2	研究発表の方法論を学ぶ	個別研究発表の仕方について学ぶ。特に、文献の収集方法と読み込み方について学ぶ。
3	研究発表の方法論を学ぶ	文献の読み込みや調査等を通じて学んだことのまとめ方と発表の仕方について学ぶ。
4	個別研究のテーマの選定	学生個々が興味・関心あるテーマを選定し、個別研究のリサーチクエスチョンを設定する。
5	音楽表現	音楽活動を通して子どもの発達を支援する方法を学ぶ。
6	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
7	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
8	校外実習	校外学習に出かけて、子どもの目線と保育者の目線との双方から初夏の自然を体感し、季節に応じた保育を展開することの重要性に気づく。
9	校外実習を終えてのふり返り	校外学習で感じたことを造形活動に昇華する。
10	幼稚園での観察	幼稚園現場を訪問し、幼児教育の現場における実践を観察する。
11	幼稚園での観察を終えてのふり返り	幼児教育の現場における実践を観察したことを受けて、幼児教育についての考察を深める。
12	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
13	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
14	研究発表会	個別研究の成果を発表する。
15	研究発表会	個別研究の成果を発表する。

科目名	こども福祉基礎演習Ⅱ			科目ナンバリング	YK_S12004
担当者氏名	杣山　貴要江、田中　正彦、安井　重雄、田中　博一、斎藤　正寿、藤井　恵美子、中島　龍一、松田　信樹、澤田　真弓、満田　知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》
幼児教育、保育、こども福祉の基礎をゼミ形式で主体的に学ぶ。教員の専門領域における最新の知見等に触れることにより、追求すべきテーマを絞り込み、専門演習における学びにつなげていく。また学外実習を通じて、幼児教育・保育に関わる実践力も磨いていく。

《授業の到達目標》
①幼児教育、保育、こども福祉の基礎についての理解を確固たるものとする。
②演習形式の授業で積極的に発言する等、主体的な学びのあり方について体得すること。

《成績評価の方法》
・授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲　20%。
・提出課題に対する評価　80%。
・提出期限を過ぎて提出された課題は減点対象となる。

《テキスト》
テキストは使用しない。

《参考図書》
グループ学習時に、担当教員から適宜紹介される。

《授業時間外学習》
教員から課された課題をこなすだけではなく、自分自身で疑問を見出し、そして調べることによってその疑問を解決するという自主的な学びを期待する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	こども福祉基礎演習Ⅱにおける学びの全体像を提示する。第２回以降において展開されるグループ学習の構成単位となるグループの編成を行う。
2	担当教員の専門領域に関するグループ学習～１	少人数制の演習形式の授業（第１サイクル　その１）。数名から成るグループを５つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
3	担当教員の専門領域に関するグループ学習～２	少人数制の演習形式の授業（第１サイクル　その２）。数名から成るグループを５つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
4	担当教員の専門領域に関するグループ学習～３	少人数制の演習形式の授業（第１サイクル　その３）。数名から成るグループを５つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
5	担当教員の専門領域に関するグループ学習～４	少人数制の演習形式の授業（第１サイクル　その４）。数名から成るグループを５つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
6	担当教員の専門領域に関するグループ学習～５	少人数制の演習形式の授業（第１サイクル　その５）。数名から成るグループを５つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
7	校外実習	校外実習に出かけて、こどもの目線と保育者の目線との双方から秋の自然を体感し、季節と幼児教育ならびに保育の内容とをリンクさせることの意義を考える。
8	校外実習のまとめ	校外実習を終えての ふり返りを行うとともに、保育実践への昇華を試みる。
9	保育の実践	幼稚園現場を訪問し、園児たちと活動を共にすることにより、幼児教育・保育の実践力を高める。
10	担当教員の専門領域に関するグループ学習～６	少人数制の演習形式の授業（第２サイクル　その１）。数名から成るグループを５つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
11	担当教員の専門領域に関するグループ学習～７	少人数制の演習形式の授業（第２サイクル　その２）。数名から成るグループを５つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
12	担当教員の専門領域に関するグループ学習～８	少人数制の演習形式の授業（第２サイクル　その３）。数名から成るグループを５つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
13	担当教員の専門領域に関するグループ学習～９	少人数制の演習形式の授業（第２サイクル　その４）。数名から成るグループを５つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
14	担当教員の専門領域に関するグループ学習～１０	少人数制の演習形式の授業（第２サイクル　その５）。数名から成るグループを５つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
15	こども福祉基礎演習のまとめ	こども福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱにおける学習内容を総括し、こども福祉専門演習に向けての準備態勢を整える。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	こどもの心理学Ⅱ			科目ナンバリング	YK_S22010
担当者氏名	松田　信樹				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》
保育者は、子どもたちを発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちを発達・成長へと導ける質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達の流れを正しく理解するとともに、保育者として子どもたちの発達を促すにはどのように関わっていけばよいのかを知る必要もある。子ども時代に焦点を絞って、発達のプロセスと発達支援のあり方について学んでいく。

《授業の到達目標》
○子どもの心身の発達と保育実践について理解すること。
○普段の生活と遊びを通した学びのプロセスについて理解すること。
○子どもの発達を支援する働きかけについて理解すること。

《成績評価の方法》
・提出課題に対する評価 50%
・定期試験の評価 50%
・提出課題は、提出するだけで得点を得られるのではなく、
　内容を伴わなければ得点は得られない。
　提出期限を厳守しなければ採点対象とならない。

《テキスト》
使用しない。

《参考図書》
『シードブック　保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』　本郷一夫（編）
　建帛社　2011
『発達心理学で読み解く保育エピソード―保育者を目指す学生の学びを通して』　若尾 良徳・岡部 康成　北樹出版　2010

《授業時間外学習》
参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》
授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学ぶとともに、子どもの発達を正確に捉えるためにはどのような点に留意すべきかを学ぶ。
2	子どもの発達の理解	保育所保育指針の記述に基づいて乳幼児期の発達の流れを再確認する（その１）。
3	子どもの発達の理解	保育所保育指針の記述に基づいて乳幼児期の発達の流れを再確認する（その２）。
4	発達の個人差	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。
5	環境の重要性と環境としての保育者	子どもたちの発達にとって環境がどれだけ重要であるかを再認識するとともに、保育者という人的環境の重要性について学ぶ。
6	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“母なるもの”との出会いの持つ意味について理解する(その1)。
7	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“母なるもの”との出会いの持つ意味について理解する(その2)。
8	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって”父なるもの”との出会いの持つ意味について理解する。
9	子どもの発達と出会い	人間関係の範囲が仲間関係へと広がっていく幼児期から児童期にかけての子どもたちの発達にとって、“友なるもの”との出会いの持つ意味について理解する。
10	集団の中の1人として	集団の構造と機能について学ぶとともに、子どもたちが集団生活の中で経験・学習することについて学ぶ。
11	子どもの生活と学び	「学習」のメカニズムについて学ぶとともに、子どもたちは日常生活で何をどのようにして「学習」するのかについて学ぶ。
12	生活習慣の獲得とその援助	子どもたちが基本的生活習慣を獲得していくに際して、保護者や保育者はどのように援助すればよいのかを「学習」の観点から学ぶ。
13	遊びと学び	子どもたちの発達にとって遊びがいかに重要かを再認識するとともに、子どもの遊びに保育者はどのように関わっていけばよいかを考える。
14	生きる力の基礎を培う	「生きる力」とはどのような力を指すのか、という問いに対する回答を探るとともに、そのような力はどのようにして身についていくのかを考える。
15	学習のまとめ	学習内容の理解度を客観的に測定する筆記試験を行う。

科目名	乳児保育Ⅰ			科目ナンバリング	YK_S22011
担当者氏名	徳永　満理				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
保育所・乳児院・家庭における「乳児保育」を学ぶ。乳児保育の歴史、現状、課題を学び、保育所の役割及び乳児保育に必要な理論、知識、技術を学ぶ。０．１．２歳児の発達の道すじと保育の方法について学ぶ

《授業の到達目標》
○乳児保育の歴史と役割を理解し、乳児保育の今に今日的な課題を考察する
○０歳児（出生）から２歳児（３歳半頃）までの子どもの発達を理解する
○乳児保育の保育内容をビデオと演習をを通して理解する

《成績評価の方法》
筆記試験（教科書・資料、持ち込み可とする）　７０％
作品・レポート提出・授業内発表　２０％
授業中の態度　１０％

《テキスト》
『乳児の保育新時代』ひとなる書房
『保育所保育指針解説書』
『保育資料集２０１５』ミネルバァ

《参考図書》
適宜、講義時紹介する

《授業時間外学習》
乳児の発達に基づいた手づくりおもちゃを作成する。
乳児への読み聞かせのための絵本の選書と読み方を提起する。
保育所など乳児のいるところに行きできるだけ触れるようにする。

《備考》
・正当な理由のない欠席、遅刻は厳禁
・授業中の飲食、携帯電話、私語は厳禁
・提出物の期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンション	○乳児の概念、乳児保育の概念について ○ビデオ－『赤ちゃんからのメッセージ』
2	乳児保育の歴史と現状	○女性労働と乳児保育の関わり ○乳児保育への期待と課題
3	乳児の発達Ⅰ	新生児から０歳児前半　ビデオ －母子関係の形成と人間らしさの発見－
4	乳児の発達Ⅱ	０歳児後半　ビデオ －０さいじの発達の道すじと特徴－
5	乳児の発達Ⅲ	１歳児　ビデオ －１歳児の発達の道すじと特徴－
6	乳児の発達Ⅳ	２歳児　ビデオ －２歳児の発達の道すじと特徴－
7	０歳児の生活と保育者の関わり	食事、排泄、睡眠、言生活、保健等　ビデオ
8	１、２歳児の生活と保育者の関わり	基本的生活習慣の自立
9	０、１、２歳児のあそびと保育者の関わり	あそびいろいろ
10	あそびの演習①	手づくりおもちゃの作成
11	あそびの演習②	お散歩いろいろ
12	乳児保育と計画	デイリープログラム　ビデオ 記録について
13	家庭との連携	保護者への援助、家庭・地域との連携方法
14	乳児と家庭を取り巻く現状	地域子育て支援を考える
15	授業のまとめ	

科目名	乳児保育Ⅱ			科目ナンバリング	YK_S22012
担当者氏名	徳永　満理				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
・乳児保育Ⅰで学んだ理論・知識を基礎に乳児の発達の道すじをより深く学び理解する
・保育園・乳児院における保育内容を学び、生活と遊びのスキルを身につける
・乳児を養育する保護者への思いとその援助の方法を身につける

《授業の到達目標》
・乳児保育Ⅰで学んだ0歳児～2歳児乳児の発達の道すじをより深く理解し、発達に沿う保育内容について学び実践力をつける
・乳児保育の指導計画作成し、適切な援助活動ができるようになる　・事例を通して多様な保育ニーズを知り、保護者支援について理解し実践力を身につける　・乳児保育を豊かに展開するための教材について学び、作成の技術を身につける

《成績評価の方法》
筆記試験　６０％
作品・課題レポート　３０％
授業態度　１０％

《テキスト》
『保育者が基礎から学ぶ乳児の発達』かもがわ出版
『保育所保育指針解説書』
『保育所資料２０１５』ミネルバァ

《参考図書》
『乳児の保育新時代』ひとなる書房
『保育園のおいしい離乳食』かもがわ出版
『子どもと楽しむ　手あそび　わらべうた』かもがわ出版
『よくわかる０～５歳児絵本読み聞かせ』チャイルド本社
『うきうきわくわく手づくりおもちゃ』かもがわ出版

《授業時間外学習》
・教科書、参考文献など、乳児を理解するために読む読んでおくこと
・配布資料は大切に保管し良く目を通しておくこと
・作品は完成度を意識して作成すること

《備考》
理由のない遅刻・欠席は認めない、私語は厳禁、
提出物は期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、履修上の諸注意 乳児の概念
2	発達のとらえ方	子どもの発達を理解する基本的視点
3	対人関係の土台をつくる	乳児前半の発達と保育の課題
4	対人関係の土台をつくる	乳児前半の発達と保育の課題
5	乳児期前半から後半への飛躍を大切に	乳児期後半（前期）の発達と保育の課題
6	乳児期前半から後半への飛躍を大切に	乳児期後半（前期）の発達と保育の課題
7	１歳半の節を超える力の芽生えを大切に	乳児期後半（後期）の発達と保育の課題
8	１歳半の節を超える力の芽生えを大切に	乳児期後半（後期）の発達と保育の課題
9	保育実践と発達相談	発達相談とは、保育実践における発達診断ん・発達診断
10	保育計画について	保育計画の構造 　保育課程と指導計画
11	指導計画	指導計画の構造 年間指導計画 月案　週案　日案　評価と反省
12	指導計画	指導案作成 ０歳児保育の指導案
13	指導計画	指導案作成 １歳児保育の指導案
14	指導計画	指導案作成 ２歳児保育の指導案
15	乳児を取り巻く現状と課題	家族、地域社会の現状と子育て支援 　家族援助・育児支援・地域の育児支援

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	障害児保育Ⅰ			科目ナンバリング	YK_S22013
担当者氏名	小林　洋司				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》
本授業では、障害について理解を深めるとともに、障害児保育の考え方と実践について学習する。

《授業の到達目標》
障害を多角的に考察することを通して、障害のある子どもに関する理解を深めるとともに、周囲の親、支援者等の役割や関わりについての理解できるようになる。

《成績評価の方法》
試験（50%）と小レポート（50%）によって評価します。

《テキスト》
適宜指示します。

《参考図書》

《授業時間外学習》
障害に関わるニュースや記事に気を配り、学習を深めておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法
2	障害児保育を学ぶ	障害児保育における大きな柱
3	障害児保育の歴史	障害児保育のなりたち
4	障害児保育を実践する人	保育者の立ち位置について
5	発達とは	子どもの発達について
6	障害についての理解と実際1	身体障害の理解
7	障害についての理解と実際2	身体障害児の保育
8	障害についての理解と実際3	知的障害の理解
9	障害についての理解と実際4	知的障害児の保育
10	障害についての理解と実際5	発達障害の理解
11	障害についての理解と実際6	発達障害児の保育
12	病気についての理解１	病児の理解
13	病気についての理解2	病児への支援
14	地域社会について	地域社会にある支援を概観する
15	学習のまとめ	本授業での学習を整理する

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	障害児保育Ⅱ			科目ナンバリング	YK_S22014
担当者氏名	小林　洋司				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

本授業の目的は、障害児保育の現状と課題等を踏まえながら障害を理解しようとする構えと、実践的な技能及び認識を高めることをめざして学習することである。

《授業の到達目標》

本授業では、障害という概念について多角的な理解を行うとともに、行政、地域レベルで行われている障害児の支援の在り方を学習することを通して保育者として障害児/者や彼らを取り巻く人々とどのように接し、行動することが必要であるかを理解することを目標とする。

《成績評価の方法》

試験（50%）と小レポート（50%）で評価する。

《テキスト》

適宜指示します。

《参考図書》

適宜案内します。

《授業時間外学習》

障害児者をめぐる課題について情報収集を行うこと

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意
2	障害の概念1	障害とは何か
3	障害の概念2	障害とイメージ
4	障害の概念3	障害と福祉
5	障害児保育の現状と課題1	福祉・教育
6	障害児保育の現状と課題2	保健・医療
7	障害児保育の現状と課題3	障害児保育と専門性
8	障害児の支援1	発達障害と虐待　－保育者としての対応－
9	障害児の支援2	発達障害と虐待　－関係機関との連携－
10	障害児の支援3	ケーススタディ①
11	障害児の支援4	ケーススタディ②
12	障害児を取り巻く人々の支援1	保護者の支援
13	障害児を取り巻く人々の支援2	きょうだいの支援
14	支援のための環境づくり	障害児が生活しやすい社会づくり
15	学習のまとめ	学習のまとめ

科目名	相談援助			科目ナンバリング	YK_S22015
担当者氏名	大西　雅裕				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や姿勢を身につけることが大切である。本演習では、講義とロールプレイやワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせて、援助者にとって必要な技能、技術を獲得することをめざす。

《授業の到達目標》
①相談援助の基本的な知識を身につける。
②保育場面においえて相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
③援助者として必要な実践力を身につける。

《成績評価の方法》
筆記試験　８０％
授業中に課すレポートと小テスト２０％
合計１００％

《テキスト》
赤木正典、大西雅裕「相談援助セミナー」建帛社

《参考図書》
橋本好市・直島正樹「保育実践に求められるソーシャルワーク」　ミネルヴァ書房
対人援助実践研究会編「７７のワークで学ぶ対人援助ワークブック」久美出版

《授業時間外学習》
講義については、資料を作成し配布いたします。そして授業にむけての予習及び復習を丁寧に行って下さい。

《備考》
授業では受け身ではなく、自分自身で考え、それを文字や言葉やその他の方法を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助とはなにか。また保育領域で、今日相談援助に求められていることはなにかについて、概観する
2	変化する子育て環境と相談援助	今日の子育て環境について考え、どのような相談援助が必要かについて考える
3	相談援助の体系	相談援助（ソーシャルワーク）の定義について学ぶ
4	ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの構成要素について学ぶ
5	対人援助の原則①	相談援助における対人援助の原則について学ぶ①
6	対人援助の原則②ソーシャルワーク実践の方法	原則について学ぶ② ソーシャルワーク実践の方法と技術について学ぶ
7	事例でみるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク実践の方法を事例を通して考える
8	ソーシャルワークの構成要素展開過程	ソーシャルワーク実践がどのようの展開過程で行われるのかを学ぶ
9	相談援助の価値	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ
10	相談援助の技術や技法と自己覚知	自己覚知とその必要性について実践的に学ぶ
11	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関、施設とその担い手について学ぶ
12	コミュニケーション面接技法①	コミュニケーション技法としてのノンバーバルコミュニケーションについて学ぶ
13	コミュニケーション面接技法②	コミュニケーション技法としてのバーバルコミュニケーションについて学ぶ
14	コミュニケーション面接技法③	面接技法について学ぶ
15	学習のまとめ及び筆記試験	相談援助についてのまとめを行い、保育士として必要となる相談援助技法、技術についてまとめる

科目名	社会的養護			科目ナンバリング	YK_L22017
担当者氏名	藤本　政則				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
今日の子育て家庭の全体的な状況を説明し、社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景等を理解する。また社会的養護体系についても説明し、保育所以外の児童福祉施設の役割やその養護の実際について理解する。さらにそこでの援助者としての役割についても理解する。

《授業の到達目標》
保育所以外の児童福祉施設における処遇を体系的に理解する。

《成績評価の方法》
下の２方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「１」が３割、「２」が７割とする。
1.授業態度、単位取得に対する意欲等の評価。2.筆記試験による評価（単位取得に必要な知識等を評価。試験問題は主に語句説明ならびに論述問題によって構成）。

《テキスト》
『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《参考図書》

《授業時間外学習》
毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《備考》
各講義の開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護とは	社会的養護の概念と概要について学ぶ。
2	家庭や社会の役割①	子どもにとって家庭や社会の役割について考える。
3	家庭や社会の役割②	社会の役割と児童養護について考える。
4	社会的養護を必要とする子どもたち	児童相談所や児童福祉施設などからの支援を必要とする子どもや家庭について理解する
5	児童養護の歴史①－欧米の児童養護の変遷－	欧米における児童養護の変遷を理解する。
6	児童養護の歴史②－日本の児童養護の変遷－	日本における児童養護の変遷を理解する。
7	児童養護の領域－養護系施設①－	児童養護施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
8	児童養護の領域－養護系施設②－	乳児院、母子生活支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
9	児童養護の領域－障がい系施設①－	知的障害児施設や盲ろうあ児施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
10	児童養護の領域－障がい系施設②－	肢体不自由児施設や重症心身障害児施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
11	児童養護の領域－その他の施設①－	児童自立支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
12	児童養護の領域－その他の施設②－	情緒障害児短期治療施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
13	家庭養護としての里親養育①	家庭養育の代表としての里親養育についての基礎知識を習得する。
14	家庭養護としての里親養育②	里親養育の実際を学び、その意義と課題について習得する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	社会的養護内容			科目ナンバリング	YK_S22018
担当者氏名	藤本　政則				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎　3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》
乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。特に近年深刻化する児童虐待問題に関する内容に重点を置きたい。

《授業の到達目標》
児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《成績評価の方法》
下の２方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「１」が４割、「２」が６割とする。
1.授業態度、授業レポート、保育士資格取得に対する意欲等の評価。
2.筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）

《テキスト》
なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》
『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業時間外学習》
毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《備考》
各講義の開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭や社会の役割	今日の子育て家庭をめぐる現状を理解する。
2	社会的養護を必要とする子どもたち①	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
3	社会的養護を必要とする子どもたち②	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
4	児童虐待とは①	児童虐待の定義や実態を学ぶ。
5	児童虐待とは②	児童虐待の発生要因について考える。
6	児童虐待への対応①	児童虐待への対応の全体像を理解する。
7	児童虐待への対応②	児童虐待への対応における初期対応（発見・通告）を理解する。
8	児童虐待への対応③	児童虐待への対応における初期対応（通告・通知）を理解する。
9	児童虐待への対応④	児童虐待への対応における児童相談所の役割（調査・診断）を学ぶ。
10	児童虐待への対応⑤	児童虐待への対応における児童相談所の役割（一時保護・施設入所）を学ぶ。
11	虐待を受けた子どもの特徴	虐待を受けた子どもの心理行動的特徴を理解する。
12	虐待を受けた子どもの施設ケア①	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアのあり方を理解する。
13	虐待を受けた子どもの施設ケア②	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアの実際を学ぶ。
14	虐待を受けた子どもの施設ケア③	虐待を受けた子どもの家族再統合の為の支援や社会的自立支援のあり方について理解する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

科目名	こどもの保健ⅠA			科目ナンバリング	YS_L22004
担当者氏名	久井　志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
子どもの健康について、身体面、精神面、社会面から理解し、専門職者としてどのように関わっていくのが望ましいのかを考える力をつける。

《授業の到達目標》
1.心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2.身体発育や生理・運動・精神機能の発達と保健を理解する。
3.疾病とその予防法、適切な対応について理解する。
4.精神保健とその課題について理解する。
5.保育における環境、衛生・安全管理について理解する。
6.施設等における子どもの心身の健康・安全の実施体制を理解する。

《成績評価の方法》
筆記試験100%（中間50%・後半50%）

《テキスト》
子どもの保健（中山出版）

《参考図書》
適宜指示します。

《授業時間外学習》
適宜指示します。

《備考》
—

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と保健の意義	子どもを対象にした保健活動の意義について理解する。健康とは何か、子どもにとっての健康について考えることができる。
2	子どもの発育	各期の発育と課題について理解する。
3	子どもの発達	各期の発達と課題について理解する。
4	子どもの栄養	成長による栄養の変化を理解する。
5	生活と健康	生活と健康の関係について理解する。
6	起きやすい事故と予防	事故防止について理解する。
7	遺伝と健康	遺伝と健康の関係について理解する。
8	諸症状と対処	諸症状と関連疾患、対処方法について理解する。
9	前半のまとめ	中間テスト
10	主な疾患	感染症について理解する。
11	主な疾患	感染症について理解する。
12	主な疾患	予防接種について理解する。
13	主な疾患	免疫、アレルギーについて理解する。
14	主な疾患	慢性疾患ついて理解する。
15	後半のまとめ	まとめ、筆記試験

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもの保健ⅠＢ			科目ナンバリング	YS_L22005
担当者氏名	久井　志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》
子どもの健康について、身体面、精神面、社会面から理解し、専門職者としてどのように関わっていくのが望ましいのかを考える力をつける。

《テキスト》
こどもの保健（中山出版）

《参考図書》
適宜指示します。

《授業の到達目標》
1. 子どもの精神保健とその課題について理解する。
2. 保育における環境、衛生・安全管理について理解する。
3. 施設等における子どもの心身の健康・安全の実施体制を理解する。

《授業時間外学習》
課題を行い、期限内に提出する。

《成績評価の方法》
・筆記試験：60%
・課題：40%

《備考》
—

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの生活環境	子どもの生活環境と保健の関係について理解する。
2	子どもの精神保健	子どもの精神保健の特徴について理解する。
3	子どもの心の健康づくり	子どものメンタルヘルスの課題について考えることができる。
4	事例①	子どもの精神保健に関する事例を基に健康を考える。 ・拒食症
5	事例②	子どもの精神保健に関する事例を基に健康を考える。 ・発達障害
6	事例③	こどもの慢性疾患について事例を基に考える。
7	地域における子育ち支援活動	行政以外で行われている子育ち支援活動について理解する。 中間テスト
8	子どもと環境	子どもにとっての健康な環境について考えることができる。
9	子どもと衛生	子どもにとっての衛生について考えることができる。
10	子どもと安全管理	子どもにとっての安全について考えることができる。 ・熱中症対策
11	健康及び安全の実施体制 ①職員間	健康及び安全の実施体制について、各関係者でのあり方について理解する。
12	健康及び安全の実施体制 ②家庭・地域連携	健康及び安全の実施体制について、各関係者でのあり方について理解する。
13	生活習慣	自分自身の健康管理について考える。
14	ディスカッション①	子どもの健康についての現状と課題について考える。
15	ディスカッション②	子どもの健康についての展望について考える。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもの保健Ⅱ			科目ナンバリング	YS_S22006
担当者氏名	久井　志保				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
子どもの発育・発達・健康について正しい知識を身につけることができるように、講義と演習を通し学習する。

《授業の到達目標》
1.子どもの発育について正しい知識を身につける。
2.子どもの発達について正しい知識を身につける。
3.子どもの健康について正しい知識を身につける。
4.子どもの健康支援の具体的な技術を身につける。

《成績評価の方法》
筆記試験　60%
課題　40%

《テキスト》
これならわかる！子どもの保健演習ノート（診断と治療社）

《参考図書》
適宜指示する

《授業時間外学習》
別途指示する。

《備考》
スキルを身につけるように、積極的に学習してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発育、生理機能	子どもの発育の過程と測定方法の知識を理解する。健康な子どもの状態について理解する。
2	子どもの発育測定	＜演習＞実際にモデルを用いて測定を行う。演習後レポートを書き学びを振り返る。
3	バイタルサインの測定	＜演習＞正しくバイタルサインを測定することができる。
4	手洗い保健指導①	＜演習＞正しい手洗い方法について理解する。
5	手洗い保健指導②	＜演習＞正しい手洗い方法を指導することができる。
6	口腔保健	＜演習＞歯磨き指導を行うことができる。
7	喫煙による健康影響	喫煙による健康影響について理解することができる。
8	子どもの保育環境づくり①	施設環境、生活スペース、健康を守る環境づくりについて理解する。
9	子どもの保育環境づくり②	＜演習＞防煙活動を理解し、指導ができる。
10	子どもに起こりやすい外傷	発育発達と合わせて発生しやすい事故とその予防方法について理解する。子どもに起こりやすい外傷の種類と症状、ケガの処置について理解する。
11	応急処置	重症のケガに対する応急処置の種類と対処方法について理解する。
12	応急処置の実際①	＜演習＞子どもを対象にした外傷に対する対応を学ぶ。演習後レポートを書き学びを深める。
13	応急処置の実際②	＜演習＞子どもを対象にした骨折・捻挫の対応を学ぶ。演習後レポートを書き学びを深める。
14	応急処置の実際②	＜演習＞子どもを対象にした心肺蘇生法の実際を学ぶ。演習後レポートを書き学びを深める。
15	まとめ	全体の振り返り、筆記試験

科目名	こどもと健康			科目ナンバリング	YS_S22009
担当者氏名	近藤　正子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する 〇　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む 〇　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》
子どもの生活習慣病など、現代の子どもの健康に様々な問題が取り上げられている。保育実践者として、子どものからだとこころの健康的な成長を促す保育に必要な知識と技術について学ぶ。本授業では、「書く」ことで自ら考える力を養い、また、グループワークを重視し、他者と意見を交わすことで柔軟な思考力を高めることも目的とする。

《授業の到達目標》
〇「健康」とは何かについて、深い理解を持つ。
〇子どものこころとからだの健康をささえる保育とはどのようなものか、自然や行事、遊びや運動など様々な観点から保育計画をたてることが出来る。

《成績評価の方法》
(1) 定期試験60%（テキストの持ち込みは不可、必要な資料については事前に指定する）(2) 平常点30%（学習準備や課題への取り組み、提出物、グループワークでの積極性等）(3) その他10%（授業参加態度、受講態度）

《テキスト》
『保育内容「健康」』高内正子他編、保育出版社

《参考図書》
随時、授業内で推薦する。

《授業時間外学習》
日頃から「健康」に関する時事問題について意識を高めて情報を収集しておくこと。授業内で折に触れて確認する。また、グループワーク前には課題を出すので、十分な準備をしておくこと。

《備考》
子どもの「健康」を理解するためにまず、自分自身の健康に対する意識を高めておくことが必要である。日々の健康的な生活を心がけることを望む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス･領域「健康」とは	領域「健康」、基本的生活習慣、成長曲線、少子化時代
2	保育行事と子どもの健康 ①伝統的民族行事	年中行事、通過儀礼、ハレとケ、代表的な伝統行事の由来
3	保育行事と子どもの健康 ②保育行事	保育行事の分類、年間行事計画、代表的な保育行事
4	食生活と子どもの健康① 現代の子どもの食生活	現代の子どもの食生活、朝食の役割、好き嫌い
5	食生活と子どもの健康② 子どもの食事、おやつ	食物アレルギー、子どもの生活習慣病、おやつ
6	自然環境と子どもの健康	自然の中での遊びと学び、園の内外の自然、天候･気候、動物の飼育
7	子どもの遊びと健康	バーテンの遊びの分類、昔遊び、室内遊び、集団遊び
8	子どもの運動指導の実際 ①発達、体力･運動能力	基本的動作、運動能力テスト、調整力テスト、体力の概念
9	子どもの運動指導の実際 ②運動指導の実際	土踏まずの形成、基本的運動技能の発達、運動能力
10	子どもの運動指導の実際 ③運動指導実践	様々な運動遊び（ボール、縄、鉄棒、マット、プールなど）サーキット遊び
11	子どものこころの健康① 子どものこころの発達	こころの発達、養育態度、マズローの欲求階層説、問題行動の理解
12	子どものこころの健康② 子どものストレス反応	虐待、愛情遮断症候群、子どもの権利条約、虐待の早期発見に向けて
13	子どもと性･いのち	性教育、性同一性、性意識の発達、「死」の教育
14	子どもの安全教育	子どもの事故、リスクマネジメント、安全教育、安全管理、避難訓練、交通安全教育
15	まとめ	幼稚園教育要領、健康とは、指導計画に活かす

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと人間関係			科目ナンバリング	YS_S22010
担当者氏名	鎮　朋子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2　こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-2　こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　3-1　集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ◎　3-3　質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

授業は乳幼児期の人間関係の発達段階を理解することから始める。特に「あそび」の役割と子どもの発達について学びを深める。また、保育者間の人間関係、保育者と保護者間の人間関係にも焦点を当てて保育者自身の人間関係について考察する。講義はテキストからの学びと、事例検討やグループ討議、人間関係を育む具体的なあそびの立案をしながら進めていく。

《授業の到達目標》

子こもは日々繰り返される生活の中から、多くのことを吸収しながら成長していく。特に乳幼児期からの人とのかかわりは、子どもの発達に大きな影響を及ぼす。本講義では乳幼児期の人間関係の発達過程を理解するとともに、「あそび」を通した人間関係のあり方と保育者の役割を理解する。

《成績評価の方法》

平常点30％提出物等20％、レポート50％

《テキスト》

保育内容人間関係　　小田豊・奥野正義著　　北大路書房 2009

《参考図書》

《授業時間外学習》

様々な場で出会うこどもの姿を観察する視点を養う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション　授業概要の説明
2	育内容人間関係の目指すもの	保育内容人間関係の目指すものは何なのか。歴史的変遷を見ながら学ぶ。
3	乳幼児期の発達と人間関係	乳幼児期における人間関係の発達を学ぶ。
4	あそびと人間関係①乳児期	乳児期におけるあそびと保育者のかかわりについて学ぶ。
5	あそびと人間関係②幼児期	幼児期におけるあそびと保育者のかかわりについて学ぶ。
6	子どもの姿から考える	こどもの姿から、保育者としてのかかわりを考える（事例検討）。
7	子どもの姿から考える	こどもの姿から、保育者としてのかかわりを考える（事例検討）。
8	保育者の人間関係	人とかかわる対人援助職としての保育者自身の自己を見つめる、洞察を深める。
9	保育者間の人間関係	保育者間の人間関係について考え、よりよい職場環境の形成について考える。
10	保育者と保護者の人間関係	保護者との人間関係について考え、連携について考察を深める。
11	保育者と地域・関係機関との人間関係	地域の人、機関との連携や日常的かかわりについて学ぶ。
12	あそびの立案	子どもの人間関係を育むあそびについて立案する。
13	あそびの実践	子どもの人間関係を育むあそびを実践する。
14	あそびの振り返り	立案・実践したあそびについて振り返りを行う。
15	まとめ	子どもの人間関係を育むとはどのようなことなのか、授業を振り返り考察する。

科目名	こどもと音楽表現			科目ナンバリング	YS_S22013
担当者氏名	中島　龍一				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
子ども教育者として望ましい姿勢は、活動の結果や技術的な面ばかりに目を向けるのではなく、子どもの表現しようとする意欲を受け止め、表現する喜びを共に育てていかなくてはならない。また、教育現場が多様化している現在、様々な状況の中で、子ども一人一人に偏りなく接していかなければならない。これらのことを踏まえて、音楽を多角的に捉える力を養い、それを更に広げていく研究を行う。

《授業の到達目標》
○多くのこどもの歌を弾き、うたうことができる。
○こども教育者として必要とされる音楽の基礎知識と応用技術能力を身につけることができる。
○「歌・言葉・遊び」を融合した音楽表現ができる。
○様々な音楽を総合的に捉え、臨機応変に使うことができる。

《成績評価の方法》
実技・課題提出点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》
①おんがく玉手箱［新規テキスト］
②Cookin' Music ［新規テキスト］
③うたのメルヘン（1年次で購入済）　以上、共同音楽出版社

《参考図書》
資料等は、必要に応じて配布・指示する。

《授業時間外学習》
授業で学び得たことを自分のものとして理解し、実践できるよう復習する。

《備考》
①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
②室内での飲食厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容の説明、子どもの歌とその表現法について。
2	うたうことの大切さ(1)	春の歌。テキストからできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
3	うたうことの大切さ(2)	夏の歌。テキストからできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
4	うたうことの大切さ(3)	秋の歌。テキストからできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
5	うたうことの大切さ(4)	冬の歌。テキストからできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
6	歌と表現(1)	２才児以下に使える手遊びや音楽表現法を学ぶ。
7	歌と表現(2)	２才児以下に使える手遊びや音楽表現法を学ぶ。
8	歌と表現(3)	簡単にできる手話による歌や音楽表現法を学ぶ。
9	歌と表現(4)	ストーリー性のあるこどもの歌の手話等による音楽表現法を学ぶ。
10	歌と創作(1)	子どもの歌による創作絵本の作成。選曲、うたい込み、素材の考案。
11	歌と創作(2)	子どもの歌による創作絵本の作成。ページの割り振り、コンテ作成。
12	歌と創作(3)	子どもの歌による創作絵本の作成。総合作成実践。
13	歌と創作(4)	子どもの歌による創作絵本の作成。色塗り等の仕上げ。
14	歌と創作(5)	子どもの歌による創作絵本の作成。作成物の実践演習。
15	研究発表と総まとめ	音楽表現による個人研究発表。

科目名	こどもと言語表現			科目ナンバリング	YS_S22015
担当者氏名	前田　美智代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

本講では、人間の言葉の獲得についての基本的な知識を習得する。また、保育の場において子どもの言葉の育ち・言語表現の望ましいあり方を支援するための保育者に求められる具体的な活動や態度について、事例や実践を取り入れながら学ぶ。

《授業の到達目標》

・子どもの言語表現を豊かに支援する方法・技術が習得できる。
・子どもの発する言語から子どもの内面理解が深まる。
・教職（保育）に対する自らの適性を探求し、実践者としての意欲を高めることができる

《成績評価の方法》

①授業内討議や発表などへの参加・態度と成果20%
②レポート課題等の提出30%（提出遅れは減点）
③筆記テスト50%

《テキスト》

保育内容「言葉」柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編　ミネルヴァ書房

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省
『保育所保育指針』厚生労働省

《授業時間外学習》

・適宜課題を出すので、課題について深く考えたり、調べたりすること。
・授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめておくこと。

《備考》

・子どもの話し言葉に耳を傾ける習慣を身に着ける。
・豊かな言葉を聞いたときは、メモを取っておく
・絵本や童話等をよく読みこなす。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法等のガイダンス。
2	言葉の果たす役割	人間にとっての言葉の果たす役割について理解する。
3	領域「言葉」について	領域「言葉」についての基本的な考え方を理解し、子どもにとっての言葉の獲得の意義を知る。
4	言葉の発達過程	子どもは誕生時からどのように言葉を獲得するのか、子どもの発達の過程と言葉のかかわりについて学びを深める。
5	言葉の発達①	言葉の発達のとらえ方と子どものかかわりについて学ぶ。（乳児）
6	言葉の発達②	言葉の発達のとらえ方と、子どもかかわりについて学ぶ。（幼児）
7	言葉と人間関係	言葉の育ちにかかわる諸課題をとらえ、言葉と人間関係・コミュニケーションについて学ぶ。
8	言語表現と身体表現	乳幼児期には、言語表現の前に身体による表現がよく見られる。言語表現と身体表現のかかわりを探りながら乳幼児の内面を探る手法を習得する。
9	豊かな言語表現を育む①	豊かな言語表現を支える保育者の役割について、保育の場における実践例を挙げながら援助の仕方を学ぶ（乳児への語りかけ）
10	豊かな言語表現を育む②	豊かな言語表現を支える保育者の役割について、保育の場における実践例を挙げながら援助の仕方を学ぶ（幼児への語りかけ）
11	言葉を育む活動①（素話）	各自が乳幼児に向けた素話を作成する。豊かな言葉表現に力点を置きながら、素話が作成できる力量を付ける。
12	言葉を育む活動②（かるた）	かるた作りを通して子どもが言葉の意味を理解したり、親しみが持てるための伝え方や読み方を学ぶ。
13	言葉を育む活動③（絵本）	絵本を通して子どもがその言葉の内容を理解し、話の世界・情景等を感じ取れる指導法をさぐる。
14	言葉を育む実践④（歌唱）	豊かな言葉で表現されている童謡やわらべ歌等について、その内容を理解し子どもへの歌唱指導や歌遊びへの指導法を知る。
15	まとめ	これまでの授業のまとめ

科目名	こどもと生活			科目ナンバリング	YS_L22024
担当者氏名	安藤　和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
こどもが具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技術を身に付けさせ、自立への基礎を養うことについて解説する。

《授業の到達目標》
・こどもを取り巻く生活環境などについて理解する。
・こどもと生活について、多面的に理解する。
・こどもへの危機管理について理解する。

《成績評価の方法》
定期試験　80%　　　　　出席状況　20%

《テキスト》

《参考図書》
随時紹介

《授業時間外学習》
次回の授業範囲を予習し専門用語の意味等をノートに整理して理解しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	こどもの生活実態（1）	実態調査からみるこどもの生活実態
2	こどもの生活実態（2）	実態調査からみるこどもの生活実態
3	こどもの生活	現代社会とこどもの生活
4	こどものしつけ	しつけの意義、しつけの方法、しつけと虐待
5	こどもの生活リズム	現代のこどもの生活リズム
6	子供の遊び	遊びの意義、現代のこどもたちの遊びの特徴
7	こどもの家庭生活	基本的生活習慣
8	こどもの社会生活	地域の子育て支援、こどもと地域のつながり
9	こどもの生活と行事	こどもの生活と春の行事
10	こどもの生活と行事	こどもの生活と夏の行事
11	こどもの生活と行事	こどもの生活と秋の行事
12	こどもの生活と行事	こどもの生活と冬の行事
13	こどもの生活とメディア	こどもとメディアの活用について
14	こどもと生活の課題	こどもと生活の課題
15	こどもと生活の展望	こどもと生活の展望

科目名	こども文化論Ⅱ			科目ナンバリング	YS_S22026
担当者氏名	高橋　司				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
さまざまなこども文化財を保育活動の中で展開できるように概説するとともに、自らもこども文化財の創作を試み、発表（模擬保育）を通して、こども文化の精神（こころ）養う。

《授業の到達目標》
こどもの健全育成に資するこども文化財の高いスキルを習得するとともに、保育者としての感性や創造性を育む。

《成績評価の方法》
定期試験　５０％　創作作品・発表内容　５０％

《テキスト》
『児童文化と保育』高橋司　宮帯出版社

《参考図書》
『乳幼児のことばの世界』　高橋司　宮帯出版社
『童話の語り発達史』　勢家肇・高橋司ほか　海鳥社
『パネルシアター保育・実践講座』　高橋司　大東出版社

《授業時間外学習》
日頃からこどもの歌や遊びに興味・関心をもつ人でいてほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代のこどもの生活とこども文化	現代におけるこども文化の重要性
2	こども文化の精神	創作への心構え
3	こども文化を創る1（パネルシアター）	グループ分けして企画
4	こども文化を創る1（パネルシアター）	作品の選択、創作
5	こども文化を創る1（パネルシアター）	創作・練習
6	模擬保育	グループごとの発表・評価
7	こども文化を創る2（エプロンシアター）	グループ分けして企画
8	こども文化を創る2（エプロンシアター）	作品の選択・創作
9	こども文化を創る2（エプロンシアター）	創作
10	こども文化を創る2（エプロンシアター）	創作・練習
11	模擬保育	グループごとの発表・評価
12	おはなしを語る1	素話の素材の探究
13	おはなしを語る2	３歳児クラスと仮定して素話を実演
14	こども文化の現状と課題	あそび文化の衰退をこどもの危機と捉える
15	こども文化Ｑ＆Ａ	こども文化についての質疑応答

科目名	保育課程総論		科目ナンバリング	YS_L12006
担当者氏名	藤井　恵美子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》
教育･保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を学修します。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成ができることを目的とします。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し､子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養います。

《授業の到達目標》
○教育課程･保育課程の全体構造や具体的な編成等を知る。
○保育を巡る諸課題を情報収集し、保育に対する基本を理解した上で、子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する指導計画を作成する。
○保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性との関係について学ぶ。

《成績評価の方法》
(1) 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果　20%
(2) レポート課題等の提出物　30%
(3) 筆記テスト　50%

《テキスト》
『保育課程論』民秋 言、無藤 隆（編）北大路書房　2011

《参考図書》
『幼稚園教育要領』　文部科学省、　2008
『保育所保育指針』　厚生労働省、　2008
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府　2014
『人の教育』小原國芳　荘司雅子（監修）
玉川大学出版部　1976

《授業時間外学習》
(1) 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に教科書をよく読んでおくこと。
(2) 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめること。

《備考》
・幼稚園･保育所･認定こども園などに関する情報（新聞、ニュースなど）を常に意識して収集しておく。
・教科書は必ず持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 保育とは何か	授業の目的、内容、方法、評価について知る。「保育とは何か」について考え、幼児時代を振り返ることで授業への興味・関心・意欲を持つ。
2	教育課程･保育課程の意義	教育課程や保育課程の編成と、指導計画や保育の展開との関係について説明することができる。
3	幼児期の遊びと学び	なぜ、幼児期の遊びが大切なのかを説明することができる。
4	保育内容の変遷と教育課程	日本の保育の歴史において保育計画の考え方がどのように変遷してきたのか、まとめることができる。
5	幼稚園における教育課程（１）	1956年から2008年までの幼稚園教育要領における教育課程の編成についての考え方を説明することができる。
6	幼稚園における教育課程（２）	幼稚園の教育課程と保育所の保育課程の共通点と相違点について説明ができる。
7	保育所における保育課程（３）	保育所の子どもの1日の生活と幼稚園の子どもと比べ、違うところはどんなことか、また、その違いから、必要な保育上の配慮事項について説明することができる。
8	教育課程・保育課程の編成と実際	さまざまな園の教育課程・保育課程から、それぞれの園の特性がどのように表れているか調べて説明することができる。
9	教育課程･保育課程の実施と指導計画作成 (1)	教育課程・保育課程と指導計画の関係について説明することができる。
10	教育課程・保育課程の実施と指導計画作 (2)	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について説明することができる。
11	幼稚園における指導計画作成の実際（１）	毎日の「日案」の記録をどのように「週案」に生かしていくかを説明することができる。
12	保育所における指導計画作成の実際(2)	長期の指導計画を立案する際に保育所や地域の実態、園の乳幼児の実態をどのような視点で把握したらよいかを考えることができる。
13	保育における評価	保育におけるさまざまな評価について説明ができる。（幼稚園・学校評価、教育課程の評価、日々の保育の評価）
14	教育課程･保育課程の課題と展望	本講義で学んできたことをもとに、自分が考える教育課程・保育課程について論じることができる。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容と得られた知見とその成果を保育実践の場で生かすことができる。

科目名	保育内容総論			科目ナンバリング	YS_S22007
担当者氏名	澤田　真弓				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
テキストや資料、具体的事例を基に幼児理解を深め、保育活動の組み立てに関する講義を行う。実践演習と省察を通して保育技術を培う。

《授業の到達目標》
○保育内容を総合的にとらえ考察する視点を養う。
○保育活動の計画・展開・評価について具体的事例や演習を通して理解を深める。
○保育の現代的課題について自分なりの問題意識を明確にする。

《成績評価の方法》
受講態度（20%）、課題提出物等（20%）、模擬保育（30%）、筆記試験（30%）の総合評価。課題の提出は期限厳守。

《テキスト》
民秋言他『保育内容総論』北大路書房　　文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館　　厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館

《参考図書》
授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》
予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の内容と特性、目標を理解する。
2	幼児理解	幼児理解を深めるための視点について考察する。
3	保育内容の歴史的概観	保育内容の歴史的変遷を理解し、現代保育の位置づけを考察する。
4	子どもの生活と遊び	保育における子どもの生活、遊びが持つ意味を考察する。
5	領域と保育内容	領域の特性を理解し、保育内容との関連について考察する。
6	保育内容の計画	活動計画の意義と方法を理解する。
7	活動の展開と保育における指導の特質	保育における指導の特質を理解し、活動計画立案の視点を獲得する。
8	保育の評価と記録	評価及び記録の意義と方法を理解する。
9	事例研究…室内活動	視聴覚教材を用いた実践例を通して、これまでに学んだことの整理と総括を行う。
10	事例研究…戸外活動	視聴覚教材を用いた実践例を通して、これまでに学んだことの整理と総括を行う。
11	模擬保育の実施と反省（３歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
12	模擬保育の実施と反省（４歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
13	模擬保育の実施と反省（５歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
14	保育の現代的課題	現代の保育を取り巻く様々な課題について、各自の問題意識を明確にする。
15	まとめ	授業全体のまとめ

科目名	教育心理学			科目ナンバリング	YS_L22009
担当者氏名	松田　信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
人は生まれてから実にたくさんのことを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》
教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》
定期試験の評価100%。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》
『やさしい教育心理学[第３版]』　鎌原雅彦・竹綱誠一郎(著)　有斐閣　2012
『絶対役立つ教育心理学　－実践の理論、理論を実践－』　藤田哲也（編著）　ミネルヴァ書房　2007
『よくわかる発達障害　第2版』　小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房　2010

《授業時間外学習》
参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》
授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	学習の心理学～その１	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。
3	学習の心理学～その２	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
4	学習への動機づけ～その１	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
5	学習への動機づけ～その２	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
6	記憶の心理学～その１	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その２	効果的な記銘の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。
9	学級集団の理解	リーダーシップと集団への同調現象について学ぶ。
10	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
11	発達の基礎の理解	発達の規定因としての遺伝要因と環境要因との相互作用について学ぶ。
12	子ども時代の発達の理解～その１	子ども時代の人間関係の発達について学ぶ。
13	子ども時代の発達の理解～その２	子ども時代の知的能力の発達について学ぶ。
14	青年期の発達の理解	思春期・青年期の心理的特徴について学ぶ。
15	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。

科目名	幼児理解			科目ナンバリング	YS_L22010
担当者氏名	松田　信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》
子どもの内面世界を理解し子どもの心に寄り添うための多様な方法について学ぶ。また子どもの内面を理解したうえで子どもの成長と保護者による子育てに対してどのような支援の仕方があり得るのかについても考えていく。

《授業の到達目標》
○子どもの内面世界を理解することの重要性について理解すること。
○子どもの内面世界を理解するための方法について熟知すること。
○子どもの健全な発達のために保護者支援が必要であることを理解し、保護者支援のあり方について理解を深めること。

《成績評価の方法》
・授業時間内に課す「ミニレポート」に対する評価　70％
・学期末に課す「まとめのレポート」に対する評価　30％
・レポートは提出期限を厳守しなければ採点対象とならない。

《テキスト》
『新・保育講座③　幼児理解と保育援助』
森上史郎・浜口順子（編）　ミネルヴァ書房　2003

《参考図書》
『子ども理解と援助　－子ども・親とのかかわりと相談・援助の実際－』　名倉啓太郎（監修）　寺見陽子（編著）
保育出版社　2004

《授業時間外学習》
幼児教育や保育に関わる新聞報道などにも関心を持ち、子どもと子どもを取り巻く環境についての認識を深めてもらいたい。子どもを観察したり、子どもと関わる機会を作ったりすることで、子どもの内面に目を向けることを習慣化していこう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児理解の必要性	子どもの目に見える行動を把握するだけではなく、内面世界に目を向けることで行動の意味を理解することがいかに重要かを理解する。
2	子どもの発達の理解	幼稚園教育要領を題材にし、幼児の特性と幼児期の発達の特徴を確認する。
3	子どもの内面の理解	子ども時代の様々なエピソードを受講学生から収集し、そのエピソードを題材として子どもの心の動きを理解し子どもに寄り添うための練習をする。
4	子どもの内面の理解	絵本に描かれた子どもの姿から、子どもの内面世界を理解する。
5	子どもの内面を理解するための方法	実習日誌に記録された子どもの姿から、子どもの内面世界を理解する。
6	子どもの内面を理解するための方法	子どもと関わりつつ観察することによって浮かび上がってくる子どもの内面世界を理解する。
7	子どもの内面を理解するための方法	描画や歌などの子どもによる自己表現を通して、子どもの内面世界を理解する。
8	子どもの内面を理解するための方法	子どもの理解を妨げる要因としてのステレオタイプについて学ぶ。
9	子どもの理解と援助	子どもを理解し援助する上で不可欠となるカウセリングマインドについて理解する。
10	子どもの理解と援助	遊びを主とした子どもと保育者との関わりを通じて、子どもがどのように育つのかを理解する。
11	子どもの理解と援助	子どもの気になる行動をどう理解し、どのように対処していけばよいかを事例を通して考える。
12	子どもと子育てを取り巻く現状の理解	子育てを取り巻く現代的課題について理解する。
13	保護者支援のありかた	保育者と保護者との間に信頼関係を構築することの必要性を理解し、保育者と保護者との間に信頼関係を構築するためにとり得る方策について学ぶ。
14	保護者支援のありかた	保護者支援の実際を様々な事例から理解する。
15	まとめ	授業を通して理解したことを総括する。

科目名	音楽教育			科目ナンバリング	YS_S22018
担当者氏名	中島　龍一				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》
こども教育者として望ましい姿勢は、活動の結果や技術的な面ばかりに目を向けるのではなく、こどもの表現しようとする意欲を受け止め、その喜びを共に育てていかなくてはならない。また、教育現場が多様化している現在、様々な状況の中でこども一人ひとりに偏りなく接していかなければならない。このことを踏まえて、我が国における音楽教育の歴史を紐解き、音楽を通して子どもに教育を施すための技術を実践の中で学ぶ。

《授業の到達目標》
○こどもの歌を、年齢や状況に応じて導入部分から使い分けることができる。
○幼児教育者として必要とされる音楽の基礎知識と技術能力を身につけることができる。
○教育的な面での「音楽」へのアプローチの仕方、考え方を身につけることができる。
○様々な音楽を総合的に捉え、臨機応変に使うことができる。

《成績評価の方法》
実技・課題提出点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》
①おんがく玉手箱［新規テキスト］
②Cookin’Music ［新規テキスト］
③うたのメルヘン（1年次で購入済） 以上、共同音楽出版社

《参考図書》
資料等は、必要に応じて配布・指示します。

《授業時間外学習》
授業で学び得たことを自分のものとして理解し、実践できるよう復習する。

《備考》
①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
②室内での飲食厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容の説明と音楽実践。
2	こどもの歌・年齢とその導入法(1)	１～２才児。
3	こどもの歌・年齢とその導入法(2)	３～４才児。
4	こどもの歌・年齢とその導入法(3)	４～５才児。
5	こどもの歌・年齢とその導入法(4)	５才児以上。
6	音楽教育の歴史(1)	大正～明治時代。（わらべうたを中心として）
7	音楽教育の歴史(2)	昭和～平成時代。（唱歌を中心として）
8	音楽教育の歴史(3)	西洋の音楽教育事情について。
9	ドラムジカ演習(1)	ドラムジカの説明と準備。
10	ドラムジカ演習(2)	テーマ、使用曲選曲、台本作成等。
11	ドラムジカ演習(3)	台本作成、読み合わせ、小・大道具作成。
12	ドラムジカ演習(4)	実践練習。
13	ドラムジカ演習(5)	実践練習とリハーサル。
14	ドラムジカ演習(6)	ドラムジカ実践発表会と講評。
15	総まとめ	音楽教育の総合復習。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育相談支援Ⅰ			科目ナンバリング	YS_S22022
担当者氏名	渡邊　慶一				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》
保育者は子ども家庭福祉の最前線に立つ者として、子どもに対する生活支援や遊びへの支援（保育技術）のみならず、保護者の立場に寄り添った支援（保育相談支援）をも視野に入れた幅広い役割が求められている。本授業は、保育の特性をいかした保護者支援のあり方について、演習形式の授業を交えながら基本的知識および技能の獲得を目指す。

《授業の到達目標》
１．保育相談支援の意義と原則について説明することができる。
２．保護者支援の基本的技能について修得する。
３．保育相談支援の実際を学び、基礎を応用につなげていく視点を理解する。

《成績評価の方法》
「定期試験　５０％」「授業中に課すレポート３０％」「授業の前半で実施する小テスト２０％」により評価する。
欠席が授業回数の1/3を超えた時点で評価の対象としません。また、遅刻についても厳正に評価します。

《テキスト》
小原敏郎・橋本好市・三浦主博編『学ぶ・わかる・みえる　シリーズ保育と現代社会　演習・保育と保護者への支援―保育相談支援』みらい

《参考図書》
立花直樹・安田誠人・波田埜英治編著『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房
橋本好市・直島正樹編著『保育実践に求められるソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
柏女霊峰・橋本真紀編著「保育相談支援」ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》
レジュメプリントやワークシートを作成し配布します。授業のふりかえりや準備学習を行うと共に、子どもや家庭に関連するニュースや新聞、また身近で起こった出来事などを通して、日頃から社会的な動きに関心を持ち、問題意識を高められるよう心掛けてください。

《備考》
ワークショップ形式の授業も取り入れていますので、積極的に参加するようにしましょう。そのため、出欠席に関する自己管理を十分行うようにしましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	保育相談支援とは何か
2	保育相談支援の意義	家族・保護者の現状、保護者のニーズ、保護者支援の意義
3	保育の専門性と保育相談支援	求められる専門性、保育相談支援の構造、支援の技術・方法
4	保育相談支援の展開過程	保護者からの相談内容、保育相談支援の展開過程、支援者の倫理、他機関との連携
5	子どもの最善の利益と保育相談支援	子どもの権利、条約・憲章、アボドガシー・代弁
6	保護者の養育力の向上	保護者の理解、エンパワメント、親の成長、子育てのパートナーとしての保育者
7	保護者との信頼関係の構築	受容、共感、自己決定、秘密保持
8	地域資源の活用と関係機関との連携・協力	子育ての地域資源、ネットワーキング・組織化
9	保育相談支援の計画・記録・評価	支援計画の必要性、カンファレンス、記録の方法、ジェノグラム、エコマップ、評価の種類と方法
10	保育所の特性を活かした保護者支援	面接技法、相談・助言、保育指導、子育て支援センター
11	特別な支援を必要とする保護者への支援	子ども虐待が疑われる家庭、ひとり親世帯、発達障がい
12	問題・課題を抱える保護者への支援	不適切なかかわり、苦情を繰り返す、保護者同士のトラブル、地域型保育・小規模保育
13	保育相談支援の事例検討①	育児不安、生活課題、利用できる社会資源
14	保育相談支援の事例検討②	児童相談員と保育士の役割、多職種連携・他分野との連携
15	まとめ	講義と演習のふりかえり

科目名	保育実習ＩＡ			科目ナンバリング	YS_F22025
担当者氏名	澤田　真弓				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
実際に保育所保育の現場に参加し、乳幼児理解を深めるとともに保育士の役割について実践的に学ぶ。

《授業の到達目標》
○保育所の役割と機能について理解する。
○保育所における乳幼児の生活を実践的に学ぶ。
○保育士の職務について実践的に学ぶ。
○観察や記録、省察を通して保育実践の在りようを具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》
実習園の評価、実習ノートの記入内容を総合的に判断する。
100％

《テキスト》
実習園の指導内容をを参考にすること　　久富陽子『保育の学びスタートブック』萌文書林　相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方』萌文書林

《参考図書》
実習園の指導を参考にすること　　保育実習指導ＩＡで用いた資料やノートを参考にすること

《授業時間外学習》
普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《備考》
円滑な実習が行えるよう体調管理に万全を期すこと。早朝より開始される保育所生活に十分対応できるよう生活リズムを整えて臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所実習	保育実習指導１Ａ、その他既習科目の内容を十分に踏まえること。　実習園の指導に従い、積極的に実習を行うこと。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	保育実習指導ＩＡ			科目ナンバリング	YS_S22029
担当者氏名	澤田　真弓				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
保育所での現場実習に向けて、実習の意義と目的を理解する。各自の実習課題を明確にし、事前準備を行う。実習終了後は自己評価、他者評価を基に実習の振り返りを行う。

《授業の到達目標》
○保育所の役割と機能を理解する。
○実習内容や方法、心得を理解し、現場実習に向けた準備を整える。　　○保育所を利用する子どもや保護者についての理解を深める。
○保育士の職務内容について理解を深める。

《成績評価の方法》
受講態度、課題提出物、保育実習ＩＡの評価と総合して行う。
100％

《テキスト》
久富陽子他『保育の学びスタートブック』萌文書林　　厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館　相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方』萌文書林

《参考図書》
授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》
普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《備考》
全出席を前提とする。やむを得ず欠席、遅刻をする場合は必ず事前に連絡をすること。連絡先については授業の初回に提示する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と実習全体の説明　保育士資格について　実習手続きについて
2	事前指導１	実習の意義と目的
3	事前指導２	保育所の生活（１）　乳児クラス
4	事前指導３	保育所の生活（２）　幼児クラス
5	事前指導４	保育所の生活（３）　子育て支援活動　保育所に勤務するさまざまな職種
6	事前指導５	保育士の職務
7	事前指導６	実習の心構え　実習生に求められること　子どもや保護者、職員とのかかわり
8	事前指導７	実習中に学ぶこと　実習における観察の視点
9	事前指導８	実習ノートの記入（１）　実習ノートの意味　記録の書き方（１）
10	事前指導９	実習ノートの記入（２）　記録の書き方（２）
11	事前指導10	直前指導　実習中の注意事項　実習終了後の注意事項
12	事後指導1	実習の振り返り①
13	事後指導2	実習の振り返り②
14	事後指導3	実習報告①
15	事後指導4	実習報告②

科目名	子育て支援地域活動Ⅰ			科目ナンバリング	YH_L22001
担当者氏名	藤井　恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
子育て支援の理念や歴史･文化的視点から子育てを検討し、論じていく。また、幼稚園･保育所・子育てセンターなどの活動事例から子育て支援地域活動の効果や課題を明らかにする。さらに、キャンパス内に設置された子育て支援活動「Gabe」に参加し、実践的な学びから子育て支援の意義を理解する。

《授業の到達目標》
○地域を支える活動の意義やその歴史と展開、現行の活動の内容とその実態について理解する。
○保育所、幼稚園。認定こども園、子育てサークル等の子どもを支える活動が子育てに果たす地域の役割を知る。
○キャンパス内に設置された「Gabe」を活用し、地域の親子と触れ合いながら実践的な学びにつなげる。

《成績評価の方法》
・授業内討議や発表などへの参加･態度と成果　50％
・レポート課題等の提出物　50％

《テキスト》
『子育て支援の理論と実践』
子育て支援プロジェクト研究会編　ミネルヴァ書房　2013

《参考図書》
授業中に適宜紹介する。

《授業時間外学習》
(1)授業時に出された課題は積極的に取り組む。
(2)地域のボランティア活動に積極的に参加する。
ただし、授業を優先すること。
(3)子育て支援に関する情報や資料を必ず収集し、整理しておくこと。

《備考》
授業形態は講義ですが、実践から理論を構築していきます。
学生自身が主体的に実践からの学びを深めることを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子育て支援の意義	子育てを巡る状況や子育て支援の目的を理解する。
2	子育て支援の歴史と文化	現代の子育て状況を相対化し、歴史･文化的視点から育児を検討する。
3	子育て支援の取り組み①（幼稚園）	幼稚園での保護者に対する子育て支援のあり方を検討する。＜事例1＞
4	子育て支援の取り組み②（幼稚園）	幼稚園による地域の子育て支援についてその意義や実態を知る。＜事例2＞
5	子育て支援の取り組み③（保育所）	保育所での保護者への支援や子どもを養育している家庭への支援のあり方を検討する。＜事例3＞
6	子育て支援の取り組み①	子育て支援の中核的な役割を担っている子育て支援の活動を参観し、その実態を知る。
7	子育て支援の取り組み②	子育て支援の中核的な役割を担っている子育て支援の活動を視点を持って参観し、その実態を知る。
8	子育て支援の取り組み③	子育て支援の参観からの学びと課題について、グループ討議したことをレポートにまとめる。
9	地域に根ざした子育て支援	地域子育て支援活動の様々な支援のあり方を理解する。
10	地域に根ざした子育て支援	子育て支援地域活動の効果と展望と課題について検討し、地域に根ざした子育て支援のあり方を探る。
11	子育て支援地域活動実施に向けて	次年度へ向けての子育て支援地域活動の計画を企画・立案する。
12	子育て支援地域活動実施に向けて	次年度へ向けての子育て支援地域活動の計画を企画・立案する。
13	子育て支援地域活動実施に向けて	次年度へ向けての子育て支援地域活動の計画を企画・立案する。
14	子育て支援地域活動実施に向けて	次年度へ向けての子育て支援地域活動の計画を企画・立案する。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容と得られた知見とその成果を次年度の子育て支援地域活動Ⅱの授業で活かすことができる。

平成 25（2013）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成25年度（2013年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼児教育コース 幼一種	幼児教育コース 保育士	幼児教育コース こども音楽療育士	幼児教育コース 児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	児童福祉コース 保育士	児童福祉コース こども音楽療育士	児童福祉コース 児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成27年度の担当者	ページ
専門教育科目	社会福祉基盤科目	生涯学習論	講義		2		2						2					2								
		生涯発達心理学Ⅰ	講義		2		2						2					2								
		社会福祉Ⅰ	講義	2		2			○			2		○			2									
		社会福祉Ⅱ	講義		2		2						2					2								
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		2						2							2							
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義		2		2						2							2						
		ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義		4		4						4							4						
		ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義		4		4						4								4				小出　享一	133
		児童家庭福祉	講義	2		2			○			2		○			2									
		低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2		2						2							2						
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		2						2									2				河野　真	134
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2		2						2									2			河野　真	135
		介護概論	講義		2		2						2							2						
		加齢及び障害に関する理解	講義		2		2						2									2			［奥　典之］	136
		障害者福祉論	講義		2		2			★1			2		★1						2				杣山　貴要江	137
		権利擁護と成年後見制度	講義		2		2						2									2			（牧田　満知子）	138
		地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義		2		2				□		2			□					2				（田端　和彦）	139
		福祉行財政と福祉計画	講義		2		2						2									2			［西澤　正一］	140
		福祉サービスの組織と経営	講義		2		2						2									2			［西澤　正一］	141
		社会保障論Ⅰ	講義	2		2						2									2				河野　真	142
		社会保障論Ⅱ	講義		2		2						2									2			河野　真	143
		国際福祉論	講義		2		2						2											2		
		社会調査の基礎	講義		2		2						2						2							
		社会調査の応用	講義		2		2						2							2						
		心理検査法	講義		2		2			★1			2		★1						2				（北島）、（原）	144
		精神保健福祉論	講義	2		2						2								2						
		精神医学Ⅰ	講義		2		2						2						2							
		精神保健学Ⅰ	講義		2		2						2								2				（和田　光徳）	145
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	講義		2		2						2								2				［知念　奈美子］	146
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	講義		2		2						2									2			［知念　奈美子］	167

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成25年度（2013年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼児教育コース 幼一種	幼児教育コース 保育士	幼児教育コース こども音楽療育士	幼児教育コース 児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	児童福祉コース 保育士	児童福祉コース こども音楽療育士	児童福祉コース 児童厚生一級	1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成27年度の担当者	ページ	
専門教育科目	こども福祉基盤科目	初年次演習Ⅰ	演習	2		2						2					2										
		初年次演習Ⅱ	演習	2		2						2						2									
		こども福祉基礎演習Ⅰ	演習	2		2						2							2								
		こども福祉基礎演習Ⅱ	演習	2		2						2								2							
		人間福祉論	講義	2		2						2						2									
		保育原理Ⅰ	講義	2		2			○			2		○			2										
		保育原理Ⅱ	講義		2		2		●				2	●				2									
		教育原理	講義	2		2		◇	○				2	○			2										
		こどもの心理学Ⅰ	講義	2		2		◇	○	★1		2		○	★1			2									
		こどもの心理学Ⅱ	演習		1		1	◆	○	★1			1	○	★1				2								※
		乳児保育Ⅰ	演習		1		1		○			1		○					2								※
		乳児保育Ⅱ	演習		1		1		○			1		○						2							※
		障害児保育Ⅰ	演習		1		1		○	★1	□	1		○	★1	□			2								※
		障害児保育Ⅱ	演習		1		1		○	★1	□	1		○	★1	□				2							※
		相談援助	演習		1		1		○		□	1		○		□			2								※
		家庭支援論	講義		2		2		○		□	2		○		□					2				［馬込 武志］	148	
		社会的養護	講義		2		2		○		□	2		○		□			2								
		社会的養護内容	演習		1		1		○			1		○						2							※

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成25年度（2013年度）入学生対象
（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	学科 単位数		幼児教育コース 単位数		幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数		保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年		2年		3年		4年		平成27年度の担当者	ページ	
				必修	選択	必修	選択					必修	選択				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ			
専門教育科目	専門科目Ⅰ群	こどもの保健ⅠA	講義		2		2		○	★2		2		○	★2				2								
		こどもの保健ⅠB	講義		2		2		○	★2		2		○	★2					2							
		こどもの保健Ⅱ	演習		1		1		○	★2		1		○	★2					2							※
		こどもの食と栄養Ⅰ	演習		1		1		○			1		○							2				［須見 登志子］	149	※
		こどもの食と栄養Ⅱ	演習		1		1		○			1		○								2			［須見 登志子］	150	※
		こどもと健康	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1			2								
		こどもと人間関係	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1			2								
		こどもと環境	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1		2									
		こどもと言葉	演習		2	2		◇	○		■1		2	○		■1		2									
		こどもと音楽表現	演習		2	2		◇	○	★3	■2		2	○	★3	■2			2								
		こどもと身体表現	演習		2	2		◇	○		■2		2	○		■2		2									
		こどもと言語表現	演習		2	2		◇	○		■2		2	○		■2			2								
		こどもと音楽Ⅰ	演習	2		2		◇	○	★3	■2	2		○	★3	■2	2										
		こどもと音楽Ⅱ	演習		2	2		◇	●	★3			2	●	★3			2									
		こどもと音楽Ⅲ	演習		2	2		◇					2								2				中島 龍一・［他5名］	151	
		こどもと音楽Ⅳ	演習		2		2	◆					2									2			中島 龍一・［他5名］	152	
		こどもと造形Ⅰ	演習	2		2		◇	○		■2	2		○		■2	2										
		こどもと造形Ⅱ	演習		2	2		◇	●				2	●				2									
		こどもと造形Ⅲ	演習		2	2		◇	●				2	●							2				田中正、満田	153	
		こどもと造形Ⅳ	演習		2		2	◆					2									2			田中 正彦	154	
		こどもと運動Ⅰ	演習	2		2		◇	○		■2	2		○		■2	2										
		こどもと運動Ⅱ	演習		2	2		◇	●				2	●				2									
		こどもと数	講義		2	2		◇					2								2				田中 正彦	155	
		こどもと生活	講義		2	2		◇					2							2							
		こども文化論Ⅰ	講義		2		2	◆					2					2									
		こども文化論Ⅱ	演習		1		1	◆					1							2							※
		こどもとメディア	講義		2		2						2										2				
		国際こども文化論	講義		2		2						2											2			

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目
○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目
☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目
選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに
★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。
□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目
教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。
上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。
なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。
また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。
欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成25年度（2013年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼一種	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	保育士	こども音楽療育士	児童厚生一級	1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成27年度の担当者	ページ	
専門教育科目	専門科目II群	こども福祉専門演習Ⅰ	演習	2		2						2									2				杣山 貴要江	156	
		こども福祉専門演習Ⅰ	演習	2		2						2									2				田中 正彦	157	
		こども福祉専門演習Ⅰ	演習	2		2						2									2				安井 重雄	158	
		こども福祉専門演習Ⅰ	演習	2		2						2									2				田中 博一	159	
		こども福祉専門演習Ⅰ	演習	2		2						2									2				斎藤 正寿	160	
		こども福祉専門演習Ⅰ	演習	2		2						2									2				藤井 惠美子	161	
		こども福祉専門演習Ⅰ	演習	2		2						2									2				松田 信樹	162	
		こども福祉専門演習Ⅰ	演習	2		2						2									2				中島 龍一	163	
		こども福祉専門演習Ⅰ	演習	2		2						2									2				満田 知美	164	
		こども福祉専門演習Ⅰ	演習	2		2						2									2				澤田 真弓	165	
		こども福祉専門演習Ⅱ	演習	2		2						2										2			杣山 貴要江	166	
		こども福祉専門演習Ⅱ	演習	2		2						2										2			田中 正彦	167	
		こども福祉専門演習Ⅱ	演習	2		2						2										2			安井 重雄	168	
		こども福祉専門演習Ⅱ	演習	2		2						2										2			田中 博一	169	
		こども福祉専門演習Ⅱ	演習	2		2						2										2			斎藤 正寿	170	
		こども福祉専門演習Ⅱ	演習	2		2						2										2			藤井 惠美子	171	
		こども福祉専門演習Ⅱ	演習	2		2						2										2			松田 信樹	172	
		こども福祉専門演習Ⅱ	演習	2		2						2										2			中島 龍一	173	
		こども福祉専門演習Ⅱ	演習	2		2						2										2			満田 知美	174	
		こども福祉専門演習Ⅱ	演習	2		2						2										2			澤田 真弓	175	
		こども福祉卒業演習Ⅰ	演習	2		2						2											2				
		こども福祉卒業演習Ⅱ	演習	2		2						2												2			
		教師・保育者論	講義	2		2		◇	○			2		○								2			藤井 惠美子	176	
		保育課程総論	講義	2		2		◇	○			2		○					2								
		保育内容総論	演習		2	2		◇	○		□		2	○		□			2								
		保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2	2		◇	○		□		2	○		□								2			
		教育心理学	講義		2	2		◇	●	★1			2	●	★1				2								
		幼児理解	講義		2	2		◇	●	★1			2	●	★1					2							
		青年心理学	講義		2		2	◆	●	★1			2	●	★1							2			松田 信樹	177	
		臨床心理学	講義		2		2		●	★1			2	●	★1								2				
		教育制度論	講義		2	2		◇					2									2			（古田 薫）	178	
		教育方法論	講義		2	2		◇					2									2			澤田 真弓	179	
		教育相談	講義		2	2		◇	●				2	●								2			［永島 聡］	180	
		表現総合演習	演習		1		1	◆					1									2			［永井 夕起子］	181	※
		造形総合演習	演習		1		1	◆					1										2				※
		音楽教育	演習		2	2		◇	●	★3			2	●	★3				2								
		こども音楽療育概論	講義		2		2			☆			2		☆							2			中島 龍一	182	
		こども音楽療育演習	演習		1		1			☆			1		☆								2				※
		こども音楽療育実習	実習		1		1			☆			1		☆									2			
		保育相談支援Ⅰ	演習		1		1		○		□	1		○		□				2							※
		保育相談支援Ⅱ	演習		1		1						1								2				［大西 雅裕］	183	※
		集団施設保育の現状と課題	講義		2		2						2									2			［佐藤 和順］	184	
		保育実習ⅠA	実習		2		2		○		□1		2	○		□1				4							※※
		保育実習ⅠB	実習		2		2		○		□1		2	○		□1					4				杣山 貴要江	185	※※
		保育実習Ⅱ	実習		2		2		●				2	●								4			澤田 真弓	186	※※
		保育実習Ⅲ	実習		2		2		●		□1		2	●		□1						4			杣山、［濱口］	187	※※
		保育実習指導ⅠA	演習		1		1		○		□1		1	○		□1				2							※
		保育実習指導ⅠB	演習		1		1		○		□1		1	○		□1					2				杣山 貴要江	188	※
		保育実習指導Ⅱ	演習		1		1		●				1	●								2			澤田 真弓	189	※
		保育実習指導Ⅲ	演習		1		1		●		□1		1	●		□1						2			杣山、［濱口］	190	※
		教育実習指導	演習		1	1		◇					1									2			藤井 惠美子	191	※
		教育実習	実習		4	4		◇					4										⑧	⑧			※※

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科　平成25年度（2013年度）入学生対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼児教育コース 幼一種	幼児教育コース 保育士	幼児教育コース こども音楽療育士	幼児教育コース 児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	児童福祉コース 保育士	児童福祉コース こども音楽療育士	児童福祉コース 児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成27年度の担当者	ページ
専門教育科目	発展科目	子育て支援地域活動Ⅰ	講義		2		2						2							2						
		子育て支援地域活動Ⅱ	演習		2		2				□		2			□					2				藤井 惠美子	192
		児童館の機能と運営	講義		2		2				□		2			□					2				［石河］、［向井］	193
		発達障害児への支援	演習		2		2	◆		★1			2		★1							2			［式部 陽子］	194
		児童の貧困と虐待	講義		2		2						2									2			斎藤 正寿	195
		児童の健全育成と福祉	講義		2		2				□		2			□						2			杣山 貴要江	196
		少子高齢社会とこどもの生活	講義		2		2						2									2			田中 博一	197
		施設保育士論	講義		2		2						2									2			［藤本 政則］	198
		男女共同参画社会の構築	講義		2		2						2										2			
		福祉経営実践演習	演習		2		2						2										2			
		消費者教育	講義		2		2						2										2			
		幼児のための福祉教育Ⅰ	講義		2	2		◇					2								2				田中 博一	199
		幼児のための福祉教育Ⅱ	演習		2	2		◇					2									2			藤井 惠美子	200
		こども福祉特論	講義		2		2						2										2			

〔課程外科目〕

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	学科 単位数 必修	学科 単位数 選択	幼児教育コース 単位数 必修	幼児教育コース 単位数 選択	幼児教育コース 幼一種	幼児教育コース 保育士	幼児教育コース こども音楽療育士	幼児教育コース 児童厚生一級	児童福祉コース 単位数 必修	児童福祉コース 単位数 選択	児童福祉コース 保育士	児童福祉コース こども音楽療育士	児童福祉コース 児童厚生一級	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成27年度の担当者	ページ
資格関連科目	児童館実習（10日間）	実習		2		2				□1		2			□1							4			
	児童館実習（20日間）	実習		4		4				□2		4			□2							8			

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなけらばならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ				
担当者氏名	小出 享一				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
ソーシャルワークの担い手である社会福祉士は、地域社会の中で機能することが求められる。このため、社会の変革や地域生活上の課題を検証しながら、前半として社会福祉士の役割・機能を知る。具体的にはソーシャルワークとは何か、その構成要素とは何かについて学び、ソーシャルワークの発展過程を演習しながら学ぶこと。

《授業の到達目標》
社会福祉士の法的根拠を理解する。またソーシャルワークとは何か、その構成要素とは何かについて学び、ソーシャルワークの発展過程・ソーシャルワークの基礎的知識を学ぶこと。また、社会状況と課題解決に向けた相談援助の方法について演習を通し習得していってほしい。

《成績評価の方法》
授業への積極的参加態度およびレポート（30%）
定期テスト（70%）などにより総合的に評価する。

《テキスト》
社会福祉援助の理論と方法Ⅱ中央法規ISBN978-４-8058-3255-4
ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ川村隆彦
中央法規　ISBN978-4-8058-2

《参考図書》
新・社会福祉士養成講座〈6〉相談援助の基盤と専門職［単行本］社会福祉士養成講座編集委員会（編集）出版社：中央法規出版；第2版（2010/02）ISBN-10：4805832533ISBN-13：978-4805832530 社会福祉援助技術　松井圭三・小倉毅編・加藤洋子ほか。大学図書出版ISBN978-4-903060-37-8

《授業時間外学習》
新聞などで、社会情勢や社会福祉にかかわる法改正・地域課題などをスクラップし、タイムリーに社会状況の分析や方策を知覚できるよう自己訓練しておきましょう。自分は、どのような性格なのか考えてみましょう。そう言った自己覚知の鍛錬も大切である。

《備考》
２限続きの授業である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション/グループワークの基礎知識	ケースワークの歴史・ノールズの集団の定義・グループワークの意義と構成要素・展開過程におけるソーシャルワーカーの役割について復習する。
2	倫理観と社会的責務・ワーカーの職責	人間としての平等・自己実現の権利と社会的責務からワーカーの倫理・職責についても学ぶ。（人間としての尊厳・利益優先・個別性の尊重・受容・秘密保持）
3	相談援助における対象者の理解・システム理論	実践としての社会福祉援助活動と制度としての社会福祉実践について学ぶ。システム論とアプローチ方法についての基礎を学ぶ。
4	ケースマネージメントを知る。	ケースマネージメントの定義と基本を学ぶ。ケースマネージメントとケアプラン作成の基本・方法・プロセスやコミュニティケアの推進について学ぶ。
5	ソーシャルワークの理論と歴史	ジェネリックとスペシフィック・診断主義・機能主義・折衷主義の定義と技術及び機関との関係、所属機関と綱領の精神、業務改革の責務等を理解する。
6	相談援助演習の枠組みとねらい・面談の記録	基本・分析・専門技法と支援技法について学ぶ。アセスメント方法・フェースシート・ジェノグラムの書き方と分析・記録内容を学習する。
7	ソーシャルワークの様々なアプローチ①	心理社会的アプローチ・機能アプローチ・問題解決アプローチ・課題中心アプローチ・危機介入アプローチ・行動変容アプローチについて学ぶ。
8	事例研究法①	問題解決アプローチ・課題中心アプローチ・危機介入アプローチの事例検討を行い展開過程について学ぶ。
9	障害者総合支援法とソーシャルワーカーの業務	障害者総合支援法の概要とソーシャルワーカーの役割、機関との関係、所属機関と倫理綱領の精神・業務改革の責務について考える。
10	コーディネーションの目的と意義	コーディネーションの方法・目的と意義について学び、コミュニティソーシャルワークの事例からサポートネットワークづくりについて考える。
11	事例研究法②	クライエント中心理論・エコロジカル理論・アプローチについて事例検討を行い、展開過程について学ぶ。
12	ケースカンファレンスの技術とチームアプローチ	それぞれの役割を活かしたトータル支援の在り方について学び、ケースカンファレンスとソーシャルワーカーの役割マネージメントについて考える。
13	ソーシャルワークの様々なアプローチ②	エンパワメント・ナラティブ・フェミニスト・実存主義アプローチの支援展開と適用課題について学ぶ。
14	事例研究法③	さまざまなアプローチを活用して中途障害者や子育てに悩む母親へのアプローチ手法の展開過程を学ぶ。
15	ソーシャルワーカーとしての専門性	スーパービジョンとコンサルテーションの技術について学ぶ。

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ				
担当者氏名	河野　真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
社会保障の概念や対象，理念，制度の体系と概要について理解する。少子高齢化社会をめぐる諸問題，高齢者保健福祉制度および介護保険制度を中心に教授する。

《授業の到達目標》
社会保障の役割や理念，機能について理解する。少子高齢化社会をめぐる諸問題について学び，対応策としての高齢者保健福祉制度および介護保険制度の内容，現状，将来展望について説明できる。

《成績評価の方法》
定期試験80%，授業への参加とその成果20%。

《テキスト》
『高齢者に対する支援と介護保険制度(新・社会福祉士養成講座13)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版，及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業時間外学習》
講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。限られた講義時間で，幅広い知識を身につけなければならないため，予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会の変化と社会保障	オリエンテーション(講義の課題と対象)
2	社会保障制度（１）	社会保障の目的と機能，近年の社会保障改革の動向
3	社会保障制度（２）	社会保障給付費，社会保障関係費，財源構成 高齢者保健福祉制度や介護保険制度の位置づけ
4	高齢者の特性	高齢者の社会的・身体的・精神的理解
5	少子高齢社会と高齢者	少子高齢社会と社会問題
6	高齢者支援の関連法規（１）	高齢者保健福祉の法体系と社会福祉制度，老人福祉法
7	高齢者支援の関連法規（２）	高齢者の医療の確保に関する法律，高齢者虐待防止法，その他の関係法規
8	介護保険制度の基本的枠組み（１）	目的・理念，保険財政，保険者と被保険者
9	介護保険制度の基本的枠組み（２）	介護保険制度の最近の動向
10	介護保険制度の仕組み（１）	要介護認定の仕組みとプロセス，保険給付，介護報酬
11	介護保険制度の仕組み（２）	地域支援事業，介護保険事業計画
12	介護保険サービスの体系（１）	専門職の役割，居宅・施設サービス
13	介護保険サービスの体系（２）	介護予防サービス，地域密着型サービス
14	高齢者を支援する組織と役割（１）	行政機関の役割
15	高齢者を支援する組織と役割（２）	その他機関の役割 講義のまとめ

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ				
担当者氏名	河野　真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
高齢者支援の方法，専門職の役割について理解するとともに，介護の概念やプロセス，多様な介護の態様について学ぶ。

《授業の到達目標》
高齢者支援の方法，専門職の役割について説明できる。介護過程の展開技法について理解する。介護の内容や対象者別の介護方法について理解する。

《成績評価の方法》
定期試験80%，授業への参加とその成果20%。

《テキスト》
『高齢者に対する支援と介護保険制度(新・社会福祉士養成講座13)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版，及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業時間外学習》
講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	高齢者に対する支援	Ⅰ期講義のまとめとⅡ期講義の課題と対象
2	高齢者支援の方法と実際（１）	高齢者支援の方法
3	高齢者支援の方法と実際（２）	介護保険法における連携と実際
4	専門職の役割と実際	他職種連携と専門職の倫理
5	介護の概念や対象（１）	介護の概念と範囲，介護の理念
6	介護の概念や対象（２）	介護の対象，介護予防の概念
7	介護過程（１）	介護過程の概要
8	介護過程（２）	介護過程の展開方法
9	介護各論（１）	自立に向けた介護
10	介護各論（２）	食事・口腔衛生の介護，入浴・清潔・排泄の介護
11	介護各論（３）	認知症ケア
12	介護各論（３）	終末期ケア
13	介護各論（４）	住環境
14	近未来の高齢者福祉課題（１）	近未来社会における高齢者問題と支援システム
15	近未来の高齢者福祉課題（２）	能動的積極的な支援（アクティブエイジング，グローイングオールダー） 講義のまとめ

科目名	加齢及び障害に関する理解				
担当者氏名	奥　典之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む				

《授業の概要》
高齢者・障がい者の心理についての基本書を用いて、基本的・理論的な枠組みを事例等も活用し、理論と実践の両面からの学習を行っていく。本講は免許・資格取得科目のため、それらのエッセンスを適宜加えていくことにより、それらの専攻者としてのアイデンティティをもてるような内容とする。

《授業の到達目標》
社会福祉の専門職をめざす学生に対して、高齢者や障がい者に適切に接し、あるいは支援したり介護し、地域社会で共に生活していく基盤づくりができるようになるために、高齢者や障がい者をよりよく理解することを目標とする。

《成績評価の方法》
平常点と筆記試験、及び課題レポートによる。
全評価に対する割合（%）については、最初の授業で説明する。

《テキスト》
中野善達・守屋國光 編著「老人・障害者の心理」（改訂版）福村出版

《参考図書》
介護福祉士養成講座編集委員会　編「障害の理解」新・介護福祉士養成講座　中央法規出版

《授業時間外学習》
自分自身の生活から切り離した特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめる訓練を続けて欲しい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老人の心理	老年期と老化について
2	老人の心理	老人意識の問題について
3	障害とその心理的影響	障害と障害者について
4	障害とその心理的影響	障害の受容について
5	老人の心理的特性	老年期の精神機能について
6	老人の心理的特性	老年期の知能、記憶機能について
7	老人の心理的特性	老年期の人格と適応について
8	障害の原因・程度・種類別心理的特性	先天性・中途、中・軽度障害、視覚障害について
9	障害の原因・程度・種類別心理的特性	聴覚、言語、内部障害、肢体不自由について
10	障害の原因・程度・種類別心理的特性	知的、精神障害、軽度発達障害について
11	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の精神障害とその心理について
12	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の機能障害とその心理について
13	高齢者・障害者への対応	高齢者事例研究について
14	高齢者・障害者への対応	障害者事例研究について
15	老人・障害者の心理	総括として

科目名	障害者福祉論				
担当者氏名	杣山　貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む				

《授業の概要》
就学前の集団保育の場では，義務教育の場より統合保育が進んでいるといわれる。就学前の子どもに関わる仕事をしたいと考える受講生に，障害があるということ，障害のある子どもを持つということ，その保護者への支援，その子どもの将来像について考える機会を提供する。

《授業の到達目標》
○障害に関する資料をもとに，受講生は意見交換をし，障害に関する視野を広げ，知識を深め技術を磨き，実践に役立てられるようにする。
○自らの障害者福祉論を確立させ，他者に説明することができる。
○授業の学びを「保育実習」等において，役立たせることができる。

《成績評価の方法》
授業への参加態度と意欲（50%）
課題の提出（50%）

《テキスト》
プリント教材の配布，視聴覚教材の利用。

《参考図書》
随時紹介する。

《授業時間外学習》
障害のある人に関する新聞報道等には関心を持ち，現状を把握するよう努めてもらいたい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業のねらい，授業内容，授業の進め方，到達目標と評価について説明する。 「障害があるということ」について考え理解する。
2	障害者支援の歩み - 1	スウェーデンにおける脱施設化の経緯（DVD)について理解する。
3	障害者支援の歩み - 2	スウェーデンの実態とわが国の現状について理解する。
4	障害のある子とともに - 1	障害のある子どもを持つということについて理解する。
5	障害のある子とともに - 2	わが子が子どもの時に出会った保育者・先生について保護者が語る（DVD）を視聴して，保育者のあるべき姿について理解する。
6	統合保育から統合教育へ	健康診査（5歳児健診，就学時健診）の現状を理解する。
7	特別支援学校と普通学校	子どもの最善の利益を視点にして，学校教育について理解する。
8	ふつうに生きるということ - 1	作業所で働くということ（DVD）を視聴して，障害のある人のふつうの生活を理解する。
9	ふつうに生きるということ - 2	当事者からの報告（DVD）を視聴して，自閉症について理解する。
10	ふつうに生きるということ - 3	法定雇用率と特例子会社について学習し，障害者雇用について理解する。
11	障害の概念の変化 - 1	ICFの概念を理解する。
12	障害の概念の変化 - 2	ICFの活用の仕方について学習し，その利点について理解する。
13	インクルージョン - 1	統合保育の意義について理解する。
14	インクルージョン - 2	糸賀一雄と金子みすゞの世界（DVD）について考え理解する。
15	まとめ	授業全体を振り返り，各自の障害者福祉論を報告する。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	権利擁護と成年後見制度				
担当者氏名	牧田　満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む				

《授業の概要》
「権利擁護と成年後見制度」では日本国憲法、行政法、民法等の理解は必須であるが、対象者は認知症など社会福祉の対象者である事から、授業では法学の未履修者も受け入れ、基礎的な法学の授業から始める。法や社会福祉の専門職が、判断能力の衰えた対象者の方々の日常生活や人権をどのように護ればよいのかを、さまざまな社会資源の連携と権利擁護の観点から考察し、その運用について理解を深める。

《授業の到達目標》
（1）日本国憲法・行政法・民法を理解し、その運用について正しく把握する。
（2）権利擁護・成年後見制度のしくみと関係諸機関について理解する。
（3）権利擁護・成年後見制度を必要とする人々の現状を理解し、専門職連携についてその実際を学ぶ。

《成績評価の方法》
（1）授業内討論等への参加とその成果（20%）
（2）レポート課題等の提出物（30%）
（3）定期試験（50%）

《テキスト》
『新・社会福祉士養成講座　19　権利擁護と成年後見制度』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考図書》
授業中、適宜指示する。

《授業時間外学習》
（1）予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。
（2）復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目などに関しては、積極的に担当者に質問し、毎回の授業を確実なものにしていく努力が望まれる。
授業では適宜、関連図書などの紹介も行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の方法、および授業の概略をつかむ。
2	日本国憲法・行政法の理解	日本国憲法の理念、および人権思想について学ぶ。また憲法の具体的な方法としての行政法を理解する。
3	民法（親族・相続/ 物件）の理解	権利擁護・成年後見制度は財産問題と切り離せない。このことを踏まえて、民法の基礎的な理解を深める。親族・相続・契約・物件についての知識を確実なものとする。
4	成年後見制度の概要（後見/ 保佐/ 補助人）	任意後見・法廷後見の相違、および後見人・保佐人・補助人の役割と権利・義務を理解する。
5	成年後見制度と関係機関の理解	家庭裁判所、法務局（後見登録）の活動内容を把握する。弁護士・司法書士の役割、権限等を理解する。
6	任意後見制度に係る諸問題:不法行為/民事訴訟等	任意後見の実際についてさまざまな事例をもとに理解を深める。
7	日常生活自立支援事業の概要(1)	日常生活自立支援事業の概要、および社会福祉協議会の役割について学ぶ。
8	日常生活自立支援事業の概要(2)	認知症高齢者の日常生活の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
9	知的・身体障害者の権利擁護問題	知的障碍者・身体障害者の日常生活、および職場での支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
10	精神障害者の権利擁護問題	精神障害者の日常生活の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
11	児童分野における権利擁護問題	児童虐待の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
12	専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）連携	各専門職による連携の実際をビデオにより学び、より良い支援についてグループ討論により理解を深める。
13	権利擁護と医師の役割	鑑定・診断に係る医師の役割と専門職連携の今後の課題を理解する。
14	成年後見制度利用支援事業	成年後見制度利用支援事業として、アルコール依存者、消費者被害者、多重債務者の問題を考える。
15	I期まとめ	補充説明とI期の総まとめ。

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅰ				
担当者氏名	田端　和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》
地域社会が大きく変容する中にあって、児童の虐待問題などこどもを取り巻く環境も変化をしています。こうした課題に取り組む社会福祉の視点は、国家が制度と枠組みを定める福祉国家から、多様な地域社会のそれぞれの状況に合致する福祉を目指す福祉社会の方向に移り変わりつつあります。そうした時代を踏まえ、地域福祉を学ぶ際に必要な各分野の基礎知識を身につけます。

《授業の到達目標》
福祉社会の中での地域の重要性と地域福祉の意義を理解し、地域福祉に係る理論、制度、歴史的経緯、利用可能な資源（人材や組織を含む）についての知識を獲得し、福祉の専門職やそれを支える専門職として地域と関わる実践に役立てるようにします。

《成績評価の方法》
定期試験で70％を評価します。授業態度として、レポート課題の提出状況などを評価します（30％）。

《テキスト》
井村圭壯、相澤譲治編著『地域福祉の原理と方法（第2版）』学文社

《参考図書》
新社会福祉士養成講座「地域福祉の理論と方法」中央法規

《授業時間外学習》
事前学習としては、次回の授業に関連し調べておくことを指示します。事後学習としては授業で宿題を課すことがありますので、レポートとして提出してください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要と地域福祉の位置づけなどを理解します。
2	地域福祉の思想と理論	地域福祉の理論について、岡村の考え方から、2000年以降の新しい理論における考え方までを学びます。
3	地域福祉の形成と発展	先進国イギリスの制度的な歩みと日本における明治時代からの地域福祉の源流、戦後の発展、さらに戦後アメリカからもたらされた地域組織化について学びます。
4	地域福祉の法律と組織	地域福祉法という法律はありませんが、社会福祉法、地方自治法など関連する法律が多くあり、それに基づく組織があります。主なものについて学びます。
5	地域福祉における社会福祉協議会の役割	地域福祉の要でもある社会福祉協議会の歴史的な経緯や現在の活動を学びます。
6	地域福祉の主体と対象	地域福祉の推進を担う存在は何か、それらはどのような役割を果たすものであるのか、を学びます。
7	地域福祉の専門職	地域には様々な専門職の方がいます。地域福祉を支える専門職の役割と推進する中心者たるコミュニティソーシャルワーカーについて学びます。
8	地域福祉における社会資源	フォーマル、インフォーマルを問わず、地域にある様々な社会資源の存在とその開発について学びます。
9	地域福祉における福祉ニーズの把握方法	ニーズとは、本来あるべき像と実際との違いであり、それが社会的に認められたものを社会的ニーズといいます。福祉におけるニーズの定義とその調査方法を学びます。
10	地域トータルケアシステム	人の抱える課題は複雑化しており、それらを縦割りで区分された状況での解決は困難です。チームアプローチや制度の連携など具体的な在り方を学びます。
11	地域福祉における福祉サービスの評価	福祉サービスの評価が必要となる背景は何か、そしてそのための仕組みはどのようなものかを学びます。
12	地域福祉と福祉計画	地域福祉計画の内容とその策定に係る過程、課題について学びます。
13	地域福祉と福祉教育	実は、学校教育の中に福祉教育は組み込まれていました。さらに福祉教育は社会教育の場面でも発揮されます。そうした事情について学びます。
14	地域福祉とNPO・ボランティア活動	1998年のいわゆるNPO法の制定以来、成長したNPOは地域福祉を支える要ともなりつつあります。その役割と福祉との関係を学びます。
15	地域福祉の財源基盤、そして課題と展望へ	地域福祉を動かすためには「お金」が不可欠です。財政学の基礎を含め、お金の出所を学びます。そして15回の授業を踏まえ地域福祉の将来の展望について学びます。

科目名	福祉行財政と福祉計画				
担当者氏名	西澤　正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

福祉六法を基盤とする社会福祉も、近年の社会福祉基礎構造改革や三位一体の改革に伴って、また一方では介護保険制度や障害者自立支援法の施行等によって大転換が図られ、今日までの中央集権的な福祉システムから地方分権型へと行財政のあり方も改めて問われる時代となってきた。社会福祉の現状と今後の動向を理解するため、福祉の法制度と行財政の双方から学んでいく。

《授業の到達目標》

①　基本的な福祉政策の形成過程理解する②これまでの国と地方の役割や福祉サービス供給体制や制度の経緯を知る。③福祉サービスを利用する住民の視点で制度政策を理解する。④高齢者・障害者等が地域で自立して生活できる総合的支援策を組み立てる　⑤少子高齢化社会の問題を自分達の課題として考える。以上を通して福祉行財政の全般を理解し自らも福祉計画を作成することができる。

《成績評価の方法》

出席状況（２０％）＋学期末試験など（６０％）＋その他、授業態度など（２０％）で総合的に判断

《テキスト》

著書名：編集委員（河幹夫・小林良二・和気康太）書名：新・社会福祉士養成講座第10巻「福祉行財政と福祉計画」第4版発行　出版社：中央法規出版2014年2月　他、随時ﾌﾟﾘﾝﾄ配布

《参考図書》

書名：「よくわかる社会福祉と法」　出版社・出版年：ミネルヴァ書房2010年10月5日初版第２刷発行（定価¥2600＋税）

《授業時間外学習》

・授業の中で適時課題を課すので、随時指示された期日までに提出　・積極的に自分自身で講義に関する課題を見いだし、不明な点は確認のこと

《備考》

※授業内容は講義の進展に応じて多少前後する場合もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉の学習を始めるにあたって、それを取り巻く環境や社会福祉法制の原理と学習について概要説明
2	福祉行財政と福祉計画①（福祉法制度の展開）	日本に於ける社会福祉の起源と戦後の展開、また措置制度から契約制度への転換や、今日の社会福祉基礎構造改革等について学ぶ事ができる。
3	福祉行財政と福祉計画②（福祉計画の概要）	日本に於ける福祉の概念を多面的角度から整理し、半世紀以上にわたる社会福祉の法制度の展開過程を知り、福祉計画が登場した背景を学ぶ事ができる。
4	福祉行政の骨格と社会福祉の法制度	社会福祉援助に取り組む実践の場が、どの様な法制度や福祉行政によって規定されているのかを学べる。
5	福祉行政の組織と社会福祉基礎構造	措置から利用者の自己選択・自己決定に基づく利用制度への転換をもたらした社会福祉基礎構造改革と、社会福祉の基礎構造について学べる。
6	福祉財政	国や地方自治体の社会福祉財政の全体像をを整理し、民間社会福祉事業組織の財政についても多面的な角度から理解する事ができる。
7	福祉行政の組織・団体の役割	福祉八法を中心とする公的な組織や団体を知り、その役割や課題について学べる。
8	福祉専門機関と専門職	介護保険制度の創設や要介護認定の方法・サービス利用の手続き等、福祉に携わる職員の専門性を理解し、実践で有効な援助技術について学べる。
9	福祉計画の目的と意義	福祉計画がどのような文脈のなかで行政によって取り組まれているのかを理解し、その目的を踏まえる形で計画策定がなされていることを知ることができる。
10	福祉計画の基本的視点と過程及び留意点	福祉援助の実施・提供機関において個別援助にかかわる社会福祉士が、地方自治を目指す「福祉計画」にかかわる目的や意義を理解できる。
11	福祉計画におけるニーズ把握と評価	福祉計画作成の際の原点とも言えるニーズ把握の技法や、福祉計画全体のなかで一つの重要な構成要素となる評価についても知ることができる。
12	福祉計画における住民参加	福祉計画においては、福祉関係者の合意形成を図っていくことが重要であり、福祉計画における住民参加の必要性について学ぶことができる。
13	老人福祉計画と介護保険事業計画及び障害者計画	今日まで学んだ福祉計画の理解をもとに、「実践編」として、計画者の立場から福祉計画を一つのシステムとして捉え、特性や方法等、五つの枠組みで研究をする。
14	次世代育成支援計画と地域福祉計画	老人福祉計画や介護保険事業計画と共に、義務づけされている次世代育成支援計画と地域福祉計画を学び、具体的事例を読み解きながら実践に活かすことができる。
15	まとめ	社会福祉行財政の全般的理解の確認と共に、学生自らが主体的に問題を見いだし、多様な福祉サービスのなかで自己が何をなすべきかを考えられる。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	福祉サービスの組織と経営				
担当者氏名	西澤　正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

福祉六法を基盤とする社会福祉は、特に介護保険制度や障害者支援費制度導入という大転換が図られたが、既に11年以上経過し福祉ｻｰﾋﾞｽ提供組織も多様化する中、そのあり方が課題となっている。また措置から契約という利用者自ら選択する時代の元で、単なる運営から経営という新たな感覚が問われる時代にもなってきた。福祉サービスに係わる組織とその運営について、教科書中心でなく福祉の実践体験を通じて学ばせる。

《授業の到達目標》

①　福祉サービスに係わる組織の団体について学ぶ
②　福祉サービスに係わる組織の経営について基本的理論を理解する　③　福祉サービス提供組織の経営の実際を学ぶ
④　福祉サービスの管理運営の方法と実際を理解する
以上を通して、全般的な福祉サービス提供主体を学び、そこにおける運営のあり方を考えることが出来る。

《成績評価の方法》

出席状況（２０％）＋学期末試験など（６０％）＋その他グループ討議の発表態度や講義時の態度等を総合的に判断（２０％）

《テキスト》

編集：社会福祉士養成講座編集委員会　書名：社会福祉士養成講座11「福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経営」第4版　出版社/出版年：中央法規出版2013年2月1日第4版発行　他、随時プリント等を配布

《参考図書》

書名：「よくわかる社会福祉運営管理」出版社・出版年：ミネルバ書房・2010年3月第１刷発行　編者：小松理佐子

《授業時間外学習》

・授業の中で適時課題を課すので、そのつど指示期日までに提出の事　・積極的に自分自身で講義に関する課題を見いだし、不明な点は随時確認する事

《備考》

※授業計画における毎回のﾃｰﾏや内容は講義の進展に応じ多少前後する場合あり。基本的にﾃｷｽﾄに沿うが福祉現場の実践事例や報道資料を多く活用し、受講者自ら考える授業としたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉専門職としての資格取得や社会福祉事業に就く者として、ﾃｷｽﾄのみの机上理論を身につけるのではなく、実践としての社会福祉の運営管理について学ぶ姿勢を説明
2	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスの意義だけでなく、福祉サービス提供組織や経営管理について、その時代のニーズや環境によって変化している現状と経営理論を理解する事ができる。
3	福祉サービスにかかわる組織・団体①	法人の存在意義と基本形態について学ぶと共に、福祉サービスにかかわる団体や組織についても理解し、それぞれの定義や役割・各機関の現状や課題について学べる。
4	福祉サービスにかかわる組織・団体②	我が国のむ福祉サービスの提供主体として大きな役割を果たしてきた社会福祉法人や今日の特定非営利活動法人・医療法人等を理解し、それぞれの特徴を確認できる。。
5	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	経営を学ぶ上で最低限必要となる基本的概念や理論、また経営戦略の策定プロセス、更には集団力学やリーダーシップ理論について理解する事ができる。
6	福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理	マーケティングの基本的要素である「４つのＰ」を軸にサービス管理に必要な基礎的事項を知ることができる。
7	福祉サービスの管理運営の方法①質の向上と評価	サービスの質の向上と第三者評価の重要性を理解すると共に、福祉サービス提供にあたってのリスクや今後の問題点を理解することができる。
8	福祉サービスの管理運営の方法②人事管理	今日の福祉サービスの多様な提供主体を知り、専門資格者を中心とした組織での人事管理について理解することができる。
9	福祉サービスの管理運営の方法②労務管理	福祉サービスに於ける人事・労務管理を関係法令に定められた基準に則して理解し、人材確保の課題と共に人材育成管理についても知る事ができる。
10	福祉サービスの管理運営の方法②職員研修	職場研修の考え方や推進体制、ＯＪＴやＯＦＦ－ＪＴ等の職場研修の基本形態等を知り、福祉人材のキャリア開発とキャリアパス等を理解できる。
11	福祉サービスの管理運営の方法③法人経営と財務	企業とは異なる、特殊な性格を有する社会福祉法人における財務管理と公益性の追求について理解することができる。
12	福祉サービスの管理運営の方法③福祉事業の財源	福祉サービス提供事業所における財務諸表の概要を知り、その見方や使い方を習得することができる。
13	福祉サービスの管理運営の方法④情報管理	福祉サービスの利用時に於ける選択権の保障と利用者本位のサービス提供を推進するための「情報」と、その「管理」について多面的に理解することができる。
14	福祉サービスの管理運営の方法④戦略的広報	超高齢化と高度情報社会の進展に伴って変革する福祉サービスの考え方を踏まえ、事業経営に於ける情報管理のあり方と戦略的広報について学ぶことができる。
15	まとめ	学生自らが関心をもった福祉サービス事業について更に理解を深め、自己の今後の役割について共に考えられる。

科目名	社会保障論Ⅰ				
担当者氏名	河野　真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
社会保障制度(所得保障，医療・保健，社会福祉サービス)は，様々な社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し，人々の社会的な繋がりを強めることを目指してきた。現在すべての主要先進国では，その役割と守備範囲を大きく広げ，公共支出の面でも枢要な地位を占めている。本講義では社会保障制度の制度面を中心に解説する。

《授業の到達目標》
社会保障の役割や理念，機能について理解する。社会保障の構造を把握し，制度の体系について理解する。社会保障の財源と費用を学び，社会保障財政のトレンドについて理解する。社会保障制度を構成する諸制度の内容，現状，将来展望について説明できる。

《成績評価の方法》
定期試験80%，授業への参加とその成果20%

《テキスト》
『社会保障(新・社会福祉士養成講座12)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版

《参考図書》
授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》
講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。限られた講義時間で，幅広い知識を身につけなければならないため，予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会の変化と社会政策	オリエンテーション(講義の課題と対象)
2	社会保障の定義	福祉国家政策や社会保障制度との関連について講義する
3	社会保障の構造	社会保障の目的，機能，体系，財政
4	医療保障(1)	医療費の動向
5	医療保障(2)	日本における医療供給システムの特徴，医療保険制度
6	医療保障(3)	医療制度改革
7	年金制度（1）	年金制度の仕組み
8	年金制度（2）	国民年金，厚生年金，共済年金
9	年金制度（3）	国民年金，厚生年金，共済年金 年金制度改革
10	労働保険（1）	労働者災害補償保険
11	労働保険（2）	雇用保険
12	社会福祉（1）	社会福祉の法制度，動向
13	社会福祉（2）	社会福祉の実施体制，社会福祉制度形成史
14	社会福祉（3）	社会福祉施策：母子福祉，老人福祉，介護保険
15	社会福祉（4）	社会福祉施策：生活保護，児童福祉，障害者福祉

科目名	社会保障論Ⅱ				
担当者氏名	河野　真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
本講義では，少子高齢化や生活の都市化・核家族化，所得格差の拡大，福祉サービス供給や財源調達，管理運営に関する公私関係，現代社会における社会保障制度の諸課題について教授するとともに，社会保障制度の発達過程や諸外国の制度についても理解を深める。

《授業の到達目標》
社会保障が対応する今日的課題(格差問題，少子化問題，高齢化問題)について，それらの本質や動向について理解する。社会保障の発展プロセスの学習や制度の国際比較を通して，社会保障制度の本質や制度形成のメカニズムを理解する。

《成績評価の方法》
定期試験80%，授業への参加とその成果20%。

《テキスト》
『社会保障(新・社会福祉士養成講座12)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版，及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業時間外学習》
授業で使用するテキストやプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については，新聞や書籍，ウェッブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し，疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《備考》
従来日本では経済的繁栄を追うあまり，社会保障改革はなおざりにされてきたが，そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会保障の今日的課題	オリエンテーション：講義の課題と対象
2	格差問題（1）	日本及び世界の所得格差の状況
3	格差問題（2）	格差問題の諸相，格差問題の背景と社会保障制度
4	少子化をめぐる諸問題（1）	少子化の状況，少子化が進む理由，問題点
5	少子化をめぐる諸問題（2）	少子化対策の動向(日本及び先進諸国)と対応策
6	高齢社会をめぐる諸問題（1）	高齢化の状況
7	高齢社会をめぐる諸問題（2）	高齢化の背景，問題点と対応策
8	社会保障の歴史的展開（1）	欧米における社会保障発達史
9	社会保障の歴史的展開（2）	欧米における社会保障発達史
10	社会保障の歴史的展開（3）	日本社会保障発達史（1）第2次世界大戦終了まで
11	社会保障の歴史的展開（4）	日本社会保障発達史（2）戦後～現代
12	諸外国における社会保障（1）	社会保障の国際比較
13	諸外国における社会保障（2）	社会保障の国際比較
14	諸外国における社会保障（3）	北欧，アメリカ，ドイツの社会保障制度
15	社会保障の要点解説	医療・所得保障・社会福祉制度の要点整理

科目名	心理検査法				
担当者氏名	北島　律之、原　志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
福祉の現場に出て行った時、利用者さんに関する心理検査のデータや情報等をケースワークに活かすため、知っておくと役に立つ「心理検査」について学ぶ。体験・実習した心理検査については自己理解を深めるためにも有効である。

《授業の到達目標》
知能・発達テスト、人格検査・性格検査・パーソナリティテストを体験・理解し、自己理解・他者理解を深める。

《成績評価の方法》
受講態度30%　数回のレポート30%　まとめのレポート40%

《テキスト》
心理検査の理論と実際　第Ⅳ版　花沢・佐藤・大村著
駿河台出版社　2800円

《参考図書》

《授業時間外学習》
テキストをよく読んで授業にのぞむこと。

《備考》
配布する資料は、各自ファイルを用意して閉じておいてください。同日に2コマで実施するため遅刻欠席厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	福祉の現場や医療の現場で使用される心理検査をソーシャルワーカーがいかに活用するかを知る
2	パーソナリティーテスト	自己理解を深めるためのパーソナリティーテストの体験を行う
3	子どもの現場で使用される心理検査①	児童相談所で使用される発達検査について知る
4	子どもの現場で使用される心理検査②	児童相談所で使用される心理検査と社会生活能力検査について知る
5	子どもの現場で使用される心理検査③	描画テストについて・・・バウムテストを学ぶ
6	子どもの現場で使用される心理検査④	描画テストについて・・・風景構成法を学ぶ
7	病院で使用される心理テスト①	インテークに必要な心理テストについて知る
8	病院で使用される心理テスト②	インテークに必要な心理テストについて知る
9	病院で使用される心理テスト③	投影法①を体験する
10	病院で使用される心理テスト④	投影法②を体験する
11	病院で使用される心理テスト⑤	投影法③を体験する
12	病院で使用される心理テスト⑥	投影法④を体験する
13	親子関係を知るテスト	親子関係テスト実習を行う
14	高齢者のための心理テスト	高齢者のための心理テストを知る
15	まとめ	この授業をふりかえりレポートにまとめて自己理解を深める

科目名	精神保健学Ⅰ				
担当者氏名	和田　光徳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる				

《授業の概要》
精神障害者を取り巻く現状について検討し、障害者の生活の諸相と課題を概括します。精神保健福祉法等の変遷、施策やサービスの現状、改革の動向を踏まえ生活支援システムについて、とりわけ相談支援、居住支援さらに就労支援を軸に実践課題を明らかにします。精神障害者の理解を疾病や障害の側面からだけではなく、地域で暮らす主体者、市民としてあるべき社会的システム（について検討を加えていきます。

《授業の到達目標》
○精神障害者の生活支援の理念と特徴について理解する。
○地域生活における精神障害者の暮らしにくさと課題解決のための支援のあり方、制度や施策について理解する。
・就労支援及び居住支援に関する制度・施策
・精神保健福祉士の相談支援活動について

《成績評価の方法》
下記により総合的に評価する
(1)授業への出席と討議や質問等による参加状況
(2)授業でのミニレポート内容
(3)課題レポート

《テキスト》
「精神障害者の生活支援システム」日本精神保健福祉士養成校協会編、中央法規、2012

《参考図書》
「生きている働いている－障がい者の就労を地域で支える」、目黒輝美他、大学教育出版、2012

《授業時間外学習》
○「精神保健福祉に関する制度とサービス」等のテキスト及び授業内容について再確認し歴史や精神障害者支援の課題等を把握しておくこと。
○新聞等の記事に注目し関連する記事を収集すること。

《備考》
○授業への積極的な参加を求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害者の概念	オリエンテーション及び障害の概念
2	精神障害者の生活の実際	精神障害者を取り巻く現状と生活
3	精神障害者の生活と人権	精神障害者の生活支援の理念、生活支援における人権
4	精神障害者の居住支援１	居住支援制度の概要
5	精神障害者の居住支援２	居住支援の実際
6	精神障害者の居住支援３	居住支援における関係機関等との連携
7	精神障害者の就労支援１	就労支援制度の概要
8	精神障害者の就労支援２	就労支援の実際
9	精神障害者の就労支援３	就労支援における関係機関等との連携
10	精神障害者の生活支援システム１	精神障害者の自立と社会参加
11	精神障害者の生活支援システム２	福祉的就労等の生活支援
12	精神障害者の生活支援システム３	生活支援における地域の役割
13	ソーシャル・サポートネットワーク	ソーシャル・サポートネットワーク
14	行政機関における相談支援	市町村における相談支援
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ				
担当者氏名	知念　奈美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

精神障害者を対象とした支援の基本的な考え方、個別援助や集団援助等の援助技術の概要、地域移行支援および地域の社会資源との連携による支援体制の在り方、精神障害者の地域生活の実態やそれを取り巻く社会情勢と地域相談援助における考え方について、講義および事例検討を通して学ぶ。

《授業の到達目標》

精神障害者を対象とした支援の基本的考え方、相談援助技術の展開、地域移行支援・医療機関との連携による支援体制、精神障害者の地域生活の実態と社会情勢についての基本的な事項を、講義および事例検討を通して理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

(1)授業中のディスカッションや個別・グループ作業における参加意欲、協力態度、作業成果20％
(2)レポート課題等の提出物20％
(3)定期試験60％（試験は「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座５　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』日本精神保健福祉士養成校協会編、中央法規、2012

《参考図書》

《授業時間外学習》

シラバスを参照の上、予定されている内容は授業前に読み、基礎的な知識を得ておくこと。

《備考》

ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の展開①	個別支援の実際と事例分析
2	相談援助の展開②	集団を活用した支援の実際と事例分析
3	相談援助の展開③	事例による相談援助活動の検討
4	相談援助の展開④	事例による相談援助活動の検討
5	相談援助の展開⑤	事例による相談援助活動の検討
6	家族調整・支援の実際①	精神保健福祉における精神障害者と家族の関係／家族支援の方法
7	家族調整・支援の実際②	事例による家族調整・支援の検討
8	地域移行の対象および支援体制①	地域移行胃炎の対象と地域移行の体制
9	地域移行の対象および支援体制②	精神保健福祉士の役割と他職種との連携
10	地域移行の対象および支援体制③	地域移行にかかる組織や機関
11	地域移行の対象および支援体制④	地域移行を推進する事業の展開
12	地域移行の対象および支援体制⑤	事例による地域移行支援の検討
13	地域を基盤にした相談援助の主体と対象①	精神障害者をとりまく社会的状況／地域相談援助の主体・対象・体制
14	地域を基盤にした相談援助の主体と対象②	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
15	まとめ	今期の学習内容のふり返り

科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ				
担当者氏名	知念　奈美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
精神障害者を対象とした支援の基本的な考え方、個別援助や集団援助等の援助技術の概要、地域移行支援および地域の社会資源との連携による支援体制の在り方、精神障害者の地域生活の実態やそれを取り巻く社会情勢と地域相談援助における考え方について、講義および事例検討を通して学ぶ。

《授業の到達目標》
精神障害者を対象とした支援の基本的考え方、相談援助技術の展開、地域移行支援・医療機関との連携による支援体制、精神障害者の地域生活の実態と社会情勢についての基本的な事項を、講義および事例検討を通して理解し、説明できる。

《成績評価の方法》
(1)授業中のディスカッションや個別・グループ作業における参加意欲、協力態度、作業成果20％
(2)レポート課題等の提出物20％
(3)定期試験60％（試験は「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》
『新・精神保健福祉士養成講座５　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』日本精神保健福祉士養成校協会編、中央法規、2012

《参考図書》

《授業時間外学習》
シラバスを参照の上、予定されている内容は授業前に読み、基礎的な知識を得ておくこと。

《備考》
ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の展開①	個別支援の実際と事例分析
2	相談援助の展開②	集団を活用した支援の実際と事例分析
3	相談援助の展開③	事例による相談援助活動の検討
4	相談援助の展開④	事例による相談援助活動の検討
5	相談援助の展開⑤	事例による相談援助活動の検討
6	家族調整・支援の実際①	精神保健福祉における精神障害者と家族の関係／家族支援の方法
7	家族調整・支援の実際②	事例による家族調整・支援の検討
8	地域移行の対象および支援体制①	地域移行支援の対象と地域移行の体制
9	地域移行の対象および支援体制②	精神保健福祉士の役割と他職種との連携
10	地域移行の対象および支援体制③	地域移行にかかる組織や機関
11	地域移行の対象および支援体制④	地域移行を推進する事業の展開
12	地域移行の対象および支援体制⑤	事例による地域移行支援の検討
13	地域を基盤にした相談援助の主体と対象①	精神障害者をとりまく社会的状況／地域相談援助の主体・対象・体制
14	地域を基盤にした相談援助の主体と対象②	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
15	まとめ	今期の学習内容のふり返り

科目名	家庭支援論				
担当者氏名	馬込 武志				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》
家庭支援論では、子どもが成長する環境としての家族に焦点を当て、現代の家族が抱えている問題や課題を探りながら子育てを取り巻く環境を理解し、保育者に必要とされていることを学んでいきたいと思います。

《授業の到達目標》
・家族とは何か、子育てにおいて家族の役割を理解する。
・現代社会における子育てをめぐる問題とその背景について理解する。
・支援の基本的視点を学び、求められている支援の実際について学び考えることができる。

《成績評価の方法》
試験を行う。授業終了後に、毎回小レポートの提出を求める。この小レポートも成績評価の対象となる。さらに授業態度も成績評価の対象とする。

《テキスト》
特にありません。

《参考図書》
授業の進捗に合わせて、参考図書の例示をいたします。

《授業時間外学習》
授業終了ごとに、次回までに予習しておくことについて、指示します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家族とは何か	子どもは、家庭という場で育まれる。その家庭という場を構成している「家族」について考える。
2	子育てにおける家族の役割と影響	家族が子育てに果たしている役割と影響を考える。
3	家族を取り巻く社会	家族は純粋に家族だけで暮らしているのではない。家族は社会の中で暮らし、社会から影響を受けている。その社会の動向について考える。
4	子育ての悩み	子育てに悩んだ時に相談する相手がいないということが多くなってきている。悩みを抱えたままという親が多い。その悩みは何かを考える。
5	保育士が果たすべき役割	家族の子育て力が低下している昨今、保育士は子どもの支援のみならず、親に対する支援も行わなければならない。保育士が果たすべき役割について考える。
6	地域と子育て	従来、子育ては親も含めて多くの大人、特に地域の大人によって行われてきた。どのように子育てが、地域で行われていたのかを学ぶ。
7	地域における子育て支援	子どもは、親だけではなく多くの大人から学んでいる。親に次いで身近な地域がどのように親と連携をして子育てを行うことができるかを考える。
8	地域における子育て支援の実態	実際に、地域において子育ての実践を行っている事例から、地域における子育ての可能性を考える。
9	保育所幼稚園における家庭支援	保育所幼稚園といった、子育ての専門機関と家庭の関係について考える。
10	家族支援の実際	保育所幼稚園といった、子育ての専門機関が家庭と連携をしている事例から、家族支援のあり方を考える。
11	専門機関との連携	専門機関、特に児童相談所といった、機関との連携を考える。
12	様々な家庭への支援	子どもたちは様々な家庭で暮らしている。特に多問題家庭といわれる家庭に対する支援を考える。
13	児童虐待について	子育てにおける問題の中でも、近年その数が増加している、児童虐待について考える。
14	家族支援のまとめ	家庭支援で必要なことは何かを考える。
15	保育者の役割	家庭支援において、必要であると指摘したことから、保育士が担うべき役割について考える。

科目名	こどもの食と栄養Ⅰ				
担当者氏名	須見　登志子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む				

《授業の概要》
保育士として、子どもの食に関する支援をするうえで必要な知識を習得し、実践力につなげていく。小児期の食生活の大切さを理解する。身体に必要な栄養素の働きと、それを含む食品について学ぶ。乳児期・幼児期の食生活の実際を学び、正しい食指導や支援ができる能力を培う。

《授業の到達目標》
○食べ物に含まれている栄養素がわかり、その働きが説明できる。
○子どもたちの成長発育段階に適した望ましい食生活指導ができる。

《成績評価の方法》

《テキスト》
『子どもの食と栄養～健やかに発育する食生活をめざして～』
赤塚順一・他、著　医歯薬出版㈱　2014

《参考図書》

《授業時間外学習》
授業中に予告した内容について教科書をよく読み、内容を把握してくること。

《備考》
学外実習で子どもたちの食環境について学んできてください。また、授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、積極的に料理に取り組むことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康、および食生活の現状と課題について理解し、健康的な生活習慣の大切さを学ぶ。
2	子どもの発育・発達と食生活	子どもの発育と栄養状態の評価、食べる機能・消化吸収機能の発達、排せつ機能を理解し、幼児にわかりやすく説明できる。
3	栄養に関する基本的知識	食品の分類を楽しい教材の使用により理解する。食べ物の働きを幼児にわかりやすく説明する方法を考える。
4	栄養に関する基本的知識	糖質、脂質、たんぱく質の種類と機能について理解する。
5	栄養に関する基本的知識	ビタミン、ミネラルの種類と機能について理解する。水分の機能についても理解する。
6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	育児用ミルクの種類や特徴、冷凍母乳の取り扱いについて理解する。離乳の必要性、離乳食の進め方について理解する。
7	人工乳栄養と離乳	無菌操作法による調乳の実際について学ぶ。
8	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応について理解する。
9	児童福祉施設における食事と栄養	保育所給食の実際を理解し、保育士としての役割や保育者とのかかわりについて学ぶ。
10	児童福祉施設における食事と栄養	児童福祉施設の食事の役割、栄養管理のあり方、食育のあり方について理解する。
11	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の心身の特徴と食生活の関係を理解する。幼児期の食生活の特徴を理解し、食事支援の方法を学ぶ。
12	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の間食の意義と食生活の問題点について理解する。
13	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の食生活上の問題と健康への対応を理解し、指導法を考える。
14	献立作成と調理の基本	食中毒の知識を得る。幼児期に適した調理の基本を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

科目名	こどもの食と栄養Ⅱ				
担当者氏名	須見　登志子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》
食育の基本と内容について学び、自作発表を行う。食事のバランスについて理解し、献立作成、調理につなげていく。小児期の疾病と病状について学び、体調不良の子どもへの対応を理解する。障がいのある子どもの特徴や食生活について学ぶ。ライフステージにおける食生活について学ぶ。

《授業の到達目標》
○食育の計画や内容について説明ができ、幼児にとって、楽しくわかりやすい食育を実践できる。
○子どもの症状に応じた食事の与え方が判断できる。
○障がいのある子どもに合ったペースで支援することができる。
○生涯発達での食生活のあり方について説明できる。

《成績評価の方法》

《テキスト》

《参考図書》

《授業時間外学習》
授業中に予告した内容について教科書をよく読み、内容を把握してくること。

《備考》
子どもたちの食の問題点を思い浮かべながら学びましょう。また、授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、積極的に料理に取り組むことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食育の基本と内容	食育基本法について学ぶ。保育所、幼稚園における食育の目標、内容について理解する。
2	食育の基本と内容	食育のための環境、地域の関係機関との連携、食を通した保護者への支援について理解する。
3	食育の基本と内容	子どもが興味を持つ媒体を考え、食育を実践することができる。
4	食事摂取基準と献立作成	食事摂取基準とは何か、食事摂取基準はどのように使用すればよいのかを理解する。各栄養素のとり方を理解できる。
5	食事バランスガイド	食事バランスガイドについて学ぶ。主食、副菜、主菜などのとり方を理解し、自分の食事の現状把握と改善箇所をみつけることができる。
6	献立作成と調理の基本	献立作成の方法、留意点について学び、バランスのとれた献立を作成することができる。
7	献立作成と調理の基本	食品についての知識、表示制度と調理の目的、調理方法について学ぶ。
8	妊娠期（胎児期）の食生活	妊娠期の母体の変化、胎児の発育、妊娠期の栄養と食生活について理解する。
9	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	母乳栄養の意義、母乳の成分、母乳の留意点について理解する。
10	家庭における食事と栄養	乳児期・幼児期の家庭における食事の役割について理解する。
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子どもへの対応を理解する。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障がいのある子どもへの対応を理解する。
13	学童期・思春期の心身の発達と食生活	学童期・思春期の身体特徴、食生活の特徴、問題点を理解する。学校給食の目標、栄養管理、衛生管理、食に関する指導について理解する。
14	生涯発達と食生活	生涯発達と加齢変化をふまえ、成人期・高齢期の食生活上の問題と健康への対応を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

科目名	こどもと音楽Ⅲ				
担当者氏名	中島　龍一、中條　裕子、西本　由香、前北　恵美、小杉　裕一、津田　安紀子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
ピアノ学習において一番大切なのは、日々の練習である。反復練習を怠らず行うことによって確実に進歩していくものである。本科目では、「こどもと音楽Ⅰ・Ⅱ」で学んだピアノ演奏技術の基礎を更に高め、こども教育現場におけるあらゆる場面で使えるように、個々の進度状況に合わせてレパートリーの幅を広げていく。

《授業の到達目標》
○幼稚園教諭を目指す者としての必要なピアノ演奏能力を身につけることができる。
○楽譜から音楽的な様々な事柄を読み取ることができる。
○現場での行事等に使用できる楽曲を弾くことができる。
○様々なリズムの知識と、それを表現する曲を演奏できる。

《成績評価の方法》
実技点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》
①うたのメルヘン
②ぴあのってすばらしい
③ぴあのれんだんワン!ツー!!スリー!!!

《参考図書》
その他楽譜等は、必要に応じて配布・指示する。

《授業時間外学習》
ピアノ学習で一番大切なことであり、上達の秘訣は日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分にして、レパートリーを広げる。

《備考》
①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
②室内での飲食厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	Ⅰ期授業内容の説明及びレッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（マーチ表現演奏法）
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（スキップ表現演奏法）
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ギャロップ表現演奏法）
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ゆったり歩く表現演奏法）
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ワルツ表現演奏法）
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（かけっこ表現演奏法）
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（バロック時代の小品）
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（古典派の小品）
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ブルグミュラーまたはソナチネ）
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ソナチネまたはソナタ）
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ロマン派の小品）
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（近現代の小品）
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅲ」の総まとめ、Ⅱ期「こどもと音楽Ⅳ」に向けての説明と指導。

科目名	こどもと音楽Ⅳ				
担当者氏名	中島　龍一、中條　裕子、西本　由香、前北　恵美、小杉　裕一、津田　安紀子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
「こどもと音楽Ⅲ」で学び得た技術を、現場においてどのように展開し使用するかを具体的に考えながら楽曲を中心としたレッスンを行う。編曲法も学び、ピアノ表現の可能性を探る。編曲の技術は、こどもに演奏指導する際にも重要なものとなる。このことを踏まえて、個人の進度状況に合わせて実践的なレッスンを行う。また、次年度(最終学年)の就職試験演奏課題に備えたレッスンも行う。

《授業の到達目標》
○幼稚園教諭を目指す者としての必要なピアノ演奏能力を身につけることができる。
○楽譜から音楽的な様々な事柄を読み取ることができる。
○現場での行事等に使用できる楽曲を弾くことができる。
○様々なリズムの知識と、それを表現する曲を演奏できる。

《成績評価の方法》
実技点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》
①うたのメルヘン
②ぴあのってすばらしい
③ぴあのれんだんワン!ツー!!スリー!!!

《参考図書》
その他楽譜等は、必要に応じて配布・指示する。

《授業時間外学習》
ピアノ学習で一番大切なことであり、上達の秘訣は日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分にして、レパートリーを広げる。

《備考》
①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
②室内での飲食厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	Ⅰ期授業内容の説明及びレッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（メロディー編曲法）
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（伴奏形編曲法）
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（装飾を使用した編曲法）
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（和音変化による編曲法）
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（リズム変化による編曲法）
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（音域を調性の考え方）
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ソナチネの緩徐楽章）
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ソナタの緩徐楽章）
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（バロックの楽曲）
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（古典派の楽曲）
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（ロマン派の楽曲）
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。（研究発表リハーサル）
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅳ」の総まとめ。

科目名	こどもと造形Ⅲ				
担当者氏名	田中　正彦、満田　知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
折り紙、ペーパークラフトなど紙を使った造形の演習を行ない、形を見る目を養い、造形の楽しさを伝える。子ども達の好奇心と意欲を刺激するための表現力と発想力を養う。 個々の作品制作に加えて、壁面や空間の構成、展示など社会環境の中での造形表現について学び、これらを総合的に体験するワークショップを企画する。

《授業の到達目標》
紙の素材としての特徴を理解し、折る、曲げる、切る、貼るなどの技術を身につける
紙を利用した表現の幅を広げる
環境の中での造形と構成を考えることができる
ワークショップの企画ができる

《成績評価の方法》
作品などの提出物により成績評価を行う。100%

《テキスト》
なし

《参考図書》
空間・壁面構成と立体工作のアイデア　学校を飾ろうよ　（学陽書房）
イタリア／レッジョ・エミリア市の幼児教育実践録　子どもたちの100の言葉（学研）
ダンボール＆ポリ袋であそぼう　（世界文化社）

《授業時間外学習》
その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	折り紙1	授業概要説明、折り紙のレクチャー
2	折り紙2	折り図の読み方
3	折り紙3	季節の行事の種類を提示します。テーマにあった折り紙の選定と制作
4	壁面構成1	テーマにあった企画を考え、パーツを作成する
5	壁面構成2	壁面の制作をすすめる
6	壁面構成3	壁面完成、合評
7	空間構成1	展示の内容を提示します。各自テーマを選び企画案作り
8	立体造形1	ペーパークラフトのレクチャー
9	立体造形2	企画にそったパーパークラフトの選定と制作
10	立体造形3	展示用パーパークラフトの制作を進める
11	空間構成2	展示空間を構成する、合評
12	ワークショップの企画	グループ別に企画案にそって制作
13	ワークショップの準備	分担し制作をすすめる
14	ワークショップ発表1	グループ別ワークショップ発表(前半)
15	ワークショップ発表2	グループ別ワークショップ発表(後半)

科目名	こどもと造形Ⅳ				
担当者氏名	田中　正彦				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》
ペーパークラフトの設計と制作を行う。 組み立てる、さわる、描くなどの作業を通して３次元の形状を理解する。 立体と展開図の対応を理解し、展開図への書き込みや部品の追加ができる。 組み立て作業の技術を学び、作業手順を考えることができる。 紙の特性を活かした表現ができるようにする。 設計時にパソコンを利用します。

《授業の到達目標》
パソコンを利用したペーパークラフトの設計と制作の演習を行う。 ３次元の形状とその表現方法、展開図との対応を理解する。 紙の特性を活かした立体造形ができるようになる。

《成績評価の方法》
作品など提出物により成績評価を行う。100％

《テキスト》
なし

《参考図書》

《授業時間外学習》
その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》
資料等の一部はWebページで公開しています。
http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	作品制作におけるパソコンの利用
2	ドローソフトの使い方	描く、塗る、配置、変形
3	平面作品を描く	パソコンを利用したイラストの作成
4	部品を作る	平面構成で使用する部品の設計
5	部品を使う	パーツを印刷し、作品を構成する
6	展開図を組み立てる	サンプルを使って設計制作の流れを知る
7	展開図の理解	組み立てたものに着色し、展開図との対応を考える
8	展開図の着色	完成形を考えながら展開図に着色する
9	展開図の修正	部品の追加、応用を考える
10	組み立て、評価	展開図を組み立て、互いに評価する
11	作品制作1	資料収集、作品テーマ決定
12	作品制作2	全体の形をイメージし制作手順を考える
13	作品制作3	全体から部分へと制作を進める
14	作品制作4	試作、着色
15	作品制作5	作品完成、発表

科目名	こどもと数				
担当者氏名	田中　正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
生活の中でみられるいろいろな量を比べることを題材とし、数や量の種類と意味を理解し、意味に応じた処理や計算方法を考える。
平面図形・立体図形の計量・作図をとおして 図形の性質を発見したり、図を使って考える方法を学ぶ。
問題解決の場面において、数や図形を利用したり、 数学的視点で捉えることを試みる。

《授業の到達目標》
こどもの発達段階に応じた数や図形の意味と数学的な概念との関連について理解し、 保育者として数量概念、図形概念の基礎作りを行うための数学的な考え方を習得すること。
数、量の種類と意味を知り、生活の中で数を使った考え方ができること。
四則演算の意味と法則を理解すること。
図形の性質を知り、作図や図形の計量、操作ができること。

《成績評価の方法》
レポート等の提出物、授業中に行う小テストにより評価する。
100%

《テキスト》
なし

《参考図書》
遠山啓「親と子で学ぶ算数入門」（SBクリエイティブ,2014)
野崎昭弘他「意味がわかれば数学の風景が見えてくる」（ベレ出版,2011)

《授業時間外学習》
授業内容のふりかえり、資料などの整理。
生活のなかにある数や図形について考える。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	なぜ算数・数学を学ぶのか
2	算数・数学の内容	小中高における算数・数学の内容と関連
3	数のしくみ	記数法、数とことば
4	四則演算	四則演算の意味と性質
5	数の性質	数の体系、いろいろな数
6	数と量	分離量、連続量、比例
7	比較	比較方法、割合
8	平面図形	形とことば、形の性質
9	図形と計量	長さ、面積
10	座標	位置を表す数、図形と数の対応
11	図形のしきつめ	くりかえし模様
12	立体図形	ものの形を考える
13	投影図を使って考える	立体を図で表す
14	展開図を使って考える	展開図の作成と利用
15	数学的な考え方	問題解決

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ				
担当者氏名	杣山　貴要江				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
子どもと家庭の福祉
　社会福祉領域の一分野である児童福祉について，現代社会に生きる子ども，支援を必要とする子どもをキーワードにして，様々な課題をとらえ考察する。新聞，映画，小説等を資料として用い，受講生間の意見交換を中心にして，視野を広めるとともに，知識を深める。

《授業の到達目標》
○社会福祉の専門性について説明することができる。
○子どもが有する様々な課題（貧困，虐待，障害等）に関する資料をもとに，受講生間で意見交換し，問題の所在を明らかにできる。
○こども福祉卒業演習に向けて，各自研究テーマを選定することができるように，自らの関心について探究することができる。

《成績評価の方法》
授業への参加態度と意欲（50%）
課題の提出（50%）

《テキスト》
プリント等の配布，視聴覚教材の利用

《参考図書》
随時紹介する。

《授業時間外学習》
子どもに関する新聞報道等には関心を持ち，現状を把握するよう努めてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習にねらいと進め方，到達目標と評価について説明する。
2	社会福祉と専門性 - 1	社会福祉という用語について学習し，理解する。
3	社会福祉と専門性 - 2	社会福祉分野の仕事と保育士資格について理解する。
4	社会福祉と専門性 - 3	保育士資格の専門性について理解する。
5	社会福祉と専門性 - 4	「社会福祉と専門性」について，討議により受講生間で学びを共有する。
6	子どもと家庭の福祉 - 1	社会的養護の必要性について理解する。
7	子どもと家庭の福祉 - 2	経済的支援について理解する。
8	子どもと家庭の福祉 - 3	障害のある子どもへの支援について理解する。
9	子どもと家庭の福祉 - 4	「子どもと家庭の福祉」について，討議により受講生間で学びを共有する。
10	子どもを取り巻く環境 - 1	社会的に弱い立場とワーキングプア，貧困の世代間連鎖について理解する。
11	子どもを取り巻く環境 - 2	貧困家庭における暴力，虐待とＤＶについて理解する。
12	子どもを取り巻く環境 - 3	学歴社会と教育，多様化する価値観，ワークライフバランスについて理解する。
13	意見交換と成果発表 - 1	授業を振り返り，受講の成果発表をする。
14	意見交換と成果発表 - 2	授業を振り返り，受講の成果発表をする。
15	意見交換と成果発表 - 3	受講の成果発表を踏まえ，こども福祉専門演習Ⅱに向けて研究テーマを選定する。

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ				
担当者氏名	田中　正彦				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
折り紙、ペーパークラフトなどさまざまな紙工作を行います。
制作スキルの習得、表現力のトレーニングをします。

《授業の到達目標》
折り紙、ペーパークラフトなど紙工作の楽しさを知る
折りの性質の理解
立体形状の理解

《成績評価の方法》
作品、レポートなどの提出物　100％

《テキスト》
なし

《参考図書》

《授業時間外学習》
その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
できるだけ多くのもの（実物）を観察すること。

《備考》
資料等の一部はWebページで公開しています。
http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	演習の目的
2	平面の造形1	平面のペーパークラフト制作1
3	平面の造形2	平面のペーパークラフト制作2
4	平面の造形3	平面のペーパークラフト制作3
5	半立体の造形1	半立体のペーパークラフト制作1
6	半立体の造形2	半立体のペーパークラフト制作2
7	半立体の造形3	半立体のペーパークラフト制作3
8	半立体の造形4	半立体のペーパークラフト制作4
9	立体の造形1	立体のペーパークラフト制作1
10	立体の造形2	立体のペーパークラフト制作2
11	立体の造形3	立体のペーパークラフト制作3
12	立体の造形4	立体のペーパークラフト制作4
13	造形作品の利用1	作品を活用できる場面を考える1
14	造形作品の利用2	作品を活用できる場面を考える2
15	造形作品の利用3	作品を活用できる場面を考える3

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ				
担当者氏名	安井　重雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
さまざまな絵本を読み、その魅力について考え、学生それぞれが発表を行い、意見を出し合って検討する。発表にあたっては、調査をした上で、資料にまとめるなど充分な準備をして臨む。また、発表を聞く側も、自分の意見を述べ、他の人の意見も聞いて、発表した絵本の魅力を充分に引き出すようにする。発表を繰り返すことで、絵本の研究方法について学び、考える。

《授業の到達目標》
自分が考える絵本の魅力について、客観的で納得できる説明を行えるようになること。
他の人の発表や意見をしっかり聞いて、相手の説明に即した意見を言えるようになること。

《成績評価の方法》
発表（作成した資料、発表内容）の評価（50%）、最終回に提出するレポートの評価（50%）によって行う。

《テキスト》
説明については、教員がプリントを準備する。
発表については、学生それぞれが絵本と資料を準備する。

《参考図書》
授業内で指示する。

《授業時間外学習》
次回に読む絵本について情報を得ておき、読んでおく。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方法についての説明	15回の授業をどのように行っていくかを説明する。
2	絵本の種類	絵本に類するものにはどのようなものがあるのか、考える。鳥獣戯画や絵巻など日本の昔のものも読んでみる。
3	日本の昔話を読む	日本の昔話は絵付きで読まれた。それら昔話の絵本を、当時（江戸時代など）のものと今のものと読み比べてみる。
4	昭和の絵本を読む	昭和の時代に書かれた絵本を読み、絵本と時代について考える。
5	絵本についての資料を読む	絵本について研究した資料を読み、研究方法について考える。
6	こどもの絵を見る	江戸時代以前のこどもの絵から、現代のこどもの絵までを比較してみる。
7	資料の作成の仕方	発表をするにあたって、資料の作成方法について学ぶ。
8	資料の作成の仕方	発表をするにあたって、資料の作成方法について学ぶ。
9	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
10	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
11	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
12	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
13	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
14	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
15	授業のまとめ	絵本に関する授業や各人の発表を終えて、わかったことについてまとめる。

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ				
担当者氏名	田中　博一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
ジャン・ジャック・ルソーの『エミール』研究
　今から約250年前に書かれたルソーの『エミール』第1，2，3編を解説し、その教育論の現代的意味について考察する。ルソーは教育とは「人間を作る術」であると述べており、教育の目的と対象、私教育と公教育等のテーマーを持ってルソーの教育論を論ずる。

《授業の到達目標》
１ルソーの人間観を理解する。
２『エミール』の第3編までを理解し、その教育論を説明できる。
３ゼミで『エミール』教育論を述べ、人間教育の意味を説明でき、自分の考察を述べることができる。

《成績評価の方法》
レポート（80%）
授業参加意欲（20%）

《テキスト》
ジャン・ジャック・ルソー『エミール』（上）（中）（下）
岩波書店

《参考図書》
福田歓一著『ルソー』岩波現代文庫
林達夫『ルソー』レグルス文庫
ルソー『告白』岩波書店
ルソー『社会契約論』岩波書店
長尾十三二　福田弘『ペスタロッチ』清水書院

《授業時間外学習》
参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人間ルソー	ルソーの生涯を年代を辿ってみる。幼少期、青年期　壮年期　晩年の特徴を解説する。
2	第１編幼年期（１）	序論　5歳になるまでの理想の教育を述べる。
3	第1編幼年期（２）	序論　5歳になるまでの理想の教育を述べる。
4	第1編幼年期（３）	序論　5歳になるまでの理想の教育を述べる。
5	第１編幼年期（４）	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
6	第2編幼少年期（１）	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
7	第2編幼少年期（２）	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
8	第2編幼少年期（３）	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
9	第2編幼少年期（４）	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
10	第3編少年期（１）	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
11	第3編少年期（２）	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
12	第3編少年期（３）	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
13	第3編少年期（４）	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
14	まとめと考察（１）	幼年期教育論について各自発表と議論
15	まとめと考察（２）	幼少年期　少年期の教育論について各自発表と議論

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
この演習では、皆さんと「論理的に考える」つまり「言葉を正しく運用する」ことを学んでいきたい。具体的には『論理トレーニング』という教科書を輪読し、問題演習を積み重ねていくことになろう。別の言い方をすれば、ある事柄を社会科学的に学んだり、考えたりするというのはどういうことなのかを体験してもらうことになる。野球で言えば一番基礎的なバットやボールの握り方を学ぶ場だと考えていただきたい。

《授業の到達目標》
○基礎的な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《成績評価の方法》
評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。

《テキスト》
野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考図書》
参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》
毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《備考》
せっかく大学に入ったのだから、科学的「知」の「考え方のくせ」くらい身に付けてみるのもよいと思う。これを身に付けるだけでも、身の回りの見え方が変わってくるはずである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	論理トレーニング	序論　論理とは何か
3	論理トレーニング	第１章　さまざまな接続関係（１）
4	論理トレーニング	第１章　さまざまな接続関係（２）
5	論理トレーニング	第１章　さまざまな接続関係（３）
6	論理トレーニング	第２章　接続の構造（１）
7	論理トレーニング	第２章　接続の構造（２）
8	論理トレーニング	まとめと復習
9	論理トレーニング	第３章　議論の組み立て（１）
10	論理トレーニング	第３章　議論の組み立て（２）
11	論理トレーニング	第３章　議論の組み立て（３）
12	論理トレーニング	まとめと復習
13	論理トレーニング	第４章　論証の構造と評価（１）
14	論理トレーニング	第４章　論証の構造と評価（２）
15	論理トレーニング	まとめと復習

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ				
担当者氏名	藤井　恵美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

幼児教育理論について、講読を中心に研究を深める。幼児期の遊びや生活に視点をおき、幼稚園・保育所・認定子ども園並びに関係諸機関を見学・観察し、幼児理解に努める。

更に、幼稚園教諭、保育士としての実践力を高めるために模擬保育を通して保育者としての資質の向上を図り、自らの研究課題を探っていくことを目的とする。

《授業の到達目標》

○幼児教育理論について関係文献を購読し、保育思想の源流を探り研究を深める。
○幼稚園や保育所並びに関係諸機関を参観・観察し、幼児理解に努めるとともに、幼児教育者としての資質の向上を図る。
○文献研究並びに実践研究から、自らの「研究テーマ」の決定に向けて総合的に思考する。

《成績評価の方法》

(1) レポート　50%
(2) 受講態度　50%

《テキスト》

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

（１）授業時に出された課題は積極的に取り組む。
（２）各自の研究課題に向けて資料や情報を収集し、整理しておくこと。
（３）地域のボランティア活動に積極的に参加する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	こども福祉専門演習のゼミの方向性について
2	講読（１）	諸外国の幼児教育の文献を講読し、レポートにまとめて発表することができる。
3	講読（２）	諸外国の幼児教育の文献を講読し、レポートにまとめて発表することができる。
4	講読（３）	諸外国の幼児教育の文献を講読し、レポートにまとめて発表することができる。
5	講読（４）	日本の幼児教育の研究（明治・大正時代）レポートにまとめて発表することができる。
6	講読（５）	日本の幼児教育の研究（昭和前期時代）レポートにまとめて発表することができる。
7	講読（６）	日本の幼児教育の研究（昭和後期時代）レポートにまとめて発表することができる。
8	講読（７）	日本の幼児教育の研究（平成から現代）レポートにまとめて発表することができる。
9	幼稚園（保育所）参観	研究課題を明確にし、公立幼稚園・私立幼稚園・保育所などを参観する。
10	認定こども園参観	研究課題を明確にし、認定こども園を参観する。
11	演習（１）ビデオ研修	研究協議をし、成果と課題を各自でまとめ、発表する。（1）
12	演習（２）ビデオ研修	研究協議をし、成果と課題を各自でまとめ、発表する。（2）
13	演習（３）ビデオ研修	研究協議をし、成果と課題を各自でまとめ、発表する。（3）
14	演習（４）ビデオ研修	研究協議をし、成果と課題を各自でまとめ、発表する。（4）
15	まとめ	これまでの学修内容と得られた知見とその成果を「こども福祉専門演習Ⅱ」へつなぐことができる。

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ				
担当者氏名	松田　信樹				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
こどもとこどもの成長に関わる諸問題を心理学の観点から検討する。受講学生による文献選択⇒精読⇒まとめ⇒発表⇒討議のプロセスを通して授業を展開する。

《授業の到達目標》
①こどもの心理学に関する文献を精読できる。
②こどもの心理についての理解を深める。
③こどもの心理について問題意識を持つ。
④こどもの心理について問いを立てられる。

《成績評価の方法》
授業に対して積極的に取り組み態度　５０％
発表内容の質　５０％

《テキスト》
教科書は使用しない。教員が用意した文献をテキストとして利用する。

《参考図書》
適宜紹介する。

《授業時間外学習》
授業時間内には学生個々の発表とディスカッションを行うので、文献の精読は授業時間外に行わなければならない。

《備考》
無断欠席を厳しく禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や発表資料の作成の仕方などについて説明する。
2	文献の精読と資料作成	教員が取り上げた全員共通のテキストを用いて、発表資料作成の練習を行う。
3	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
4	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
5	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
6	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
7	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
8	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
9	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
10	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
11	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
12	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
13	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
14	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
15	まとめと展望	自分自身が調べて理解したこと、他の学生の発表を聞いて理解したことをまとめ、これから追及していきたいテーマを絞り込んでいく。

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ				
担当者氏名	中島　龍一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
音楽を表現する手法について探究する。楽器を用いて演奏すること、身体により表現すること、うたうこと、編曲等、音楽を表現する手法は様々である。本演習では、個別に課題を見い出すために、まず、音楽の基礎的な知識を学び、それにより、自らの研究課題を見出す。

《授業の到達目標》
○音楽全般に亘る知識を修得する。
○広義における「音楽」より、研究課題を見出す。

《成績評価の方法》
授業点(40%)、課題提出点(60%)の総合評価。

《テキスト》
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》
適宜紹介する。

《授業時間外学習》
ジャンルを問わず、様々な音楽を、日々聴くこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本科目の概要説明
2	音楽表現の手法と例(1)	クラシック、ジャズを中心として
3	音楽表現の手法と例(2)	ポピュラー、映画音楽を中心として
4	音楽表現の手法と例(3)	ミュージカルを中心として
5	音楽表現の手法と例(4)	シャンソン、カンツォーネ、民族音楽を中心として
6	音楽表現の手法と例(5)	日本の音楽を中心として
7	音楽表現の手法と例(6)	子どものための音楽を中心として
8	音楽表現の手法と例(7)	ワルツ、タンゴ、ボサ・ノヴァ等様々なリズム形態の音楽
9	音楽表現の手法と例(8)	身体表現・バレエ音楽を中心として
10	個別研究課題に向けて(1)	歌を作る（歌詞）
11	個別研究課題に向けて(1)	歌を作る（メロディー）
12	個別研究課題に向けて(1)	歌を作る（リズム）
13	個別研究課題に向けて(1)	歌を作る（ハーモニー）
14	研究発表	作詞・作曲発表会
15	総まとめ	Ⅰ期のまとめと、Ⅱ期に向けての説明。

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ				
担当者氏名	満田　知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
展示、体験、制作の３つの構成についての研究。はじめに素材とどのように出会い、感じるか、その後自分なりに関わりを展開していく事や積極的な気持ちを持続させる事の大切さについて学びます。「素材との出会い展、造形発見展、オープンスタジオ等」の企画書を作成する。

《授業の到達目標》
道具･材料の取り扱いを知る。
制作する上で伸びやかに作業する環境を学ぶ。
作品の展示方法と保存の仕方について学ぶ。

《成績評価の方法》
提出作品（１００％）により成績評価を行う。

《テキスト》
毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》
図工室にいこう～こどもがつくる楽しい時間
美術手帖編集部･編　東京都図画工作研究会

《授業時間外学習》
予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、随時質疑応答を行う。

《備考》
授業のはじめに出席をとります。その後その日の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料、道具の取り扱いについて。
2	イメージを広げる① 紙	紙をつなげながら、考え、感じとり、活動する。
3	イメージを広げる② 絵具	からだで感受する色やかたちのリズム表現。
4	イメージを広げる③ のり	表現欲を刺激するのり絵具で制作。
5	イメージを広げる④ 石	ホンモノそっくりの石を作ってみる。
6	イメージを広げる⑤ 模写	名画を素材に鑑賞･表現を学ぶ。
7	イメージを広げる⑥ 模写	仕上げ。
8	イメージを広げる⑦ 大作	つづきの国の道づくり企画案。
9	イメージを広げる⑧ 大作	つづきの国の道づくり制作。
10	体験① イメージを広げる④石	屋外に作品を持ち出し遊びを考える。
11	体験② イメージを広げる⑤模写	図書館（絵本コーナー）にいこう。
12	体験③ スケッチ大会	画用紙と色鉛筆を持ち、学内周辺にでかけ風景をスケッチする。
13	展示① マイアートスペース	全ての作品の仕上げとレイアウト企画。
14	展示② マイアートスペース	自分の卓上美術館。
15	まとめ	作品の保存方法を学ぶ。

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ				
担当者氏名	澤田　真弓				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
教育・保育実践に関する様々な事象や課題について調査・研究を行い、受講生のディスカッションを交えながら検討、考察する。

《授業の到達目標》
○保育・教育実践に関する調査・研究の方法を知る。
○受講生の意見交換を通して、様々な考え方に触れる。
○設定した課題に対して検討を加え、自分なりの考察ができる。

《成績評価の方法》
授業への参加態度及び提出課題を総合的に評価する。100%

《テキスト》
適宜指示する。

《参考図書》
必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》
常に教育・保育に関する話題に関心を寄せ、自身が学びを深めたいテーマ、課題を明確にできるよう努めること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の方法を確認する
2	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
3	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
4	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
5	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
6	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
7	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
8	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
9	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
10	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
11	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
12	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
13	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
14	演習のまとめ	学習内容を総括する
15	演習のまとめ	学習内容を総括する

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ				
担当者氏名	杣山　貴要江				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
子どもの家庭と福祉
本演習Ⅰを踏まえて，実際のサービス提供の場を訪問し，保育士資格の専門性について考察する。

《授業の到達目標》
○机上の学習と受講生間の意見交換を踏まえて，児童福祉施設，関連機関等を訪問して，自ら構築した「考え」を検証する。
○保育士資格の専門性の具体的役割を明確にし，支援を必要とする子どもへの具体的支援方法について，文章にして説明することができる。

《成績評価の方法》
授業への参加態度と意欲（50%）
課題の提出（50%）

《テキスト》
プリントの配布，視聴覚教材の利用

《参考図書》
随時紹介する。

《授業時間外学習》
子どもに関する新聞報道等には関心を持ち，現状を把握するよう努めてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習のねらいと進め方，到達目標と評価について説明する。なお，本演習は次年度のこども福祉卒業演習と連動していることについて理解する。
2	実際の場の訪問 - 1	各受講生が想定するサービス提供の訪問場所について話し合いをする。
3	実際の場の訪問 - 2	具体的計画と訪問に関する手続等を行う。
4	訪問に向けて - 1	訪問の目的について話し合い，綿密な訪問計画を立てる。
5	訪問に向けて - 2	訪問により何をどこまで明らかにしたいのか等について話し合う。
6	訪問 - 1	訪問を実行する。
7	訪問 - 2	訪問を実行する。
8	訪問を終えて - 1	各自訪問に関しての報告の準備をする。
9	訪問を終えて - 2	訪問に関しての報告会を開催する。
10	文献学習 - 1	訪問の経験を，学びとして深めるために文献学習を行う。
11	文献学習 - 2	訪問の経験を，学びとして深めるために文献学習を行う。
12	卒業演習に向けて - 1	こども卒業演習に向けて，さらに深めたい研究テーマを定めるために受講生間で意見交換をする。
13	文献学習（実践の場の訪問） - 1	受講生の研究テーマ設定に従い，文献学習を進める者，再度異なる施設，機関等を訪問する者に分かれて学習計画を作成する。
14	文献学習（実践の場の訪問） -	受講生の研究テーマ設定に従い，文献学習を進める者，再度異なる施設，機関等を訪問する者に分かれて学習計画を実践する。
15	卒業演習に向けて - 2	1年間の学びを踏まえ，選定した研究テーマにたどり着いた理由，さらに卒業演習において学びたいことについてまとめる。

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ				
担当者氏名	田中　正彦				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
これまでに学んだ技術を組み合わせた紙工作や立体造形を行う。
展示、ワークショップなどにおける、造形作品の利用について考える。
内容によってはパソコンを利用します。

《授業の到達目標》
造形の楽しさを知り、その伝え方を考えることができる
制作の工程について考えることができる
デザイン的な観点から作品を見ることができる

《成績評価の方法》
作品、レポートなどの提出物　100%

《テキスト》
なし

《参考図書》

《授業時間外学習》
その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
できるだけ多くのもの（実物）を観察すること。

《備考》
資料等の一部はWebページで公開しています。
http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	演習の目的
2	デザイン1	デザインとは、デザインの目的と評価
3	形とデザイン1	目的に合った形を作る1
4	形とデザイン2	目的に合った形を作る2
5	形とデザイン3	目的に合った形を作る3
6	デザイン2	制作の工程を考える
7	パソコンの利用1	道具としてのコンピュータ
8	パソコンの利用2	いろいろな部品を作る
9	パソコンの利用3	何度でも使える部品を作る
10	折りを利用した造形1	折りを利用したペーパークラフト制作1
11	折りを利用した造形2	折りを利用したペーパークラフト制作2
12	折りを利用した造形3	折りを利用したペーパークラフト制作3
13	折りを利用した造形4	折りを利用したペーパークラフト制作4
14	デザイン3	場面に応じたデザインを考える
15	まとめ	まとめ

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ				
担当者氏名	安井　重雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
さまざまな絵本を読み、その魅力について考え、学生それぞれが発表を行い、意見を出し合って検討する。発表にあたっては、調査をした上で、資料にまとめるなど充分な準備をして臨む。また、発表を聞く側も、自分の意見を述べ、他の人の意見も聞いて、発表した絵本の魅力を充分に引き出すようにする。また、Ⅰでは古い絵本に触れたが、Ⅱでは、現代作家の絵本について考える。

《授業の到達目標》
自分が考える絵本の魅力について、客観的で納得できる説明を行えるようになること。
他の人の発表や意見をしっかり聞いて、相手の説明に即した意見を言えるようになること。

《成績評価の方法》
発表（作成した資料、発表内容）の評価（50%）、最終回に提出するレポートの評価（50%）によって行う。

《テキスト》
説明については、教員がプリントを準備する。
発表については、学生それぞれが絵本と資料を準備する。

《参考図書》
授業内で指示する。

《授業時間外学習》
次回に読む絵本について情報を得ておき、読んでおく。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方法についての説明	15回の授業をどのように行っていくかを説明する。
2	現代作家の絵本を読む	絵と文とは同じ作家が書く場合と別の作家が書く場合がある。同じ作家が書いた絵本、すなわちその作家が構想し絵も描いた本を読んでみる。
3	現代作家の絵本を読む	絵と文と同じ作家が書いた絵本を読む。
4	現代作家の絵本を読む	絵と文を別の作家が書いた絵本を読む。
5	現代作家の絵本を読む	絵と文を別の作家が書いた絵本を読む。
6	現代作家の絵本を読む	外国の絵本を読む。
7	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
8	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
9	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
10	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
11	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
12	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
13	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
14	発表をする	資料を準備して一人ずつ発表を行う。聞く側も真剣に聞いて意見を述べる。
15	授業のまとめ	絵本に関する授業や各人の発表を終えて、わかったことをまとめる。

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ				
担当者氏名	田中　博一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
ジャン・ジャック・ルソーの『エミール』研究
　今から約250年前に書かれたルソーの『エミール』第4，5編を解説し、その教育論の現代的意味について考察する。ルソーは教育とは「人間を作る術」であると述べており、教育の目的と対象、私教育と公教育等のテーマーを持ってルソーの教育論を論ずる。

《授業の到達目標》
１ルソーの人間観を理解する。
２『エミール』の第4編、第5編を理解し、その教育論を説明でき　る。
３ゼミで『エミール』教育論を述べ、人間教育の意味を説明できる。

《成績評価の方法》
レポート（80%）
授業参加意欲（20%）

《テキスト》
ジャン・ジャック・ルソーの『エミール』（中）（下）岩波書店

《参考図書》
福田歓一著『ルソー』岩波現代文庫
林達夫『ルソー』レグルス文庫
ルソー『告白』岩波書店
長尾十三二　福田弘『ペスタロッチ』清水書院

《授業時間外学習》
参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論　宗教観について
2	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論　宗教観について
3	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論　宗教観について
4	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論　宗教観について
5	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論　宗教観について
6	『エミール』第5編	エミール15歳から20歳までの教育論　宗教観について
7	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観　政治についての考え方
8	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観　政治についての考え方
9	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観　政治についての考え方
10	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観　政治についての考え方
11	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観　政治についての考え方
12	ルソーの教育論の内容	ルソーの教育目的と対象について
13	ルソーの教育論の特色	社会の中に生きる自然人とはなにか
14	人間ルソーの思想（１）	ルソーの人間哲学　『告白』を取り上げる
15	人間ルソーの思想（２）	ルソーの社会思想『社会契約論』を取り上げる

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ				
担当者氏名	斎藤　正寿				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
この演習では、専門演習Ⅰにつづき、『論理トレーニング』の第３部「演繹」を中心に、論理的な言語運用能力を鍛えていくつもりである。いままでの演習が広い意味での論理をとらえる練習であったとすると、これからはかなり厳密な意味での論理の運用について学んでいくことになる。

《授業の到達目標》
○ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《成績評価の方法》
評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。

《テキスト》
野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考図書》
参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》
毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《備考》
・文字通り理屈っぽい演習です。理屈がお好きであれば是非ご参加下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	論理トレーニング	第４章　論証の構造と評価（１）
3	論理トレーニング	第４章　論証の構造と評価（２）
4	論理トレーニング	第５章　演繹と推測（１）
5	論理トレーニング	第５章　演繹と推測（２）
6	論理トレーニング	まとめと復習
7	論理トレーニング	第６章　価値評価（１）
8	論理トレーニング	第６章　価値評価（２）
9	論理トレーニング	第６章　価値評価（３）
10	論理トレーニング	第７章　否定（１）
11	論理トレーニング	第７章　否定（２）
12	論理トレーニング	第８章　条件構造（１）
13	論理トレーニング	第８章　条件構造（２）
14	論理トレーニング	第８章　条件構造（３）
15	論理トレーニング	まとめと復習

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ				
担当者氏名	藤井　恵美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
先行研究文献を整理・検討をする。さらに、調査結果の整理分析そして考察をする。
中間発表会において、研究の経過を発表する。

《授業の到達目標》
○関係文献の購読ならびに研究テーマを探り先行研究の整理などを行う。
○教材研究やフィールドワークを通して、保育者としての実践力を養うとともに、幼児教育者としての資質の向上を図る。
○中間発表会において、各自の研究課題を明確にする。

《成績評価の方法》
（1）レポート　50%
（2）受講態度　50%

《テキスト》

《参考図書》
必要に応じて適宜紹介する。

《授業時間外学習》
（1）授業時に出された課題は積極的に取り組む。
（2）各自の研究課題に向けて資料や情報を収集し、整理しておくこと。
（3）地域のボランティア活動に積極的に参加する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 論文の書き方	「こども福祉専門演習Ⅱ」のゼミの方向性について 論文の書き方を学ぶ。研究の進め方について検討する。
2	論文の書き方	論文の書き方を学ぶ。研究の進め方について討議する。
3	講読（1）	各自の課題に向けて、文献を講読し、レポートにまとめて発表することができる。（先行研究）
4	講読（2）	各自の課題に向けて、文献を講読し、レポートにまとめて発表することができる。（先行研究）
5	講読（3）	各自の課題に向けて、文献を講読し、レポートにまとめて発表することができる。（先行研究）
6	フィールドワーク（1）	各自の課題に向けて、関係諸機関で調査・研究をする。記録を整理する。
7	フィールドワーク（2）	各自の課題に向けて、関係諸機関で調査・研究をする。記録を整理する。
8	フィールドワーク（3）	各自の課題に向けて、関係諸機関で調査・研究をする。記録を整理する。
9	フィールドワーク（4）	各自の課題に向けて、関係諸機関で調査・研究をする。記録を整理する。
10	フィールドワーク（5）	各自の課題に向けて、関係諸機関で調査・研究をする。記録を整理する。
11	フィールドワーク（6）	各自の課題に向けて、関係諸機関で調査・研究をする。記録を整理する。
12	フィールドワーク（7）	各自の課題に向けて、関係諸機関で調査・研究をする。記録を整理する。
13	研究の中間発表（1）	研究テーマ並びに各自の研究の進め方について発表する。
14	研究の中間発表（2）	研究テーマ並びに各自の研究の進め方について発表する。
15	まとめ	調査・データの検討をする。「こども福祉卒業演習Ⅰ」につなぐことができる。

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ				
担当者氏名	松田　信樹				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
こどもとこどもの成長に関わる諸問題を心理学の観点から検討する。受講学生による文献精読⇒まとめ⇒発表⇒討議のプロセスを通して授業を展開する。

《授業の到達目標》
①こどもの心理についての理解を深める。
②こどもの心理について問題意識を持つ。
③こどもの心理について問いを立てられる。
④こどもの心理について立てた問いを解くための筋道を思い描くことができる。

《成績評価の方法》
授業に対して積極的に取り組み態度　５０％
発表内容の質　５０％

《テキスト》
教科書は使用しない。受講学生自身が興味・関心を持った文献がテキストとなる

《参考図書》
適宜紹介する。

《授業時間外学習》
授業時間内には学生個々の発表とディスカッションを行うので、文献の精読は授業時間外に行わなければならない。

《備考》
無断欠席を厳しく禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。受講学生が関心をもっているテーマについて討議し、問題意識を高める。
2	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
3	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
4	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
5	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
6	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
7	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
8	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
9	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
10	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
11	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
12	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
13	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
14	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
15	まとめと展望	自分自身が調べて理解したこと、他の学生の発表を聞いて理解したことをまとめる。４年次の卒業演習で取り上げる研究テーマの目星をつける。

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ				
担当者氏名	中島　龍一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
Ⅰ期「こども福祉専門演習Ⅰ」で学び得た音楽表現手法から個人研究課題を見出し、それを将来、どの場面でどの様に活用するかを探究する。

《授業の到達目標》
○様々な音楽表現の手法を修得する。
○個別研究課題による音楽表現探究と考察をする。

《成績評価の方法》
授業点(40%)、課題提出点(60%)の総合評価。

《テキスト》
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》
適宜紹介する。

《授業時間外学習》
ジャンルを問わず、様々な音楽を日々聴き、研究課題について探究すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本科目の概要説明
2	音楽研究(1)	個別課題による研究実践①
3	音楽研究(2)	個別課題による研究実践②
4	音楽研究(3)	個別課題による研究実践③
5	音楽研究(4)	個別課題による研究実践④
6	中間報告会(1)	個別課題による研究実践での成果報告①
7	中間報告会(2)	個別課題による研究実践での成果報告②
8	音楽研究(5)	個別課題による研究実践⑤
9	音楽研究(6)	個別課題による研究実践⑥
10	音楽研究(7)	個別課題による研究実践⑦
11	音楽研究(8)	個別課題による研究実践⑧
12	研究発表リハーサル	個人研究課題のまとめとリハーサル
13	研究発表と討論会(1)	個人研究課題による発表会とそれに基づいた討論会①
14	研究発表と討論会(2)	個人研究課題による発表会とそれに基づいた討論会②
15	総まとめ	個人研究発表の総括とⅡ期のまとめ。

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ				
担当者氏名	満田　知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
専門演習Ⅰの内容に基づき、実際に指導案を作成し学内、学外で実践する。ひとりまたは複数のメンバーと関わる課外の制作・研究活動について、各自その計画を報告し、講評をうけます。

《授業の到達目標》
ごっこあそびを企画する。
作品を作る、並べて売る、買って使う喜びや面白さ、嬉しさを経験する。

《成績評価の方法》
提出作品（１００％）により成績評価を行う。

《テキスト》
毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》
作ってあそぶお店屋さんごっこ一身近な素材でアイデア工作ー
アド･グリーン企画出版

《授業時間外学習》
予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、随時質疑応答を行う。

《備考》
授業のはじめに出席をとります。その後その日の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料･道具の扱い方。
2	企画制作① ケーキ&お菓子やさん	布ケーキ、クッキー、ビスケット、小麦粉粘土等制作。
3	企画制作② 魚屋さん	魚、カニ、エビ、イカ、たこ等制作。
4	企画制作③ お弁当	サンドイッチ、おにぎり、洋食、和食等制作。
5	企画制作④ アクセサリー	指輪、ブレスレット、ブローチ等制作。
6	企画制作⑤ 楽器屋さん	たいこ、カスタネット、マラカス等制作。
7	企画制作⑥ ゲームやさん	輪投げ、ボーリング、玉入れ等制作
8	グループ発表準備①	６グループに分かれ企画制作をそれぞれ選びごっこ遊びを展開する。
9	グループ発表準備②	ルール作り、看板、ユニホーム、商品陳列等制作。
10	グループ発表① ケーキ&お菓子やさん	グループ発表
11	グループ発表② 魚屋さん	グループ発表
12	グループ発表③ お弁当	グループ発表
13	グループ発表④ アクセサリー	グループ発表
14	グループ発表⑤ 楽器屋さん	グループ発表
15	グループ発表 ゲームやさん	グループ発表

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ				
担当者氏名	澤田　真弓				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
教育・保育実践に関する様々な事象や課題について調査・研究を行い、受講生のディスカッションを交えながら検討、考察する。

《授業の到達目標》
○主体的な学びの方法を体得し、課題追究する。
○受講生の意見交換を通して、幅広い考察の視点を獲得する。
○設定した課題に対して検討を加え、自分なりの考察ができる。

《成績評価の方法》
授業への参加態度及び提出課題を総合的に評価する。100％

《テキスト》
適宜指示する。

《参考図書》
必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》
常に教育・保育に関する話題に関心を寄せ、自身が学びを深めたいテーマ、課題を明確にできるよう努めること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の方法を確認する。
2	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
3	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
4	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
5	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
6	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
7	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
8	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
9	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
10	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
11	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
12	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
13	演習の成果報告	こども福祉専門演習ⅠおよびⅡにおける学習成果を発表する。
14	演習の成果報告	こども福祉専門演習ⅠおよびⅡにおける学習成果を発表する。
15	演習のまとめ	学習の総括を行う

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教師・保育者論				
担当者氏名	藤井　恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎　3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深め、理論や実践からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構想する。

《授業の到達目標》

○教職の意義と保育者の役割や倫理、制度的な位置づけについての認識を深く理解する。
○保育者としての資質・能力・知識・技術などを習得する。
○保護者・地域社会・保育者間などの協働について学ぶことを通して、自らの適性を見つめ保育者への意欲や自覚を養う。

《成績評価の方法》

(1)授業内討議や発表などへの参加･態度･成果　20％
(2)レポート課題等の提出物　30％
(3)筆記テスト　50％

《テキスト》

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　2008
『保育所保育指針』　厚生労働省　2008
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府　2014年
その他、授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

(1)次回の授業範囲を予習する。
(2)適宜課題を出します。その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめる。
(3)授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめる。

《備考》

・幼稚園･保育所などに関する情報(特に教職)を常に意識して収集する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 目指す保育者像	授業の進め方･評価方法などのガイダンス 現時点で考え、目指す保育者像を明確にすることができる。
2	教職の意義	保育者という仕事の特徴を理解し、教職の意義について説明することができる。
3	保育の歴史と保育者像①	海外で幼稚園や保育所の発展に尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解し、説明することができる。
4	保育の歴史と保育者像②	日本で幼稚園や保育所の発展に尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解し、説明することができる。
5	保育者の専門性①	幼稚園(認定こども園)における保育者の役割について理解し説明することができる。 ＜視聴覚教材＞
6	保育者の専門性②	保育者の実践活動を通して、保育者の専門性について理解し説明することができる。 ＜視聴覚教材＞
7	保育者の専門性③	保育所(認定こども園)における保育者の役割について理解し説明することができる。 ＜視聴覚教材＞
8	保育者の専門性④	保育士の実践活動を通して、保育士の専門性について理解し､説明することができる。 ＜視聴覚教材＞
9	法と保育者①	法的･制度的側面から保育者がどのような存在か、そしてどうあるべきかについて理解し､法律上、制度上の位置づけや意味づけを知り、説明することができる。
10	法と保育者②	保育者の研修は、職責遂行のため、保育者の権利と位置づけられていることを理解する。
11	保育者への学習課題①	討議「保育者のイメージと自己認識」
12	保育者への学習課題②	討議「保育者の専門職制」
13	保育者への学習課題③	討議「保育者の資質」
14	現代社会の課題と保育者	本講義で学んできたことをもとに、子どもと親・園・社会とをつなぐ保育者に求められる役割について論じることができる。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容と得られた知見とその成果を説明することができる。さらに保育実践の場で活かすことができる。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	青年心理学				
担当者氏名	松田　信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》
青年期は人の一生涯にわたる成長・発達の大きな節目となる発達段階である。重要な意味を持つ青年期の発達の特徴を、身体的・社会的・心理的側面から概観する。これまでに提起されてきた青年心理に関する諸説にふれながら、学生自身を含めた青年の心の在り方を学ぶ。

《授業の到達目標》
①生涯発達の流れにおける青年期の位置づけを理解する。
②青年期の身体的・社会的・心理的特徴を理解する。
③青年心理学の基礎的用語の意味を正確に理解する。

《成績評価の方法》
授業時間内に課すレポートへの評価　50%
最終週に実施する筆記試験への評価　50%

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回配布するプリントを用いて授業を進める。

《参考図書》
『エピソードでつかむ青年心理学』　大野久（編著）
　ミネルヴァ書房　2010
『よくわかる青年心理学』　白井利明（編）
　ミネルヴァ書房　2006
『やさしい青年心理学　〔新版〕』　白井利明・都築学・
　森陽子（著）　2012　有斐閣

《授業時間外学習》
参考図書として取り上げた図書をじっくり読み、青年心理の理解、そして自己理解を深めてもらいたい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	青年心理学への導入	青年の誕生そして青年心理学の誕生について、その歴史的経緯を学び、青年心理学への導入とする。
2	青年期の位置づけ	生涯発達の流れの中での青年期の位置づけ、そして青年期の重要性について学ぶ。
3	青年の体と心	青年期の身体発達の特徴を学び、身体発達が青年の心に与えるインパクトについて考える。
4	青年の内面世界	青年が経験する多様な感情に焦点をあて、青年の内面世界について考える。
5	アイデンティティの発達～その１	アイデンティティという概念が内包する意味を、さまざまな事例にふれながら学ぶ。
6	アイデンティティの発達～その２	アイデンティティ概念の広がり、そして多様なアイデンティティの在り方について学ぶ。
7	青年の恋愛～その１	青年の恋愛の特徴とされる「アイデンティティのための恋愛」について考える。
8	青年の恋愛～その２	恋愛と親密性という主題について考える。
9	青年の親子関係	青年期における親子関係の発達的変化を学ぶ。
10	青年の友人関係	青年にとって友人という存在がいかなる意味を持つのかを考える。
11	青年と学校	青年の発達にとって学校での学びがもつ意味を考える。
12	青年と社会	青年と社会との結びつきを、職業選択や労働を通して考える。
13	青年の心の問題～その１	青年の心の問題について、非行を中心に学ぶ。
14	青年の心の問題～その２	青年の心の問題について、ひきこもりを中心に学ぶ。
15	試験	授業を通して学んだことの理解度を測定するために筆記試験を行う。

科目名	教育制度論				
担当者氏名	古田　薫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》
○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。 ○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。 ○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。 ○学校運営について理解している。 ○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》
①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）
20%
②課題の提出と完成度　20%
③定期試験　60%　（持ち込み不可）

《テキスト》
授業中に指示します。

《参考図書》
１）『解説教育六法　2013年度版』三省堂。
２）坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子『図解・表解 教育法規−“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2012年。
３）高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ　教育行政・政策入門 ver.2』昭和堂、2012年。

《授業時間外学習》
授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》
授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育制度の基礎知識	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育制度の基礎知識
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規定	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育１	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育２	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育１	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育２	・特別支援教育に関する諸制度
13	就学前教育制度①	・就学前教育とは ・幼稚園の教育課程と保育所の目的
14	就学前教育制度②	・就学前教育の新しい展望：認定こども園 ・子育て支援と幼保小連携
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

科目名	教育方法論				
担当者氏名	澤田　真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
教育・保育の方法を歴史的変遷や教育者の思想を通して学習する。
また、現代の教育・保育現場で実践されている指導方法について幼児理解の視点を中心に学ぶ。

《授業の到達目標》
○教育・保育方法の歴史的変遷を知る。
○代表的な教育思想を理解する。
○幼児理解の観点から、望ましい教育・保育方法について学ぶ。

《成績評価の方法》
授業への参加態度および提出物30%　試験70%

《テキスト》
適宜指示する。

《参考図書》
必要に応じて随時紹介する。

《授業時間外学習》
予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の目的と内容、評価について
2	近世の教育①	近世社会における子ども観と教育①
3	近代教育の誕生①	近代学校の誕生
4	近代教育の誕生②	一斉教授法について
5	子どもの主体性への着目	教育方法の転換
6	児童中心主義の教育①	児童中心主義の教育思想①
7	児童中心主義の教育②	児童中心主義の教育思想②
8	幼児理解に基づく教育①	幼児理解と援助①
9	幼児理解に基づく教育②	幼児理解と援助②
10	幼児理解に基づく教育③	カリキュラムデザインと環境構成①
11	幼児理解に基づく教育④	カリキュラムデザインと環境構成②
12	幼児理解に基づく教育⑤	連続性を踏まえた教育・保育①
13	幼児理解に基づく教育⑥	連続性を踏まえた教育・保育②
14	幼児理解に基づく教育⑦	省察とカンファレンス
15	まとめ	授業全体のまとめ

科目名	教育相談				
担当者氏名	永島 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》

別途配付

《授業の到達目標》

《成績評価の方法》

《テキスト》

《参考図書》

《授業時間外学習》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	表現総合演習				
担当者氏名	永井　夕起子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
子どもの感情や認知の発達について理解を深め、子どもが豊かに表現できるための援助のあり方を学ぶ。また、自ら子どもの目線に立って表現遊びを楽しみ、遊びを発展させる面白さを味わう。身体的表現だけでなく音楽・造形・言語さまざまな表現を含む総合的な表現活動について学び、制作・発表する。

《授業の到達目標》
1．子どもの生活と表現の結びつきについて理解を深める。
2．子どもの発達に合った表現遊びを計画し実践できる。
3．イベントのスケジュールを計画し実行できる。
4．さまざまな表現活動を仲間と協力して楽しむことができる。

《成績評価の方法》
平常点30%、提出物30%、その他（話し合い、発表）40%

《テキスト》
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》
適宜、提示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業内容を記録する。音楽、絵画・造形作品、本、動植物など総合的表現に関わる対象を味わい、その体験を記録する。

《備考》
・仲間と協力して楽しもうという心構えが必要な科目です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要を説明する。
2	表現活動	子どもの生活と表現
3	表現活動	感情と身体表現
4	表現活動	言葉と身体表現
5	表現活動	色・かたち・触感と身体表現
6	表現活動	自然・動植物と身体表現
7	表現活動	イメージと身体表現（絵本の世界）
8	表現活動	音楽と身体表現
9	創作活動	ミュージカルの制作①　ストーリーと役割決め
10	作品作り(1)	ミュージカルの制作②　大道具・小道具
11	作品作り(2)	ミュージカルの制作③　効果音と歌
12	作品作り(3)	ミュージカルの制作④　発声と身体の使い方
13	作品作り(4)	発表会のプログラムと広報
14	発表	発表会の取り組み
15	まとめ	生活と表現の楽しみ方について考える

科目名	こども音楽療育概論				
担当者氏名	中島　龍一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》
障害のある人の究極の目標は「自立」である。そのことを念頭に置いて学ぶ。療育に携わる者として現場で音楽を使用する際に、演奏技術や指導技術の他に音楽療育の基本的な理念を学ぶことが必要である。それを根本として、0歳児から5歳児における心身の発達過程と音楽的発達との関係、また音楽と遊びとの関係について学び、具体的援助法を修得する。個人の研究課題を持ち、最後に研究発表を行う。

《授業の到達目標》
○障害のあるこどもの音楽療育に関する知識を身に付けることができる。
○心身の発達過程と音楽的発達との関係を理解できる。
○音楽と遊びから、具体的援助法を身につけることができる。

《成績評価の方法》
課題提出(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》
①うたのメルヘン　②おんがく玉手箱
③Cookin’Music　④ぴあのってすばらしい

《参考図書》
必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》
①授業で学んだことをしっかりと復習し、自分のものとして実践できるようにする。
②障害に関わる記事またはニュースを、注意深く見たり調べたりする。

《備考》
①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
②室内での飲食厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容説明。授業目標、到達目標を確認する。
2	音楽的発達（１）	０・１歳児における心身の発達、音楽的発達と遊びの関係について。
3	音楽的発達（２）	２・３歳児における心身の発達、音楽的発達と遊びの関係について。
4	音楽的発達（３）	４・５歳児における心身の発達、音楽的発達と遊びの関係について。
5	音楽的意義	障害保育と統合保育における音楽的意義について。
6	基本的理念	音楽療育の基本的理念について。
7	音楽的意義（３）	通常保育における音楽的意義について。
8	具体的援助法（１）	肢体不自由児に対する音楽療育の意義と具体的援助法について。
9	具体的援助法（２）	発達障害児に対する音楽療育の意義と具体的援助法について。
10	具体的援助法（３）	知的障害児に対する音楽療育の意義と具体的援助法について。
11	具体的援助法（４）	視覚障害児に対する音楽療育の意義と具体的援助法について。
12	具体的援助法（５）	聴覚障害児に対する音楽療育の意義と具体的援助法について。
13	研究発表（１）	第１回個人研究発表と討論会。
14	研究発表（２）	第２回個人研究発表と討論会。
15	総合復習	障害のある子どもの音楽療育の意義を考える。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育相談支援Ⅱ				
担当者氏名	大西　雅裕				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》
本授業は、２回生後期で履修した、保育相談支援Ⅰを踏まえて、保護者の育児、地域での子育て支援等々について、保育士及び保育所の機能役割について検討する。その上で保育に求められている相談支援についてさまざまな側面から捉え治し、その本質に迫る。

《授業の到達目標》
保育相談支援の本質にせまる。
その実際と援助方法について、批判的に理解する。

《成績評価の方法》
レポート課題　８０％
授業中に課す小テスト　２０％
合計１００％

《テキスト》
柏女霊峰。橋本真紀編著『保育相談支援』ミネルヴァ書房

《参考図書》
橋本好市・直島正樹編著『保育実践に求められるソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
赤木正典、大西雅裕編著『相談援助セミナー』建帛社

《授業時間外学習》
その都度課題を出すので、積極的に取り組む。

《備考》
小グループでの学習を行うために、積極的な授業態度での参加を条件づける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本授業の進め方 ガイダンス	本授業を集中で行うために、その進め方についてガイダンスを行う。
2	保育相談支援の現状	保育の今日的課題を各自で考察し
3	保育相談支援の原理１	保育相談支援の原理について、その要素検討を行う。
4	保育相談支援の原理２	保育相談支援の原理について、その要素検討をグループを編成し、検討を行う。
5	保育相談支援の原理３	グループでの発表を行う。そして本質について理解を深める
6	保育相談支援の構造理解１	保育相談支援と相談援助との関係を見つめながら、その構造について理解する。
7	保育相談支援の構造理解２	構造分析を踏まえて、実際の事例を踏まえて、グループでの考察を行う。
8	子どもの最善の利益	子ども最善の利益について、その本質分析を行う。
9	保育相談支援の展開方法１	保育相談支援と相談援助との関係を見つめながら、その展開方法についてグループで検討する。
10	保育相談支援の展開方法２	保育相談支援と相談援助との関係を見つめながら、その展開方法についてグループで検討する。
11	保育相談支援の実際１	保育相談支援の事例を用いて、その要素分析を行う。
12	保育相談支援の実際２	保育相談支援の本質について理解を深めるために、検討事例の作成を行う。
13	保育相談支援の実際３	保育相談支援の本質について理解を深めるために、検討事例の作成を行う。
14	保育相談支援の実際４	グループでの発表を行う。そして本質について理解を深める。
15	まとめ	今回の授業全体の振り返りを通して、保育相談支援の本質を理解知る。

科目名	集団施設保育の現状と課題				
担当者氏名	佐藤　和順				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
保育者になることを志望する学生に，保育所・幼稚園等に代表される集団施設保育制度の現状を理解させ、現状の課題を解決しうる力量の醸成を図る.具体的には，保育の専門家としての幼稚園・保育所・認定こども園の制度を理解し、子どもの健全な成長・発達のために施設のあり方について考える。併せて、保育の質を向上させる方策についても模索する。

《授業の到達目標》
・幼稚園・保育所・認定こども園制度の歴史と現状、課題について理解する
・子ども・子育て支援新制度の概要と課題について理解する
・保育の質を向上させるための方策を理解する

《成績評価の方法》
期末レポート（60%）・授業中レポート（30%）・授業態度（10%）を総合的に評価

《テキスト》
佐藤和順『保育者のワーク・ライフ・バランス　現状とその課題』㈱みらい

《参考図書》
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館

《授業時間外学習》
幼稚園教育要領，保育所保育指針について予習等を行い内容について理解しておくこと

《備考》
グループ活動等もあるので，積極的な授業態度でのぞむこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や基本的概念の共有を図る
2	保育とは	「保育」概念についての共通理解を行う
3	保育思想の源流（西洋）	西洋における保育思想の芽生え（フレーベル、オーエン、ペスタロッチ等）について理解する
4	保育思想の源流（日本）	わが国のおける保育思想の芽生え（倉橋惣三、東基吉、和田実等）について理解する
5	保育施設の歴史（幼稚園）	幼稚園の誕生とフレーベル主義について理解する
6	保育施設の歴史（保育所）	託児と保育所の誕生について理解する
7	幼保一体化の歴史	総合モデル施設事業等の施策について理解する
8	幼保一体化の現状	必要性と課題を把握する
9	子ども・子育て支援新制度①	子ども・子育て支援新制度の概要を理解し、課題を顕在化することを目指す
10	子ども・子育て支援新制度②	子ども・子育て会議の役割を理解する
11	保育職の現状と課題①	保育士不足の要因を考え、課題を顕在化する
12	保育職の現状と課題②	保育者のワーク・ライフ・バランスについて理解する
13	保育の質の向上①	保育の質の評価について考察する
14	保育の質の向上②	保育者のワーク・ライフ・バランスと保育の質の評価の関係性を把握する
15	まとめ	講義の総括を行う

科目名	保育実習ⅠＢ				
担当者氏名	杣山　貴要江				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

施設の役割と機能（施設の生活と一日の流れ）／こども理解（こどもの観察とその記録，一人ひとりの状態に応じた援助や関わり）／養護内容・生活環境（子どもの心身の状態に応じた支援，健康管理，安全対策の理解）／計画と記録（支援計画の理解と活用，記録に基づく省察・自己評価）／専門職としての保育士の役割と倫理（保育士の業務内容，職員間の役割分担や連携，保育士の役割と職業倫理）。

《授業の到達目標》

○児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について理解することができる。
○観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができる。
○既習の教科の内容を踏まえ，子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
○保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

実習施設での評価（60%）
実習ノート等実習の成果について（40%）

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次ほか編，（株）みらい

《参考図書》

《授業時間外学習》

○実習には万全の体調で臨むこと（実習開始10日前からの検温の実施）。
○実習中は慣れない環境，緊張等で体調を崩しやすいので，実習に集中できるよう自己管理を徹底すること。

《備考》

実習中は，必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童福祉施設での保育実習	原則　1日8時間×10日間　80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	保育実習Ⅱ				
担当者氏名	澤田　真弓				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
実際に保育所保育の現場に参加し、乳幼児理解を深めるとともに保育の実践的課題について学ぶ。

《授業の到達目標》
○保育所の機能や役割、保育士の業務内容や職業倫理について具体的実践を通して学ぶ。
○具体的な保育参加を通して、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
○指導計画、実践、記録、省察を通して保育実践の在りようを具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》
実習園の評価、実習ノートの記入内容を総合的に判断する。
100%

《テキスト》
実習園の指導内容を参考にすること
相馬和子・中田カヨ子『実習日誌の書き方』萌文書林

《参考図書》
実習園の指導を参考にすること
保育実習指導Ⅱで用いた資料やノートを参考にすること

《授業時間外学習》
普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《備考》
円滑な実習が行えるよう体調管理に万全を期すこと。早朝より開始される保育所生活に十分対応できるよう生活リズムを整えて臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所実習	保育実習指導Ⅱ、その他既習科目の内容を十分に踏まえること。　実習園の指導に従い、積極的に実習を行うこと。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	保育実習Ⅲ				
担当者氏名	杣山　貴要江、濱口 清子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》
児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能を学ぶ／施設における支援の実際（受容し共感する態度，個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解，個別支援計画の作成と実践，子どもの家庭への支援と対応，多様な専門職との連携，地域社会との連携）について学ぶ／保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ／保育士としての自己課題を明確にする。

《授業の到達目標》
○児童福祉施設の役割や機能について実践を通して理解を深める。
○家庭と地域の生活実態に触れて，児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに，保護者支援，家庭支援のための知識，技術，判断力を養う。
○保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と連動させて理解し，保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》
実習施設での評価（60%）
実習ノート等実習の成果について（40%）

《テキスト》
『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，（株）みらい

《参考図書》
随時紹介する。

《授業時間外学習》
○実習には万全の体調で臨むこと（実習開始10日前からの検温の実施）。
○実習中は慣れない環境，緊張等で体調を崩しやすいので，実習に集中できるように自己管理を徹底すること。

《備考》
実習中は，必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童福祉施設での保育実習	原則　1日8時間×10日間　80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	保育実習指導ＩＢ				
担当者氏名	杣山　貴要江				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
本演習では，保育実習の意義・目的を理解し，児童福祉施設での実習を円滑に進めるために，授業等で修得した知識・技術を再確認する。実習前には実習課題を設定し，目的を明らかにして実習に臨み，実習後は実習報告会を開催し，実習の自己評価，他者評価を基にして実習報告書を作成する。

《授業の到達目標》
○実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢，個人を尊重する考え方を理解できる。
○プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。
○実習計画書の作成，実習中の観察，日誌等記録の書き方，養護技術を学習し修得できる。
○実習後は，実習全体を振り返り，実習報告書を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《成績評価の方法》
事前指導：課題の提出，実習計画書の作成等（50%）
事後指導：実習報告書の作成等（50%）

《テキスト》
『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次ほか編，（株）みらい

《参考図書》
『保育福祉小六法』，保育福祉小六法編集委員会編，（株）みらい
その他，随時紹介する。

《授業時間外学習》
子どもの貧困，虐待に関する新聞報道等には目を通し，施設で生活する子どもの姿を把握してもらいたい。

《備考》
授業は全出席を原則とするので，やむを得ず欠席をする場合は，事前に連絡をすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育実習全体の中の「保育実習ＩB」の位置付け，授業内容，評価基準と方法，テキストと実習施設に応じた参考資料，予定表の配布，個人票の作成等について
2	事前指導 - 1	実習ノートの配布，実習計画書の作成について
3	事前指導 - 2	視聴覚教材による学習（1）　各自実習施設に関する情報収集とテキストによる学習
4	事前指導 - 3	視聴覚教材による学習（2）　各自実習施設に関する情報収集とテキストによる学習
5	事前指導 - 4	書籍，専門誌による学習　　実習計画書の書き方と提出方法
6	事前指導 - 5	実習計画書の提出
7	事前指導 - 6	実習日誌の書き方
8	事前指導 - 7	オリエンテーションについて，その意義と諸注意
9	事前指導 - 8	実践者に学ぶ（1）　児童養護施設等について
10	事前指導 - 9	実践者に学ぶ（2）　障害のある子どもの施設について
11	事前指導 - 10	実習に臨むにあたって，実習生の立場と心構えについて 実習報告書の作成について（記述内容と提出方法）
12	事後指導 - 1	実習報告会の準備（1）
13	事後指導 - 2	実習報告会の準備（2）
14	事後指導 - 3	実習報告会（1）
15	事後指導 - 4	実習報告会（2）

科目名	保育実習指導Ⅱ				
担当者氏名	澤田　真弓				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
保育所での現場実習に向けて、保育について総合的に学び実践力を培う。
各自の実習課題を明確にし、事前準備を行う。
実習終了後は自己評価、他者評価を基に実習の振り返りを行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

《授業の到達目標》
○実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
○既習科目の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
○保育士の専門性と職業倫理について理解する。
○保育に対する課題や認識を明確にする。

《成績評価の方法》
受講態度、課題提出物、保育実習Ⅱの評価と総合して行う。
100％

《テキスト》
厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館
相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方』萌文書林

《参考図書》
授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》
普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《備考》
全出席を前提とする。やむを得ず欠席、遅刻をする場合は必ず事前に連絡をすること。連絡先については授業の初回に提示する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育実習Ⅱの意義と目的
2	事前指導１	保育士の職業倫理
3	事前指導２	子どもの保育と保護者支援①
4	事前指導３	子どもの保育と保護者支援②
5	事前指導４	保育実践の具体的理解①
6	事前指導５	保育実践の具体的理解②
7	事前指導６	実習における観察と指導の視点①
8	事前指導７	実習における観察と指導の視点②
9	事前指導８	実習ノートの記入　指導計画の書き方①
10	事前指導９	実習ノートの記入　指導計画の書き方②
11	事前指導10	直前指導　実習中の注意事項　実習終了後の注意事項
12	事後指導1	実習の振り返り①
13	事後指導2	実習の振り返り②
14	事後指導3	実習報告①
15	事後指導4	実習報告②

科目名	保育実習指導Ⅲ				
担当者氏名	杣山　貴要江、濱口 清子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習Ⅰ」での実習体験を活かして，児童福祉施設（利用施設を含む）での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深め，家族を含めた家庭支援のための知識や技術，判断力を養う。

《授業の到達目標》
○子どもの最善の利益に考慮した具体的理解ができる。
○子どもの状態に応じた適切なかかわりができる。
○保育士の専門性を活かした支援ができる。
○職業倫理を理解し実践することができる。
○事後指導における実習の総括と自己評価ができる。

《成績評価の方法》
事前指導：実習計画書の作成等（50%）
事後指導：実習報告書の作成等（50%）

《テキスト》
『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，（株）みらい

《参考図書》
随時紹介する。

《授業時間外学習》
子どもに関する新聞報道等には目を通し，子どもの現状を把握するよう努めること。

《備考》
全出席を原則とするので，やむを得ず欠席をする場合は必ず連絡をすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育実習における「保育実習Ⅲ」の位置付け，実習の目的と内容 実習施設の選定について
2	実習施設の選定	受講生は各自実習施設を選定し，承諾に努める
3	事前指導 - 1	実習施設の理解，実習計画書について
4	事前指導 - 2	保育士と権利保障について理解する。
5	事前指導 - 3	保育士とソーシャルワークついて理解する。
6	事前指導 - 4	保育士と地域社会のかかわりついて理解する。
7	事前指導 - 5	実習計画書の作成，提出について
8	事前指導 - 6	施設でのオリエンテーションについて
9	事前指導 - 7	実習に臨むにあたって
10	事後指導 - 1	実習報告書の書き方と提出方法について
11	事後指導 - 2	実習報告会の準備
12	事後指導 - 3	実習報告会の準備
13	事後指導 - 4	実習報告会
14	事後指導 - 5	実習報告書の提出
15	事後指導 - 6	保育士資格と進路について

科目名	教育実習指導				
担当者氏名	藤井　恵美子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

「教育実習」参加の前提として、事前・事後指導の履修が課せられている。教育職員免許法の趣旨に基づき、現在まで学習した関係科目の内容の総合的理解を図り、教育実習生として必要な心得や行動、保育の実際、クラス経営に携わる素地を身につけるとともに、教師としての責務を理解する。

実習の事後においては、それぞれの教育実習を評価し問題点を整理して新たな自己の課題を発見する契機とする。

《授業の到達目標》

○指導計画の立案と計画に基づいた保育のあり方を理解し、実践力を身につける。
○保育実践に必要な教材の準備と教材研究を十分にする。
○これまでに学習した関連科目の内容の理解を図り、教育実習生として必要な心得や行動、幼児教育の実際に携わる素地を身につけ、保育者としての責務を理解する。

《成績評価の方法》

・実習中に課す提出物（30%）
・発表内容、模擬保育などへの参加と成果（50%）
・実習に対する取り組みや意欲・態度（20%）

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省　2008
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府　2014

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

・授業では教材・教具を随時紹介します。教育実習に活かせる教材・教具を各自、計画的に収集してください。
・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べたりしてください。

《備考》

事前指導は、３年次Ⅱ期から４年次Ⅰ期５月の間に11回
事後指導は、４年次Ⅰ期実習終了後に4回実施します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 幼稚園の基本について	教育実習は、幼稚園教諭免許状を取得するために必修科目として位置づけられていることを知る。幼稚園教育要領や実習の手引きを参照し、幼稚園の基本について知る。
2	教育実習について ・実習の意義や目的	教育実習の意義や目的について説明することができる。
3	幼稚園教諭の仕事と役割	ビデオを通して、幼稚園教諭の仕事と役割を理解し、幼稚園の現場を知る。
4	幼稚園生活について	幼稚園の一日の流れを知り、目指そうとする保育者像を明確にする。
5	幼稚園見学・観察	4週までの学習を基に附属加古川幼稚園において、実際の子どもの姿や施設設備を見学観察する。園長先生の講話を聞く。、
6	観察実習の実際 一実習日誌の書き方一	観察の視点と課題を明確にし、焦点を絞って細かく忠実に観察・記録をすることができる。
7	保育実習の実際 一実習日誌の書き方一	教材研究、事前準備、環境構成、指導案の作成、一日の保育の実施、評価、反省など、教師の仕事の重要性や実際について知る。
8	模擬保育の展開　①	模擬保育に取り組み、実習での実践力につなげることができる。
9	模擬保育の展開　②	模擬保育に取り組み、実習での実践力につなげることができる。
10	模擬保育の展開　③	模擬保育に取り組み、実習での実践力につなげることができる。
11	まとめと課題	これまでの学習内容からその成果を説明し、実習への意欲につなげることができる。
12	事後指導　①	実習後の反省と課題　・自己評価と反省と課題
13	事後指導　②	実習後の反省と課題　・グループ討議
14	事後指導　③	実習報告への準備
15	事後指導　④	実習報告とまとめ

《専門教育科目 発展科目》

科目名	子育て支援地域活動Ⅱ				
担当者氏名	藤井　恵美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
『子育て支援地域活動Ⅱ」については、「子育て支援地域活動Ⅰ」を受講した学生を対象とした科目である。
下級生を指導するリーダーとして、学生自らが活動を企画・立案していける資質を育成し、子育てを支える地域活動の体験を深めていく。

《授業の到達目標》
○子育て支援地域活動に関する意義やその歴史と展開、現行の活動の内容とその実態について理解する。
○子どもの健やかな成長・発達にかかわる子育て支援地域活動の事例研究を通して、子育て支援地域活動の技法を習得する
○学生自らが子育て支援地域活動に参加し、企画・立案していける資質を育成し、子育てを支える地域活動の体験を深めていく。

《成績評価の方法》
・授業内討議や発表などへの参加・態度と成果（20%）
・レポート課題などの提出物（30%）
・演習への参加（50%）

《テキスト》
一年次と同じテキスト使用

《参考図書》
『子育て支援の理論と実践』
子育て支援プロジェクト研究会編　ミネルヴァ書房
授業中に適宜紹介する。

《授業時間外学習》
・子育て支援に関する情報や資料を必ず収集し、整理しておくこと。
・地域のボランティア活動に積極的に参加する。
ただし、授業を優先すること。
・授業時に出された課題は積極的に取り組む。

《備考》
授業形態は演習ですが、理論と実践を結ぶ場として学生自身が主体的に実践からの学びを深めることを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子育て支援地域活動の取り組み	オリエンテーション・子育て支援地域活動の取り組みへのグループ編成 ・子育て支援地域活動についての基本的な知識を理解する
2	実践演習に向けての教材研究	「子育て支援地域活動Ⅰ」で計画を企画・立案したことを再度見直し実践化する。
3	実践演習に向けての教材研究	各グループで企画・立案したことを学生同士が共通理解を図り、実践化する。
4	実践演習①	演習①
5	実践演習②	演習②
6	グループ討議Ⅰ 実践演習からの学び	演習①②からの学びと課題（グループ討議とレポート）＜事例１・２＞
7	実践演習③	演習③
8	実践演習④	演習④
9	グループ討議Ⅱ 実践演習からの学び	演習③④からの学びと課題（グループ討議とレポート）＜事例３・４＞
10	実践演習⑤	演習⑤
11	実践演習⑥	演習⑥
12	グループ討議Ⅲ 実践演習からの学び	演習⑤⑥からの学びと課題（グループ討議とレポート）＜事例５・６＞
13	実践演習⑦	演習⑦
14	実践演習⑧	演習⑧
15	グループ討議Ⅳ 学修のまとめ	演習⑦⑧からの学びと課題（グループ討議とレポート）＜事例７・８＞ 子育て支援地域活動の実践からの学びを保育実践の場で生かすことができる。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童館の機能と運営				
担当者氏名	石河 直政、向井 真千子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
児童館の基本的な役割と、児童館施策の経緯・児童館活動の実際を知る。
こどもの発達における「遊び」の大切さを知り、大人がこどもの遊びを支援するときに求められる視点と技法を習得する。
児童館の今日的課題を学び、児童厚生員が子育て支援に取り組む際の視点を理解する。

《授業の到達目標》
○地域におけるこどもの遊び・育ちの実際を知る
○児童館の役割を知り、児童館におけるこどもと子育て支援の技法を理解する
○こどもから信頼され、こどもの成長・発達に寄り添える指導者となる視点を身につける

《成績評価の方法》
○授業内討議や発表などへの参加・態度と成果

《テキスト》
テキストは使用しない
必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

《授業時間外学習》
授業の中で遊びプログラムの立案や実技等も行うので、子どもの発達に応じた遊びについて興味関心を持ち、具体的な遊びプログラムが作れるように準備しておくこと。授業で知りえた学習内容の理解を深めるため、また、これからの児童館や児童厚生員の役割・在り方などについての考えを深めるためにも、自分の考えだけでなく討議記録も整理しておく。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童館の概要～オリエンテーション～	児童館の概要を知り、学習の見通しを立てることができるようにする
2	児童福祉の法と歴史	児童館の法的根拠や歴史から児童館の位置づけについて理解し、説明できるようにする
3	児童館の機能と種別	児童福祉施設としての児童館の種別や活動内容について理解し、説明できるようにする
4	こどもをとりまく環境１	現代のこどもを取り巻く家庭・地域の環境を知り、問題点を考えることができるようにする
5	こどもをとりまく環境２	現代のこどもを取り巻く家庭・地域環境から児童館の役割を考え、討議し深めることができるようにする
6	こどもの発達と遊び１	遊びと発達の関係を理解し、現代のこどもたちの問題点について考えることができるようにする
7	こどもの発達と遊び２	こどもたちの健全育成のために児童館の果たす役割について考え、討議し深めることができるようにする
8	児童館の意義と役割	児童館の意義を理解し、役割を総合的に考え、説明できるようにする
9	小型児童館活動の実際と児童厚生員の役割　１	小型児童館の３つの大きな機能を理解し、各機能に応じた具体的な活動内容を説明できるようにする。
10	小型児童館活動の実際と児童厚生員の役割　２	小型児童館での「子ども育成」活動プログラムを立案し、実践することができるようにする。
11	小型児童館活動の実際と児童厚生員の役割　３	小型児童館での「子育て支援」活動プログラムを立案し、実践することができるようにする。
12	放課後児童クラブの役割と内容	放課後児童クラブの基本的役割と機能を理解し、説明できるようにする。また、放課後児童クラブで職員に求められることは何かを考えることができるようにする。
13	児童館における安全指導と安全管理	児童館が安全で安心なこどもの居場所となるために、何が必要かを説明できるようにする。また、現代社会における子どもの安全について考えることができるようにする。
14	児童厚生員の倫理と利用者対応	児童福祉施設職員に必要とされる職場倫理を理解し、こどもや保護者から信頼される職員となるためにどのように対応すれば良いか考えることができるようにする
15	今後の児童館活動	求められる今後の児童館活動について、児童厚生員としての自分の考えをもち説明できるようにする

科目名	発達障害児への支援				
担当者氏名	式部 陽子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
発達障害のある子どもの支援に関する基本的な知識と理解、具体的な支援方法について演習を通して学ぶ。特に、自閉症スペクトラム、ADHD、LD等の発達障害のある子どもの障がい特性の正しい理解、子どもの特性に応じた支援のあり方、家族への支援について、実践的な力を培うことを目的とする。演習では発達障害のある子どもへの適切な環境設定や事前の工夫、子どもの行動への具体的なかかわり方について考える。

《授業の到達目標》
○自閉症スペクトラム、ADHD、LD等の発達障害の特性について正しく説明できる　○主な療育技法や発達障害のある子どもの支援方法について説明できる　○発達障害のある子どもの支援について、環境調整や事前の工夫、子どもの行動への具体的なかかわり方を考えることができる　○家族への支援のあり方について説明できる

《成績評価の方法》
（１）毎回の講義後のミニレポートおよび授業内演習への参加とその成果20%（参加意欲および演習シートの記入内容によって評価）（２）レポート課題20%（提出遅れは減点）（３）定期試験60%

《テキスト》
適宜資料を配布する。第6週～第11週は、『子育てが楽しくなる５つの魔法（改訂版）』（井上雅彦 監修，アスペエルデの会発行，2012）のワークブックを使用する

《参考図書》
『保育士のための気になる行動から読み解く子ども支援ガイド』　平澤紀子・山根正夫・北九州市保育士会（著）・藤原義博(監修)，学苑社，2005

《授業時間外学習》
（１）適宜、発達障害に関連する書籍や報道・メディア等の案内を行うので、日常から発達障害への関心を持っておくこと。
（２）授業内で紹介する保護者の手記を読んでレポートを提出してもらいます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達障害とは	発達障害とは何か、障害の定義やそれぞれの特性について学ぶ
2	発達障害のある子どもたち	発達障害のある子どもの特徴について学ぶ（疑似体験含む）
3	発達障害のある子どもの療育（１）	さまざまな療育技法や支援方法について学ぶ
4	発達障害のある子どもの療育（２）	発達障害のある子どもにわかりやすいスケジュールや教材を作成する
5	発達障害のある子どもの家族支援	発達障害のある子どもの家族への支援について学ぶ。保護者の手記を読んでレポート提出を求める
6	発達障害のある子どもへの具体的支援（１）	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験①ほめ上手
7	発達障害のある子どもへの具体的支援（２）	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験②観察上手
8	発達障害のある子どもへの具体的支援（３）	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験③整え上手
9	発達障害のある子どもへの具体的支援（４）	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験④伝え上手
10	発達障害のある子どもへの具体的支援（５）	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験⑤教え上手
11	発達障害のある子どもへの具体的支援（６）	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験　まとめ
12	保育所・幼稚園での支援（１）	保育所や幼稚園での仮想事例を交えながら、発達障害のある子どもへの具体的な支援について検討する
13	保育所・幼稚園での支援（２）	保育所や幼稚園での仮想事例を交えながら、発達障害のある子どもへの具体的な支援について検討する
14	試験	筆記試験を実施する
15	まとめ・振り返り	発達障害児の支援　講義のふりかえり及びまとめを行う

科目名	児童の貧困と虐待				
担当者氏名	斎藤　正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1　こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-1　こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　2-3　子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》
この講義では、現代の国際社会の文脈の中で、子どもをとりまく環境がどのように理解され、子どもに関して何が解決すべき課題だと分析され、さらに課題を解決するにはどういうアクションが必要だと認識されているかについて、多くの具体的事例を挙げながら諸君とともに議論していきたい。

《授業の到達目標》
○現代の諸外国の子どもが抱える諸問題を具体的に論じることができる。
○諸問題を解決するための措置を現実的な文脈の中で思考することができる。
○日本と諸外国の子どもを取り巻く諸問題について、その相違点を挙げることができる。

《成績評価の方法》
学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》
教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》
講義の中で随時紹介していく。

《授業時間外学習》
講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを１枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》
「貧困と虐待」というかなりショッキングなタイトルのついた講義ですが、世界の子どもの置かれた社会的な文脈を理解し、そこから様々な問題をじっくり考えていきたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、現代の国際社会
2	世界の子ども	様々な国際指標から
3	飢餓と貧困	干ばつ・疫病
4	都市と貧困	拡大するスラム
5	人身売買	売春・買春・ポルノ
6	国際結婚と子ども	国籍・養育権
7	戦火の子ども（１）	少年兵の現状
8	戦火の子ども（２）	難民の現状と課題
9	女子教育（１）	女子に対する差別
10	女子教育（２）	マララ・ユスフザイさんの活動
11	子どもの権利条約（１）	条約成立の背景、構成、選択議定書
12	子どもの権利条約（２）	第１条～第20条の輪読
13	子どもの権利条約（３）	第21条～第40条の輪読
14	課題解決のために（１）	国連、ユニセフの活動
15	課題解決のために（２）	NPOの活動

科目名	児童の健全育成と福祉				
担当者氏名	杣山　貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○　3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》
わが国では児童の貧困問題について注目されてから久しいが，その現状を踏まえて，子どもの健全育成について考察する。事例研究することで，さらに保育者としての実践に役立てられるようにする。

《授業の到達目標》
○健全育成の基本を理解し，地域支援について計画の策定ができる。
○児童の健全育成を考えるうえで，地域の社会資源との連携について具体的に考えることができる。
○多様化する保護者の価値観を理解し，児童厚生員の役割について考えることができる。

《成績評価の方法》
授業への参加態度と意欲（50%）
課題の提出（50%）

《テキスト》
プリント教材の配布，視聴覚教材の利用を中心にする。

《参考図書》
随時紹介する。

《授業時間外学習》
児童に関わる新聞報道等により子どもの現状を把握するよう努めてもらいたい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健全育成について - 1	児童の健全育成と福祉を学ぶ意義，授業内容，授業の進め方，評価について説明する。健全育成について，法的根拠等について理解する。
2	健全育成について - 2	わが国の健全育成に関わる機関について理解する。
3	健全育成について - 3	子ども・子育て新制度における健全育成を具現化した政策について理解する。
4	子どもの地域生活 - 1	子どもの遊び方の今昔について調べ，子どもを取り巻く環境の変化について理解する。
5	子どもの地域生活 - 2	就学前児童の昼間の居場所について調べ，子育て支援の必要性について理解する。
6	子どもの地域生活 - 3	放課後児童健全育成事業の実際について調べ，自治体ごとに異なる工夫をしていることを理解する。
7	子どもの地域生活 - 4	地域社会における子どもの健全育成に関わっている社会資源と人的資源について，受講生が生活する地域での実情について調べる。
8	子どもの地域生活 - 5	前回の授業内容を踏まえ，受講生の報告を基にして，今後のあるべき姿を各自まとめる。
9	健全育成と福祉 - 1	わが国の子どもの貧困問題について調べ，解決の糸口について考える。
10	健全育成と福祉 - 2	前回の授業を踏まえ，受講生間で討議し，子どもの貧困問題についての考えを各自まとめる。
11	健全育成と福祉 - 3	子どもの虐待問題について，事例研究を行う。
12	健全育成と福祉 - 4	前回の授業を踏まえ，受講生間で討議し，子どもの虐待問題についての考えを各自まとめる。
13	健全育成と福祉 - 5	子どもの地域生活 - 1～5の授業での学びを踏まえ，現在実施されている子育て支援について理解し，家庭，地域社会，保育所等児童福祉施設の役割について討議する。
14	健全育成と福祉 - 6	前回の授業を踏まえ，子育て支援と健全育成についての考えを各自まとめる。
15	まとめ	全授業を通して，児童の健全育成とその政策及び子どものwell-beingについて考察する。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	少子高齢社会とこどもの生活				
担当者氏名	田中　博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○　2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
日本の人口は2008年をピークに減少し始め、50年後は1億人になると推測されている。また、2055年の人口の高齢化は39.4%になることが予測されている。少子高齢社会は大きな社会問題として国民に高い関心があり、経済、社会のあ在り方に影響を及ぼす。家族と高齢者の扶養・介護と子育て・教育の在り方について論じる。子どもの自立と家庭生活を考察する。

《授業の到達目標》
少子高齢社会は社会を支える役割を果たす働き手が減少し、そのことによって生ずる社会的・経済的影響を理解する。そして、なぜ少子高齢化が進むかを考察し、その解決策等を各自が科学的根拠に基づいて考える力を養う。また、家族の役割と機能の変化を学び現代家族の特徴を理解し、さらに子どもの自立を家庭生活と地域の関係で説明できる。

《成績評価の方法》
レポート（80%）
授業への参加意欲（20%）

《テキスト》
山田正弘著『少子社会日本』岩波書店

《参考図書》
田中博一・小坂淳子編著『人間の尊厳と自立・社会の理解』法律文化社
小澤勲著『認知症とはなにか』
前田正子『子育てしやすい社会』ミネルヴァ書房
江口隆裕『子ども手当と少子化対策』法律文化社
河合隼雄『家族関係を考える』講談社

《授業時間外学習》
参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本の少子化の現状	人口統計、家族構成（世帯動向）にみる少子化の現状を解説
2	少子化の要因	結婚・出産・子育てをめぐる状況を解説
3	子ども・子育て支援	子ども・子育て支援施策の現状とその課題を解説する。
4	ワーク・ライフ・バランス	男性も女性も仕事と生活が調和する社会とはどのようなもので、その実態と施策を解説する。
5	少子化対策の現状と課題	子ども・子育てビジョン（2010年閣議決定）の内容を検討し、実際の政策の進捗状況を検証し、課題を考察する。
6	日本の高齢化の現状と将来	人口統計、家族構成（世帯動向）にみる高齢化の現状を解説する。
7	高齢化の要因	平均寿命の推移、医学の発達、社会保障の整備等の諸要因を分析して高齢化を分析する
8	高齢者の扶養・医療・介護保障	所得（年金）・医療・介護保障、それぞれの現状を理解し、その将来像を考察する。
9	高齢者世帯の現状	高齢者世帯の生活構造を分析し、その特徴を理解する。一人暮らしの高齢者の生活を理解する。
10	高齢者の介護問題	介護保障が未発達の時代では高齢者介護は家族崩壊になることもあった。家族の介護とのかかわりを主として考察する。
11	法律（民法）にみる家族	親族・婚姻・婚外婚・親子関係を中心に制度上の“家族”を理解する。
12	家族関係	子ども、夫、妻、父、母、舅、姑のそれぞれの立場から家族の見方を考えてみる。 とりわけ、夫婦関係、親子関係の本質を考察する。
13	こどもの直面する諸問題	いじめ、虐待、不登校など社会問題になっている子どもに深刻な問題を分析し、その解決策を検討する。
14	家庭とこどもの自立	基本的な生活能力とは何かをはじめに、こどのも生きる力を育むために家庭生活（家族関係）の在り方を追求する。
15	地域と子どもの自立	地域崩壊や地域消滅という社会問題に直面しているが、一方で地域の力で子どもを育てる支援が行われており、子どもの自立の視点で考察する。

科目名	施設保育士論				
担当者氏名	藤本　政則				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎　3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》
乳児院や児童養護施設等の社会的養護施設において児童の養育に携わる保育士養成に焦点を絞り授業内容を構成する。児童虐待を受けた児童へのケアのあり方から始まり、関係機関としての児童相談所の役割、さらには今日強く求められている施設の地域の子育て拠点的機能の役割についても授業対象とする。施設の管理運営面においても知識を習得することを求める。

《授業の到達目標》
乳児院や児童養護施設等の社会的養護施設における保育士が提供すべき養育内容について理解する。また、施設の地域の子育て拠点的機能の役割についても授業対象とするとともに施設の管理運営面においても理解を深める。

《成績評価の方法》
下の２方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「１」が４割、「２」が６割とする。
1. 授業態度、授業レポート、保育士資格取得に対する意欲や姿勢を評価。
2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）

《テキスト》
なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》
『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業時間外学習》
毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《備考》
各講義の開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	虐待対応の実際①　－施設入所までの対応－	要保護児童地域対策協議会の体制と役割について。
2	虐待対応の実際②　－施設入所までの対応－	児童相談所を中心とする児童虐待対応機関の体制について。
3	虐待対応の実際③－施設における治療的養育－	児童養護施設における被虐待児への対応について。
4	虐待対応の実際④－施設における治療的養育－	児童養護施設における被虐待児への対応について。
5	虐待対応の実際④　－施設退所後の支援－	親子再統合、家庭復帰後の再虐待防止の為の支援について。
6	施設養護と小規模化	施設の小規模化、家庭的養護の推進について。
7	施設養護と小規模化の実際	施設の小規模化、家庭的養護を実際に取り組む事例から学ぶ。
8	施設養護と地域分散化	施設の地域分散化、適正配置について。
9	施設養護と地域分散化の実際	施設の地域分散化、適正配置の実際の事例について学ぶ。
10	施設養護と被措置児童虐待予防①	被措置児童虐待予防の法制度体制について。
11	施設養護と被措置児童虐待予防②	被措置児童虐待予防に向けた実際の実践例について学ぶ。
12	施設養護と第三者評価	第三者評価制度の概要と取組について。
13	施設における地域子育て支援①	虐待予防を目的とする子育て支援の内容とその実際について。
14	施設における地域子育て支援②	里親支援の内容とその実際について。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、施設保育士の果たす役割について考える。

科目名	幼児のための福祉教育Ⅰ				
担当者氏名	田中　博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する				

《授業の概要》
少子高齢社会において、福祉教育は社会連帯と自立の思想を子どもたちの心に芽生えるようにするものである。「障害」を「生活に困難な」という理解をもとに、支えあう心の涵養がその目的である。先人の活動と現代の実態から共生社会実現を学ぶ。

《授業の到達目標》
１社会連帯と自立の意味を学び、共生社会の在り方を理解し説明できる。２障害者、高齢者が生活（人生）の困難を乗り越え、生きるための全体像を把握し説明できる。３幼児のための福祉教育を理論的に説明できる。

《成績評価の方法》
期末テスト（80％）
授業出席（20％）

《テキスト》
プリント配布

《参考図書》
滋賀県社会福祉協議会編『みんなちがってみな同じ』サンライズ出版
レオ・バスカーリア『葉っぱのフレディー命の旅』　童話屋
こわせ　たまみ『クイールはもうどう犬になった』ひさかたチャイルド社
高谷清『重い障害を生きるということ』岩波書店

《授業時間外学習》
参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児のための福祉教育	少子高齢化社会における「社会連帯」と「自立」の精神を養い、“きずき”の意義を解説する。
2	いのちの大切さを語る	いのちの誕生と子どもを見守る人々の存在を認識し、その関係性を解説する。
3	“ちがい”と“おなじ”	エド・ロバーツの人生を例に、人は心身に障害の有無にかかわらず“差”はあっても“いのち”の価値は同じであることを認識する。
4	「忘れられた」子等を読み取る	社会から忘れられ、孤立する子どもたちの純真な子どもの姿を田村一二著『忘れられた子等』から教師としての姿を学ぶ。
5	近江学園の活動と障害児教育	戦後最初の児童福祉施設「近江学園」の趣旨および活動を通して糸賀一雄の「発達保障」について解説する。
6	障害者の生活と活動１	車いすの人、目の見えな人、耳の聞こえない人がどのようなことで困っているかを知り、その困難をどのように解決しているかを理解する。
7	障害者の生活と活動２	心身に障害のある人々の日常を理解し、スポーツ、芸術（音楽、美術）分野における活動を理解する。
8	高齢者の生活と活動	高齢者の心身の特性と日常生活を理解し、とりわけ、どのようなことが生活の上で困っているかを知り、その解決のための方策を理解する。
9	ＩＣＦの理論と実際	WHOのICFの理論と実際を学び、「障害」を正しく理解し、「活動」、「参加」等５つの因子の相互作用による健康の概念と自立支援を理解する。
10	「ともに生きる」理念	地域、学校（幼稚園）、保育所で行われている高齢者、障害者が生きる活動を通してみる支えあいの教育を解説する。
11	共生社会の意味と実現に向けて	障害者の人権と自立を尊重する意識形成を理解し、国際障害者年（1981）以降の社会の取り組みからの共生社会形成過程を理解する。
12	ユニバーサルデザイン	”ひとつですべてを”の標語に示されるユニバーサルデザインの由来から実社会で利用されている制度やものの在り方を通してみる「共生と自立」の理解。
13	体験活動と福祉教育	訪問交流、収集・募金活動、清掃・美化活動の過程においてこどもの意識変化について理解する。
14	ボランティア活動と福祉教育	ボランティアは文字どおり自発的なものであり、福祉教育の延長線上に現われるもののひとつである。その意味と活動例を検証する。
15	幼児のために福祉教育プログラム	保育の場で福祉教育を実践するためのポイントと事例を通して紹介する。

科目名	幼児のための福祉教育Ⅱ				
担当者氏名	藤井　恵美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○　2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○　3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》
人間尊重の精神を基盤として、幼児に支え合う心を理解させ、福祉社会を形成していく能力を育てる教育について、基本的な理解と実践の態度を養う。

《授業の到達目標》
○福祉教育の必要性を理解し、保育者としての資質を身につける。

○幼児教育の場における支えあいの意味を理解する。

○福祉教育を実践する方法を身につける。

《成績評価の方法》
・授業内討議や発表などへの参加・態度と成果　30%
・レポート課題等の提出物　20%
・試験　50%

《テキスト》
・プリント配布

《参考図書》
・いのちのおはなし　日野原重明　講談社
　他、適宜紹介する

《授業時間外学習》
・幼児に関する新聞やニュースなどの情報を収集し、まとめておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉って、何だろう	幼児教育の一分野としての福祉について考える。
2	「いのち」と「こころ」	「いのち」の大切さや「こころ」を育てるということの意味について深く考え、理解することができる。見えないものこそ大切にすることに気付く。
3	幼児のための福祉教育とは	「幼児のための福祉教育」について理解し、幼児教育の場における支え合いの意味を理解することが出来る。
4	幼児を取り巻く環境の変化（１）	学生各々が資料を収集し、それを基にディスカッション・ロールプレイなどを通じ、理論的認識を深め、実践的応用力を身につける。
5	幼児を取り巻く環境の変化（２）	学生各々が資料を収集し、それを基にディスカッション・ロールプレイなどを通じ、理論的認識を深め、実践的応用力を身につける。
6	幼児を取り巻く環境の変化（３）	学生各々が資料を収集し、それを基にディスカッション・ロールプレイなどを通じ、理論的認識を深め、実践的応用力を身につける。
7	福祉のこころをはぐくむ（１）	実践事例を基に、ディスカッション・ディベート・ブレインストーミングなどを通じ、実践的応用力を身につける。
8	福祉のこころをはぐくむ（２）	実践事例を基に、ディスカッション・ディベート・ブレインストーミングなどを通じ、実践的応用力を身につける。
9	福祉のこころをはぐくむ（３）	実践事例を基に、ディスカッション・ディベート・ブレインストーミングなどを通じ、実践的応用力を身につける。
10	福祉のこころをはぐくむ（４）	実践事例を基に、ディスカッション・ディベート・ブレインストーミングなどを通じ、実践的応用力を身につける。
11	幼稚園・保育所の役割（１）	幼児に福祉のこころをはぐくむ指導案を作成し、福祉教育を実践する方法を知ることが出来る。（視聴覚教材）
12	幼稚園・保育所の役割（２）	幼児に福祉のこころをはぐくむ指導案を作成し、福祉教育を実践する方法を知ることが出来る。（視聴覚教材）
13	幼稚園・保育所の役割（３）	幼児に福祉のこころをはぐくむ指導案を作成し、福祉教育を実践する方法を知ることが出来る。（視聴覚教材）
14	こころを育てる資料	学修したことを資料としてまとめ、保育現場で活用することが出来る。
15	まとめ	これまでの学修内容と得られた知見とその成果を実習の場で活かすことが出来る。

授業科目索引一覧（50音順）

	授　業　科　目　の　名　称	ページ
＜エ＞	英語	30～31
＜オ＞	音楽教育	122
＜カ＞	介護概論	95
	家庭支援論	148
	加齢及び障害に関する理解	136
＜キ＞	教育原理	73
	教育実習指導	191
	教育心理学	120
	教育制度論	178
	教育相談	180
	教育方法論	179
	教師・保育者論	176
＜ケ＞	経済学	46
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	53
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	54
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	55
	権利擁護と成年後見制度	138
＜コ＞	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	134
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	135
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	38
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	39
	子育て支援地域活動Ⅱ	192
	子育て支援地域活動Ⅰ	126
	こども音楽療育概論	182
	こどもと運動Ⅰ	82
	こどもと運動Ⅱ	83
	こどもと音楽Ⅰ	78
	こどもと音楽Ⅱ	79
	こどもと音楽Ⅲ	151
	こどもと音楽Ⅳ	152
	こどもと音楽表現	114
	こどもと環境	75
	こどもと健康	112
	こどもと言語表現	115
	こどもと言葉	76
	こどもと身体表現	77
	こどもと数	155
	こどもと生活	116
	こどもと造形Ⅰ	80
	こどもと造形Ⅱ	81
	こどもと造形Ⅲ	153
	こどもと造形Ⅳ	154
	こどもと人間関係	113
	こどもの食と栄養Ⅰ	149
	こどもの食と栄養Ⅱ	150
	こどもの心理学Ⅰ	74
	こどもの心理学Ⅱ	101
	こどもの保健ⅠA	109
	こどもの保健ⅠB	110
	こどもの保健Ⅱ	111
	こども福祉基礎演習Ⅰ	99
	こども福祉基礎演習Ⅱ	100
	こども福祉専門演習Ⅰ	156～165
	こども福祉専門演習Ⅱ	166～175
	こども文化論Ⅰ	84
	こども文化論Ⅱ	117
	コンピュータ演習	32
＜シ＞	色彩とデザイン	40
	施設保育士論	198
	実用英語（初級）	49
	実用英語（中級）	50
	児童家庭福祉	67
	児童の健全育成と福祉	196
	児童の貧困と虐待	195
	児童館の機能と運営	193
	社会学	45
	社会調査の基礎	96
	社会的養護	107

	授　業　科　目　の　名　称	ページ
＜シ＞	社会的養護内容	108
	社会福祉Ⅰ	65
	社会福祉Ⅱ	66
	社会保障論Ⅰ	142
	社会保障論Ⅱ	143
	宗教と人生	33
	集団施設保育の現状と課題	184
	生涯学習論	63
	障害児保育Ⅰ	104
	障害児保育Ⅱ	105
	障害者福祉論	137
	生涯発達心理学Ⅰ	64
	少子高齢社会とこどもの生活	197
	食と健康	48
	初年次演習Ⅰ	68
	初年次演習Ⅱ	69
	人権の歴史	43
	心理検査法	144
＜セ＞	政治学	44
	精神医学Ⅰ	98
	精神保健学Ⅰ	145
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	146
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	167
	精神保健福祉論	97
	青年心理学	177
	生物学	47
	生命倫理学	34
＜ソ＞	相談援助	106
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	91
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	92
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	93
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	133
＜チ＞	地域福祉の理論と方法Ⅰ	139
	中国語（初級）	51
	中国語（中級）	52
＜テ＞	低所得者に対する支援と生活保護制度	94
	哲学	35
＜ニ＞	日本語（読解と表現）	29
	日本国憲法	42
	乳児保育Ⅰ	102
	乳児保育Ⅱ	103
	人間福祉論	70
＜ハ＞	発達障害児への支援	194
＜ヒ＞	表現総合演習	181
＜フ＞	福祉行財政と福祉計画	140
	福祉サービスの組織と経営	141
	仏教と現代社会	37
	文学	36
＜ホ＞	保育課程総論	118
	保育原理Ⅰ	71
	保育原理Ⅱ	72
	保育実習ⅠA	124
	保育実習ⅠB	185
	保育実習Ⅱ	186
	保育実習Ⅲ	187
	保育実習指導ⅠA	125
	保育実習指導ⅠB	188
	保育実習指導Ⅱ	189
	保育実習指導Ⅲ	190
	保育相談支援Ⅰ	123
	保育相談支援Ⅱ	183
	保育内容総論	119
	法と社会	41
＜ヨ＞	幼児のための福祉教育Ⅰ	199
	幼児のための福祉教育Ⅱ	200
	幼児理解	121
＜ワ＞	私のためのキャリア設計	56